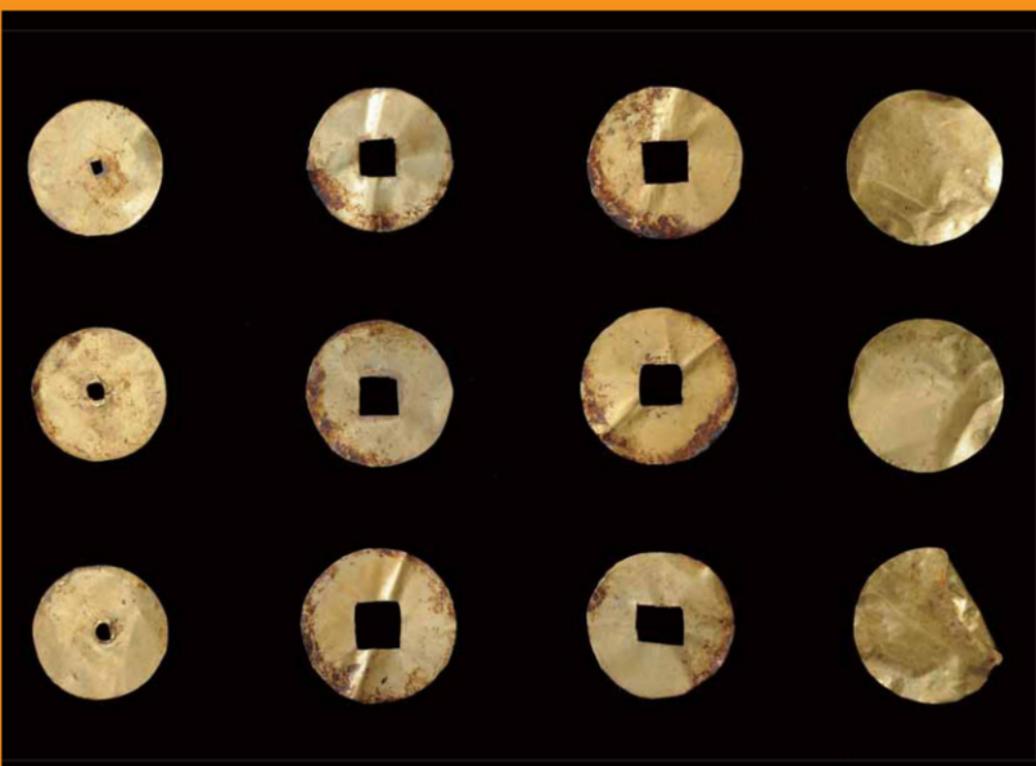


# 首里城跡

— 継世門北地区発掘調査報告書 —



平成30 (2018)年3月

沖縄県立埋蔵文化財センター

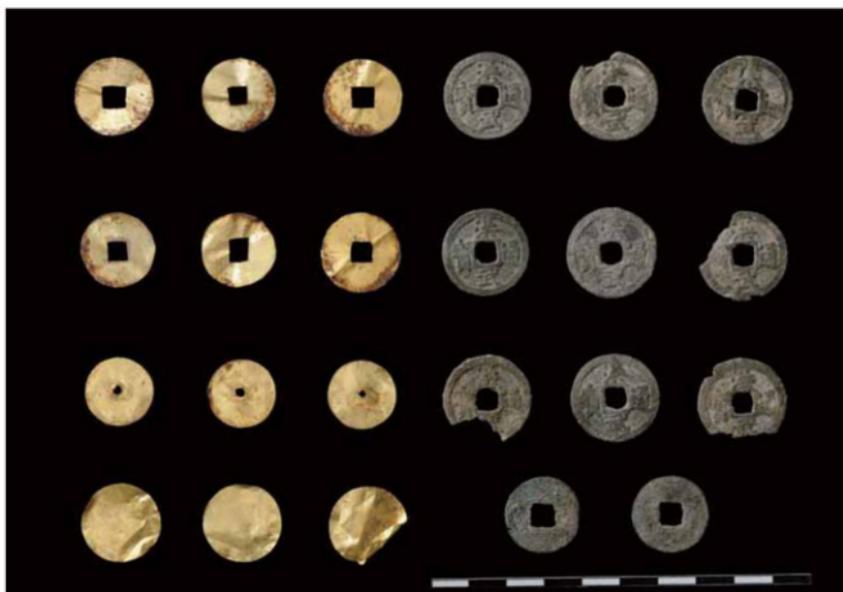
# 首里城跡

— 継世門北地区発掘調査報告書 —

平成30（2018）年3月

沖縄県立埋蔵文化財センター





巻頭図版 首里城跡經世門北地区遠景（上）、御嶽イビ出土銭貨・銭貨状金製品（下）

# 序

本報告書は、沖縄県立埋蔵文化財センターが国営沖縄記念公園事務所より委託を受けて平成26年度に実施した、首里城跡継世門北地区の発掘調査の成果をまとめたものです。

本調査においては、首里城内郭東方の城門である美福門の基壇と階段、それに隣接する御嶽、これらより古い可能性もあるピット群を確認しました。美福門については、基壇と階段の下層に土留めの可能性がある石積みや堆積層を確認しました。美福門は尚巴志により構築されたと伝承されますが、出土した陶磁器では15世紀代のもも多く見られましたが、それより新しい遺物も一定量見られたので、残念ながら確定するには至りませんでした。

御嶽は、イビと称される巨大な岩盤に石積みを巡らしており、その岩盤の隙間には12枚の金銭、11枚の宋銭が出土しました。この御嶽は、継世門と美福門の間に位置することから、かつて存在した首里城内十嶽などと称される御嶽のひとつである「赤田御門の御嶽」と考えられます。御嶽の整備もしくは利用時期ですが、今回検出された美福門基壇と階段よりは古いことは確実であり、周辺の出土遺物からは15世紀代に遡る可能性も想定されます。

このような成果を掲載した今回の報告書は、首里城はもちろん沖縄県の歴史・文化を理解する資料として活用されるとともに、地域における文化財の保存活用のために役立てば幸いです。

最後に、様々な御指導・御助言・御協力を戴きました諸機関及び関係各位に心から感謝申し上げます。

2018（平成30）年3月

沖縄県立埋蔵文化財センター  
所長 金城 亀信

# 例 言

1. 本報告書は、沖縄県那覇市首里当蔵町に所在する「史跡 首里城跡」における国営沖縄記念公園首里城地区の整備に際して、継世門北地区の遺構確認発掘調査及び資料整理の成果をまとめたものである。
2. 本発掘調査及び資料整理業務は、内閣府沖縄総合事務局国営沖縄記念公園事務所が沖縄県と委託契約を交わし、沖縄県教育委員会の指導のもと、沖縄県立埋蔵文化財センターが実施した。
3. 調査期間は、現地調査を平成26年7月1日より平成27年3月27日まで実施し、資料整理作業・発掘調査報告作成を平成28・29年度に実施した。
4. 本書に掲載した遺構図の座標軸は国土座標軸（第XVI座標系）を使用し、その座標値は日本測地系である。ちなみに、報告書抄録の緯度経度については世界測地系で算出している。
5. 現地調査及び資料整理に際して、下記の諸氏・機関に協力・指導・助言を戴いた（敬称略、順不同）。  
黒住耐二（千葉県立中央博物館）                      杵名貴彦（国立科学博物館理工学研究部）  
丸山真史（東海大学）
6. 本書の編集は、新垣力・玉城綾の協力のもと瀬戸哲也が行った。執筆分担は、下記のとおり。  
第1章、第3章第1～3節、第5章…瀬戸・新垣                      第2章…新垣  
第3章第4節…大堀皓平（3、8-1）、瀬戸（左記以外）                      第4章…杵名
7. 本書に掲載した写真は、発掘調査状況を新垣・宮里知恵、遺物を領家範夫、當真香（埋蔵文化財資料整理員）が主に撮影した。
8. 発掘調査で得られた遺物及び実測図・写真等の記録は、全て沖縄県立埋蔵文化財センターにて保管している。
9. 付録として、本報告書のPDFファイルと、観察表・集計表、巻頭図版・図版1～9のJPEGファイルを添付CDに収録した。学術研究、公開活用に利用していただきたい。

# 目次

巻頭図版

序

例言

第1章 経緯と経過	1
第1節 調査の経緯	1
第2節 調査体制	1
第3節 調査の経過	2
第2章 遺跡の位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の方法と成果	11
第1節 調査の方法	11
第2節 層序	11
第3節 遺構	14
1. 継世門北側ピット群	14
2. 美福門基壇・階段	14
3. 御嶽	30
第4節 遺物	32
1. 中国産陶磁器	32
1) 青磁	32
2) 白磁	35
3) 青花	36
4) 褐釉陶器	44
5) その他の中国産陶磁器	44
2. タイ産他陶磁器	46
3. 本土産陶磁器	52
1) 磁器	52
2) 施釉陶器	52
3) 無釉陶器	53
4. 沖縄産陶器	53
1) 施釉陶器	53
2) 無釉陶器	53
5. 土器類	53
1) 陶質土器	53
2) 瓦質土器	62
3) 土器	62
4) 土製品	65
6. 金属製品・るつぼ	65
1) 青銅製品	65
2) 鉄製品	66
3) るつぼ	66
7. 銭貨・銭貨状金製品	73
8. その他の製品	73
1) 石製品・石造物・石材	73
2) 貝製品	78
3) 骨製品	79
4) 煙管	79
5) ガラス製品・ガラス玉	79
6) 円盤状製品	80
9. 瓦	80
1) 高麗系	80
2) 大和系	81
3) 明朝系	81
10. 埴	86
11. 漆喰	86
12. 貝類遺体	108
13. 脊椎動物遺体	117
第4章 首里城跡継世門北地区出土の銭貨状金製品の科学調査について	129
第5章 総括	132
引用文献	133
図版	135
報告書抄録	177

## 挿図目次

第1図	沖繩本島的位置	3	第28図	タイ産陶磁器・産地不明陶器	45
第2図	首里城跡の位置及び周辺の遺跡	4	第29図	本土産陶磁器(1)	48
第3図	史跡首里城跡の範囲	5	第30図	本土産陶磁器(2)	49
第4図	首里城絵図(17世紀後半～18世紀前半作成)にみる調査区の推定位置	8	第31図	本土産陶磁器(3)	50
第5図	首里古地図(18世紀初頭作成)にみる調査区の推定位置	8	第32図	本土産陶磁器(4)	51
第6図	沖繩県首里旧城図(明治初期作成)にみる調査区的位置	9	第33図	沖縄産施軸陶器	55
第7図	旧首里城熊本鎮台沖縄分遣隊配置図にみる調査区的位置	9	第34図	沖縄産無軸陶器(1)	57
第8図	旧首里城図(昭和6年頃作成)にみる調査区的位置	10	第35図	沖縄産無軸陶器(2)	58
第9図	旧琉球大学校舎配置図にみる調査区的位置	10	第36図	沖縄産無軸陶器(3)	59
第10図	継世門北地区の調査位置	12	第37図	沖縄産無軸陶器(4)	60
第11図	継世門北地区全体図	15	第38図	沖縄産無軸陶器(5)・陶質土器	61
第12図	継世門北側ビット群	17	第39図	瓦質土器	63
第13図	美福門基壇・階段(1)	18	第40図	土器・土製品	64
第14図	美福門基壇・階段(2)	19	第41図	金属製品(1)	67
第15図	美福門基壇・階段(3)	20	第42図	金属製品(2)	68
第16図	美福門階段平面・断面・立面図(4)	21	第43図	金属製品(3)・るつぼ	69
第17図	美福門階段平面・断面・立面図(5)	23	第44図	銭貨(1)	70
第18図	御嶽(1)	25	第45図	銭貨(2)	71
第19図	御嶽(2)	27	第46図	銭貨状金製品	72
第20図	御嶽(3)	29	第47図	石製品・貝製品	75
第21図	御嶽(4)	31	第48図	骨製品・煙管・ガラス製品	76
第22図	中国産青磁	34	第49図	ガラス玉・円盤状製品	77
第23図	中国産白磁	35	第50図	高麗系瓦・大和系瓦・明朝系瓦(1)	83
第24図	中国産青花(1)	39	第51図	明朝系瓦(2)	84
第25図	中国産青花(2)	40	第52図	明朝系瓦(3)	85
第26図	中国産褐釉陶器(1)	42	第53図	埴(1)	87
第27図	中国産褐釉陶器(2)・その他の陶磁器	43	第54図	埴(2)	88
			第55図	埴(3)	89
			第56図	埴(4)	90
			第57図	埴(5)	91
			第58図	IV層出土陶磁器類の組成	133

## 写真目次

写真1	本土産白磁製洗面台	52	写真7	脊椎動物遺体(3)	120
写真2	貝類遺体 巻貝(1)	110	写真8	脊椎動物遺体(4)	121
写真3	貝類遺体 巻貝(2)	115	写真9	継世門北地区出土金貨表面の電子顕微鏡画像	130
写真4	貝類遺体 二枚貝	116	写真10	福寺遺跡出土経葺金表面の電子顕微鏡画像	131
写真5	脊椎動物遺体(1)	118			
写真6	脊椎動物遺体(2)	119			

## 表目次

第1表	層序対応表	13	第11表	産地不明陶器集計表	44
第2表	イビ出土銭貨等位置	26	第12表	本土産陶磁器集計表(1)	46
第3表	中国産青磁集計表(1)	32	第13表	本土産陶磁器集計表(2)	47
第4表	中国産青磁集計表(2)	33	第14表	沖縄産施軸陶器集計表	54
第5表	中国産白磁集計表	36	第15表	沖縄産無軸陶器集計表	56
第6表	中国産青花集計表(1)	37	第16表	陶質土器集計表	62
第7表	中国産青花集計表(2)	38	第17表	瓦質土器集計表	62
第8表	中国産褐釉陶器集計表	38	第18表	土器集計表	65
第9表	中国産その他の陶磁器集計表	41	第19表	土製品集計表	65
第10表	タイ産陶磁器集計表	44	第20表	金属製品集計表	66

## 表目次

第21表	銭貨・銭貨状金製品集計表	73	第47表	遺物観察表(7)	98
第22表	るつぼ集計表	74	第48表	遺物観察表(8)	99
第23表	石製品集計表	74	第49表	遺物観察表(9)	100
第24表	石製品石材別集計表	74	第50表	遺物観察表(10)	101
第25表	石材重量集計表	74	第51表	遺物観察表(11)	102
第26表	骨製品集計表	78	第52表	遺物観察表(12)	103
第27表	貝製品集計表	78	第53表	遺物観察表(13)	104
第28表	ガラス製品集計表	78	第54表	遺物観察表(14)	105
第29表	煙管集計表	78	第55表	遺物観察表(15)	106
第30表	ガラス玉集計表	79	第56表	遺物観察表(16)	107
第31表	円盤状製品集計表	79	第57表	遺物全体集計表	107
第32表	高麗系瓦集計表	80	第58表	出土貝類遺体(巻貝等)一覽	108
第33表	大和系瓦集計表	80	第59表	出土貝類遺体(二枚貝)一覽	109
第34表	明朝系軒丸瓦集計表	80	第60表	貝類の生息場所類型	109
第35表	明朝系軒平瓦集計表	81	第61表	巻貝集計表	111
第36表	明朝系丸・平瓦集計表	82	第62表	二枚貝集計表	113
第37表	明朝系ヘラ記号瓦集計表	82	第63表	脊椎動物遺体の種名一覽	117
第38表	埴集計表	86	第64表	脊椎動物遺体集計表(1)	122
第39表	埴ヘラ記号集計表	86	第65表	脊椎動物遺体集計表(2)	123
第40表	漆喰集計表	86	第66表	脊椎動物遺体集計表(3)	124
第41表	遺物観察表(1)	92	第67表	脊椎動物遺体集計表(4)	125
第42表	遺物観察表(2)	93	第68表	脊椎動物遺体集計表(5)	126
第43表	遺物観察表(3)	94	第69表	脊椎動物遺体集計表(6)	127
第44表	遺物観察表(4)	95	第70表	脊椎動物遺体集計表(7)	128
第45表	遺物観察表(5)	96	第71表	首里城跡雄世門北地区出土金貨の 蛍光エックス線分析による半定量分析結果	131
第46表	遺物観察表(6)	97			

## 図版目次

図版1	遺構(1)	135	図版24	沖縄産無釉陶器(2)	158
図版2	遺構(2)	136	図版25	沖縄産無釉陶器(3)	159
図版3	遺構(3)	137	図版26	沖縄産無釉陶器(4)	160
図版4	遺構(4)	138	図版27	沖縄産無釉陶器(5)	161
図版5	遺構(5)	139	図版28	沖縄産無釉陶器(6)・ 陶質土器	162
図版6	遺構(6)	140	図版29	瓦質土器	163
図版7	遺構(7)	141	図版30	土器・土製品	164
図版8	遺構(8)	142	図版31	金属製品(1)	165
図版9	遺構(9)	143	図版32	金属製品(2)・るつぼ	166
図版10	中国産青磁(1)	144	図版33	銭貨(1)	167
図版11	中国産青磁(2)・中国産白磁	145	図版34	銭貨(2)	168
図版12	中国産青花(1)	146	図版35	銭貨状金製品・ 石製品・貝製品	169
図版13	中国産青花(2)	147	図版36	骨製品・煙管・ガラス製品	170
図版14	中国産青花(3)	148	図版37	ガラス玉・円盤状製品	171
図版15	中国産褐釉陶器(1)	149	図版38	高麗系瓦・大和系瓦・ 明朝系瓦(1)	172
図版16	中国産褐釉陶器(2)・ その他の陶磁器	150	図版39	明朝系瓦(2)・埴(1)	173
図版17	タイ産陶磁器・産地不明陶器	151	図版40	埴(2)	174
図版18	本土産陶磁器(1)	152	図版41	埴(3)・漆喰(1)	175
図版19	本土産陶磁器(2)	153	図版42	漆喰(2)	176
図版20	本土産陶磁器(3)	154			
図版21	本土産陶磁器(4)	155			
図版22	沖縄産施釉陶器(1)	156			
図版23	沖縄産施釉陶器(2)・ 沖縄産無釉陶器(1)	157			

# 第1章 経緯と経過

## 第1節 調査の経緯

首里城跡内郭地区は、昭和61（1986）年度に「国営沖縄記念公園首里城地区」として整備されることが閣議決定されたことにより、遺構確認のための発掘調査が沖縄県教育委員会（以下、県教委）により行われている。

本報告の対象となる継世門北地区の発掘調査も、上記の整備の一環として遺構確認を目的として実施されたものである。なお、あわせて書院南地区で2ヶ所の試掘調査を行ったが、安全面を考慮して地表下1.2mまで掘削したが、戦後の造成土が続いていた。

これらの調査は、平成26年4月12日付、内閣府沖縄総合事務局国営沖縄記念公園事務所（以下、公園事務所）所長と沖縄県知事の間で交わされた「平成26年度 首里城地区（南城郭エリア）発掘調査及び資料整理業務」委託契約によるものである。発掘調査は、沖縄県教育庁文化財課（以下、文化財課）を主管課として事務調整及び調査指導を行い、沖縄県立埋蔵文化財センター（以下、当センター）が担当した。首里城跡における発掘調査は、史跡範囲に該当するため、文化財保護法第125条第1項に基づく申請が必要となっている。今回の調査は、平成26年4月22日付にて現状変更申請を県教委経由により文化庁長官へ提出し、県教委の指示を受けることを条件として、同年6月20日付にて許可された。発掘調査は、平成26年7月1日に着手し、平成27年3月27日に終了した。

なお、これまで首里城跡の発掘調査は未開園地区であり整備工事が行われることもあって安全のために、調査成果を公開する現地説明会は実施できなかった。しかし、今回の調査は公園事務所が実施する公園整備のための発掘調査としては最終年度にあたるため、公園事務所等関係者の理解を得ることにより、事前受付の上で初めて発掘調査現地説明会を実施することができた。平成27年1月18日には一般県民102名、1月22日には市町村文化財担当者26名が参加した。

調査終了後の出土品は、遺物収納コンテナ131箱に昇った。これらは、平成27年3月27日付にて当センターから文化財課へ発見報告を行い、文化財課を経由し那覇警察署へ埋蔵文化財発見通知を提出し、遺失物法の手続きを経た。

## 第2節 調査体制

首里城跡継世門北地区の発掘調査は、当センターが県教委の指導の下に平成26年度に現地調査、平成28・29年度に資料整理・報告書作成を実施した。実施体制は以下のとおりである。

### 平成26年度 発掘調査

事業主体 沖縄県教育委員会 諸見里明（教育長）

事業主管 沖縄県教育庁文化財課 嘉数卓（参事兼課長）、金城亀信（記念物班長）、長嶺均（主任専門員）

調査所管 沖縄県立埋蔵文化財センター 下地英輝（所長）、島袋洋（副参事）

調査担当…新垣力（主任）・宮里知恵（臨時的任用専門員）

調査補助…玉城綾・翁長圭乃子（文化財調査嘱託員）

発掘作業員 上江洲由昇・喜瀬彰・呉我フジ子・佐渡山正子・新垣朝秀・砂辺光義・砂辺理恵・

玉城初美・中塚末子・福地佐枝子・宮國恵子

### 平成28・29年度 資料整理・報告書刊行

事業主体 沖縄県教育委員会 平敷昭人（教育長）

事業主管 沖縄県教育庁文化財課 萩尾俊章（課長）、上地博（記念物班長）、神村智子（指導主事）

調査所管 沖縄県立埋蔵文化財センター 金城亀信（所長）、濱口寿夫（副参事）

調査班 総括…仲座久宜（班長）

資料整理担当…瀬戸哲也・新垣力（主任専門員）、大堀皓平（主任）、玉城綾（専門員）

埋蔵文化財資料整理員 上原嗣子・小渡直子・嘉数渚・工藤孝美・城間彩香・當間郁子・仲里由利・  
花城咲子・比屋根沙耶香・宮城かの子

### 第3節 調査の経過

#### 現地調査

現地調査は平成26年7月1日より平成27年3月27日まで実施した。以下、概要を調査日誌抄にて示す。

7月1日 発掘作業員の雇用開始（12名）、調査区周辺の除草等準備

7月4日 調査区北側より掘削開始

7月18日 階段遺構が12段分を確認

8月22日 階段遺構東側の石積み1から伸びる石積み4を確認

9月5日 石積み1と石積み4の間の堆積土を掘削すると岩盤（イビと呼称）とそれを円形に囲んだ石積み6を確認、赤田御門の御嶽ではないかと想定

9月26日 イビの隙間より銭貨状金製品（金銭）が出土

10月3日 イビより銭貨状金製品は12枚、銅銭は11枚出土したことを確認

11月11日 書院南地区の試掘2ヶ所を実施、遺構の確認なし

12月19日 継世門前トレンチで地山面よりピット群検出

1月9日 遺構検出作業が終了

1月18日 一般対象の現地説明会を実施し、102名の参加

1月22日 市町村文化財担当者の現地説明会を実施し、26名の参加

3月4日 継世門前トレンチのピット群の掘削終了

3月18日 ラジコンヘリによる調査区全体空中写真

3月27日 調査区の重機による埋め戻し終了

#### 資料整理作業

発掘作業で出土した遺物は、現地調査中の雨天時に遺物洗浄作業を行うことで終了させた。遺構図面・写真の整理については、調査終了後速やかに実施するよう努めた。

遺物・記録類の本格的な資料整理作業は、平成28・29年度に埋蔵文化財センターにて実施した。整理作業を経て作成した遺構・遺物実測図は当センターでパソコン上により作図ソフト（イラストレーター）を用いてデジタルトレース及びレイアウトを行った。その後、写真や文字原稿も含めて編集ソフト（インデザイン）を用いてDPT印刷用の編集を行い、最終的には全てPDFファイルとして作成し、株式会社文進印刷へ入稿した。

## 第2章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

那覇市は東方分水界付近に広がる標高数10m～120mに達する台地と、港に面する沖積低地とに代表される対照的な地形を示している（古川・高里1989）。首里城是那覇市の東側、首里当蔵町3丁目1番地に所在し、首里台地と称される標高100m前後の琉球石灰岩丘陵上に築かれた県下最大規模のグスクで、東西410m、南北273m、面積46,167㎡を誇る。東側にな覇市の最高所（標高165.7m）である弁ヶ嶽がそびえ、多くの河川が首里城を取り巻くように配されるなど、優れた風水思想に基づいた王都に相応しい環境が整えられている。この丘陵の南側には、安里川の浸食により比高差70～80mの比較的急な斜面が形成され、地形を利用した掘り込み式の古墓が点在している。

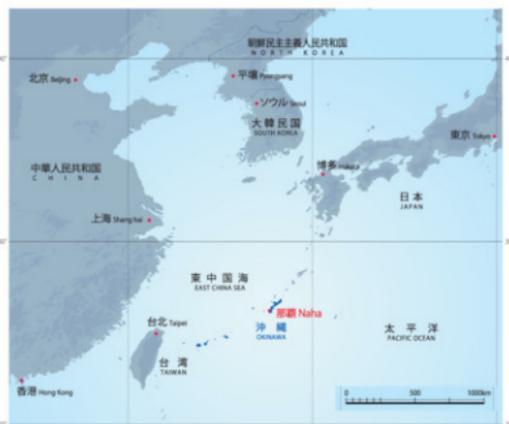
首里城周辺の地質の特徴として、前述した琉球石灰岩の下層に新第三紀鮮新世の砂岩・泥岩からなる島尻層群が基盤となっている点が挙げられる。不透水層である島尻層群の上に、スポンジ状の構造で高い透水性を有する琉球石灰岩が重なることにより、首里の各地では両者の不整合部分からの湧水が多数確認されている。城内の龍樋や寒水川樋もこれに由来するものである（角田2014）。

首里城の基盤層も上記の例に漏れず、琉球石灰岩や赤土（島尻マージ）と島尻層群に大別される。今回の調査のうち、「継世門北地区」の北側部分（美福門側）と「書院南地区」は琉球石灰岩、「継世門北地区」の南側（継世門側）は赤土（島尻マージ）をそれぞれ基盤層に持つことが発掘調査で判明している。

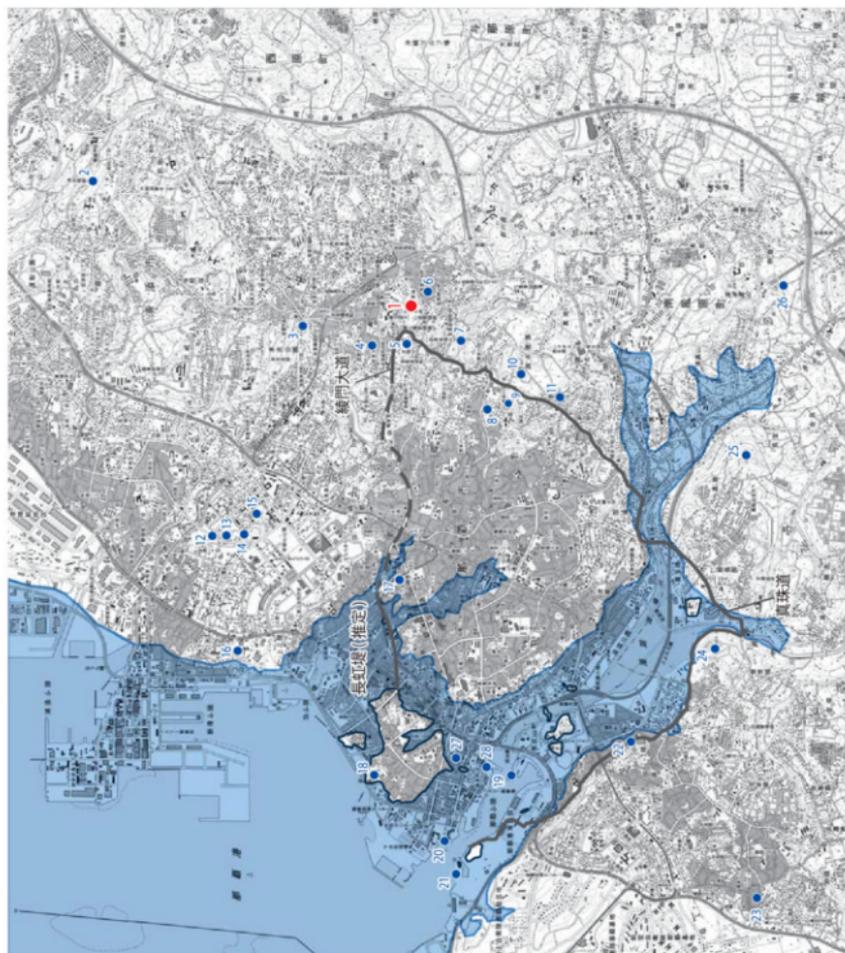
### 第2節 歴史的環境

現在のところ、首里城の創建について明確に触れている史料は確認されていない。察度43（1392）年に察度王が建造したと伝わる数十丈の高樓（高世層理殿）を首里城内の施設とする説もあるが、より信頼性の高いものとしては『安国山樹華木之記』が挙げられる（沖縄県文化課1985）。尚巴志6（1427）年に建立されたこの碑文には、首里城北西側で人工池の龍潭を掘り安国山に華樹を植えたとの記述がみられるため、尚巴志王代（1422～1439年）に周辺の整備を行えるような状況であったこと、つまり当該期に王城としての基本的な構造が確立していた可能性は高い。そして尚真・尚清王代（1477～1555年）には外郭の拡張や周辺施設の整備が進み、現在のような姿に近づいていったと推定される。

今回調査区のひとつである「継世門北地区」は、かつて「美福門」や「赤田御門の御嶽」が存在した場所に相当する。美福門は内郭城壁に付随する門の一つで、内郭城門のうち最大の規模を有する。切石積み of 門口の上に木造檜を架け渡す内郭城門共通の構造で、入母屋造り・本瓦葺きの檜の正面中央に「美福」の字を掘った扁額を掲げて



第1図 沖縄本島の位置



グスク時代の主要遺跡

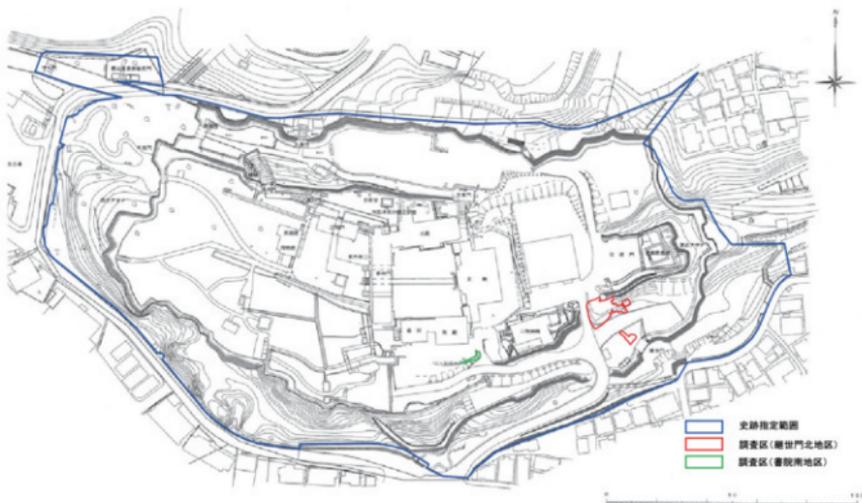
1 那志遺跡 (原 跡 跡)	21 原良部古グスク (原 跡 跡)
2 湯本城跡 (原 跡 跡)	22 カニマツ原遺跡 (原 跡 跡)
3 新原古遺跡 (原 跡 跡)	23 新原古遺跡 (原 跡 跡)
4 中津城跡 (原 跡 跡)	24 新原古遺跡 (原 跡 跡)
5 五浦原古遺跡 (原 跡 跡)	25 新原古遺跡 (原 跡 跡)
6 島下城跡 (原 跡 跡)	26 クニマツ原遺跡 (原 跡 跡)
7 島下城跡 (原 跡 跡)	27 原村跡 (原 跡 跡)
8 石田グスク (原 跡 跡)	28 那志村跡 (原 跡 跡)
9 石田遺跡 (原 跡 跡)	29 那志村跡 (原 跡 跡)
10 シューマ原遺跡 (原 跡 跡)	
11 那志遺跡 (原 跡 跡)	
12 那志遺跡 (原 跡 跡)	
13 那志遺跡 (原 跡 跡)	
14 那志遺跡 (原 跡 跡)	
15 ヒヤジョウ毛遺跡 (原 跡 跡)	
16 天久グスク (原 跡 跡)	
17 天久グスク (原 跡 跡)	
18 天久グスク (原 跡 跡)	
19 那志グスク (原 跡 跡)	
20 三重グスク (原 跡 跡)	
21 原良部古グスク (原 跡 跡)	
22 カニマツ原遺跡 (原 跡 跡)	
23 新原古遺跡 (原 跡 跡)	
24 新原古遺跡 (原 跡 跡)	
25 新原古遺跡 (原 跡 跡)	
26 クニマツ原遺跡 (原 跡 跡)	
27 原村跡 (原 跡 跡)	
28 那志村跡 (原 跡 跡)	
29 那志村跡 (原 跡 跡)	

第2図 首里城跡の位置及び周辺の遺跡 (薄いトーンは概ね15世紀前後の海岸線を想定)

いた。門前には瑞泉門と同じく一対の石獅子像が設置され、そこから幅広く急勾配の石段が延びていた。創建年代は文献などにみられないが、伝承によると尚巴志王代（1422～39年）に開かれたとされ、かつて正殿が南面していた古い時代の正門であったとも言われている（真栄平 1997、久手堅 2000 など）。ちなみに、『李朝実録』世祖 8（1462）年の記事では漂流民梁成等が漏刻器の設置された南門を目撃しており、同年記事中にある琉球側使臣との問答では、「紫宸」と呼ばれる正門の存在を明かしている（池谷・内田・高瀬 2005）。これらの記述は瑞泉門または美福門を指すとの説があり（高良 1996）、また伝承と類似する部分もみられるため、今後多方面からの更なる検討が必要であろう。美福門は、赤田に面することから「赤田御門」、門の奥が御内原であることから「みもの御門」、門前にある一対の石獅子像から「シーサー御門」など様々な俗称がみられるが（首里城研究グループ 1997、久手堅 2000、外間 2015 など）、このうち「赤田御門」については、美福門の外側に 1456 年に継世門が創建されて以降は継世門の俗称となった。その後、尚泰 4（1851）年には首里城周辺を徘徊する異国人の侵入対策として、淑順門などととも二重扉が設置された（球陽研究会 1974）。

赤田御門の御嶽は、かつて城内に 10 ないし 9ヶ所存在した御嶽の一つで、城門に隣接する唯一の御嶽と考えられる。1706～13 年成立と推定される『女官御双紙』（琉球王府御近習方 1958）や、1713 年編纂の『琉球国由来記』（外間・波照間 1997）にその名前が登場し、前者での名称は「赤田御門のあがるい嶽押明森の御いべ」、後者では名称が「アカタ御チャウノ御嶽」で、神名が「アガルタケ押明森ノ御いべ」と記されている。また、『球陽』巻二の尚泰久 5（1458）年の条にある、尚泰久王の娘で阿麻利に嫁いだ百度踏揚が鬼大城賢勇に背負われて首里城へ逃げ帰った際の「天未だ暁曙ならず、門に叩へて稟報す。王怒りて曰く、婦女と男と夜に乗じて来る。豈貞節なる者ならんやと。夫人泣哭して將に押明森の樹木に縊らんとす」（球陽研究会 1974）にみられる押明森も、本御嶽一帯を指している。創建年代は不明だが、美福門との関係や『おもろさうし』中の「揚がる嶽」（外間 2015）が本御嶽を指すとの説を踏まえると、16 世紀以前に遡る可能性も想定される。

これまでの発掘調査では、平成 5（1993）・6（1994）年度に美福門の東側城壁及び石獅子像台座の



第3図 史跡首里城跡の範囲

一部と御嶽上部の方形石積み、平成9（1997）年度に門口の基礎または下層遺構と考えられる石積みがそれぞれ検出されている（沖縄県埋文2004・2005b）。ちなみに今回の発掘調査では、御嶽のイビに相当する自然岩を上部の方形石積みと下部の円形石積みでそれぞれ圍繞している状況が確認されたが、17世紀後半～18世紀前半作成とされる首里城絵図（第4図、安里2013）や、18世紀初頭作成とされる首里古地図（第5図、琉球国絵図史料集編集委員会ほか1994）には下部の石積みしか描かれておらず、上部の石積みは後述するように明治初期作成とされる沖縄県首里旧城図（第6図、平良1994）が初見であるため、現在みるような本御嶽の姿を近世前半に遡らせるのは困難と思われる。

もう一方の調査区である「書院南地区」は、かつて「奉行詰所」が存在した場所の南側に相当する。奉行詰所は王府の財政を掌る御物奉行が出仕する施設で、薩摩琉球館とも連携して職務を果たしていたことが知られている（久手堅2000）。創建年代は不明だが、西側に隣接する書院に詰めていた御書院当官職との関係から、書院と同じく1622年には設置されていた可能性もある。平成13（2001）・14（2002）年度には、鎖之間や書院とともに奉行詰所北半分を対象に発掘調査を実施したが、当該建物の存在を示すような遺構は検出されていない（沖縄県埋文2005a）。

上記のように、これらは首里城内の重要施設として、琉球国が存続する間は適切な管理のもとに機能を維持してきた。しかし、明治12（1879）年に沖縄県の設置及び琉球王府の解体が断行されると、首里城も歴史の荒波に翻弄されていく。まず、琉球処分同年から首里城に駐屯した熊本鎮台沖縄分遣隊（以下、分遣隊）は、城内の建物や石垣などを各所で改変した。この頃首里城は建物・土地とも陸軍省の管轄となり、軍事施設であった同所へは関係者以外容易に立ち入ることができなかつたため、分遣隊が撤退する明治29（1896）年までの間に城内がどのように改変されたか、その詳細は現在も判然としない。しかし、今回調査区のうち奉行詰所は隣接する書院も含めて士官官舎に利用されたと考えられるが（第7図）、美福門や赤田御門の御嶽は幸いにも主要施設として使用されなかつたとみられ（法大沖縄文化研究所2014など）、当該期における目立った改変はないと思われる。

特に美福門は、分遣隊駐屯時の明治21（1887）年に山本芳翠の描いた『琉球中城之東門』が往時の姿を表したものとされており（高階1998、宮内庁三の丸尚蔵館2001）、これによると美福門は同年段階で櫓の残存が確認されるものの、門前は石獅子像が2基とも消失し台座のみになっていたことが理解される。また赤田御門の御嶽については、明治初期作成とされる「沖縄県首里旧城図」（第6図、平良1994）で上部の方形石積みと思われるものを一部確認できるが、下部の円形石積みや自然岩は描かれていないことから、本御嶽はこの時期既に大部分が埋没していた可能性も考えられる。

分遣隊が撤退した明治29（1896）年以降、首里城は学校や役所施設として使用されるようになる。同年11月から翌年9月まで沖縄県師範学校が城内の建物を仮校舎として使用したのを契機に、師範学校付属小学校の移転（明治31年4月～翌年4月）、沖縄県臨時土地整理局の設置（明治33年8月～同37年3月3日）、校舎火災に伴う沖縄県師範学校の再移転（明治37年1月14日～同41年7月）、首里区立工業徒弟学校の移転（明治37年4月～大正7年1月）、首里区立女子工芸学校（以下、工芸学校）の移転（明治41年～昭和9年）、首里尋常高等小学校五学年三学級の移転（明治42年4月～同45年4月）、沖縄県立中学校分校の設置（明治43年4月～翌年4月）、首里尋常高等小学校三年以上高等科まで14学級の移転（明治44年～翌年4月）、首里女子尋常高等小学校分教場の移転（明治45年4月～）などが確認されている。

この頃、赤田御門の御嶽の状況は不明だが、美福門は明治41（1908）年の工芸学校の移転に伴い、管理の都合で閉ざされることになった。しかし閉鎖といっても門口を高さ1m程度の石積みで塞いだだけであり、昭和7（1932）・8（1933）年頃には再び開かれたとされる。また同時期に、首里区は首里城

の建物及び敷地の払い下げを願っていた。最初は明治36（1903）年で、「城内の建物一切を相当価格、地所は無償」という内容を陸軍省に依頼したが、希望は叶わず相当年限貸し付けという形になった。地所については、明治37（1904）年4月～昭和9（1934）年3月までの満30ヶ年間公園敷地としての無償使用が可能になったが、明治42（1909）年に建物も含めて再度依頼したところ許可され、建物は合計887円30銭、地所は1,054円55銭で払い下げられることになった。

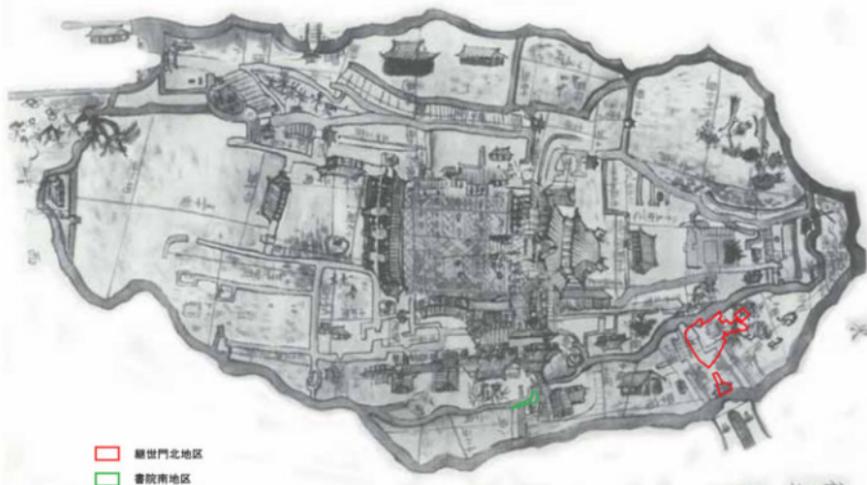
このうち、美福門は坪数7坪1合4勺で払い下げ価格71銭4厘、奉行詰所はおそらく書院・鎖之間との一括で坪数151坪1合9勺、払い下げ価格90円71銭4厘となっている。ただし、当該期における美福門の全体像については不明な点もあり、明治初期作成とされる沖縄県首里旧城図（第6図、平良1994）には櫓と思いきものが確認できるものの、昭和6年頃作成の旧首里城図（第8図）だと両側の城壁のみが描かれている。このため、払い下げ時の美福門に櫓が残っていたか否かは判然としない。

その後、正殿は大正15（1925）年国宝に指定され、昭和9（1934）年3～4月頃には解体修理が落成し、往時の威容を幾分か取り戻すのだが、戦争の時代に突入していたこともあり、首里城はまたも軍隊の駐屯地となった。昭和19（1944）年、城内にあった首里第一国民学校校舎の一部を第9師団（武部隊）が兵舎に使用したのを皮切りに、南風原から移動してきた第32軍司令部が地下に壕の構築を開始した。その影響も手伝ってか、翌年には米軍の砲撃を浴びて灰燼に帰した。他の施設も大半が同様に焼失したと考えられるが、美福門は昭和20（1945）年6月18日撮影とされる写真を確認すると、大破しているのは門から東西に延びる城壁の一部で、門口の石積みや門前の石段が概ね良好な状態で残存していることから（首里城復元期成会ほか1987）、少なくとも美福門に関してはそれほど戦災を被っていないとみられる。

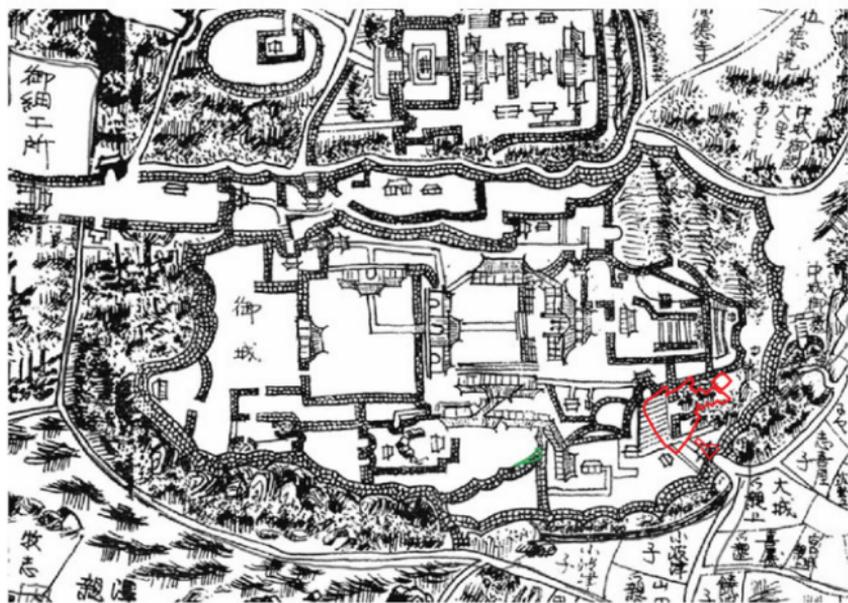
戦後、跡地には昭和25（1950）年に琉球大学が開学した。その際、校舎などの建設に伴う大規模な掘削及び土砂移動が行われ、一帯は旧地形の面影がわずかに偲ばれる状態にまで変貌を遂げた（第9図）。この状況は両調査区でも同様で、継世門北地区では昭和40（1965）年度に完成した農学ビル（琉大二十周年記念誌編集委員会1970）に伴う工事により、一帯の南側を基盤層ごと削平している状況が今回の発掘調査で確認された。また書院南地区でも、正殿跡地への通路として基盤層が切通し状に掘削されており、これが以前の発掘調査で遺構が検出されなかった要因の一つと考えられる。

この状況は、昭和30（1955）年に琉球政府指定史跡となって以降も特に変化はなかったが、昭和47（1972）年の沖縄県本土復帰時に国の史跡に指定されてからは、同年より戦災文化財復元整備事業で城門や城壁の修復が開始され、また昭和59（1984）年に琉球大学の移転が完了した跡地を公園用地にすることが決定して以降、現在まで国営公園及び県営公園事業に伴う復元整備が進められている（第3図）。

そして、平成12（2000）年には、「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として玉陵・園比屋武御嶽石門・今帰仁城跡・座喜味城跡・勝連城跡・中城城跡・識名園・斎場御嶽の8件の資産とともに、日本で9件目の世界文化遺産に登録された（沖縄県文化課2001）。現在、首里城公園は平成28（2016）年度実績で2,727,677人が訪れており、平成27（2015）年4月25日には開園から数えて入園者5,000万人を達成するなど、県内有数の観光地として沖縄県の経済を牽引している。



第4図 首里城絵図（17世紀後半～18世紀前半作成）にみる調査区の推定位置 ※東京大学史料編纂所蔵



第5図 首里古地図（18世紀初頭作成）にみる調査区の推定位置

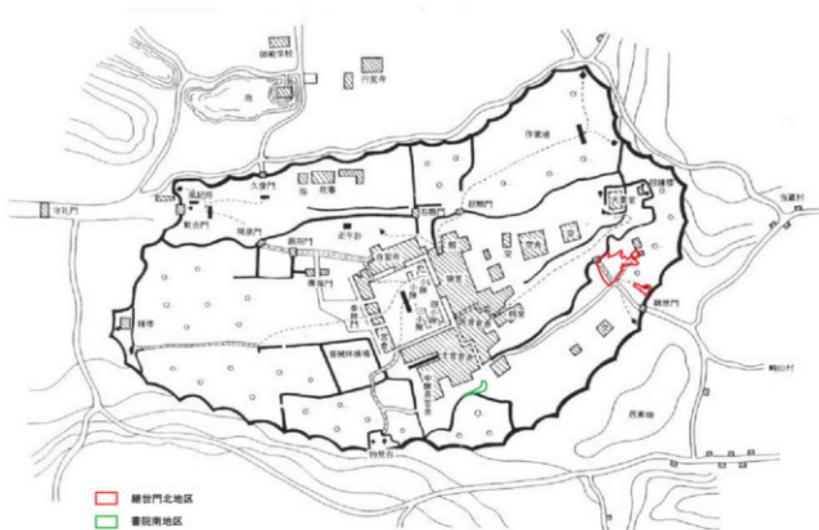
※沖縄県立図書館蔵

□ 御世門北地区  
□ 書院南地区

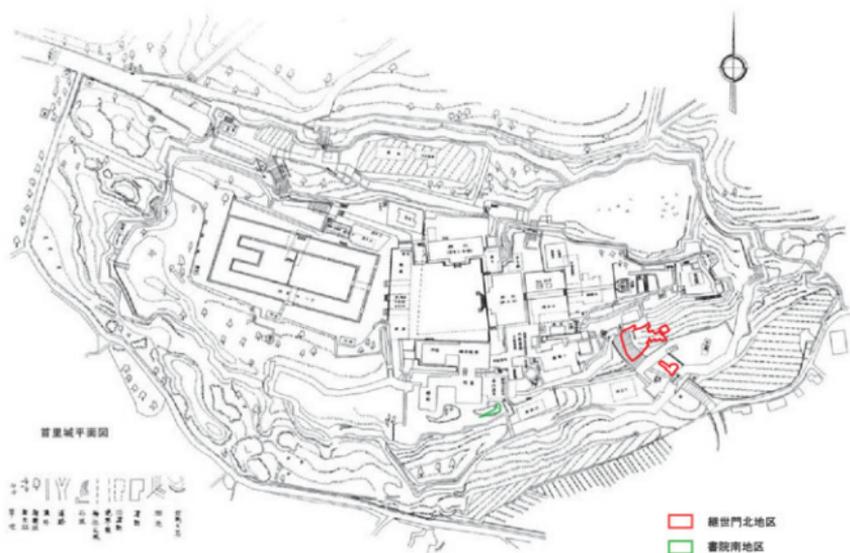


第6図 沖縄県首里旧城図（明治初期作成）にみる調査区的位置

※那覇市歴史博物館蔵原図をトレース



第7図 旧首里城熊本鎮台沖縄分遣隊配置図にみる調査区的位置



第8図 旧首里城図（昭和6年頃作成）にみる調査区の位置 ※沖縄県立図書館蔵



第9図 旧琉球大学校舎配置図にみる調査区の位置

## 第3章 調査の方法と成果

### 第1節 調査の方法

今回の調査は、公園整備計画に合わせて継世門北地区における遺構の確認を目的とし、その調査面積は286㎡となり、後述するように御嶽、階段などの遺構が確認できた。また、書院南地区においても2ヶ所の試掘調査(10m)を行ったが、1.2m掘り下げても戦後の造成土であった。ちなみに、首里城の復元方針は、1709年の火災後1712年に再建され、1925年に国宝指定となった正殿を基本とされており、城壁や各建物もそれに合わせて概ね18世紀から戦前の遺構を確認することが目的となっている。

継世門北地区の調査は、美福門に近い北側より開始し、戦後の造成土を重機と人力を併用しながら掘削していった。その中で、美福門基壇と階段をまず検出し、その東側に岩盤(イビ)を石積み1~4・6で囲まれた御嶽を確認した。本来ならば、美福門階段はその南側にある外郭の継世門へ続いているが、それは全て戦後の造成により破壊されていたことを確認した。ただ、基盤層の確認のために、標高が低い継世門前にEトレンチを設定したところ、地山面が確認されピット群を検出した。

なお、調査区北側の美福門階段・御嶽と、南側の継世門前のEトレンチには8m近い高低差が生じたため、安全面を確保するためにこの両者間を排土で埋めて橋状の通路を造成した。そのため、両者は分断された形となっており、平面図の作成も別個で行っている(第10・11図、図版1)。

さて、調査区北側の調査であるが、美福門階段周辺においては、階段の石敷きの遺構が残存していない部分の堆積土について階段内1~3トレンチ、東側側壁である石積み3の東側にBトレンチの4つのサブトレンチを設定し岩盤まで掘削した。赤田御門の御嶽の周辺には、南側に隣接するCトレンチ、東側にAトレンチ、その北側にDトレンチを設定した(第11図、図版2)。

以上のように、今回の調査では石積み・石敷きで構成された遺構を検出することを第一の目的とし、これらの遺構がない場所については必要に応じてトレンチを設けて、遺構の有無、堆積土の年代を確認することとした。

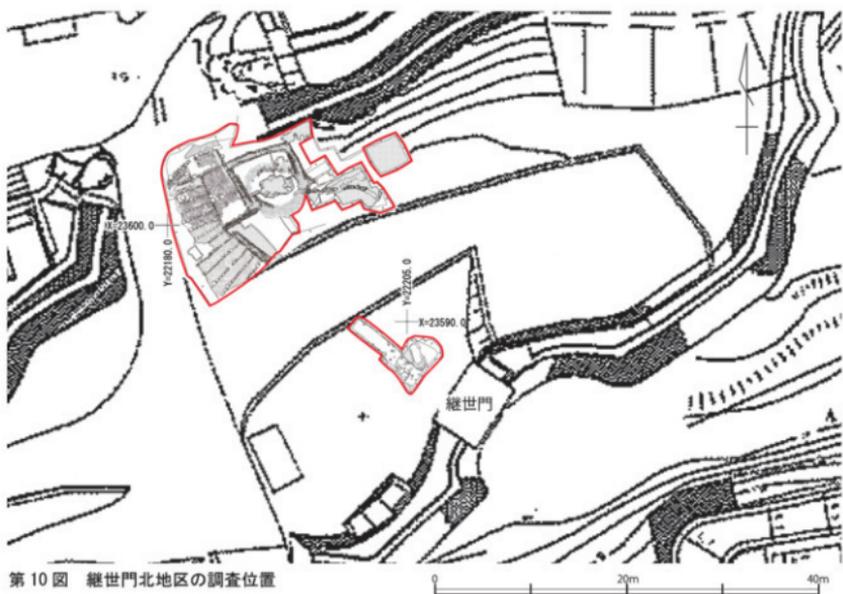
現地での写真は、35mmのフィルムカメラ、または適宜6×7サイズの中判フィルムカメラを用いて白黒トリバーサルフィルムで撮影・現像した。なお、デジタルカメラ(ニコンD70s)でも撮影を行い、報告書時の写真はDTP印刷に対応するために、デジタル画像を使用することとした。

遺物のナンバリングは、「H26 首継北(トレンチ・遺構・層序)」、「H26 首書南(トレンチ)」と注記している。

### 第2節 層序

前節で述べたように、今回の調査区では、戦後の造成土を外すと美福門階段や御嶽を囲う石積み4などの上面が検出された。

美福門階段については、遺構が残存していない周辺にサブトレンチを設定し調査することで、その下層となる堆積土を確認できた。一方、御嶽は石積み1と4で囲まれており、その内部の堆積土を外すとイビと称した岩盤とそれを円形に取り囲んだ石積み6が確認された。さらに、石積み6とイビの間にはより下層の堆積土が見られ、それを掘削するとイビは部分的に盛り上がった岩盤で、局所的には2m以上深くなっており、岩盤や地山を確認できない部分も見られた。



第10図 継世門北地区の調査位置

このように、本調査区では幾つかの堆積土が見られたが、これらの関係を全て一つの土層断面で確認することはできなかった。資料整理時において、遺構の前後関係や出土遺物の検討を経て、次のとおり时期的な区分として6層にまとめることとした。なお、遺物取り上げ時のナンバリング名と、本報告書でまとめた遺構・層序名の対応関係を第1表に示す。

#### I層 戦後 造成土

調査区全体に覆っており、琉球大学及びその後の公園の造成に伴うものと考えられる。

#### II層 戦前～18世紀ごろ 遺物包含層

拝所遺構の上面や外側を覆っている遺物包含層（図版9-3）。グスク時代から近代の遺物が出土するが、下層であるIII層が概ね18世紀が下限と考えられるため、それを上限とした。

#### III層 17～18世紀 御嶽覆土

御嶽を覆っていた土層で、上部と下部に分けることができる。出土遺物では16～18世紀代の陶磁器が見られ、下部のほうが16～17世紀代のものが多い傾向はある。

III層上部 石積み1、石積み4の間に堆積する土層。

III層下部 石積み1と4より切り合い関係で古いと判断できる石積み6とイビの間に堆積する土層。イビとした岩盤の隙間や直上に銭貨状金製品が出土している（図版8）。

#### IV層 15～17世紀 美福門基壇・階段下層堆積土

美福門基壇・階段の下層に堆積する土層である。階段I内トレンチ1～3、Bトレンチの埋土となる。出土遺物は17世紀代に下る遺物も見られるが、主体は15世紀代の陶磁器である（図版6）。

#### V層 不明 ビット内埋土

EトレンチVI層上面から掘削されたビットの埋土である（図版3）。ビット内の遺物はごく少量であるため、時期については確定できない。

#### VI層 マージ 基盤層

島尻層群の明～黄褐色土で、方言で「マージ」と称される。Eトレンチでしか確認されなかった。拝所遺構やA・Dトレンチでは岩盤が検出されているが、VI層の堆積は見られなかった。

第1表 層序対応表

層名	遺構・トレンチ	主なナンバリング名
I層	表土	表土、表探、平場3、Eトレンチ1～3層
II層	御嶽外側	Cトレンチ1～3層、石積み4東側、石積み6南側
	石積み2外側	石積み2・南側、貝だまり1・2
	石積み5外側	Aトレンチ1～3層、石積み5
	Dトレンチ	Dトレンチ1～3層
III層上	御嶽上部	石積み1、石積み1・4間、石積み4、石積み4・6間
III層下	御嶽下部	石積み6・イビ間、石積み6北トレンチ
	御嶽イビ	イビ
IV層	階段1下層	階段1内トレンチ1～3、石積み8、石積み9
	階段1東側下層	Bトレンチ、石積み3、石積み7
V層	Eトレンチビット内	SP

### 第3節 遺構

今回確認された遺構は、継世門北側ピット群、美福門基壇・階段、御嶽の大きく3つにまとめることができる(第10・11図)。

#### 1. 継世門北側ピット群(第12図、図版3)

継世門北側のEトレンチでは、地山面であるVI層(マージ)直上面の標高118.5m前後において、ピットを26基(SP3・18・19は欠番)確認した。平面は円形で径20cm前後、検出面が削平されている可能性も考えられるが、深さは10cm以内のものが多い。ただ、一部柱痕と思われるものが確認されている。

#### 2. 美福門基壇・階段(第13～17図、図版4～6)

美福門は内郭城壁の両脇に櫓を載せる形式で、今回の調査により美福門の基壇、継世門へ下る階段がそれぞれ部分的に確認されている。

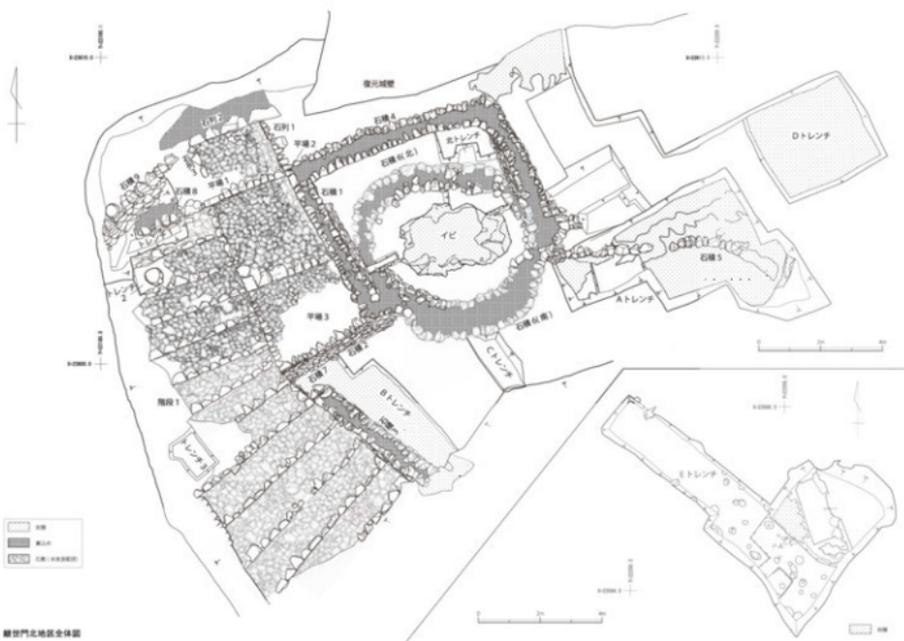
基壇に相当するのは石列2で、東側は内郭城壁に連結するが、西側は調査区外になるが破壊を受けているものと思われる。石列2からは南側に石列1が石積み4まで長さ2m伸びており、そこから西へ続く石積み8で構成された平場1を区画している。この平場1は後述する階段の踏み面と同様な石畳であるが、南側へ5°の傾斜をもっている点で若干異なる。この平場は調査区外の西側まで続くのでその東西の長さは不明だが、基壇と階段を結ぶ空間と思われる。また、この平場1には石列2と接続する長さ約1mの石列3が見られるが、本来西側へも続くものでかつて門前に置かれていたとされる獅子像の台座の根石とも考えられる。なお、平場1西側の階段1トレンチ1より、その下面から石積み9が確認されたが、石列2と方向が異なっている。その面は乱雑であるので、基壇や階段の造成に伴う土留めとも考えられる。

階段は、基壇から継世門へ向かったもので、一定の間隔で踏み面と蹴上げがある階段1とその東側に接続した平場と石積み3で構成されている。階段1は12段分残存しているが、それより南半は先述したように破壊されている。また、西側は調査区外であり、また一部は琉球大学に伴う建物基礎などにより破壊されている。その平面形は南に向かって台形状に開く形で、基壇から7段目では西に30°大きく振っている。階段の踏み面は、長さ20～40cm前後の略方形の上面が平坦な石を敷き詰めた石畳となっており、蹴上げは一段で高さ25～30cm、長さ30～50cmの長方形の石を置き、平滑な面を使用している。踏み面の奥行きは1.0～1.2mであり、傾斜は10～15°である。

平場は階段の東側に接続したものでその上面は同様な石畳で傾斜面はほぼなく、先述した基壇と関連する平場1に接続して南側へ平場2、3と続く。平場1の南端である石積み8は高さ1mあり、ほぼ直角で南側の平場2に接続し、その長さ3mを測る。その南側は、石1段による高さ15cmの段をもって平場3に続き、石積み2まで長さ2.7mあるが、南半は攪乱されており石が欠損している。石積み2は傾斜角75°で高さは3.5mを測る。平場2・3の東側は石積み1で区画されており、これらの平面形は南に開く台形状であり、東西幅が平場2の北端2.8m、平場3の南端が3.2mとなっている。平場3の南側には石畳がなく、平場として造成されていたかは不明である。調査時では、IV層とした階段1の下層堆積土が露出していた。

なお、この平場がなくなる7段目から階段は東へ15°振り、8段目より南側には東壁として石積み3が見られ、南端はやはり破壊されている。石積み3はかなり乱雑なつみ方で、その上面は西壁では階段の踏み面より30cmほどの高さで並行して南側へ傾斜している。東壁はIV層の上に乗っており、地表からは60cmほどの高さで表出している。

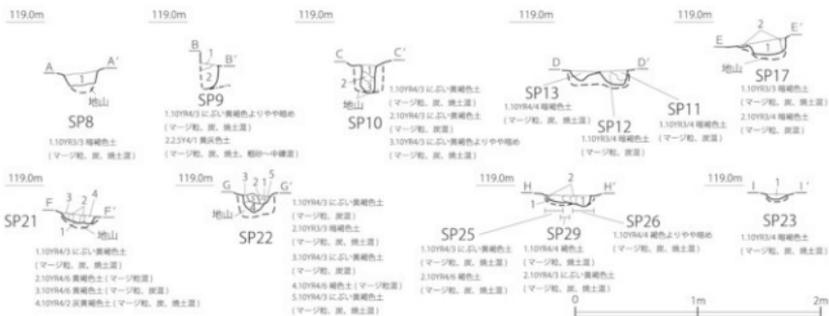
このように、検出された美福門基壇と階段そして接続する平場は基本的に一連のものと考えられ、改変・



第11図 新世門北城跡全体図



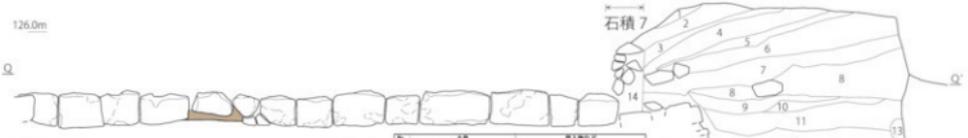
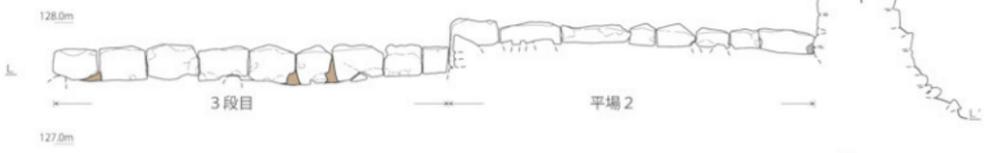
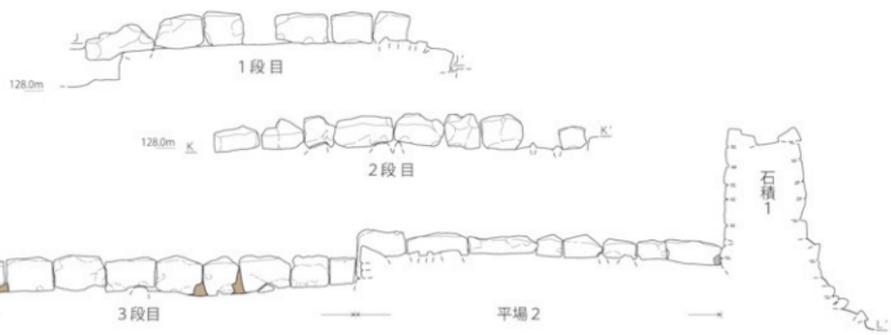
Y=22206.0  
X=23590.0



第12図 継世門北側ピット群



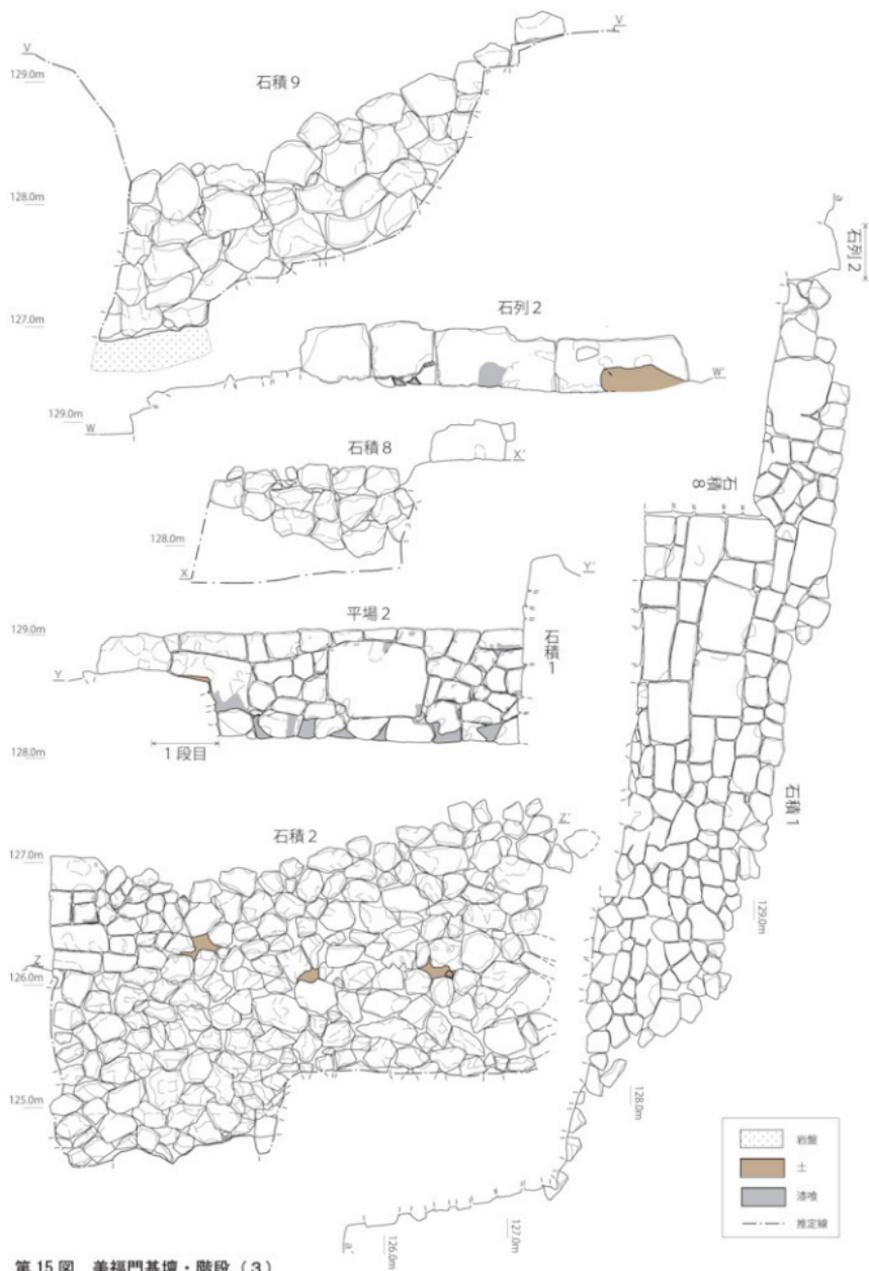
第13図 美福門基壇・階段 (1)



No.	階層	層高	層高測定点
1	12501.2	遺物上	階高測定点 1
2	12501.2	砂利層上	階高測定点 2
3	12501.2	土層上	階高測定点 3
4	12501.2	土層上	階高測定点 4
5	12501.2	土層上	階高測定点 5
6	12501.2	土層上	階高測定点 6
7	12501.2	土層上	階高測定点 7
8	12501.2	土層上	階高測定点 8
9	12501.2	土層上	階高測定点 9
10	12501.2	土層上	階高測定点 10
11	12501.2	土層上	階高測定点 11
12	12501.2	土層上	階高測定点 12
13	12501.2	土層上	階高測定点 13
14	12501.2	土層上	階高測定点 14
15	12501.2	土層上	階高測定点 15
16	12501.2	土層上	階高測定点 16
17	12501.2	土層上	階高測定点 17



第 14 図 美福門基壇・階段 (2)



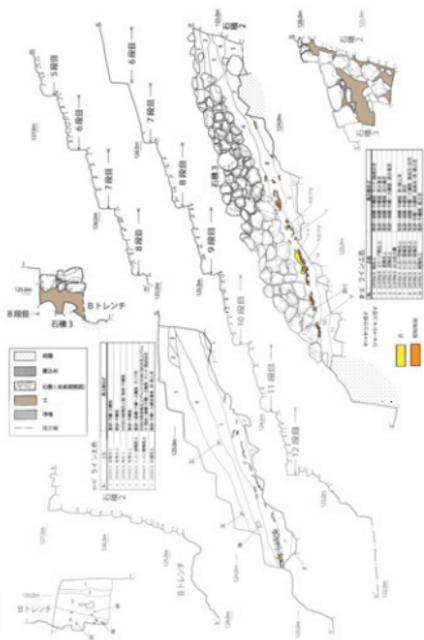
第 15 図 美福門基壇・階段 (3)



第14図 黒河門周辺の平面・断面・立体図(4)



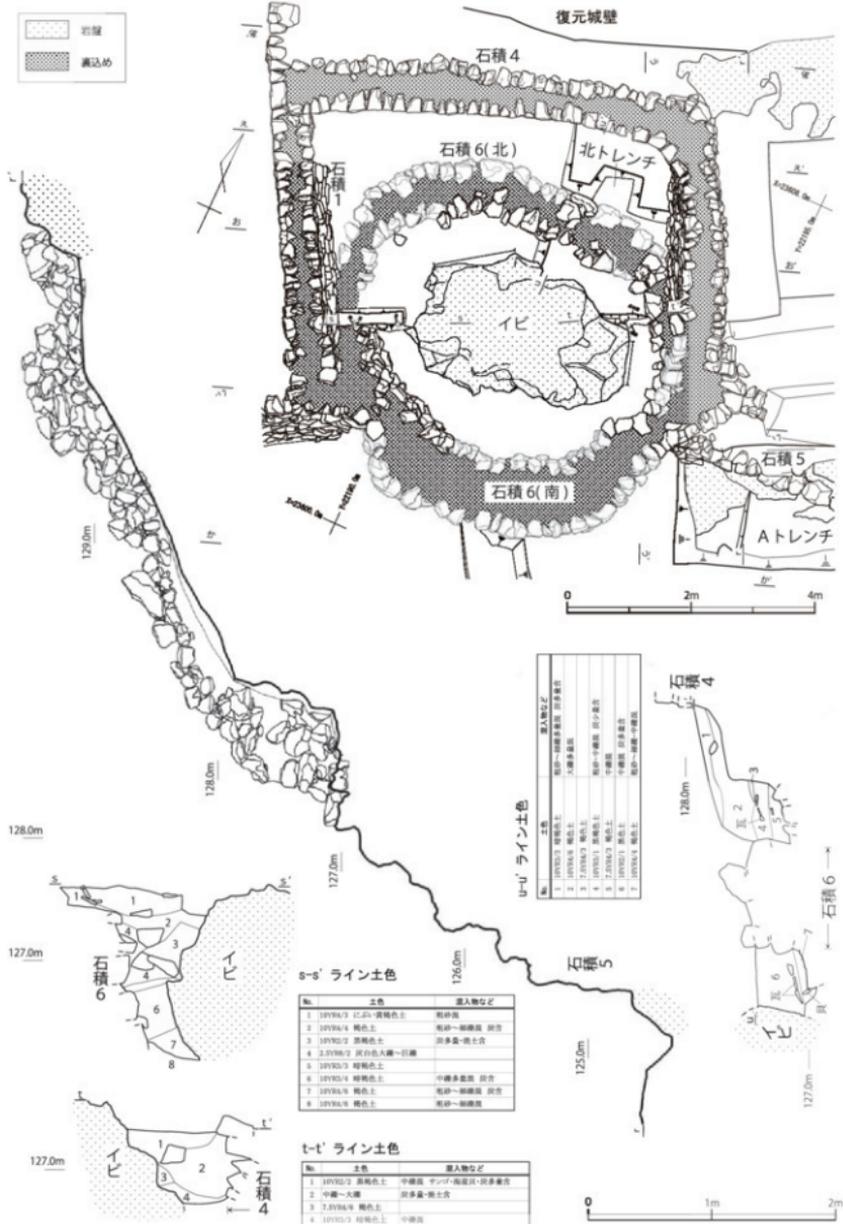
第17図 奥陣門階段平面・断面・立断面 (6)







第19圖 跡地 (2)



第20図 御殿(3)

修理はあっても一時期に造成されたものと考えられる。その構築時期であるが、第5章でも検討するが階段1の下層堆積土であるIV層は15世紀代の陶磁器が主体であるが、17世紀代の遺物も一定量見られることから、現時点では断定しにくい(第58図)。

### 3. 御嶽(第18～21図、図版7～9)

御嶽は、美福門階段の東側に隣接する遺構で、イビと称した岩盤の周りをめぐる石積み6と、さらにそれを囲う石積み1・4、石積み6の前面左右に接する石積み2・5で構成されている。

なお、御嶽とは、首里王府が称したとされる聖地の総称である。また、イビは聖地の内奥の神域を指し、その依代として巨石、神木、墓などがある(沖縄タイムス社1983)。本遺構については、後述するが顕著な加工が見られない岩盤の周囲に石積みで取り囲まれており、銭貨や銭貨状金製品が出土していることから、岩盤がイビに相当するものとして御嶽と呼称した。第2章で述べたように、赤田御門の御嶽と通称されるものに相当すると考えている。

イビは、長さが東西4m、南北2mを測る明確な加工はない岩盤で、高さは暗褐色土が堆積しマージヤ岩盤が確認できていない部分もあるので下端が不明だが1.2m以上見られる。現状を南面から見ると、石積み6の南側が低いため岩盤の頂部が見えるが、本来は巨木などが生い茂っていたことも想定される。岩盤の上面は凹凸が見られるが、そのレベルは127.5～127.8mの間に取まっている。岩盤の中央より西北部の隙間からは、銭貨や銭貨状金製品が出土しており、重ねられた状態のものも見られた(第2表)。

石積み6は、岩盤より0.6～1.0mの間隔をあけてその周囲を巡り、中央に裏込めを介した両面積みとなっている。面石は10～30cm前後のほとんど整形されていない礫で積まれた乱雑な野面積みで、裏込めは径20cm以下の礫で充填されている。石積みの幅は北側が0.6m前後、南側が1.2m前後と広がっている。高さは0.4～1.0mで南側に高く積まれている。東西は、石積み1と4の下に潜り込んでいるので、これらより古いと言える。イビと石積み6の間に堆積していた暗褐色土はⅢ層下部に当り、16～17世紀代の陶磁器が出土していた。

石積み1は、美福門階段東側の平場2・3に接した長さ4.8m、幅0.6mの両面積みの石積みである。面石は20～30cm前後の大きさで、その面は整形されている。平場1側へ向ける西側の面は、方形もしくは長方形の切石も使われているのに対し、東側の面はやや粗い。裏込めは10cm以下の中礫が大半である。高さは北側が1.6mで、南側に向かって低くなっており、南端は破壊されている可能性もあり0.4mとなっている。この南端には石積み2の東端の上面に取り付くようになっている。

石積み4は、石積み1の北端より東へ6.8m延び、南にほぼ直角に折れて4.8mの地点で石積み5に接する両面積みの石積みである。面石は20～30cm前後の大きさで、その面は整形されており、上方は長方形に近い石がおおよそ横方向で積まれているが、下方はやや乱雑である。高さは北側が1.6mで10段前後の石で詰まれるが、南側につれて低くなり、南端は0.4mである。南側へ曲がるコーナーは緩やかに角度をつけながら整形し、全体としてはほぼ直角に曲げている。先述したように、石積み1・4の間の堆積土はⅢ層上部でこれを除去すると、イビと石積み6の上面が確認できた。

石積み2は、平場3の南西端より石積み1の南端までに東西方向に伸びる長さ4m、高さ2.4mの両面積みの石積みである。面石は長さ10～30cmの不整形で、面はほとんど整形されてない。石積み6に取り付くようにあり、美福門階段の下に潜り込んでいる(図版6～5)。このことから、石積み2は美福門階段より確実に古く、石積み6よりは新しいものと思われる。

石積み5は、石積み6の東南端から東側へ6.4m延びる石積みで、根石は岩盤に置かれており、おそらく南側にしか面を持たない。石は長さ20～30cm前後の不整形で、面は整形していない。その高さは西



第 21 図 御嶽 (4)

側が 1.6 m で 8 段前後見られるが、その東側はおそらく後世の破壊により 1 段しか見られない。石積み 6 に取り付くように見られるので、おそらくこれよりは古い。

以上のことから、御嶽においてイビを巡る石積み 6 が美福門階段より古いことは確かであるが、階段の構築が 15 ～ 17 世紀の間で絞りきれないため、御嶽としての使用開始時期も確定は出来ない。しかしながら、第 5 章でも後述するように、イビ周辺の III 層下部の遺物では青磁 V 類が一定量見られるので、15 世紀前半に遡る可能性もある。石積み 6 の前面に取り付く石積み 2 や石積み 5 は美福門階段より古いと考えられる。一方、石積み 1 と 4 は石積み 6 の東西よりも新しく、その構築時期はその覆土である III 層から 17 ～ 18 世紀代の可能性が考えられる。しかし、第 2 章で述べたように、石積み 1 と 4 に相当する遺構は、18 世紀初頭作成「首里古地図」(第 5 図)には見られず、明治初期作成「沖縄県首里旧城図」(第 6 図)に見られるということから、18 世紀後半～ 19 世紀前半の可能性も考える。

いずれにせよ、今回確認できた赤田御門の御嶽は、何回かの変遷を経たことは確実であり、その初源は 15 世紀代に遡る可能性も考えられよう。

## 第4節 遺物

遺物の種類としては、中国・タイ・本土産の各陶磁器、沖縄産陶器、近代陶磁器、土器等陶磁器類10,368点、瓦、埴、金属・骨・貝・石等の製品等5,303点、合計15,671点が出土している（第57表）。その他に、漆膜（図版9-5）、食糧残滓と思われる貝類遺体、脊椎動物遺体が出土している。以下、種類ごとにその概要と分類について、図面や写真を掲載したものを中心に説明する。なお、個別の詳細は観察表（第41～56表）を参照のこと。

### 1. 中国産陶磁器

中国産陶磁器には、主体的なものとして青磁・白磁・青花・褐釉陶器、少数なものとしては色絵・瑠璃釉などが見られる。以下、種類ごとに説明する。

#### 1) 青磁（第22図・図版10・11 1～16）

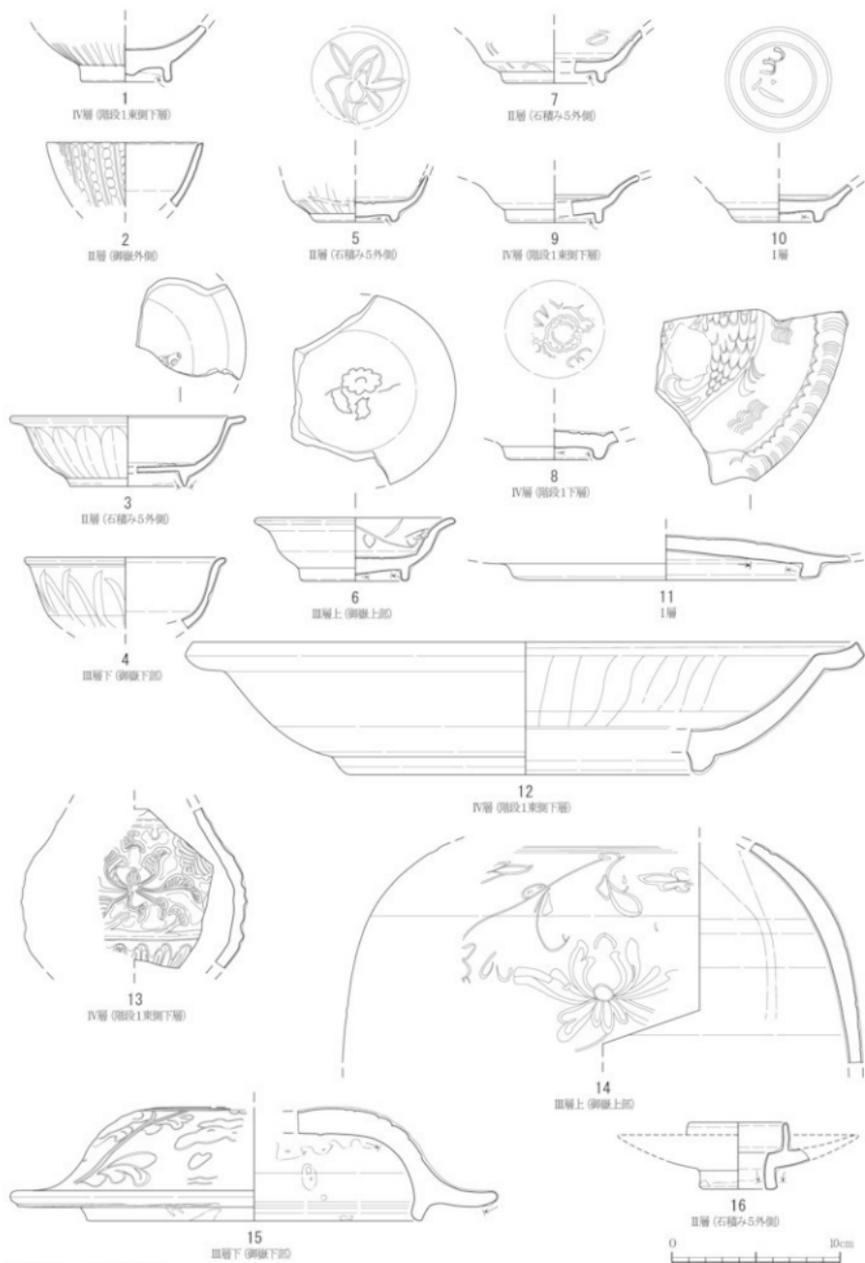
総破片1,758点を数える（第3・4表）。碗・皿については、分類記号は（瀬戸・仁王・玉城・宮城・安座間・松原2007・瀬戸2015a）に基づいている。また掲載したものの釉について、（A）を釉が厚く緑色が強いもので龍泉窯の中心である大窯等、（B）を釉が薄く青みもしくは灰掛かるもので龍泉窯でも周辺地で

第3表 中国産青磁集計表（1）

合計/点数		器形別										小計	中計	総計		
器形	分類	部位	I層		II層			III層上		III層下					IV層	
			表土付	Etレンテ	脚線外側	石目上 外側	石目下 外側	Drレンテ	脚線上部	脚線下部	脚線イビ	階段上 下層	階段下 裏側	脚線裏		
碗	-	口縁部	2		1							1	1	5	19	
		腹部	5		1		4			2	1		1	14		
	II	口縁部	1												1	3
		腹部	1												1	
	III-1	口縁部	1					1							2	2
		腹部	1												1	
	IV	口縁部	9	1	2		7			1	2		2	4	30	85
		腹部	2							2			2	2	8	
	IV'	口縁部	14	1	4	1	13			1	1		1	10	46	108
		腹部	3							1					1	
	IV'-2	口縁部	3		1		2			0	1		2	2	9	108
		腹部	11		6		12			3	2		5	13	50	
	IV'玉縁	口縁部	7		6		12			3	6		4	4	42	108
		腹部	15	2	2		7			1			2	5	34	
	V	口縁部	102	6	15	1	58			10	10	1	26	30	261	915
		腹部	14		3		1			1			7	10	36	
	V-0	口縁部	24		2		9			1	2		2	7	48	915
		腹部	2				2								4	
	V-0外反	口縁部	1				1								1	17
		腹部	5		3		2						3	4		
	V-1	口縁部	2				2				1				2	7
		腹部	15	3	1		7			3			3	11	46	
	V-2	口縁部	15			1	9			3	2		6	4	3	46
		腹部	4		1		1			1					7	
	V-3	口縁部	25	3	3	1	10		1	4	1		6	13	71	915
		腹部	2				2			1					5	
	V-3外反	口縁部	1				1								1	3
		腹部	2										1		3	
	V-3外反	口縁部	3		1		2			1			1	1	9	915
		腹部													1	
	VI	口縁部					1								1	1
		腹部													1	
	VI-0	口縁部	3		2		6			1				1	13	90
		腹部	2		1		3						2	21	29	
	VI-1	口縁部	2				1								1	2
		腹部	8	1	3		7		1	1			3	22	46	
VI-0	口縁部	3												2	5	
	腹部					1			1					3		
VI-1	口縁部					1								1	13	
	腹部								1					1		
VI-2	口縁部					1							2	4	9	
	腹部								1					1		
産地不明	口縁部					1								1	3	
	腹部													1		
小碗	-	口縁部	1											1	3	
	A	腹部											1	1		
	B	腹部			1									1		
夏口碗	IV	腹部	1											1	1	

第4表 中国産青磁集計表(2)

合計/点数			新出門北								書院所	小計	中計	総計	
器形	分類	部位	I層		II層		III層上		III層下						IV層
			表土相	Eトレンチ	御影外側	石積2 外側	石積5 外側	Dトレンチ	御影上部	御影下部	御影イビ	階段1 下層	階段1 裏側下層		
皿	III-1	口縁部					2							2	
		底部					1							1	
	III-0	底部	1												1
		口~底部	1												1
	III-1	口~底部	1				1								2
		底部	1				1								2
	IV'	口縁部	3							1	3				7
		底部	16	1	1	2	6								26
	V	口縁部												1	1
		底部	15		2		7		1	2		2	6		30
	V-0	口縁部	5			1	3		2				3	3	17
		底部											1		1
	V-0反	口縁部	24		1		21		5	6		6	11		74
		底部	2		1		5								8
	V-0腰折	口縁部	9				4		1				1		15
		底部	1												1
	V-0直口	口縁部	5				2					1			8
		底部	3				2					1			6
	V-1	口縁部									1				1
		底部	4				1			1					6
	V-1口折	口縁部	3				1					1			5
		底部	15	1	4		7		2			2	1		32
	V-1口折	口縁部					1								1
底部		9	1		1	2						1		14	
V-1直口	口縁部	5				5		2						12	
	底部		1											1	
V-2	口縁部	1				3			1					5	
	底部	1												1	
V-2外反	口縁部	4		1		2						1		6	
	底部	1				1								2	
V-2腰折	口縁部	3				1			1		1			7	
	底部	3				1					1			7	
V-2縁花	口縁部	4		1	1	1		1			1	6		17	
	底部	1												2	
V-0	口縁部	1							1	1		1		4	
	底部	1												2	
A	口縁部	11	1	3		5		2	1		2			25	
	底部	4	1	1		1			1		3			11	
A-1	口縁部	9	2	3	1	6			1		4	7		33	
	口~底部												1	1	
A-2	口縁部	15	2			3		1	3		5	3		37	
	口縁部	5				1						4		10	
A-3	口縁部	7		1		2			1					11	
	口縁部	1		1								1		3	
B	口縁部	1				1								2	
	底部	1				1								2	
水盤	-	口縁部	1											1	
瓶	-	口縁部	3				1					1		5	
		底部	1											1	
		胴部	6		1		3		1			2	2	15	
壺	-	口縁部	1		1		1					1		4	
		底部	20	1	2	1	6		1	1		1	3	36	
		口縁部	1				1								2
		口縁部	27	2	1		12		2	2		5			51
		口縁部	3										1		4
		胴部	10				4								14
透胎書の壺	-	口縁部							1					1	
蓋の蓋	-	裏甲	1				1		1			1		5	
		口縁部	4		2		3		2			1		12	
鉢	-	口縁部										1		1	
		胴部	17		1		5	1	1			1	0	31	
燈鉢	-	口縁部					1							1	
		胴部					1								1
香炉	-	口縁部			1		1							2	
		口~底部					1								1
天目台	-	口縁部								1				1	
		胴部	1				1					1			3
香台	-	口縁部	1						1	1	1			5	
		底部										1	1		3
器種不明	-	口縁部	58	11	2	5	17		7	3	3	20	49	176	
		胴部													1
小計			660	41	93	17	343	1	69	72	5	141	305	7	
総計			701				455		69			146		7	



第22圖 中国産青磁

生産されたと考えられるものとして細分した(瀬戸 2015 b)。以下、器形ごとにその特徴を説明する。  
 碗(1・2) II・III・IV・IV'・V・VI・VII類が出土しており、量的には915点中、V類596点(65%)が最も多く、以下IV'類105点(12%)、VI類92点(10%)、IV類85点(9%)の順で目立つ。IV類は、新安沈船資料よりも後出する新相タイプである(瀬戸 2015 a)。掲載したものは共にVI類である。(2)は、細蓮弁状の区画に縦位の円文を連続で浮き彫りにしたもので、あまり例を見ない。

小碗 掲載していないが、口径10cm以下のもので、A高台、B葎筒底のものがある。

皿(3~10) III・III'・IV'・V・VI・VI類が出土しており、量的には328点中、V類280点(85%)と圧倒的に多い。(3)はIII-1類で釉・胎土とも良好で、これまでの首里城跡の調査でも多くはない。他は、V類(4~8)、VI類(9・10)である。

盤(11・12) 形態で次のように分類した。Aは罅縁口縁で3細分でき、1端部を積み上げ(12)、2稜花、3平縁である。A-3は新安沈船資料を含むIV類に相当する。Bは内湾するタイプで、(11)の底部が該当する可能性がある。

瓶(13) 貼付花弁文を施したいわゆる玉壺春瓶だと思われる。

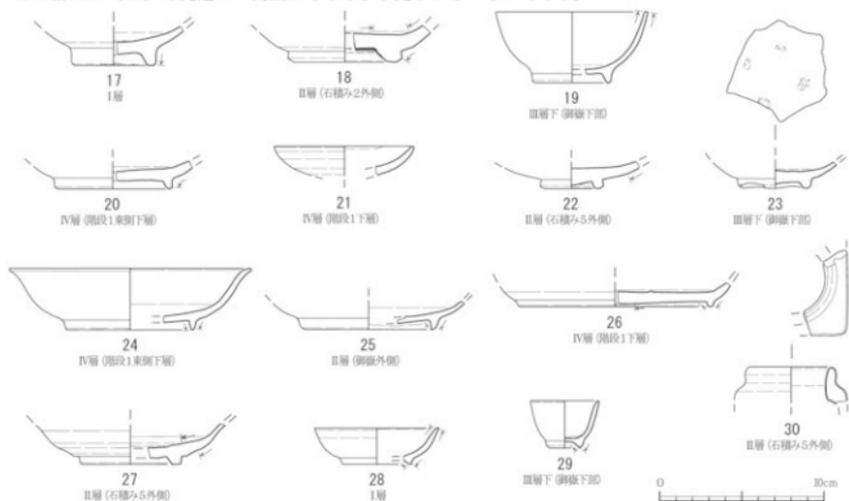
壺(14・15) 2タイプあり、Aは短胴のいわゆる酒海壺、Bは長胴(14)がある。(15)はAの蓋である。

天目台(16) 釉の発色が良好である。

## 2) 白磁 (第23図・図版11 17~30)

303点を数える(第5表)。景德鎮窯系・福建産のものは、森田(森田 1982)、大宰府(太宰府市 2000)、田中克子(2003)、新垣力(2005)、徳化窯系のものには陳(1999)の各研究を参考に分類を行った。以下、産地ごとに記述し、(瀬戸・玉城・仁王・宮城・安座間・松原 2007)の分類記号があるものはこれを付した。

景德鎮窯系 碗・皿・瓶・蓋が出土している。(17)は碗E0群、(20)はE0群の外反皿、(24~26)はE群だが(26)は見込みに円圏があるあまり見られないものである。



第23図 中国産白磁

第5表 中国産白磁集計表

合計/点数				龍門北								書院南	小計	総計		
産地	器形	分類	部位	I層		II層		III層上		III層下					IV層	
				表土色	Eトレンチ	御嶽外側	石積2 外側	石積5 外側	御嶽上部	御嶽下部	御嶽イビ	階段1 下層	階段1 東側下層			
豊徳鎮	碗	-	口縁部					1				1	1		3	
		-	底面	2					1						3	
		-	胴部				1	1	1						3	
		E	口縁部	2								3	4		9	
		-	胴部	1											1	
	EO	-	底面	3			1								4	
		-	胴部	1											1	
		E	口~底面										1	1	1	
		-	底面			2						1	1		4	
		E-外反	口縁部	2		1		2					2		7	
	E-直口	-	胴部	1											2	
		-	口縁部					1					1		2	
		EO	底面	4			1						1		6	
		-	胴部	4				2				1	1		8	
		-	口縁部			1									1	
瓶	-	口縁部			1									1		
	-	口縁部			1									1		
	-	底面										1		1		
不明	-	底面										1		1		
	-	胴部				1	1				1			3		
福建	碗	-	口縁部	3		3	1	3	2			2	1	15		
		-	底面				1							1		
		-	胴部	3			1	1			2			7		
		C2	底面					1						1		
		-	口縁部					2			1			3		
	C3	-	底面	1										1		
		-	胴部					1				1		2		
		-	口縁部											1		
	小碗	D	口縁部							1			1	2		
		-	底面					1				1		1		
	皿	-	胴部					1			1			2		
		-	口縁部	1		3						10	1	15		
D		底面	4	1		2	2			1			10			
器台?	-	胴部	1										1			
	-	口縁部					1						1			
徳化	碗	-	口縁部	4			3			6		3		16		
		-	口~底面								1			1		
	小碗	-	口縁部					1						1		
		-	底面	3							1			4		
	皿	-	口~底面	1										1		
-		口縁部			1								1			
小杯	-	底面	2				1						3			
	-	口縁部											1			
不明	碗	-	口縁部					1						1		
		-	底面					1						1		
		-	胴部	1										1		
	皿	-	口縁部	2										2		
		-	底面					1						1		
		-	胴部	1										1		
	杯	-	口縁部								2			2		
		-	口縁部	6		4	1	3			9		1	26		
		碗・皿・小杯	胴部	42		7	6	23	4	13	2	2	10	3	112	
		-	胴部			1	1								2	
瓶	-	口縁部								3			3			
	-	口縁部											3			
小計				95	1	24	17	60	9	40	2	24	28	3		
総計				96			101		9		42		52		3	303

福建産 碗はC2・C3・D群が出土しており、掲載した(18)はそれら以外で、見込みが釉剥ぎされた厚い高台をもつ。皿は、(21~23)はD群、(27)は外反皿と思われる。(30)は、胴部が方形であり、器台の上半部と思われる。

徳化窯系 清代のもので、小杯(29)を掲載した。

### 3) 青花 (第24・25図・図版12~14 31~66)

1,651点を数える(第6・7表)。元様式、明代、清代に分けられる。

元様式 亀井明徳らの研究(2009・2010)に基づく概念で、明代早期にも作られている可能性がある。

8点出土しており、盤(60)、壺(61・62)を掲載した。

明代 296点出土している。産地は大半が景德鎮窯だが、漳州窯系もある

景德鎮窯系 日本出土の青花の碗・皿については、小野正敏(小野1982)によって確立されているが、近年の資料増加に伴い、森毅(森毅1995・2005)、森達也(森達也2009)、柴田圭子(柴田2011)により追補されている。小野分類のB～E群より新しいと考えられるものは、便宜的にX群とした。

碗(31～35) 分類できたものとして、B群34点、D群6点、E群1点、X群17点が出土している。(31～35)はX群で、ペンシルドローイング・ダミ塗りによる文様、器形は緩やかに内湾し、器壁が薄く高台が細いなどの共通点が見られる。

皿(49～54) 分類できたものとして、B群12点、C群4点、X群74点がある。掲載したものは(49)がC群、(50)がB群、(51～54)はX群である。

第6表 中国産青花集計表(1)

時代	産地	合計/点数		展覧門別										書院所	小計	総計		
		器形	部分部位	I層		II層				III層上		III層下					IV層	
				表土色	白トレンテ	御影外側	石積2外側	石積3外側	白トレンテ	御影上部	御影下部	御影イビ	藍掛1下層				藍掛1裏側下層	
元禄式	景德鎮	盤	口縁部	1													1	8
		盤	底面	1				1						1			3	
		鉢	胴部	2													2	
		壺	口縁部	1													1	
明代	景德鎮	B	口縁部	2														2
			底面	2					1			1						5
			胴部	4		2		2						2	3			13
			口縁部	1			1	2										4
		D	口縁部														1	1
			底面				1											1
		E	口縁部															1
			底面				1											1
		X	口～底面				1											1
			口縁部	3		2		3		1	2			1				12
		-	口縁部	2														2
			底面	14	2			2				1	1	1	4			24
		小碗	口縁部	5				1				1	1					9
			底面					2										2
		X	口縁部					1										1
			口～底面					1			1							2
		B	口縁部				1	1										2
			底面	3		2							1		2			8
		C	口縁部				2	1										3
			底面	1														1
		皿	口～底面	2		1						1	1	1				6
			口縁部	4		7		3			10	7	2					33
		X	口縁部	1		3	1	6			5	10	1			1		28
			底面	2		4						1						7
		-	口縁部					2										2
			底面	3		1		1			5	4			1			15
		小鉢	口～底面				2											2
			口縁部	1		1	1								1	2		6
		-	口縁部	1											1			2
			底面	1											1			2
		盤	口縁部													1		1
			底面	1				1										1
		鉢	口縁部	1														1
			底面	1												3		4
		瓶	口縁部	2												2		4
			底面	11		1		8			1			2	5			28
		瓶の蓋	口縁部					1										1
			底面															1
		壺	口縁部															1
			底面	6	1	1		3			1							12
香炉	足															1		
	注口	1														1		
水注	口縁部				1											1		
	底面															1		
壺	口縁部														1	1		
	口～底面											1				1		
壺	口縁部	1														1		
	底面															1		
明代末漳州	漳州	碗	口縁部	2		2	2	3	1	1	1						12	
			底面	1		1		1									3	
			胴部	1													1	
			口～底面	1													1	

その他、(55) は時期的に群に相当すると思われる小杯 (55)、玉壺春瓶と思われる (59)、蓋 (63・64)、精巧な蔓唐草文が描かれる水注の注口 (65)、獣足形の香炉 (66) がある。

第7表 中国産青花集計表 (2)

合計 / 点数		継世門北										書院西	小計	総計			
時代	産地	器形	細分類	部位	I層 表土色	II層 Eトレンチ	III層 御座外側	IV層 石積2 外側	V層 石積5 外側	VI層 Dトレンチ	竪層上 御座上部				竪層下 御座下部	V層 御座イビ	階段1 下層
福建・広東	福建	碗	A	口~底部	1		3						3				8
				口縁部	36		17	1	51	1	6	13	1		6		132
			底部	1				3									4
			胴部	22		13		31		3	7					1	77
			口~底部	2		4	1	5		1	2						15
		口縁部	46		32	15	66		12	6					10	183	
		底部	4		4		12		1	3						24	
		口縁部	4	2	4	3	13	2	4	4					3	38	
		底部	14	1	3	3	11	1			3				4	40	
		胴部	27		11		22		2	3	1			2		68	
	小碗	A	口縁部	1					2							3	
		B	口縁部	3		3			1			1				8	
	鉢	-	口縁部	3		1			1					2		7	
			胴部	8				1	1				6	1		17	
	福建	碗	-	口~底部													1
				口縁部	6	1	4		1		4	6					22
			底部	6	1			1				4					12
			胴部	7		1				1	3						12
			口縁部	12		2		6		5	11	1			1		38
		小碗	-	底部	7				1	1						9	
胴部		1				1			2						4		
皿		-	口~底部													1	
			口縁部	4						2	3			1		10	
		底部	3		1		2			2			1		9		
	胴部	1				1									2		
	口~底部	36	4	20	3	22		19	14	1	2	10	3	139			
貴徳橋 / 貴化	碗	-	口縁部	18		2		4		3	6		2		35		
			胴部	136	7	30	4	42	2	25	43	3	15	39	6	352	
		口縁部	2												1		
		底部	1						1						2		
		胴部	2	1	1		1		1						6		
	鉢	-	底部	1												1	
			胴部	3	1	1		1					1			8	
	小杯	-	底部	1									2			4	
			胴部	2		1				1	1			1		6	
	貴徳橋	-	胴部	3				1						2	2	8	
蓋			1												1		
貴徳橋?	-	口~底部				1		1							2		
		口縁部	1										1		1		
不明	動物形不詳	-	胴部	11	1	3		7	1	2	1			3	4	33	
			小計	521	22	205	36	359	9	122	188	13	37	123	16	1651	
総計				543			609		122	201		160	16				

第8表 中国産褐釉陶器集計表

合計 / 点数		継世門北										書院西	小計	総計
器種	部位	I層 表土色	II層 Eトレンチ	III層 御座外側	IV層 石積2 外側	V層 石積5 外側	VI層 御座上部	竪層上 御座下部	竪層下 御座下部	V層 階段1 下層	階段1 東前下層			
蓋	口縁部	29	2	11	3	19	7	12	16	94			193	
	底		1	2		1		1					5	
	底部	31	1	3	4	17	7	17	6	50	1		142	
	胴部+耳	1											1	
小蓋	口~底部					1							2	
	口縁部						1			1			2	
鉢	口~底部					2							2	
	口縁部					1				1			2	
経木鉢	口縁部					1							1	
	底					1							1	
水注	流部												1	
	注口								1				1	
不明	流部												1	
	注口									1			1	
小計		61	4	16	7	40	15	31	22	154	1		356	
総計		65			68		15	31		176	1			



第 24 图 中国産青花 (1)



第25図 中国産青花(2)

漳州窯系 福建省漳州窯周辺で生産されたと考えられ、景德鎮窯系と比べると胎土が軟質で釉・呉須が鈍いものが多い(福建博物館1997)。碗(37)を掲載した。

清代 景德鎮窯系、徳化窯系、窯は限定できないが福建・広東系のものがあり、1,314点出土している。なお、景德鎮窯系と徳化窯系の一部は区別が難しく、景德鎮/徳化窯系としてまとめたものもある。

景德鎮窯系 碗(45～47)、杯(56・57)がある。細い高台が特徴といえる。

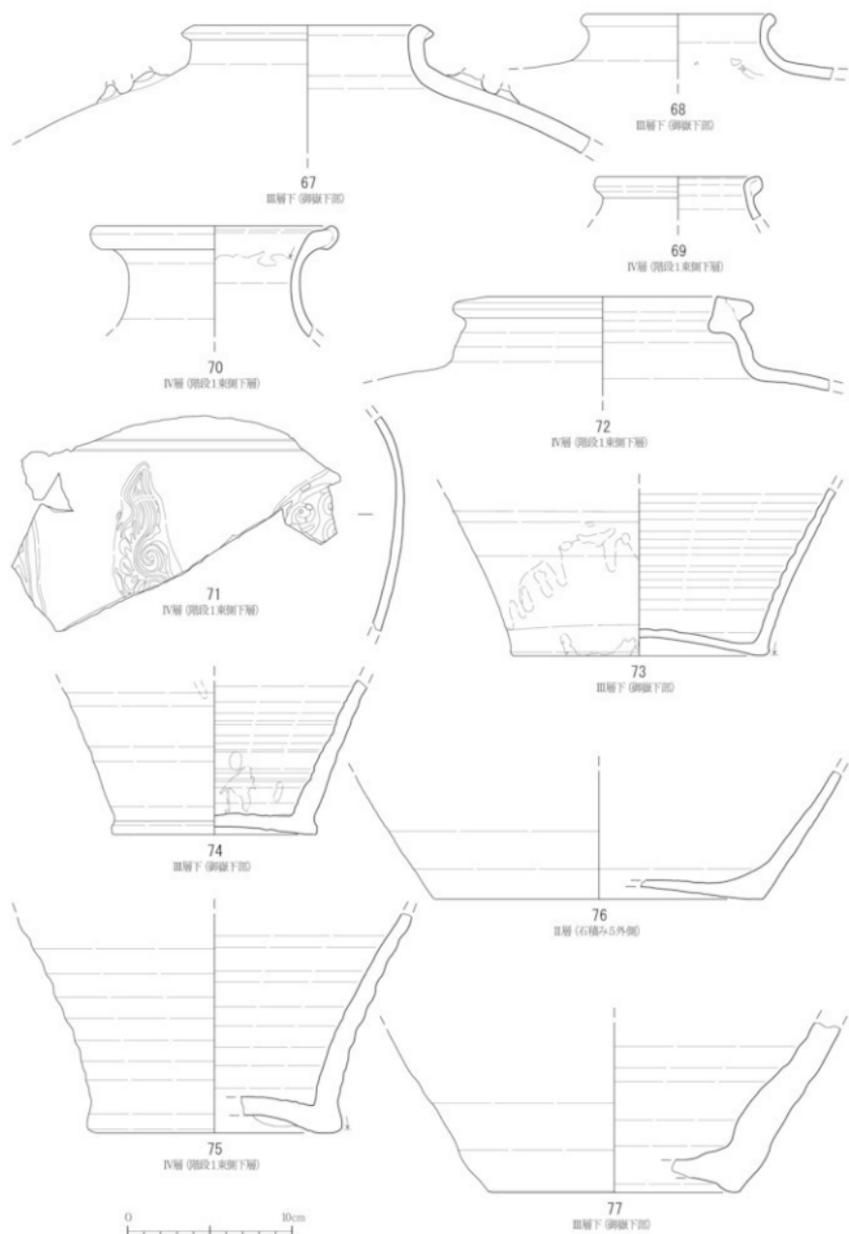
福建・広東系 胴部下半や底部が露胎する一群である。

碗(38～44) A類(38・39)を草花文、B類(40～43)を円文とした。(44)は底部のみである。鉢(58) 碗B類に相当する文様が描かれる。

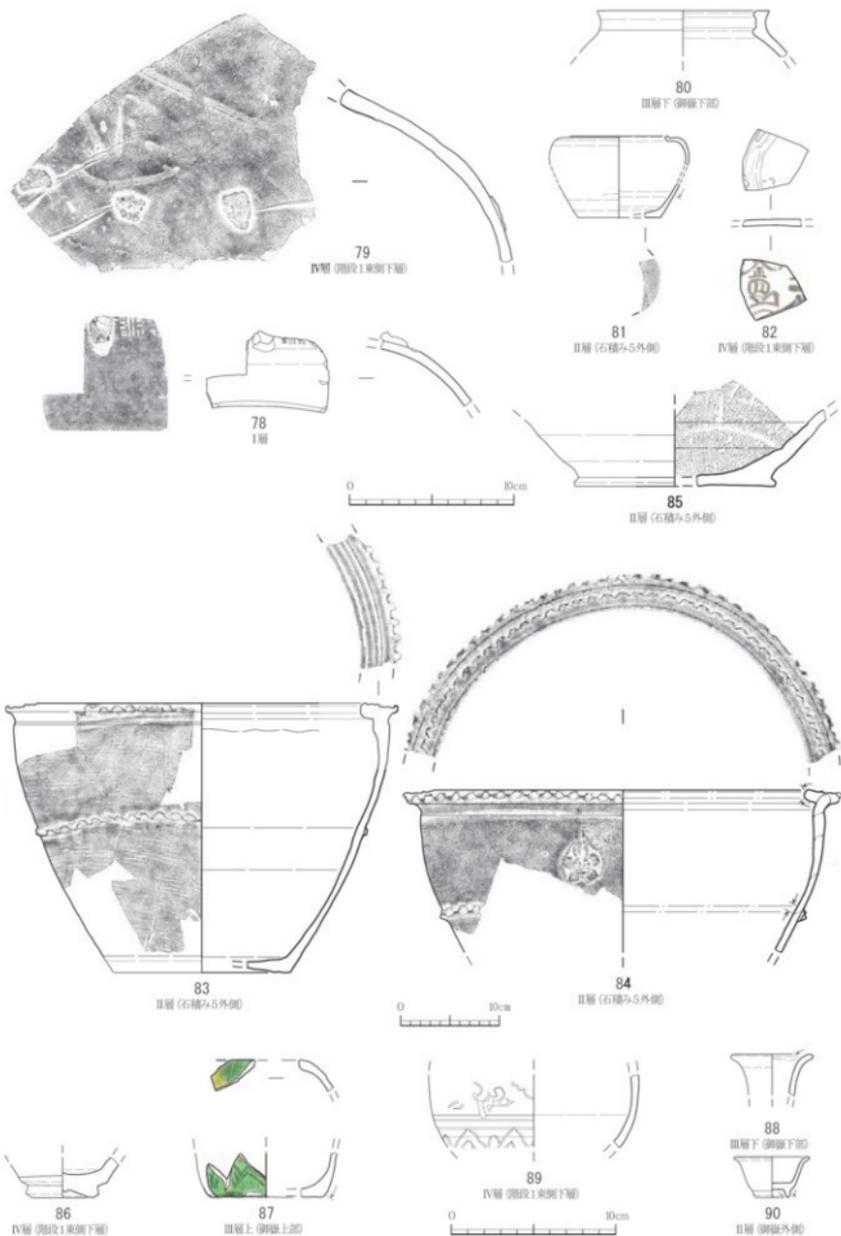
徳化窯系 胎土は白く、透明釉で光沢が強いことが特徴である。(48)は厚く三角形の高台をもつ碗である。

第9表 中国産その他の陶磁器集計表

合計/点数			器型別								書院用	小計	総計
			I類	II類	III類	IV類	V類	VI類	VII類	VIII類			
種類	器別	部位	素土他	Etレンナ	銅胎外側	石積2 外側	石積5 外側	銅胎上部	銅胎下部	磨段1 下層	磨段1 東側下層		
色釉	碗	口縁部	1					1					2
		肩部	2										2
		胴部	9				2				2		14
	小碗	口縁部	1										1
		肩部	2							1			3
	皿	胴部										1	1
		口縁部					1						1
	蓋	胴部					1					1	
	小盞	口縁部	1										1
	器種不明	胴部								1			1
鉢形	蓋	胴部					1					1	
	胴部	1										1	
磨練釉	碗	口縁部	1										1
		胴部	2		1								3
	小碗	口縁部	1						1				2
		肩部					1						1
	蓋	胴部	3									4	
	香炉	肩部			1							1	
	器種不明	胴部	1				1					2	
銅緑釉	蓋	口縁部	4		1	1	2	2	2				13
		蓋中	1		1								2
	蓋の裏	底	1						2				3
		口縁部											1
	緑釉	碗	口縁部			1							
胴部			2										2
蓋		胴部	1										1
		口縁部									1		1
鉢		口縁部										1	1
		鉢	2										2
木注		胴部					1						1
	器種不明	胴部	1		1							2	
葉形	碗	胴部	1									1	
	瓶	胴部								1		1	
罌粟釉	蓋	胴部	1									1	
		口縁部			1								1
	瓶	胴部					1					1	
露胎釉磁器?	瓶	口縁部							1				1
		口～底部											1
褐釉磁器	碗	口縁部									1		1
		口～底部				2							2
褐釉染付	小碗	肩部	1									1	
三彩	木注	口～底部						1					1
		口縁部								1			1
	胴部	6							11		2	19	
法花	鉢	口縁部			1						1		2
		胴部	1										1
	器種不明	胴部	1							1		2	
中国産葉形	天目碗	口縁部	3		3		3	1	2		1		13
		肩部	4	1			1	2	1	2	3		14
		胴部	21		2		12	6	3	7	1		52
宜興窯	急須	口縁部	2					1	1				4
		注口	1										1
	把平	胴部	3			1	1			1			7
		把平					1						1
小計		81	1	16	2	31	15	28	10	15	1	200	
総計		82		17	2	32	16	29	11	16	1	201	



第 26 図 中国産褐釉陶器 ( 1 )



第27図 中国産褐釉陶器(2)・その他の陶磁器

#### 4) 褐釉陶器 (第26・27図・図版15・16 67～85)

356点を数え、壺が343点(96%)と圧倒的に多い(第8表)。

壺(67～79) 5類(72・75・79)が多く、そのうち(79)は胎土では5類に近いが、胴部に字かどうかわからないが釉が掻き取られており例を知らない。(70・71)は胎土・釉から同一個体と思われ、貼付による雲状文があり、あまり見られない。(78)は、不明スタンプがあり、胎土からも通例のものではない。

この他、(80)は水注の口縁、(81)は洪糖窯の可能性のある小壺、植木鉢(83・84)、播鉢(85)がある。(82)は、器壁が薄く何らかの底部と思われ、外面に墨書で「企」が書かれる。

#### 5) その他の中国産陶磁器 (第27図・図版16 86～90)

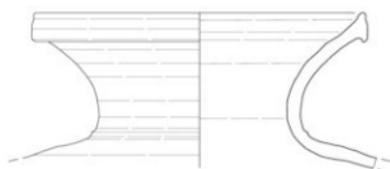
上記以外の中国産陶磁器には、黒釉天目(86)、三彩陶器(87)、翡翠釉磁器(88)、紫釉陶器(89)、褐釉磁器(90)の他、掲載していないが色絵、鉄絵、瑠璃釉、銅緑釉、緑釉、翡翠釉、褐釉青花、法花、宜興窯製品がある(第9表)。出土量としては、黒釉天目が79点とやや目立っている。

第10表 タイ産他陶磁器集計表

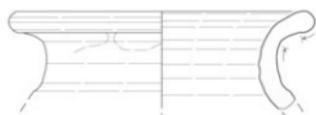
合計/点数			越前門北										小計	総計
			I層		II層		III層上		III層下		IV層			
種類	器種	部位	表土色	Eトレンチ	御磁外側	石種2 外側	石種5 外側	御磁上部	御磁下部	御磁イビ	階段1 下層	階段1 東側下層		
タイ産褐釉陶器	壺	口縁部						1						1
		口縁部	19		4			6	6	1	1	4		41
	壺	耳	9		2			3	3	2		3		27
		底部	8					6	4	2		1		27
タイ産土器	小壺	腹部			1									1
		口縁部		1										2
	平鉢蓋	口一縁						1			1			1
		腹部	4	1				3	4			2	4	18
蓋		1									1		2	
	口縁部	6		1			1	1	3		8	14	34	
ベトナム産白磁	壺	腹部											1	1
		腹部	1										1	2
ベトナム産青花	壺	口縁部												1
		腹部	1					2						3
	小壺	口縁部												1
		底部	1											1
	皿	底部	1							1				2
		皿	1											1
	壺	腹部	1											1
		香炉	口縁部				1							1
		水注	腹部	1										1
		器種不明	腹部				1	1						2
ベトナム産色絵	壺	口縁部						1					1	
		腹部											1	
朝鮮半島産 漆灰青磁	壺	腹部									1		1	
		皿	口縁部										1	
小計			56	2	8	2	25	18	9	3	19	114		
総計			58		35			18	12		133		256	

第11表 産地不明陶器集計表

合計/点数			越前門北										小計	総計
			I層		II層		III層上		III層下		IV層			
器種	部位	表土色	Eトレンチ	御磁外側	石種2 外側	石種5 外側	御磁上部	御磁下部	御磁イビ	階段1 下層	階段1 東側下層			
鉢	口縁部					1							1	
	口一底部									1			1	
蓋	蓋甲	19		6		23		8	1	38	128		223	
	底	18	1	6		19	5	3	2	24	64		140	
蓋口	底	1											1	
	広縁部	1											1	
土管	狭縁部	1											1	
	筒部	18		1		3							20	
器種不明	腹部	46	1	7	3	22	4	10		5	5	1	104	
	不明	5	2	4		3	2	2		2	4		24	
小計			107	4	22	3	71	11	23	3	70	201	1	
総計			111		96		11	26		271		1	516	



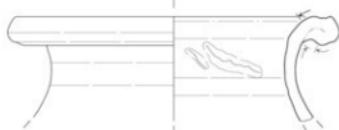
91  
II層 (断面外側)



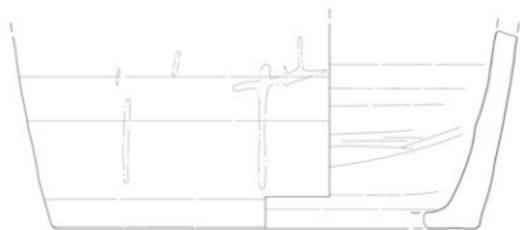
92  
IV層 (断面1.裏面下側)



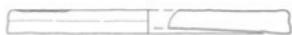
93  
IV層 (断面1.裏面下側)



94  
IV層 (断面1.裏面下側)



95  
IV層 (断面1.裏面下側)



99  
IV層 (断面1.下側)



96  
II層 (断面5.外側)



97  
IV層 (断面1.下側)



98  
III層下 (断面1.下側)



第28図 タイ産陶磁器・産地不明陶器

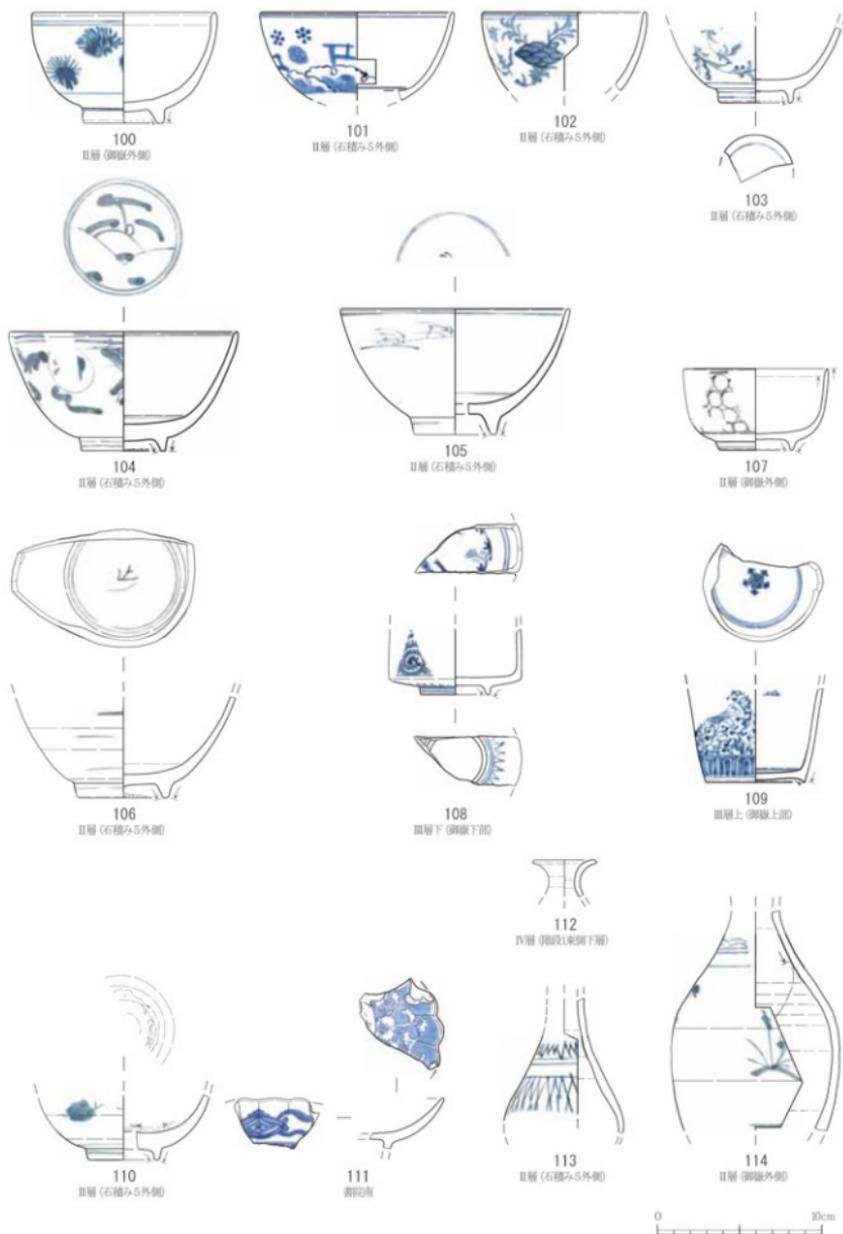


イ窯（93～95）のものがある。タイ産土器には、バンブーン窯の壺（96）、半練土器の蓋（97・98）がある。

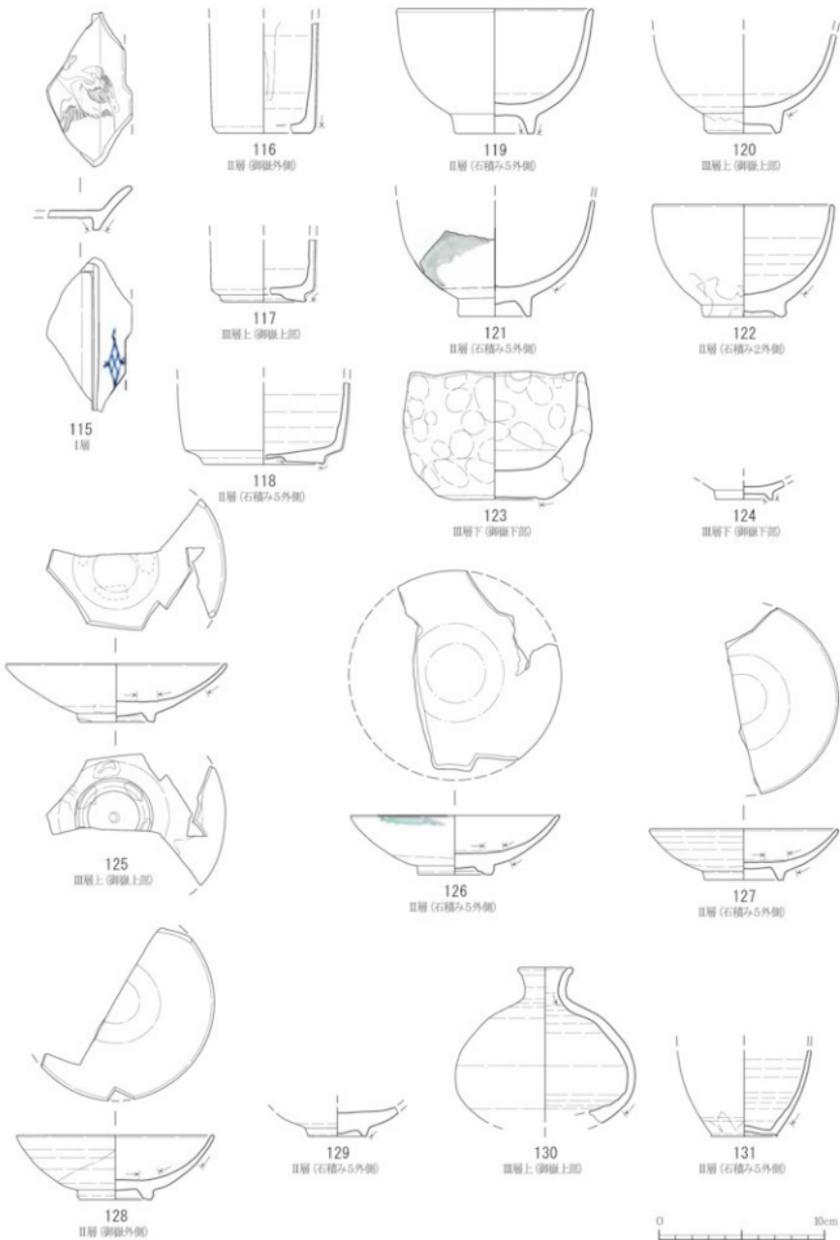
この他、(99) は産地不明陶器の蓋だが、首里城跡ではこれまでも一定量出土している（第11表）。

第13表 本土産陶磁器集計表（2）

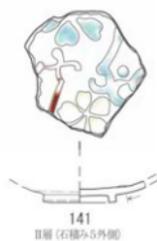
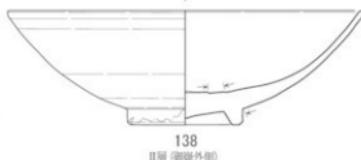
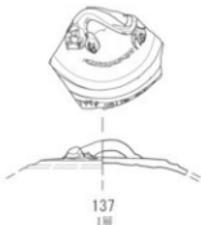
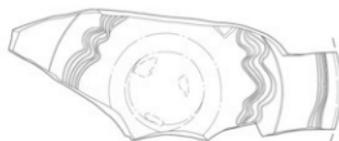
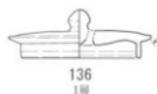
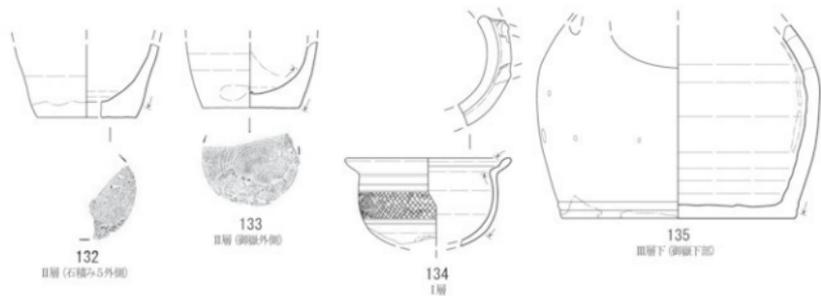
種類	産地	器種	分類	部位	緑器門北											備註	小計	中計	総計
					I層		II層			III層上		III層下		IV層					
					瓦土他	ロレンチ	銅器外側	石種2 外側	石種9 外側	ロレンチ	銅器上部	銅器下部	銅器イビ	階段1 下層	階段1 東側下層				
丹波	漆鉢	-	胴部		1												1	1	
	丹波か 小壺	-	口縁部										1				1	1	
関西系	銅	-	口縁部		1		2	3			1		1			1	9		
		-	肩部		1			1			1	1					4		
		-	胴部		1		1	4			1	2					9		
		-	口縁部					1									1		
		-	肩部		2								1				3		
		-	底部		1								1				2		
	皿	-	口縁部		3	1		2			2	2					9		53
		-	口縁部									1					1		
		-	肩部									1					1		
		-	口縁部										1				1		
		-	肩部										1				1		
		-	底部											1			1		
関西系か	火入	-	口縁部										1			1	1		
	火入	-	口縁部								1					1			
京・関東	皿	-	口縁部									1				1			
		-	底部											2		2		4	
瀬島	銅	A-2	口縁部										1			1			
		-	口縁部		3		2	2				1	1			9			
	小碗	-	口縁部										4			4			
		-	底部										1			1			
	皿	-	口縁部				1									1			
		-	底部					1								1			
	瓶	-	口縁部												1	1			
		-	肩部		7	1						1	1		4	14			
	壺	-	口縁部									1				1	2		
		-	胴部		6		1	6			2	2			1	20		238	
	小壺	-	底部						2							2			
		-	口縁部		1											1			
	蓋	-	蓋		1											1			
		-	口縁部		1			1			1					3			
	鉢	-	口縁部						1							1			
		-	口縁部		1											1			
	火鉢	-	口縁部											1		1			
		-	口縁部				1							1		2			
	急須	-	口縁部		2				5				2			7			
		-	底部		3			1			2	3				9			
不明	-	胴部		34	3	19	2	36			19	25	1	6	17	2	155		
	-	口縁部				1										1			
紫砂	急須	-	注口											1		1			
		-	口縁部		1											1		4	
蓋	-	口縁部				1									1				
	-	口縁部		2			2								4				
壺	-	胴部					9			1	7				17				
	壺→壺	-	口縁部		1							1			2				
壺	-	口縁部										1			1				
	-	口縁部		2		1	2			1	6	1			15				
瀬島系	結木鉢	-	胴部		1		1				1				1		5		
		-	口縁部		1							2	1		1	5		173	
漆鉢	-	胴部		2											2				
	-	胴部		1											1				
不明	-	口縁部		2								1			3				
	-	底部		2											1				
瀬島系か	蓋	-	口縁部		28	1	12	4	15		14	22			1	7	1	105	
		-	底部		1											1		1	
瀬島系	漆鉢	-	口縁部				1								1		1		
		-	底部												1		1		
京・関東	不明	-	蓋											1		2			
		-	蓋												2		2		
小計					191	7	74	21	204	1	87	130	10	7	50	8		790	
総計					198			300			87	140		57	8				



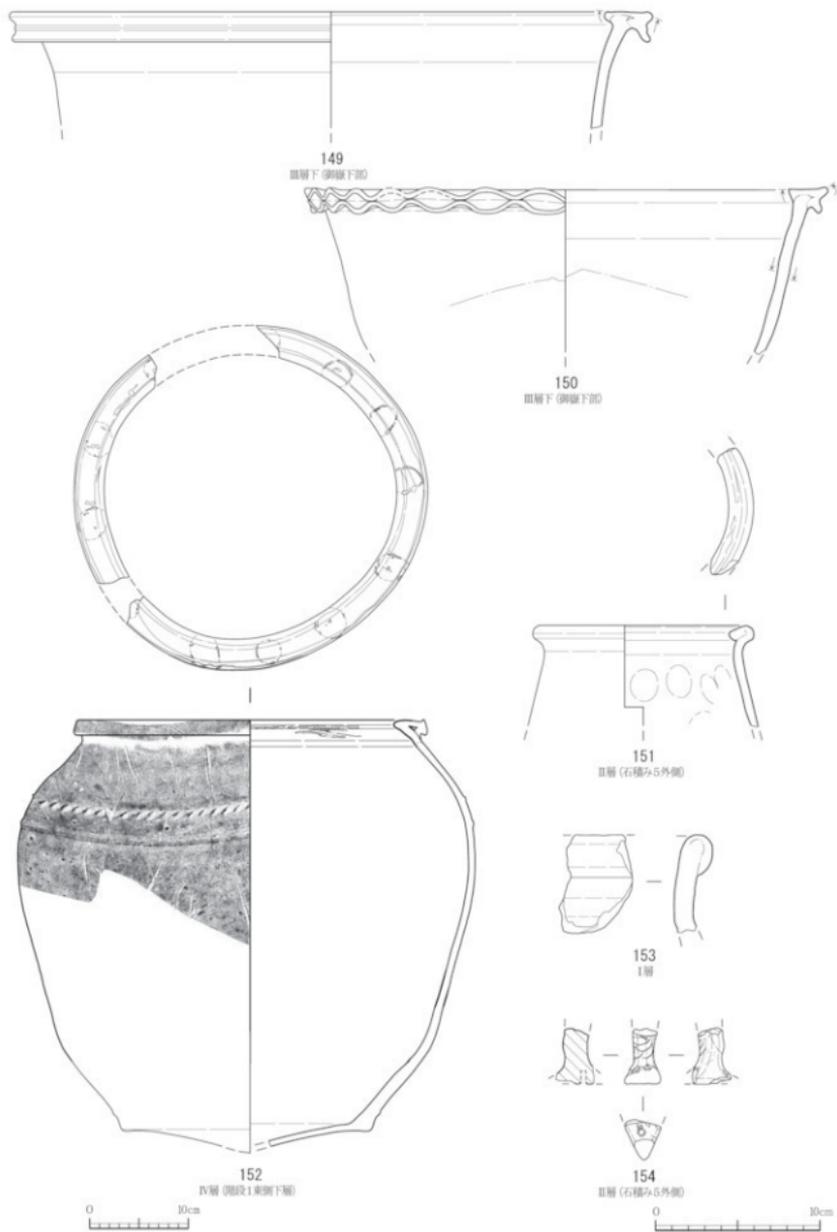
第29図 本土産陶磁器(1)



第30图 本土產陶磁器(2)



第31図 本土産陶磁器(3)



第 32 図 本土産陶磁器 (4)

### 3. 本土産陶磁器

磁器 181 点、施釉陶器 436 点、無釉陶器 173 点の総破片数 790 点を数える（第 12・13 表）。また、器種組成では、碗・小碗 258、皿 93、壺・甕 55、その他 96、器種不明 288 で、碗・小碗が過半を占める。また、産地には肥前、肥前（波佐見）、肥前（鍋島）、関西系、京・信楽系、薩摩、丹波、備前、不明が確認された。

#### 1) 磁器（第 29・30 図・図版 18・19 100～118）

染付、白磁、青磁、色絵が確認された。

**染付** 産地は不明を除くとほぼ肥前に限定されるが、その中には波佐見や鍋島が含まれる。

肥前（100～109、112～114） 137 点が出土している。『九州陶磁の編年』の分類におけるⅡ期からⅤ期までが得られているが、特に見込荒磯文碗（104）や山水文碗（105）を代表とする肥前の海外輸出がピーク時となるⅢ期が主体である（101～106）。

波佐見（110） 6 点が出土している。いわゆる「くらわんか」碗などが確認される（110）。

鍋島（111） 変形皿が 1 点出土している。文様などにより、初期から盛期のものと目される。首里城跡管理用道路地区の出土資料と同一個体の可能性が考えられる。

**色絵**（115） 13 点が出土した。皿（115）のほか碗や蓋が認められる。いずれも肥前産と目される。

**青磁**（116～118） 7 点を得られた。底部に鉄泥を塗布した筒形碗（116）や火入（117・118）をはじめ、瓶・香炉も確認された。

#### 2) 施釉陶器（第 30・31 図・図版 19・20 119～144）

肥前、関西、京・信楽、丹波、薩摩などの製品が確認された。

**肥前**（119～122・125～128） 碗をはじめ皿・盤など 138 点を得られている。特に銅緑釉の施釉されたⅣ期相当の碗（119～121）や皿（125～126）が確認された。

**丹波か**（130） 髪油壺とみられる小壺と播鉢の 2 点が挙げられる。小壺は胎土の特徴から丹波産と判断した（130）。

**関西系**（138～140） 碗、皿、火入、急須、段重、御猪口など 54 点を得られている。

**京・信楽**（141～144） 色絵陶器の皿 4 点を得られている。うち 1 点には「賣山」銘のある資料が含まれる（143）。

**不明**（129・131～137） 産地不明の資料で、皿、小壺、瓶などをはじめ多数の器種が含まれる。中には摘部が龍形の蓋といった精緻な製品も含まれる（137）。



写真 1 本土産白磁製洗面台

### 3) 無釉陶器 (第31・32図・図版20・21 145～154)

薩摩、備前などが挙げられる。また、紫砂製品も確認された。

紫砂(145～148) 急須と蓋の4点が出土している。急須に型作りで龍が施文される資料で、2点が得られているが同一個体の可能性がある(145、146)。また蓋は六角水注に伴うもので、印判が押されている(148)。

薩摩(149～152) 161点が出土しており、その内訳には壺・甕、植木鉢、搦鉢が含まれる。壺には口唇部に重ね焼き痕が残る資料が確認される(151)。

備前(153) 7点が確認される。4点がBトレンチ、さらにその中の3点は西側6～9層に出土している点で比較的多く出土傾向にある。

不明(154) 龍もしくは鳥の脚部を模した型作りの資料。器種不明。

本土産近代陶磁器も出土していたが、今回は集計・実測を行わなかった。その中で、白磁製洗面台(写真1 440)のみは写真を掲載した。これは、ロゴマークより東洋陶器株式会社の昭和3～36年製品と思われる(江浦2003)。

## 4. 沖縄産陶器

沖縄産陶器には、施釉陶器、無釉陶器瓦質土器がある。

### 1) 施釉陶器 (第33図・図版22・23 155～175)

方言では「上焼(ジョウヤチ)」と称され、施釉や絵付けを生地土に直接行うA類と、化粧土の上から行うB類がある。器形には、碗(155～160)・小碗(161～163)・鉢(166)・壺(167)・鍋(168)・瓶(169～171)・袋物(172)・香炉(173)・灯明具(174)・餌入れ(175)のほか、厨子・香炉・火炉・火入・蓋・急須・水注があり、合計1,400点出土している(第14表)。

特徴的なものとして、いわゆる琉球古典焼きの瓶(170)、灰釉の把手付の小杯形でおそらく小鳥用の餌入れと思われるもの(175)がある。

### 2) 無釉陶器 (第34～38図・図版23～28 176～222)

方言では「荒焼(アラヤチ)」と称され、比較的高温で焼成された焼き締め陶器で、自然釉などが掛かるものもある。この内、通行のものより色調が鈍く硬質で自然釉などが掛かる「初期無釉陶器」とされる一群は(県埋文2010、新垣2011)、本調査ではほとんど出土しなかった。

器形には、碗・小碗(176～188)、皿(189～191)、鉢(192～194)、搦鉢(195～197)、瓶(198～200)、壺(201～203)、急須(204～208)、急須蓋(209～215)、火炉(216・217)、植木鉢(218・219)、蓋(220)、人形(221)、脚付皿(222)の他、甕、火入、獅子があり、合計2,285点出土している(第15表)。

特徴的なものとして、楽茶碗状のもの(186)や、植木鉢などの台皿と思われる浅鉢(194)、灯明皿として利用された可能性も考えられる脚付皿(222)がある。特に、円筒スタンプによる花文を施す(218)の植木鉢は、瓦質土器と器形的には類している。

## 5. 土器類

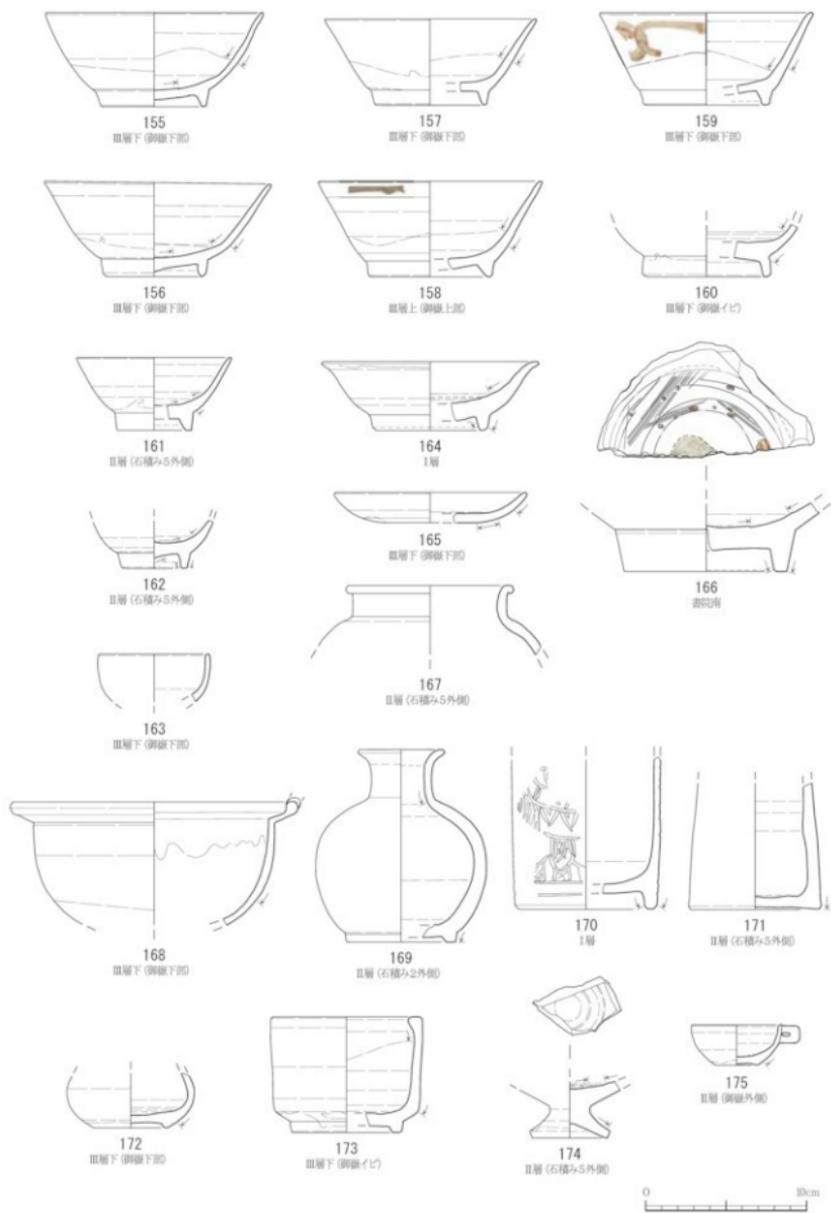
土器類には、陶質土器、瓦質土器、土器がある。

### 1) 陶質土器 (第38図・図版28 223～227)

方言で「アカムヌー」又は「カマガアヤチ」などと称される軟質焼成の土器群である。器形には、鍋

第 14 表 沖縄産施釉陶器集計表

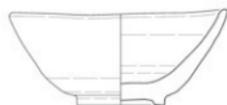
合計 / 点数			施釉部位								備註	小計	総計	
			1層	2層		3層上		3層下		4層				
器種	分類	部位	表土色	白-レンガ	御影外側	石積2 外側	石積3 外側	御影上部	御影下部	御影イビ	階段1 下壁	階段1 裏面下壁		
碗	A	口縁部	6	1	5			6	5	2	1	1		29
		腹部	177	5	7	4	28	10	21	1	2	6	7	268
		口-底部							2	6				10
		口縁部	33		5		22	7	31		1	3		102
		底部	22		2		16	3	7	1				51
	B	腹部							1	1				2
		口縁部	28	2			7		3		1	1	1	44
		底部	23	1	2		3		3				2	31
		腹部	2				6							8
		口-底部					1							1
小碗	A	口縁部	1					1					4	
		腹部	10				3	1					14	
		口-底部	1										1	
	B	口縁部	6				1		1					8
		底部	8	1			4		2			1		13
		腹部	2				3							5
皿	A	口縁部	2						6					11
		底部	4				1	1	2					8
		腹部	3											3
	B	口-底部	2											2
		口縁部	23				3	1	4		1			32
		底部	13				2					1		16
腹部	13				2	1					1	17		
瓶	-	口-底部				1								1
		口縁部	1						1					3
		底部	5				1		1					7
		腹部	5		1		3		5					14
壺	-	口縁部	3	1				2	1				7	
		腹部					1							1
鉢	-	口縁部	28	2	1		5	3	1		1	1	43	
		底部	6				2	1					1	12
		腹部	3	1			1		1		1			6
煎子	-	腹部	1										1	
		口縁部	10				2	1	3		1			17
鍋	-	底部	1				1					1	3	
		腹部	1			1								2
		把手	4				1		2			1		8
		口-底部												1
香炉	-	口縁部							1				1	
		底部							1					1
		腹部					1							1
		腹部	2				1							3
火炉	-	口縁部	3	1				1					5	
		底部	6					2	1					11
		腹部		1										1
火入	-	口縁部	5						1				7	
		底部	2						1					3
蓋	-	蓋	1				1						2	
		口縁部	8	1			3	3	1					16
魚塀	-	口縁部	3				1	2					6	
		蓋	1				3						3	
		注口	6		1		1							10
		底部	12	1	1		1	3	1			1		20
		腹部	16	1	1		3	1	1		2	1	1	27
水注	-	腹部	1										1	
		把手					2							2
灯明具	-	口縁部					1						1	
		底部					1		1					3
置物	-	底部							1				1	
		底部							1					1
瓶入れ	-	口-底部			1								1	
		口縁部	8				4	2						14
器種不明	-	底部	3				1	1	1				6	
		腹部	246	8	19	6	57	17	33	3	14	31	34	456
		腹部												
小計			780	27	46	12	204	70	149	9	25	38	40	1400
総計			807		262		70		158		63		40	



第 33 図 沖縄産施釉陶器

第15表 沖縄産無釉陶器集計表

合計 / 点数	解世門北										窯院所	小計	総計	
	I層		II層				III層上		III層下					IV層
器種	部位	表土色	白トレン子	卵殻作例	石種2 外側	石種3 内側	白トレン子	卵殻上部	卵殻下部	卵殻イビ	階段1 下層	階段1 裏側下層		
瓶	口～肩部	1		4	1	2		1		1		1		11
	口縁部	16	1	4	2	13	1	5	2			4		46
	肩部	10		3	1	8		1	5	1				29
	胴部	7	1	1		4		1	1			1		16
小瓶	口縁部			1										1
瓶付皿	口～肩部					1								1
	口～肩部			1		7		1	1		1			11
	口縁部	3		1	1	5		1	5					16
皿	肩部	2				1								4
	口縁部	3		1		4	1	2	2					13
	胴部	8		1					3	2				14
甌	肩部	1												1
	口縁部	13	1	7	1	14		4	3			4		47
	耳					1								1
	底部	12	2	6		6		2	10	1	3	4		46
甌部	口縁部	23		10	7	17	2	9	12	1	1	4		86
	胴部			1	2	2		2						7
小盃	口縁部													1
	胴部													1
瓶かま	肩部	22	1	11	3	9		2	3			2		53
	口～肩部	1		1		1		1	1					5
鉢	口縁部	18	1	10	1	7		2	11			1		51
	肩部			3		3		1	1					9
	胴部	4	1			5		1	1		2			14
	口～肩部	2				1								3
瑠璃鉢	口縁部	26	1	6		15		6	11	1		1		67
	肩部	9		1		7			3		1			21
	胴部	67	5	12	3	25	2	4	13		1	3	1	136
	口縁部	33	2	5		12		3	11				1	67
植木鉢	肩部	5		1					1					7
	口縁部	17	2	5		8		2	9		1	1		45
鉢・植木鉢	肩部	19	1	2		6		2	1		1			32
	口縁部	12		2		2		1	6					23
甌	肩部	3			1	2		1						7
	胴部	31	1	4	1	3		8	19			2		69
	底部	22		8		3		2	6		1	6		48
甌かま	口縁部	206	12	29	3	56		19	36		1	8	3	373
	口～肩部			1	1									2
火鉢	口縁部	17		13	3	29		2	8	1		3		76
	耳	1		2					2				1	6
	肩部	4		4	1	6		1	2			1		19
	胴部	4	1	1		7			6			1		20
火入	口縁部	4				3			3					10
	口縁部	2		3	3	4			3		2	1	1	18
甌	胴部	1				1								2
	肩部			1		1			1					3
急須	口縁部	3		6	4	16		2	2			2		35
	注口			2	1	1			2			1		7
	胴部	3		3	2	8		2	6			2		26
	把手	2		2		6		3	2					15
急須かま	口～肩部			1		3								4
	口縁部					3								3
型物(土)	不明					1								1
	人形								1					1
器種不明	口縁部	5	1	1		2			1		1		1	12
	肩部	5		1		7		1	1			4		19
	胴部	293	24	65	14	130		61	36	2	3	21	10	619
	把手	2				1		1						4
小計		942	88	228	56	478	6	135	256	10	13	85	18	2283
総計		1000				768		135	266		98	85	18	



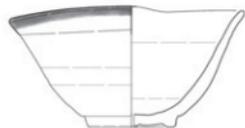
176  
皿脣上 (伊織上部)



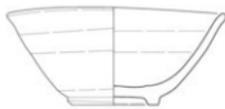
177  
皿脣 (伊織外部)



178  
皿脣 (石種のみ5外部)



179  
皿脣 (石種のみ5外部)



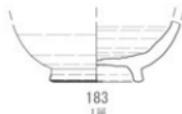
180  
皿脣 (伊織外部)



181  
1層



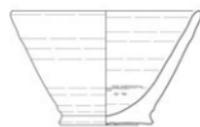
182  
皿脣 (石種のみ2外部)



183  
1層



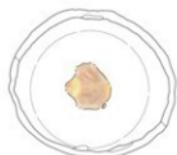
185  
皿脣下 (伊織イビ)



184  
皿脣下 (伊織イビ)



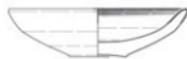
186  
皿脣 (伊織外部)



188  
皿脣 (石種のみ5外部)



189  
皿脣 (石種のみ5外部)



190  
皿脣上 (伊織上部)

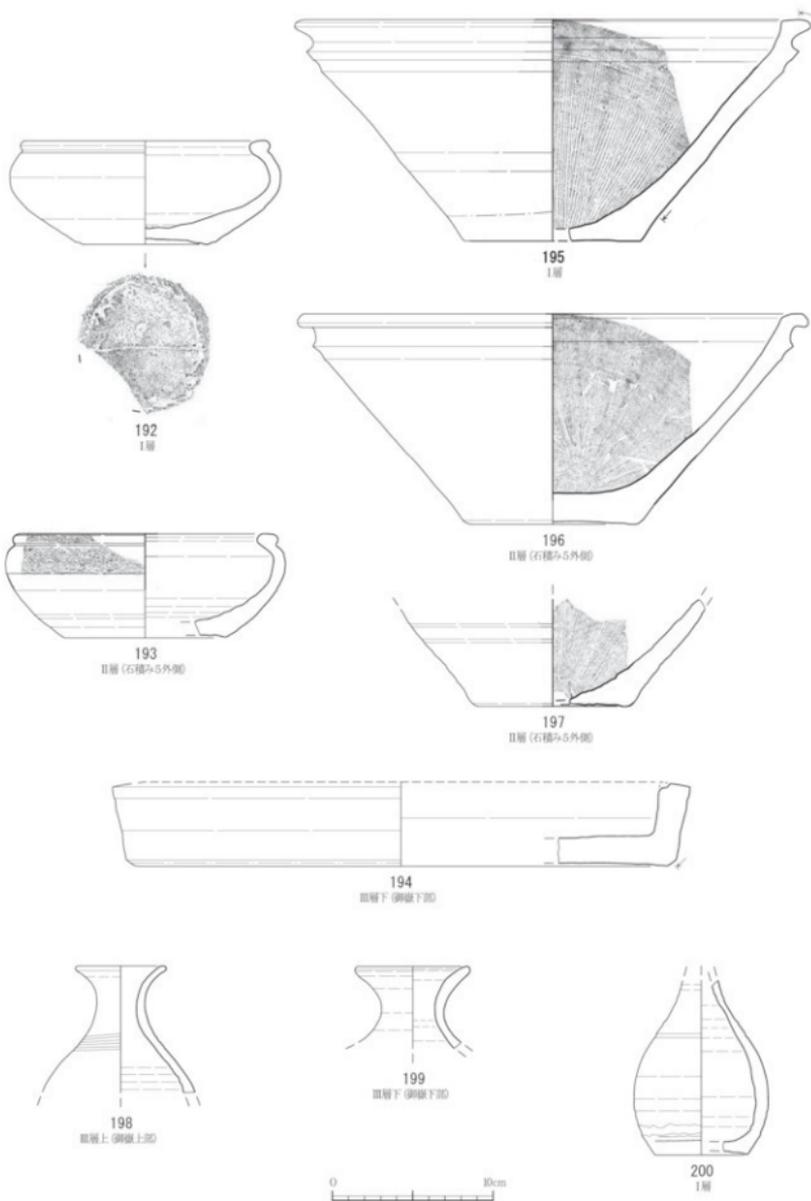


191  
皿脣 (伊織外部)

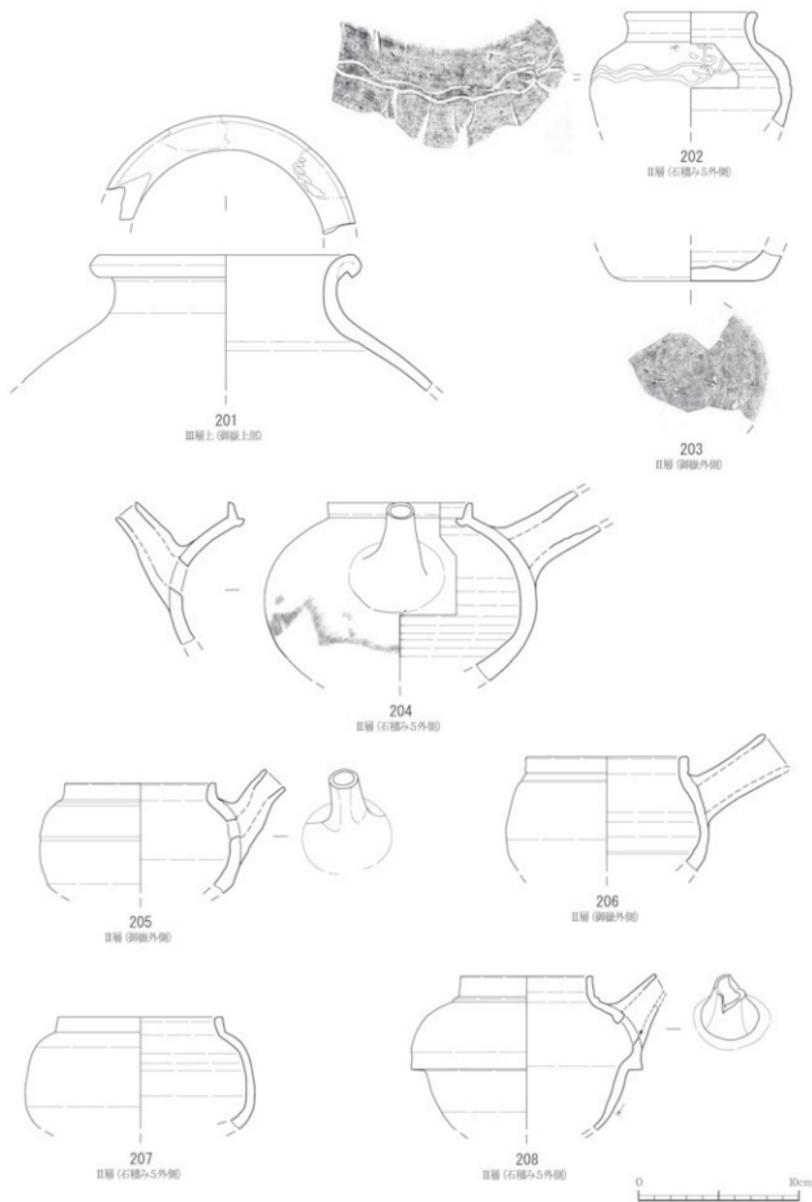


187  
皿脣 (伊織外部)

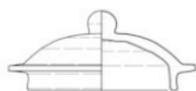




第35図 沖縄産無釉陶器(2)



第 36 図 沖繩産無釉陶器 (3)



209  
Ⅱ層 (右種7-5外側)



210  
Ⅱ層 (右種7-5外側)



211  
Ⅱ層 (右種7-5外側)



212  
Ⅱ層 (右種7-5外側)



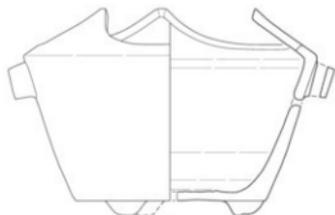
213  
Ⅱ層 (右種7-5外側)



214  
Ⅱ層 (御器外側)



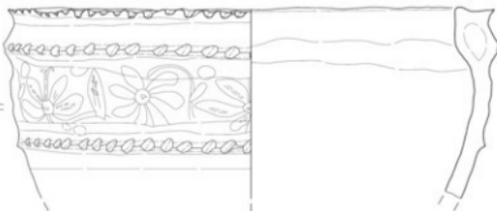
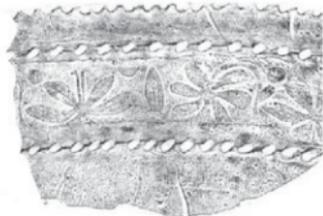
215  
Ⅱ層 (右種7-5外側)



216  
Ⅱ層 (御器外側)

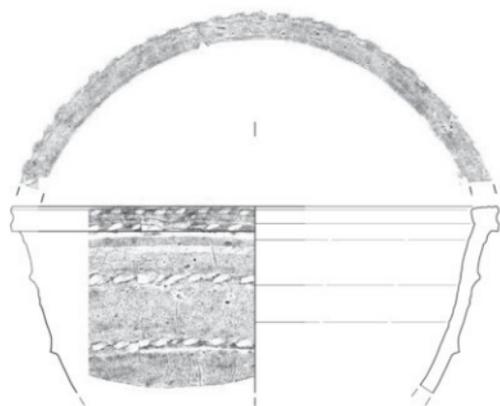


217  
Ⅳ層 (御段1裏面下層)

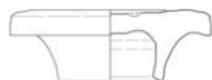


218  
Ⅱ層 (御器外側)

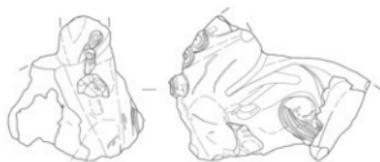
第 37 図 沖繩産無釉陶器 (4)



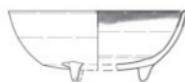
219  
Ⅱ層 (伊羅外側)



220  
器底内



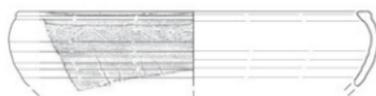
221  
Ⅲ層下 (伊羅下部)



222  
Ⅱ層 (右端7/6外側)



223  
1層



225  
1層



226  
1層



224  
1層



227  
1層



(223)・火炉(224)・鉢(225)・蓋(226・227)のほか急須が、合計667点出土している(第16表)。

## 2) 瓦質土器 (第39図・図版29 228～233)

瓦に類した焼成をもつもので、本土産と沖縄産の両者があり、合計55点を数える(第17表)。

本土産のものとして、風炉(228・229)があり、突線の貼付には区画線の上から行うなど、比較的丁寧な造りである。

沖縄産のものは、その胎土や焼成からおそらく湧田窯で生産されたものと考えられる。ただ、鉢(230)は平面形が方形で口縁外面に突起をもつなど、現時点では湧田窯では確認されていない。他の香炉(231)、植木鉢(232・233)、火炉、摺鉢は湧田窯で見られるものである。(233)の円筒スタンプ文は、石井分類(石井2009)の湧田Gに近似するが、上方の蔓がない点で異なる。

## 3) 土器 (第40図・図版30 234～244)

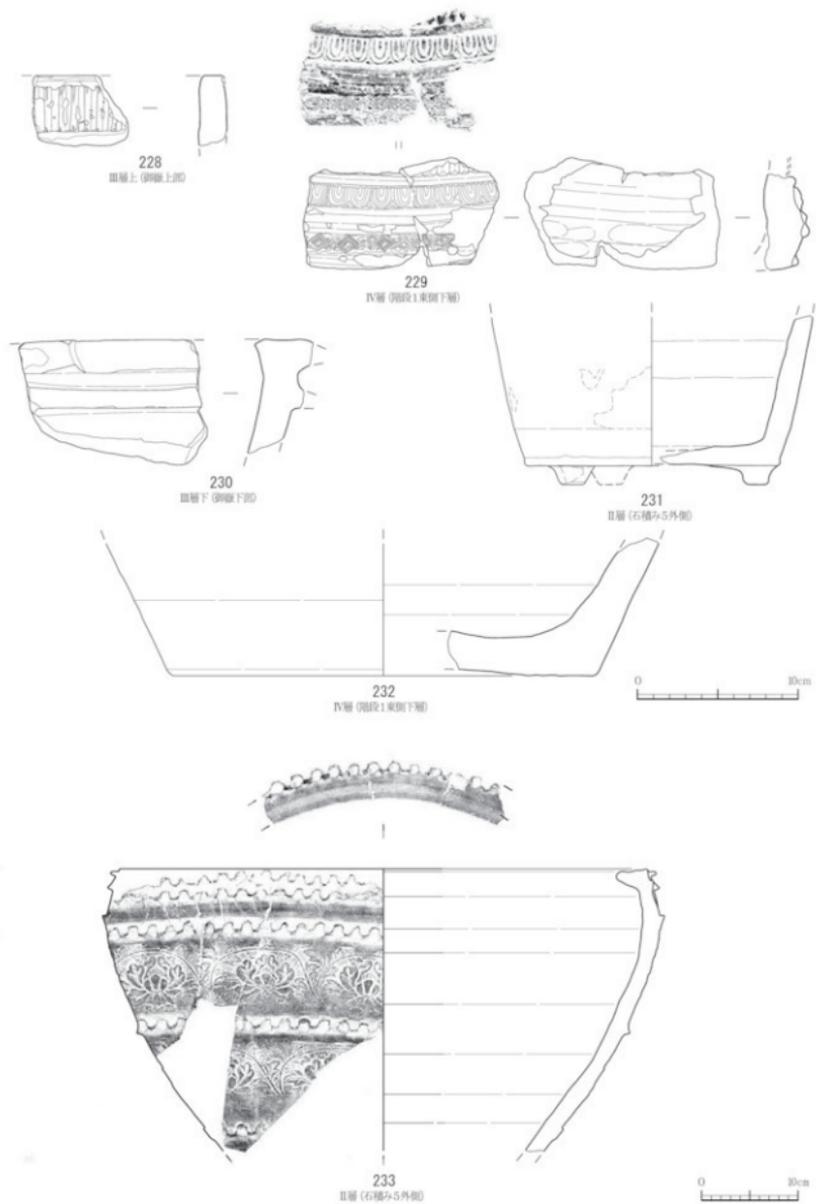
本土土器のほか、グスク土器、宮古式土器、八重山式土器、産地不明も含めて125点出土している(第

第16表 陶質土器集計表

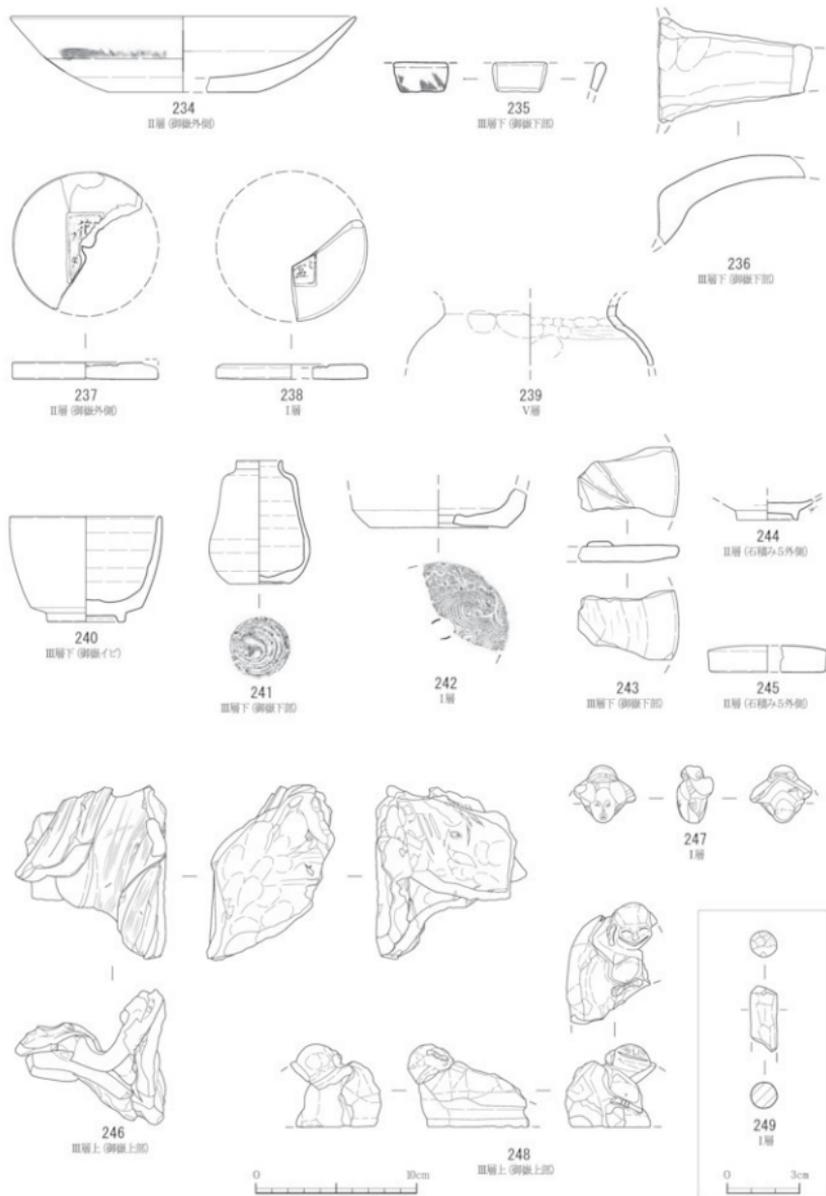
合計/点数	部位	器型門別										窯院別	小計	総計
		1層	2層			3層上		3層下		IV層				
器種	表土色	E・レンテ	脚縁外側	石種2外側	石種5外側	脚縁上部	脚縁下部	脚縁イビ	階段1下層	階段1東側下層				
皿	口縁部	7				2	5	13					25	
	底部					1							1	
	脚縁部	9		3		5		2					19	
鉢	口縁部	6	1	1		2	1						11	
	脚縁部	15											15	
	耳部	3					1	1					5	
火炉	脚縁部	3				2							5	
	口縁部	14				5		2					21	
	耳部	1											1	
	底部	9											9	
蓋	脚縁部	16			2	3	2	1				1	25	
	口縁部	1											1	
	口縁部	14	1			2		1					18	
	脚縁部	8					3			1			12	
急須	脚縁部	3				1	2						6	
	口縁部	3				1		4					8	
	口縁部	6				4	1	12					23	
	耳部	4					1						5	
	注口	3					2	6					13	
	底部	4											4	
	脚縁部	10						13					23	
器種不明	脚縁部	2						3					3	
	脚縁部	189	5	22	7	69	36	80	6	8	5	4	409	
小計		329	7	26	9	79	51	142	4	8	6	6	667	
総計		336			14		51	146		14		6		

第17表 瓦質土器集計表

合計/点数	部位	器型門別							小計	総計
		1層	2層	3層上		3層下		IV層		
器種	表土色	E・レンテ	脚縁外側	石種5外側	脚縁上部	脚縁下部	階段1下層	階段1東側下層		
鉢	口縁部					1			1	1
	脚縁部			3	7					10
植木鉢	底部			2				2		4
	脚縁部	4		1	5	1	6	4	1	25
摺鉢	脚縁部								1	1
香炉	底部				1					1
火炉	口縁部			3	1					4
	脚縁部	1		1						2
風炉	口縁部	1				1				2
	脚縁部								1	1
器種不明	口縁部								1	1
	脚縁部			1	1	1				3
小計		6	1	9	19	3	7	4	6	55
総計		7		26		3	7	10		



第 39 圖 瓦質土器



第40図 土器・土製品

第18表 土器集計表

合計 / 点数			巖室門北										遺物表	小計	総計		
種類	器形	部位	1層	2層	3層上	3層下	4層	5層	6層	7層	8層	9層					
			表土層	ロレンチ	御嶽外側	石積り外側	Dトレンチ	御嶽上部	御嶽下部	御嶽イビ	階段1下層	階段1東側下層	Eトレンチピット内				
本土産 (予食む)	燗格	口縁部							1					1	35		
		腹部			1			1	4					6			
	把手							1	1					2			
	横溝蓋	口縁部	1		1												2
		底				1											1
	皿	口～底部			1												1
		腹部	8			3		2	6								19
不明	不明	1		1								1		3			
	不明													1			
グスク	不明	腹部	15	2	7	3	1		6		7	8	2	51	53		
		不明							1								1
	蓋	腹部			1								1	2			
宮古式	不明	口縁部	1			1								2	17		
		腹部				2								2			
	腹部	2		1	1			3		1	1		1	10			
	不明				1									1			
八重山	不明	腹部		3	1	2			2		1			7	7		
	碗	口～底部									1			1			
沖縄産?	皿?	腹部	1											1	13		
		腹部															1
	小壺	口～底部								1							1
		蓋								1							1
	不明	腹部				2											2
		不明	不明				2			1		2	2				7
小計			30	3	14	18	1	6	26	1	11	12	1	9	125		
総計			33		33		5	27		23		1	3				

第19表 土製品集計表

合計 / 点数			巖室門北				総計
産地	器形	部位	表土層	2層	3層上	4層	
			表土層	石積り外側	御嶽上部	Eトレンチピット内	
本土産?	人形	不明	1		1		2
		口～底部				1	1
沖縄産?	人形	不明	1	1			2
		不明					1
不明			2	1	2	1	6

18表)。

本土産と考えられるものには、皿(234)、焙烙(235・236)、焼塩壺蓋(237・238)がある。沖縄県内では、焼塩壺は初めての報告と思われる。

胎土・焼成より沖縄産と考えられるものには、碗(240)、小壺(241)、壺(242)、蓋(243・244)があるが、今までの出土例がない。このほか、産地が確定できるものは(239)の宮古式土器である。

#### 4) 土製品 (第40図・図版30 245～249)

容器以外のもので、本土産と沖縄産と考えられるものがあり、合計6点である(第19表)。

本土産は、共に人形(246・247)である。沖縄産は胎土から推定されるもので、人形(248)と、不明製品で円盤状(245)と円柱状(249)がある。

#### 6. 金属製品・るつぽ

金属製品は、材質により青銅製品と鉄製品の2つに分けられ、今回の調査では青銅製品に比べ鉄製品が圧倒的に多く出土している。

#### 1) 青銅製品 (第41図・図版31 250～269)

青銅製品は195点(うち鍍金されたもの12点)が出土しており、青金具(250・251)、甲冑金具(252

第20表 金属製品集計表

種類		合計 / 点数		扉門北										書院南	総計	
				I層		II層			III層上		III層下		IV層			V層
器形・分類		表土地	Etレンテ	銅線外側	石種2 外側	石種3 外側	Etレンテ	銅線上部	銅線下部	銅線イビ	階段1 下層	階段1 東側下層	Etレンテ ビツ内			
青銅製品	鋳金具	花弁形						1							1	
	-	3													3	
	立物		1				2		1						4	
	かんざし	側差	1		3		1		1						6	
	釘	丸釘	5		1		1		1					1	9	
		丸釘	3		1				1	2					7	
	鉸				1										1	
	覆輪												1		1	
	指輪												1		1	
	鈴		1												1	
	毛抜き		1									1			2	
	スナイデル銃 葉莢		1												1	
	葉莢		1	2										1	4	
	銃弾片		2	1											3	
	砲弾片		7	1			4								12	
	香炉?									1					1	
	ペンホルダー		1												1	
	ボタン		4								1				5	
	鍵									1					1	
	不明	不明	41	6	3	1	13		13	24		10	3	1	3	118
		花弁形											1			1
青銅製品 集計		72	10	9	1	21		16	31		10	7	1	5	183	
青銅製品 (鍍金)	鍍金具	鍍金	1												2	
		鍍金													1	
		鍍金													1	
	甲冑金具	八宝金具	1												3	
		覆輪													2	
	鍍金具	不明		1											1	
	鉸														1	
不明														1		
青銅製品-鍍金 集計		2	1												2	
鉄製品	丸釘		64	6	63	20	103	8	73	92	4	304	196	2	1	983
	釘	丸釘	1				7	1	2							11
		釘破片	20		32		15			18		18	60			171
	小札		1						1	3		1	23			29
	鉄鎌					1										1
	刀子												3			3
	環状鉸												2			2
	鉄鏝									1						1
	包丁		1									1				1
	砲弾														2	2
	不明		13	2	5		3	1	6	19		8	24		7	88
	鉄製品 集計		105	8	100	21	128	7	82	131	4	383	313	2	10	1294
不明	鍵	1													1	
不明	集計	1													1	
小計		180	19	109	22	149	7	98	162	4	393	329	3	15	1490	
総計		199				287		96	166		722	3	15			

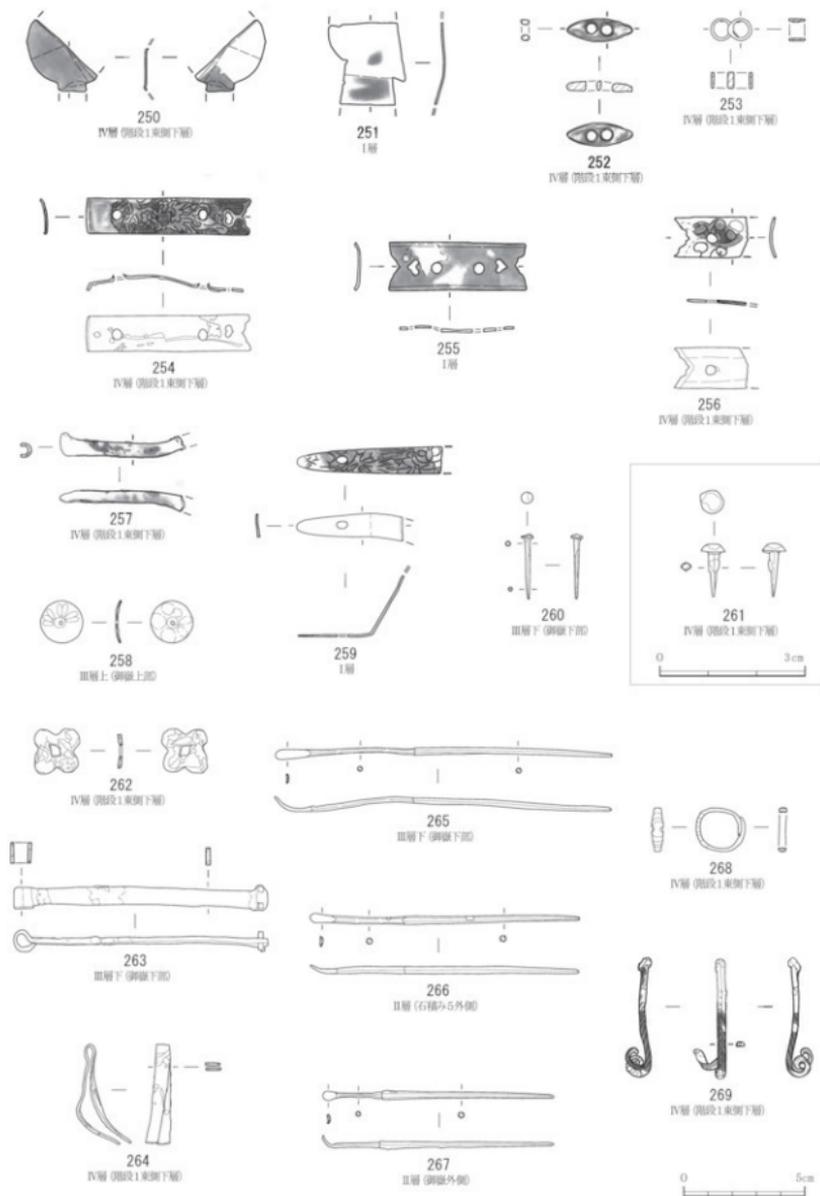
～257)、飾金具(258・259)、釘(260)、鉸(261)、鍵(263)、かんざし(265～267)、毛抜き(264)、指輪(268)のほか、鈴、毛抜き、葉莢、銃弾・砲弾片などが出土している(第20表)。これらのほか不明なものも多く、掲載した(262)はやや粗雑であるが中央に穿孔された花弁形、(269)は両面鍍金された断面半円で部分的に燃糸状のものである。

## 2) 鉄製品 (第42・43図・図版32 270～284)

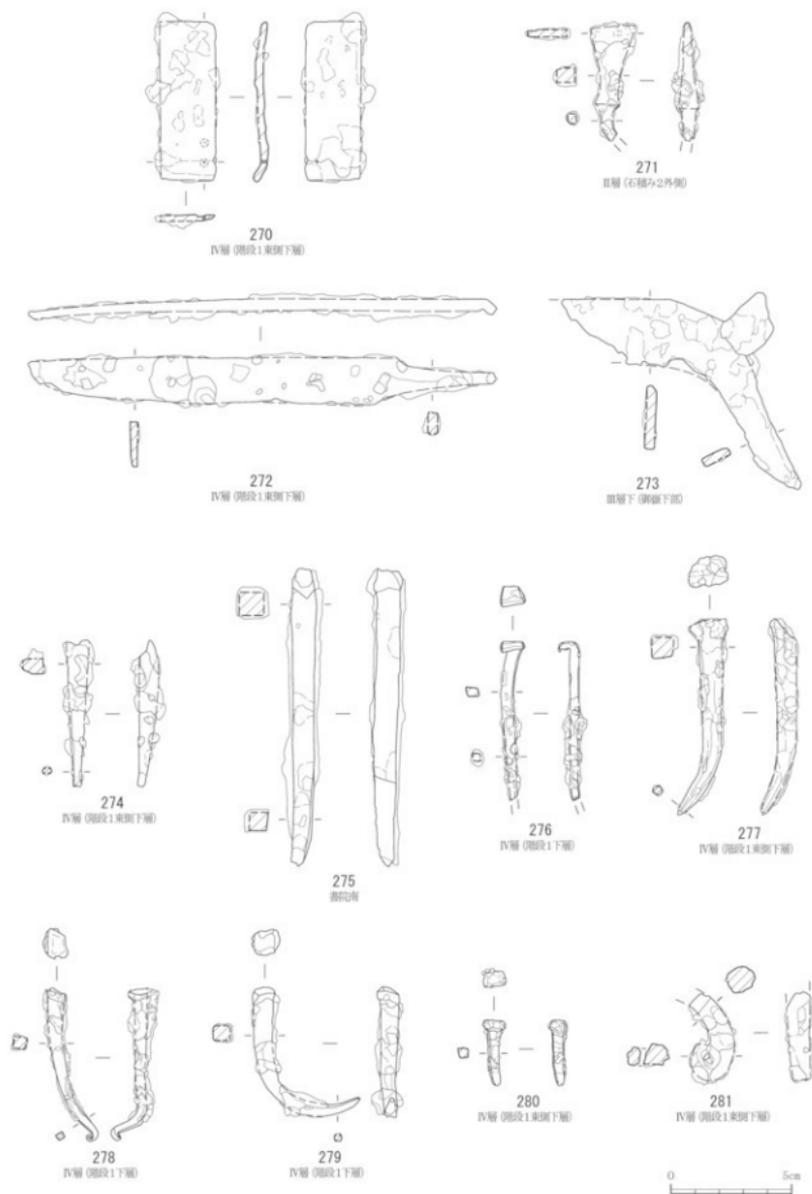
鉄製品には、小札(270)鉄鎌(271)、刀子(272)、鉄鎌(273)、釘(274～281)、鉸(282)、環状鉸(283・284)のほか包丁・砲弾があり、合計1,294点である(第20表)。このうち、釘が1,165点と90%を占める。

## 3) るつぼ (第43図・図版32 285～288)

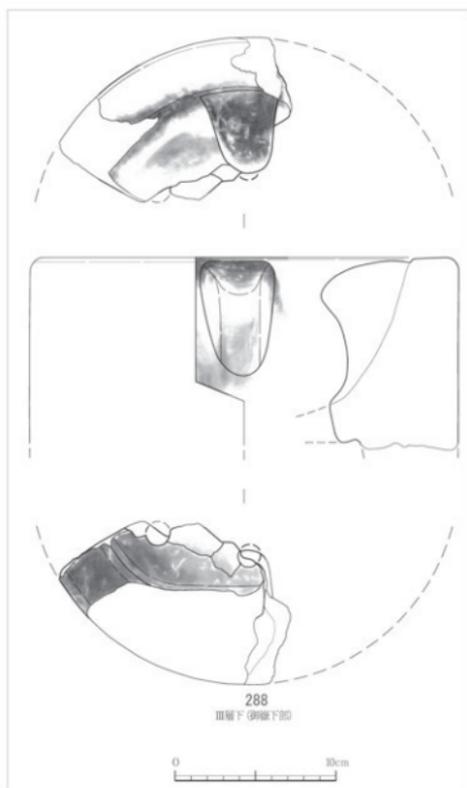
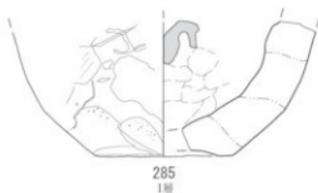
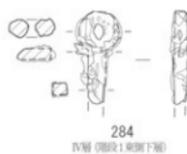
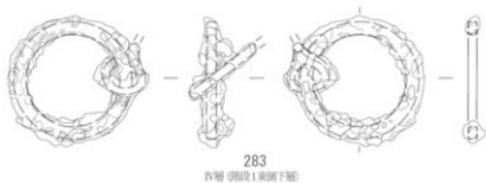
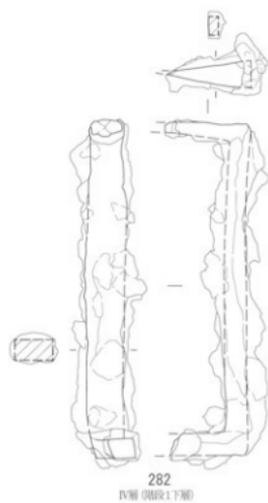
14点出土している(第22表)。(285・286)は陶製、(287・288)は石製である。(288)は凝灰岩製で、



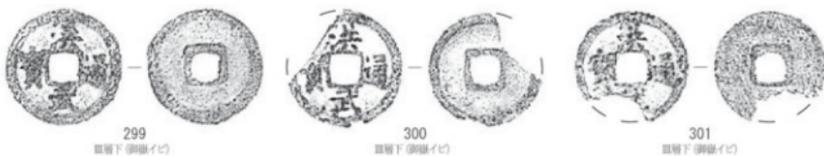
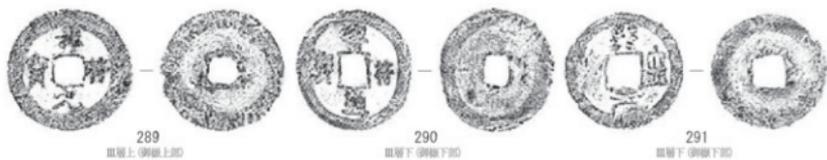
第41図 金属製品(1)



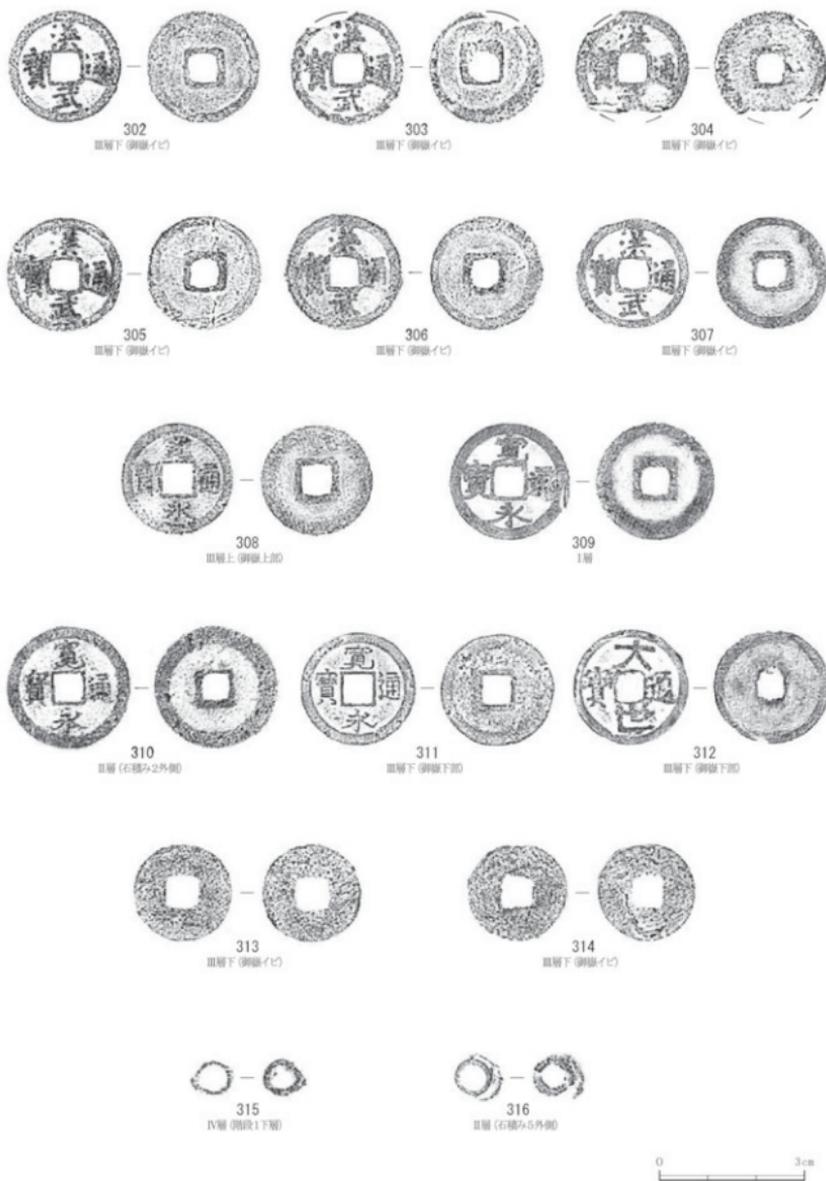
第42図 金属製品(2)



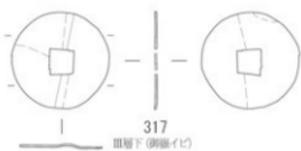
第43図 金属製品(3)・るつぼ



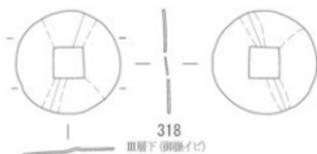
第44圖 錢貨(1)



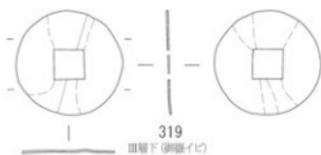
第45図 銭貨(2)



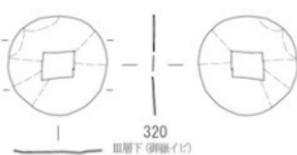
317  
裏面下 (銅鑄イビ)



318  
裏面下 (銅鑄イビ)



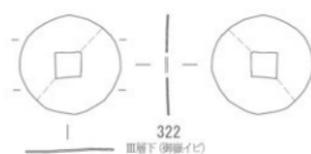
319  
裏面下 (銅鑄イビ)



320  
裏面下 (銅鑄イビ)



321  
裏面下 (銅鑄イビ)



322  
裏面下 (銅鑄イビ)



323  
裏面下 (銅鑄イビ)



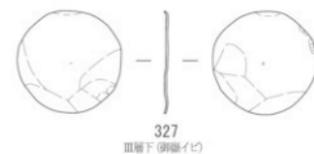
324  
裏面下 (銅鑄イビ)



325  
裏面下 (銅鑄イビ)



326  
裏面下 (銅鑄イビ)



327  
裏面下 (銅鑄イビ)



328  
裏面下 (銅鑄イビ)



第46図 錢貨状金製品

第21表 銭貨・銭貨状金製品集計表

時代	種類	初録年	製造方法										小計	総計	
			1類	2類	3類		4類上		4類下		5類				
			表裏無 シムシムナ	鋳造作 外傷	石鑄 外傷	石鑄 外傷	鋳造上 部	鋳造下 部	鋳造上 部	鋳造下 部	鋳造上 部	鋳造下 部	鋳造上 部	鋳造下 部	
東	関元通貨	921	1												1
	神前通貨	1008													1
	神時通貨	1006													1
	生米通貨	1026													2
	高島通貨	1056	1												1
	新宮通貨	1066													1
	玉置通貨	1076	1												2
	玉尾通貨	1086	2												2
	解野通貨	1094													1
	玉時通貨	1086													1
	聖米通貨	1101	1												2
	大野通貨	1107													2
	高取通貨	1111	1												1
	東	解野通貨	1202												1
新	赤坂通貨	1408	4												23
	沢尻通貨	1368	6												26
琉球	大野通貨	1454												1	
日本	古・寛永通貨	1836	3												6
	新・寛永通貨	1865													2
	一銭		1												1
米国	ワシントン		1												1
	独立文		6	22	11		11	16	60	2	6	1	116	116	
	総額		7	1	6	1	1	2	1			2	2	28	
	不明		14	2	3	1	11	217	20			104	12	401	
	小計		92	28	18	3	23	251	89	11	69	29	621	621	
銭貨状 金製品	1類													4	
	2類													3	
	3類													3	
	4類													3	
	小計													13	
	総計		118		34		251	112		98				633	

内面口縁部に突起があり、見込みには円形の孔がある。

## 7. 銭貨・銭貨状金製品 (第44～46図・図版33～35 289～328)

中国銭 (289～307) 65点、琉球銭 (312) 1点、日本銭 (308～311) 9点、米国貨幣1点、無文銭 (313・314) 116点、輪銭 (315・316) 28点、不明401点、合計621点が出土している (第21表)。なお、中国銭の判別には (永井1994) を用いた。

銭貨状金製品 (317～328) は、厚さ0.1～0.2mmの極薄の厚さで銭貨状に伸ばした金製品で、12点出土している (第21表)。発掘調査では南城市斎場御嶽で確認されていた (知念村1999)。その形態から、I類を切断による方形孔、II類を穿孔による円形孔、III類を貫通した孔は無いものとした。I類には縦断する折れ目が見られ、何らかの意図をもって折り曲げていたものと思われる。III類には、中央に径1mm以下の孔が見られ、これはコンパスのような切断具で切り出した痕ではないかと考えられる。

## 8. その他の製品

その他の製品は、骨製品・石製品・貝製品・ガラス製品といった素材別で分けたもののほかに、煙管・円盤状製品といった形で分けたものを一括した。

### 1) 石製品・石造物・石材 (第47図・図版35 329・330・341)

石製品には硯・碁石・石臼・石球・石盤・砥石・器種不明の製品、石造物には礎石とみられる資料、合計39点である (第23・24表)。

石球 (329) 可能性のあるものを含めて10点が得られている。利用石材はサンゴ石1点 (329) と琉球石灰岩7点である。

石臼 (330) 細粒砂岩 (地名でニービヌフニ) 製の石臼片 (330)。硫黄島産輝石安山岩と並んでよく利用される石材で、こちらの石材の石臼も1点確認される。

図・図版掲載外の資料 日本産とみられる硯片 (粘板岩製2点。ほか頁岩・凝灰岩・赤色頁岩各1点)・石盤 (粘

第 22 表 るつぼ集計表

種類	部位	懸世門北					総計
		1層	2層	3層下	4層		
埋地	開口部			1			1
	口縁部	1	1	2	1		6
	肩部	2	1				3
	胴部	1		2		1	4
総計		4	2	5	1	2	14

第 23 表 石製品集計表

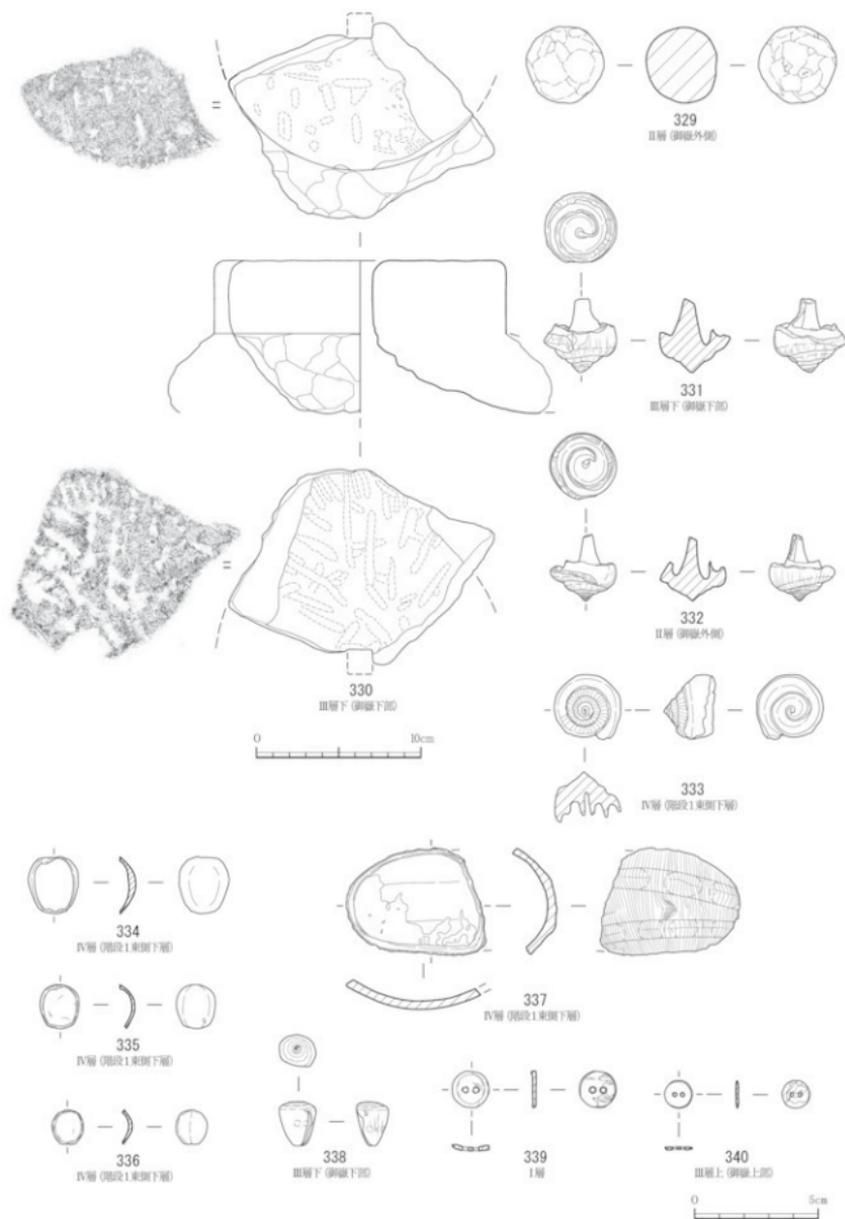
種類	部種	懸世門北						小計	総計	
		表土他	石種1 外側	石種5 外側	御縁上部	御縁下部	階段1 東側下層			
石製品	礎	3		1			1	5	32	
	基石	3				3	1	7		
	基石か			1				1		
	石口	1	1			1		3		
	石縁	2		2		1	2	7		
	石縁?	1			1			2		
	石盤	1						1		
	礎石	1						1		
	礎石か	1						1		
	不崩	3					1	4		
	石造物	礎石か						2		2
		不崩	1		1		1	1		4
	石造物か	不崩	1					1		1
小計		18	1	4	2	3	5	6	39	
総計		19		4		3	5	6		

第 24 表 石製品石材別集計表

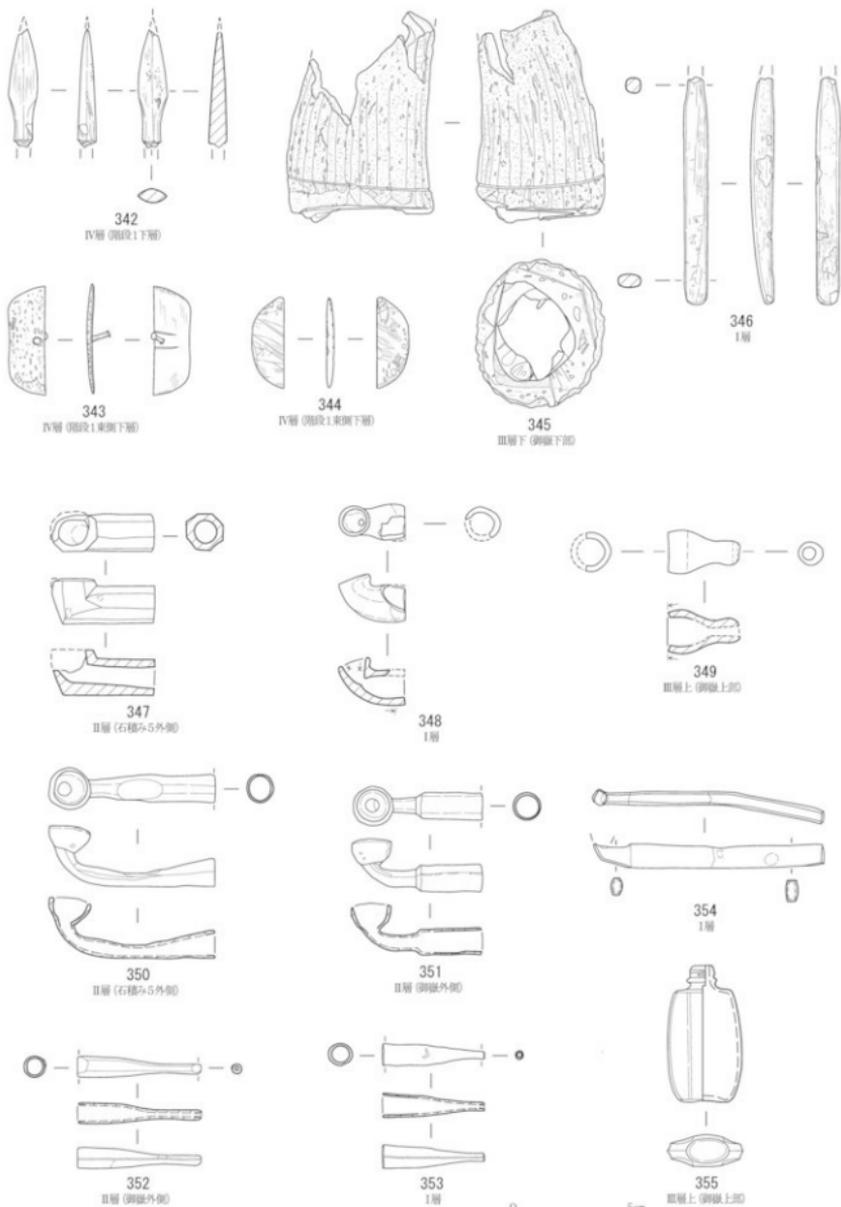
石材	火成岩					凝結岩							変成岩	鉱物等	小計	総計		
	安山岩	輝石 安山岩	サンズ石	シルト石 か	ニーズ	ニーズか	凝結岩	軽石	黄色 頁岩	中粒 砂岩	片状 砂岩	頁岩					塊状 石灰岩	砂質 石灰岩
石製品	礎						1		1			1					5	
	基石									1							1	
	基石か										1						1	
	石口		1			1											2	
	石縁			1									1				2	
	石縁?			2													2	
	石盤													1			1	
	礎石								1								1	
	礎石か												1				1	
	不崩				1							1		1	1	1	4	
	石造物	礎石か	1			1												2
		不崩				2	1							1				4
	石造物か	不崩				1											1	1
総計	1	1	3	1	2	1	1	1	1	2	1	2	1	1	10	1	39	

第 25 表 石材重量集計表

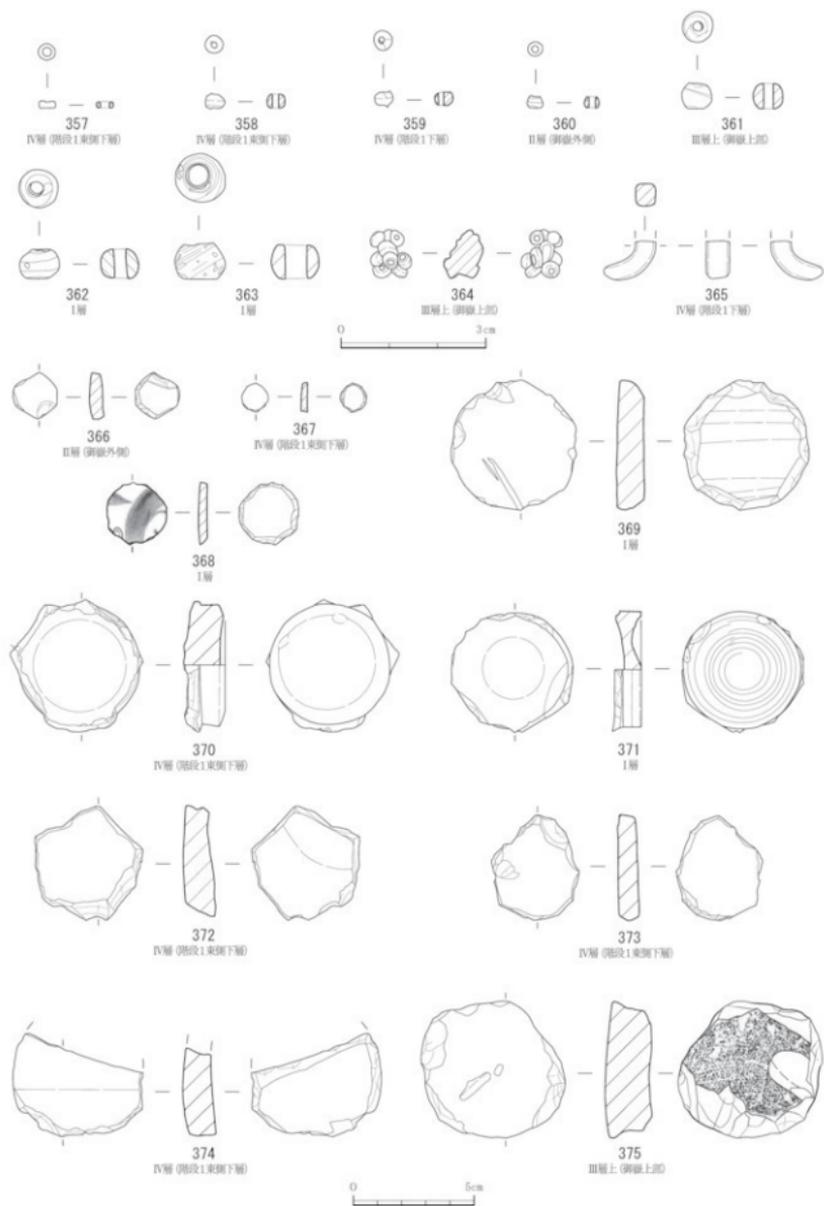
石材	表土他	懸世門北						階段1 下層	階段1 東側下層	小計	総計
		御縁外側	石種2 外側	石種5 外側	御縁上部	御縁下部	御縁イビ				
火成岩	安山岩か	12.3								12.3	120.8
	輝緑岩	108.5								108.5	
凝結岩	ニーズ	3002.4	47.9	56.1	176.7	1402.8	360.1	708.7	144.1	6498.8	7398.5
	中粒砂岩	250.2		118.4		111.2				611.9	
	中粒砂岩か				5.1					5.1	
	片状砂岩	17.4								17.4	
	頁岩				116.2				4.7	120.9	
	古生代石灰岩	7.8								7.8	
	砂質石灰岩					7.9		8.7		16.6	
	スコリア					120				120	
	粘板岩	41.77			317				2.3	128.4	
	千枚岩	4.6			81.4				75.6	156.8	
緑色岩				128.6					128.6		
碧玉か								6.1	6.1		
鎮草か						1.7			1.7		
ホワライトか		1.3		3.6					4.9		
小計	4044.97	49.2	118.4	708	289.6	1530.7	360.1	719.7	486.4	8307.07	
総計	4044.97		875.6		289.6	1890.8		1206.1			



第47図 石製品・貝製品



第48図 骨製品・煙管・ガラス製品



第49図 ガラス玉・円盤状製品

板岩製1点)・碁石(粘板岩製6点、砂岩・粘板岩製各1点)、軽石製砥石1点、蠟石製の器種不明製品1点などがみられる。石製品の器種ごとに利用石材は限定的で、相関性が高いことが認められる。

石材(341)他に加工・使用痕の確認できないが、石製品・石造物の石材として利用される岩石(細粒砂岩)と遺跡周辺では採集することのできない岩石を石材として取り扱った。石材は総重量で約8.3kgに及び、近隣で採集できるニービ(細粒砂岩)以外のものが1.8kgと2割を占める(第25表)。特に中粒砂岩や粘板岩などの沖縄本島北部及び慶良間諸島に産出する石材が大半である。また、琉球列島外の石材として勾玉・管玉やいわゆる「玉器」に利用される翡翠・碧玉・ネフライトといった美石も石材中に確認されており、当時の琉球王国の性格を反映した資料と理解される。

第26表 骨製品集計表

(341)は、細粒砂岩製の岩偶のような形状のものが確認されたため図化した。特別な加工痕が認められないため石材として取り扱った。

種類	總世門北						総計
	1層	2層	3層上	3層下	4層	5層	
表土他		石積5 外側	御座下部	階段1 下層	階段1 東側下層		
骨盤				1			1
結華					3		3
牛角加工製品			1				1
歯ブラシ	1						1
不明	1	1	1				3
小計	2	1	2	1	3		9
総計	2	1	2	4			9

## 2) 貝製品(第47図・図版35 331~340)

貝製品は214点出土している(第27表)。

第27表 貝製品集計表

合計/点数			總世門北						総計	
科名	種名	形態	1層	2層		3層上	3層下	4層		5層
			表土他	御座外側	石積2 外側	石積5 外側	御座上	御座下部	階段1 下層	階段1 東側下層
リュウナン科	チョウセンザエ	ボタン	1				1			
	チョウセンザエ?	ボタン								
	ヤコウガイ	製貝製品							1	1
スイショウガイ科	マガキガイ	コマ状製品		1				1		2
	キロダカラ	殻口残片								1
		背面製片								15
	ハナビラダカラ	殻口残片		1		1				2
		背面製片			2				1	3
タカウガイ科	ハナマルユキ	殻口残片				3	2		1	3
		背面製片	1		5					12
	赤心ホスタ	殻口残片						1		1
	不明	背面製片								4
イモガイ科	マダライモ	有孔製品								1
	小計		2	2	2	9	3	3	1	19
	総計		2	13		3	3		1	214

第28表 ガラス製品集計表

合計/点数		總世門北						書院南	総計
種類	器種	1層	2層	3層上	3層下	4層	5層		
		表土他	御座外側	石積5 外側	御座上	御座下部	階段1 下層		
ガラス製品	碁石							1	
	瓶	4		3	3			10	
	瓶の蓋					1		1	
	小瓶		1					1	
	ガラス罐						1	1	
	ガラス容器	9	2	2	3			1	
	器種不明							17	
	小計	13	2	2	6	4	1	2	
	総計	13	4	8	4	1	2	32	

第29表 煙管集計表

合計/点数			總世門北						総計	
種類	材質	部位	1層	2層		3層上	3層下	4層		5層
			表土他	御座外側	石積2 外側	石積5 外側	御座上	御座下部	御座イビ	階段1 東側下層
煙管	瓦質	煙首		1						1
		煙首一体形		1						1
	金属製	煙首			1		1			2
		煙口		1	2					3
陶製	煙首	10	3	2	18	2	9	1	1	
	煙口					1			1	
	小計		13	6	2	19	3	9	1	
	総計		13	27		3	19	1	1	

(331～333) はマガキガイ製のコマ状製品、(334～337) はタカラガイ類の背面割片、(338) はタカラガイの背面を剥ぎ取った有孔製品、(339・340) チョウセンサザエと思われるボタンである。

### 3) 骨製品 (第48図・図版36 342～346)

骨製品は9点出土している(第26表)。通例出土する骨鏃(343)、歯ブラシ(346)などのほかに、今回特徴的なものを下に挙げる。

(343・344) は、沖縄県内では首里城跡や近世墓などで出土しておりこれまで骨製ヘラなどと称していたものである。中国に系譜があるとされる両歯櫛の梁部材と考えられ、大分県大友府内町遺跡で類例が出土している(真貝・松井2014、大分県2016)。(345) は牛角加工製品で、基部端面に金属製先と思われる切断痕があり、また根元の周囲には圏線が1条巡る。

### 4) 煙管 (第48図・図版36 347～354)

煙管は54点出土している(第29表)。(347～349) が陶製、(350～354) は金属製である。

### 5) ガラス製品・ガラス玉 (第48・49図・図版36・37 355～365)

ガラス製品は32点で、ガラス瓶(355)、碁石、皿などと考えられるガラス容器破片(356)、ガラス環(365)が出土している(第28表)。ガラス玉は81点で、ガラス玉(357～364)がある(第30表)。

第30表 ガラス玉集計表

合計ノ点数	蘇門答臘										合計
	I層		II層				III層上		III層下		
分類	色調	表土他	Etレンテ	御藏外側	石積2外側	石積5外側	御藏上部	御藏下部	階段1下層	階段1東側下層	Etレンテビツ内
ガラス玉	水色	16			3	3	9	2	3	6	44
	青色	3		5						1	12
	黄色								1	1	2
	赤色			1						2	3
	黒色	2									2
	白色							1			1
	緑色		1			3	6		2	2	16
	不明							1			1
小計		21	1	6	3	6	18	4	7	16	81
合計		22		15			18	4	21	1	81

※No.364は19個がつついているが、本表には個別に集計した。

第31表 円盤状製品集計表

合計ノ点数	蘇門答臘										書院所	合計
	I層		II層				III層上		III層下			
素材	表土他	Etレンテ	御藏外側	石積2外側	石積5外側	御藏上部	御藏下部	階段1下層	階段1東側下層			
中国産黄陶			1						1		2	
中国産白磁										1	1	
中国産黄瓦	3				1						4	
中国産天目										1	1	
中国産埴輪陶器	14	6	1	2	6	4	4	2	33		74	
タイ産埴輪陶器	7			1	5	1	3		9		26	
本土産陶器	1			1							2	
沖縄産埴輪陶器	12	1	2		2		4		1	1	23	
産地不明陶器										1	1	
陶質土器	1										1	
土器	1				1		1		2		6	
朝鮮系灰土系	2			2	3	1	2		4		14	
朝鮮系赤土系	9				6				1		16	
ガラス								1			1	
不明	1										1	
小計	51	7	4	5	27	6	16	3	52	1	172	
合計	58			36			6	16	55	1	172	

6) 円盤状製品 (第 49 図・図版 37 366～375)

円盤状製品は 172 点出土している (第 31 表)。

9. 瓦

瓦は高麗系、大和系、明朝系瓦が出土している。

1) 高麗系 (第 50 図・図版 38 376～379)

高麗系瓦は、平瓦 (377・378)、丸瓦 (379) のほか、鬼瓦の破片と考えられるもの (376) もあり、合計 39 点出土している (第 32 表)。

第 32 表 高麗系瓦集計表

種類	部位	経世門北						総計	
		I 層		II 層		III 層上	IV 層		
		表土他	Etレンテ	御蔵外側	石積5 外側	御蔵上部	階段1 下層	階段1 東側下層	
鬼瓦?	-				1				1
丸瓦	筒部	1					1		2
	広縁部							1	1
平瓦	狭縁部	1							1
	筒部	13	2	1	7	1	3	5	34
小計		15	2	1	8	1	6	6	39
総計		17		9		1	12		39

第 33 表 大和系瓦集計表

種類	部位	経世門北			総計
		表土他	Etレンテ	石積5 外側	
丸瓦	筒部				1
平瓦	筒部	1	5		6
総計		1	5	1	7

第 34 表 明朝系軒丸瓦集計表

種類	分類	細分類	色調	経世門北								書院南	小計	総計		
				表土他	Etレンテ	御蔵外側	石積2 外側	石積5 外側	御蔵上部	御蔵下部	階段1 下層				階段1 東側下層	
軒丸瓦	牡丹紋様 I	-	灰色	1		1		1	1						4	
		新タイプ?	灰色								1				1	
		西のアザナG	灰色										2		2	
		西のアザナH	灰色			2		1							3	
		西のアザナI	灰色					1							1	
		清田古窯G	灰色	1											1	
	牡丹紋様 II	-	灰色	4		2		3		3			1		15	
			赤色	2		1		3	1	2		1			12	
		清漆城C	灰色	1											1	
			赤色			2		1							3	
		清漆城D	赤色			1									1	
		巻軒2	赤色							1					1	
		観音門・久壽内①	赤色								1				1	
		田中城御殿A	灰色	1											1	
		天寿寺D	灰色			1									1	
		天寿寺E	灰色				3								3	
		天寿寺F	灰色										1		1	
			赤色			1									1	
		牡丹紋様 III	内閣御殿A	灰色	10		5	2	5	2	11		1			36
				赤色	3		1	1	3	3	4	1				18
			灰色	2		1	1	2							6	
	内閣御殿B		赤色	2											2	
			赤色	2							1				3	
	内閣御殿D		赤色	1											1	
	内閣御殿E		赤色								2				2	
木曳門C	灰色				1			1						2		
清田古窯H	灰色				2				2	1		1		6		
	赤色				1									1		
牡丹紋様 IV	下之御座B	赤色	1											1		
	東元寺A	赤色	1											1		
牡丹紋様 V	-	赤色	3				2		3					8		
	内閣御殿C	赤色	1						1					2		
	内閣御殿D	赤色	1											1		
	内閣御殿E	赤色	15				2	3	6					26		
	観音門・久壽門①	赤色							1					1		
牡丹紋様以外	清田古窯J	灰色				1								1		
-		灰色	6				2	1	2		2			19		
		赤色	15		1		6	8	7		3	1		41		
		陶器質	1											1		
	小計		72	1	32	4	36	25	46	1	12	1		230		
総計		73		32		4	36	25	46	13	1		230			

## 2) 大和系 (第50図・図版38 380)

大和系瓦は、平瓦(380)、丸瓦があり、合計7点出土している(第33表)。

## 3) 明朝系 (第50～52図・図版38・39 381～406)

明朝系瓦は、後述のように色調で分けられる。瓦当は、石井龍太(2006)の分類に基づく。

色調・焼成 色調・焼成によって灰色系、褐色系、陶器質、喜名窯系の計4つに分けた。

灰色系 灰色のものである。褐色系ともされる色調としては黄褐色、黄橙色のものも含めた。

赤色系 赤色、橙色のものとした。なお、マンガン釉と呼ばれる黒色の薄い釉が掛けられるものもある。

陶器質 焼成が堅緻で沖縄産無釉陶器に近くっており、表裏面の色調とは異なって、断面が赤色であるのが特徴である。

喜名窯系 淑順門西地区で多く出土したタイプで、白色粒を多く含むのが特徴で、喜名窯で生産されたと考えられる(上原ほか2011、沖埋文2013)。

軒丸瓦(381～392) 軒丸瓦と特定できる破片は230点のうち、169点の瓦当型式が判明し、牡丹文様Ⅱが116点(68%)と一番多かった(第34表)。特記としては、(381)は牡丹文様Ⅰのうち西のアザナCに近似するが、中下方の花弁の数と大きさ、茎もわずかに曲がるのが異なっており、新タイプの可能性がある。(386～388)は、牡丹文様Ⅱも内間御殿Aであるが、范型の木目と思われる横線が(386)になく、(387)に中央部、(388)に中央部と下部というように増えている。前2者が灰色系に対し、(386)

第35表 明朝系軒平瓦集計表

合計/点数			観世門北								書院南	小計	総計			
種類	分類	細分類	色調	表土色	石レンテ	御蔵外側	石種2 外側	石種5 外側	御蔵上部	御蔵下部				空層 階段1 下層	空層 階段1 東側下層	
牡丹紋様Ⅰ		牡丹紋様Ⅰ	灰色	1		2			1	1	1		2			8
		西のアザナA	灰色	1		5									1	7
		西のアザナB	灰色			1										1
		西のアザナC	灰色			2										2
		西のアザナD	灰色			1										1
		天壽寺E	赤色									1				1
		清田吉家A	灰色								1		1			2
		用持屋A	灰色										1			1
軒平瓦		-	灰色	4		2	1	5	5	2		1			20	
		-	赤色	15					1	8					27	
		-	陶器質	1							1				2	
		清遠城A	灰色	2						1					3	
		石靴1	灰色			1		1							2	
		管理用道路①	灰色			1		1							1	
		崇元寺	灰色	1											1	
		崇元寺B	陶器質	1											1	
		天壽寺B	灰色	3		1		5			3		2		14	
		-	赤色	4		1	1	2			4				14	
		天壽寺C	灰色					1		1	2				4	
		-	赤色	3		1					2				6	
		内間御殿A	灰色					1							1	
		-	赤色									2			2	
		木曳門B	灰色	1		1		1			3				6	
		-	赤色	1											1	
		木曳門C	灰色					1							1	
		-	赤色					1							1	
清田吉家R	灰色	1		1						1			3			
-	赤色									1			1			
清田吉家S	赤色					1							1			
清田吉家T	赤色	1				1							2			
-	陶器質	2											2			
牡丹紋様?	下之御堂A	赤色	3							1				4		
-	灰色	3	1	3					1	1	3			12		
-	赤色	5		3		1	2	6						17		
-	陶器質		1											1		
小計				53	2	25	2	26	12	41	1	10	1		173	
総計				55		53		26	12	41		11	1			

が赤色系であることから、同じ範型が継続的に使用されている証拠といえよう。

軒平瓦 (393 ~ 402) 軒平瓦と特定できる破片は 173 点のうち、143 点の瓦当型式が判明し、牡丹文様Ⅱが 116 点(81%)と一番多かった(第 35 表)。特記すべきは、これまで花芯の表現が明瞭な資料が少なかった下之御座 A であるが、(402)は軒丸瓦の牡丹文様Ⅲと類似しているように見える。セット関係や同時性があるかどうかについては、より詳細な検討が必要であろう。

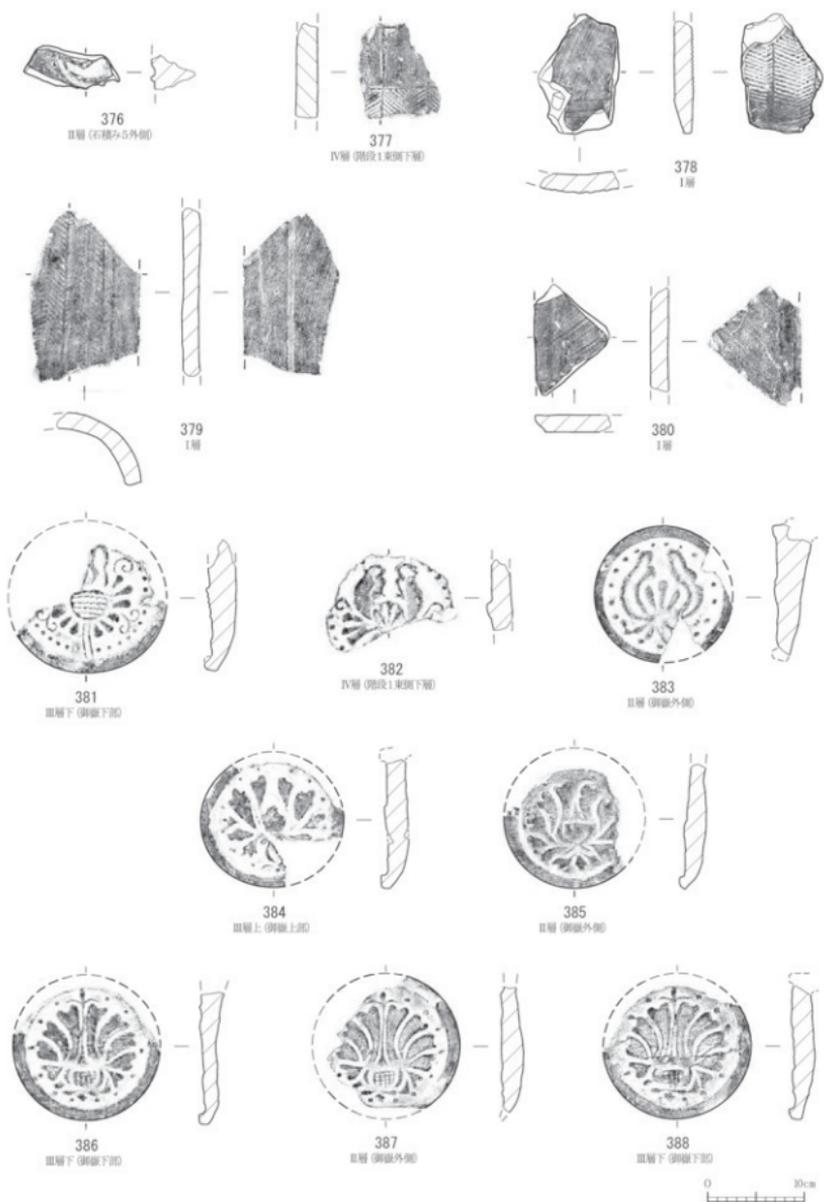
軒瓦以外の破片は、丸瓦 (403 ~ 406) が 652 点、平瓦が 932 点、道具瓦 (406) が 1 点出土している (第 36 表)。ヘラ記号がある破片は 26 点ある (第 37 表)。

第 36 表 明朝系丸・平瓦集計表

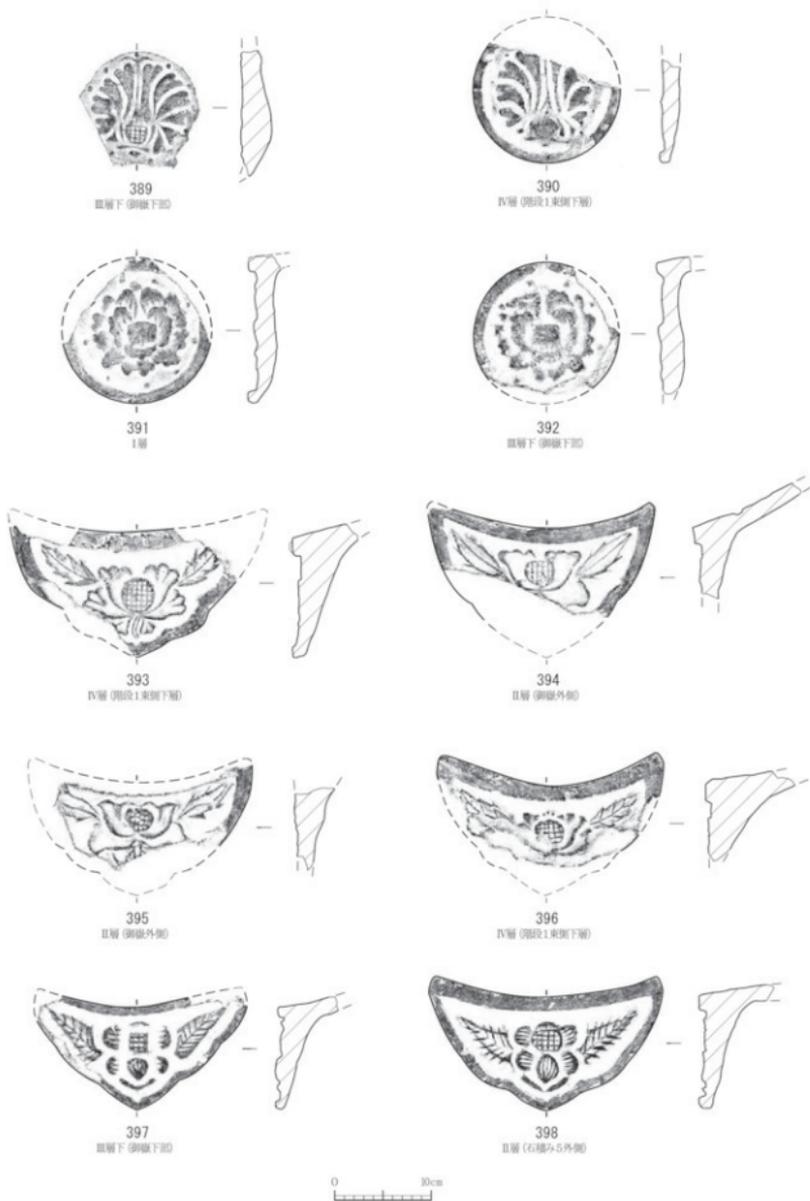
合計 / 点数				観音門北										小計	総計	
種類	色調	部位	角	I層		II層			III層上		III層下		IV層			
				表土色	E-レンテ	御座外側	石積2 外側	石積5 外側	D-レンテ	御座上部	御座下部	御座イビ	階段1 下層	階段1 東側下層		
道具瓦	赤色	雲形	-									1				1
丸瓦	灰色	玉縁・端部	角1つ・角なし									1				1
			角1つづつ			1		1								2
		玉縁部	角1つ	43	28	9	39		16	26					3	174
			角2つ	3		1	2	5		1	3					15
			角なし	20	25	7	13		5	13					2	85
			玉縁のみ		1		2			2						5
	端部	角1つ	11	27	3	12		4	10			1			68	
		角なし	7	8	2	12		2	5			2			38	
	側部	-	22	1	46	12	13	1	6	15		2	4	122		
	赤色	玉縁部	角1つ	15	2	1	14		19	14					56	
			角2つ	1					1	3					5	
		玉縁部・端部	角なし	9		3	1	7		3	9				32	
玉縁のみ			3						2				1	6		
端部		角1つ・角2つ							1					1		
		角1つ	2		1		3		2					8		
平瓦	赤褐色(陶器質)	角2つ				2								2		
		角なし				1	1		1	1				4		
	赤褐色(陶器質)	側部	-	2		4		1		3	9			20		
		玉縁部	-	2			1				1			4		
	善名系	玉縁部	角1つ	2						2					4	
			角2つ	27		36	8	24		9	12		1	7	124	
		灰色	狭端部	角2つ			1		2							4
				角なし	9		12	2	6		3	4		1	3	37
			広端・狭端	角1つづつ			3		1				1			5
				角なし												
広端部			角1つ	21		31	9	32	1	10	23		1	10	139	
			角2つ					2								2
端部	角なし	13		19		16							1	56		
	角1つ	1												1		
平瓦	赤色	狭端部	角1つ	120	7	129	15	53	1	32	30	1	15	46	443	
			角なし	1		7					2	3				13
	広端部	角1つ	5												5	
		角2つ	2		5	1	4		6	6					24	
	側部	角なし	2												2	
		-	15		5	1	1		1	5				3	31	
	赤褐色(陶器質)	狭端部	角1つ	2											2	
			角なし	1		1					1					3
	側部	角1つづつ												1	2	
		-	4	1	4		3		1	1	1		1		13	
不明	灰色	-	1			4	2	3	2	4				4	22	
		赤褐色(陶器質)	-												1	
小計				366	9	410	80	272	6	128	211	2	33	80	1585	
総計				375			768			126	213		103			

第 37 表 明朝系ヘラ記号瓦集計表

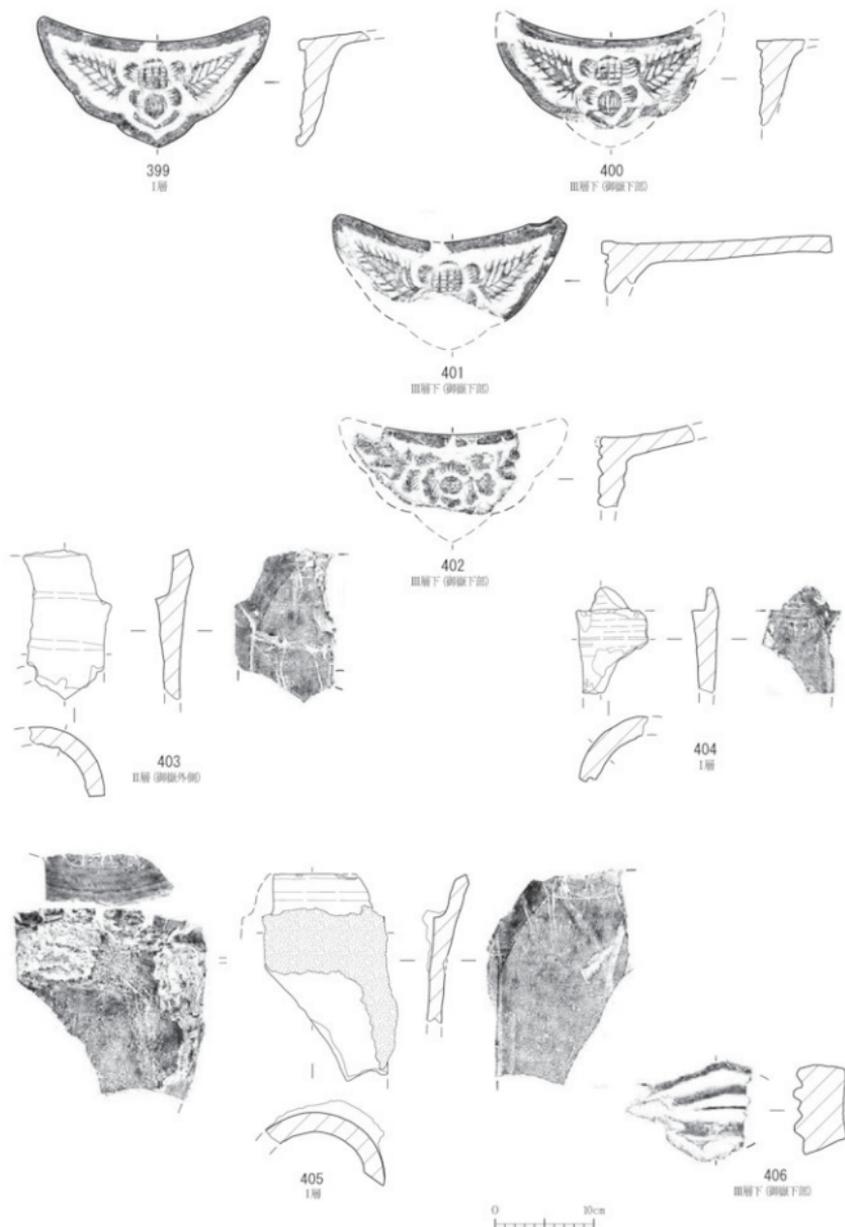
種類	観音門北										総計
	I層	II層		III層上	III層下	IV層					
	表土色	御座外側	石積2 外側	石積5 外側	御座上部	御座下部	階段1 下層	階段1 東側下層			
丸瓦	1	1	2	10	2	6		3			25
平瓦							1				1
小計	1	1	2	10	2	6	1	3			26
総計	1	13			2	6	2				26



第50图 高麗系瓦・大和系瓦・明朝系瓦(1)



第 51 图 明朝系瓦 (2)



第 52 图 明朝系瓦 (3)

10. 埴 (第 53～57 図・図版 39～41 407～424)

埴は 387 点出土している (第 38 表)。上原静の分類 (2011) を参考にして、形態により大きく 4 つに分けられ、正方形 (407～416)、長方形 (417～424)、三角形 (418～421)、噛み合わせ式 (422・423) がある。ヘラ記号があるものは 15 点見られる (第 39 表)。

11. 漆喰 (図版 41・42 425～439)

漆喰は 146 点出土している (第 40 表)。そのうち、箱状 (425)、饅頭状 (426) を呈した一定の形を持っているものを漆喰製品とし、7 点を数える。このほかの (427～439) は、明朝系瓦が付着した (429～431) など、瓦などを包含もしくは付着して使用されたものと思われる。

第 38 表 埴集計表

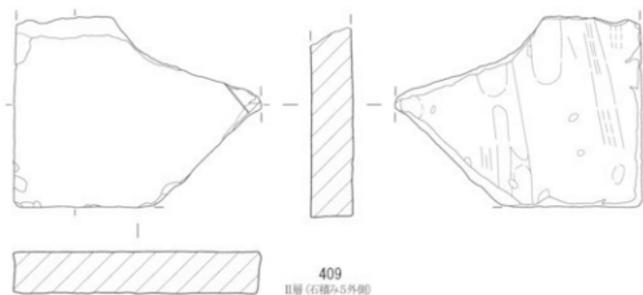
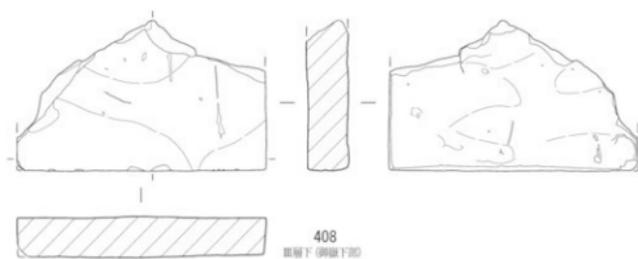
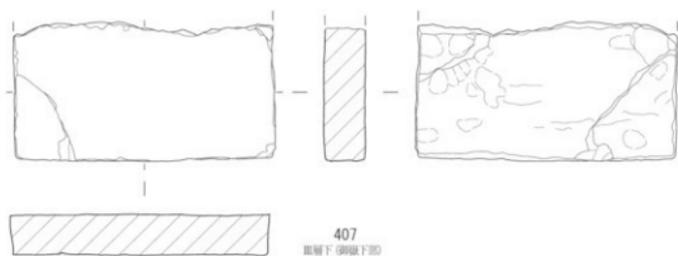
合計 / 点数			継世門北								書院表	小計	総計
色別	形状	破砕	1層	2層		3層上	3層下	4層					
		壊	表土他	石積5 外側	石積5 外側	御蔵上部	御蔵下部	階段1 下層	階段1 裏面下層				
灰色	正方形	無	3	12	69	2	20		6	4	39	282	
		有	2		2						3		
	長方形	無	14	1	33	2	16	4	9	0	1		87
		有	1		1								2
	三角形	無	2	1			1						2
		有											1
	噛み合わせ式	無	1	4	6	1	13	1	1		1		27
		有	2		2		2						4
	不明	無	2		1		2						5
		有	1	1	1	6	1				2		10
赤色	正方形	無	2		2		1		1	2	6	105	
		有	1	1	1	6	1				10		
	三角形	無	2		2		1				3		
		有	6		10		9			6	31		
小計			65	2	131	6	110	10	27	2	33	1	387
総計			67		247		10	27	35		1		

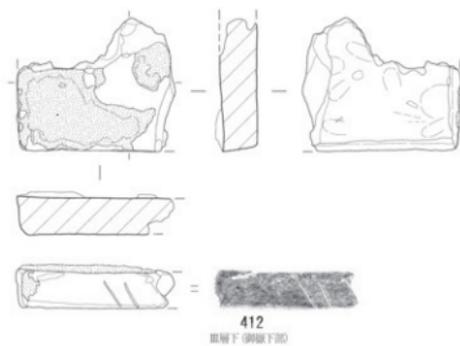
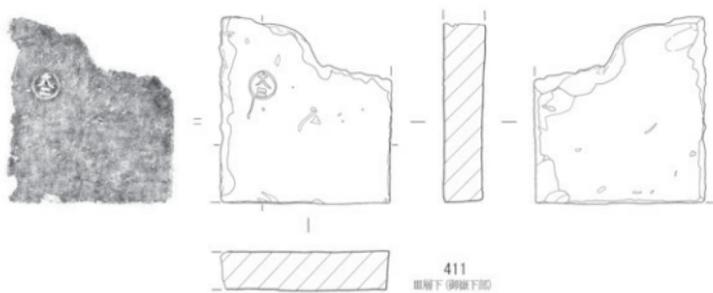
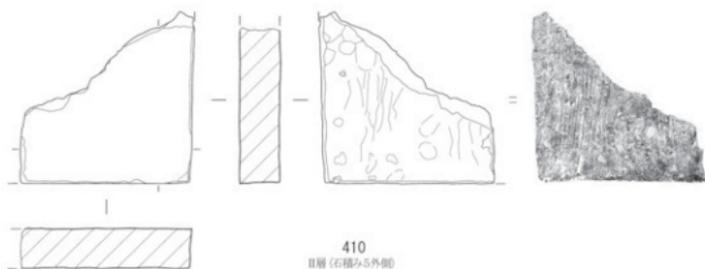
第 39 表 埴ヘラ記号集計表

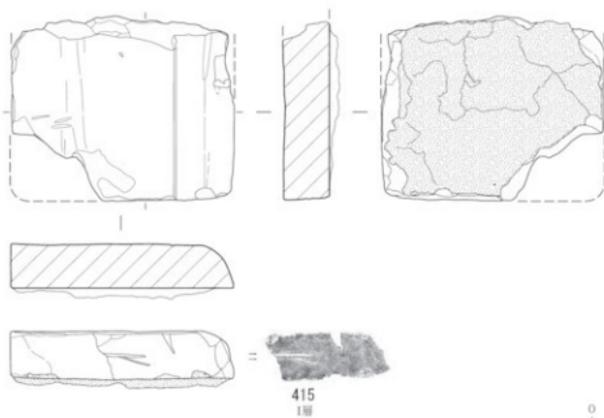
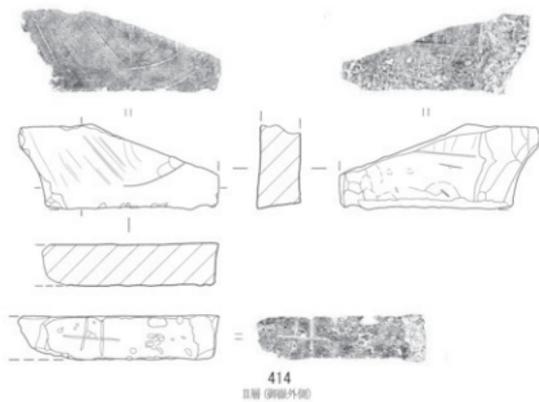
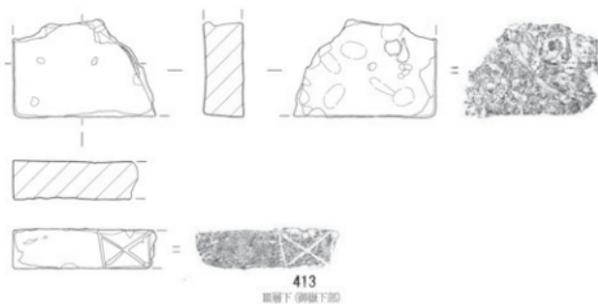
合計 / 点数			継世門北					小計	総計	
色別	形状	刻印・記号	1層	2層		3層上	3層下			
			表土他	御蔵外側	石積5 外側	御蔵上部	御蔵下部			
灰色	正方形	/			1		1	2	11	
		//	1					1		
		キ		1						1
		大二						1		1
	長方形	不明	2		1					3
		有文			1					1
		×			1					1
不明	—			1				1		
	不明			2		1		3		
赤色	正方形	/						2	4	
		不明				1		1		
三角形	大						1	1		
								1		
小計			1	3	7	1	3	15		
総計			1	10	3	3				

第 40 表 漆喰集計表

合計 / 点数			継世門北							総計
種類	形状	表土他	1層	2層		3層上	3層下	4層		
			表土他	御蔵外側	石積5 外側	石積5 外側	御蔵上部	御蔵下部	御蔵イビ 階段1 裏面下層	
漆喰製品	樽頭状			1						1
	箱状				2	4				6
漆喰	—	13	71	6	24	1	20	1	3	139
小計			13	72	6	28	1	20	1	3
総計			13	108		1	21		3	146

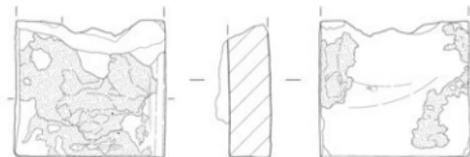




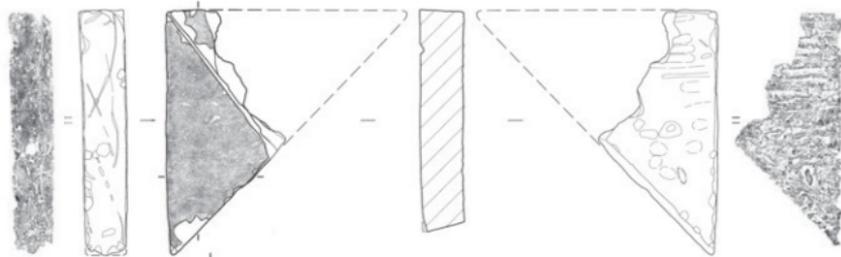




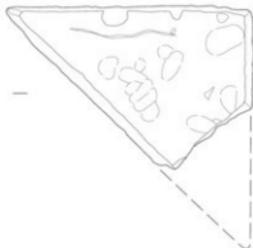
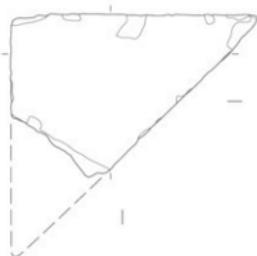
416  
III層上(原状上辺)



417  
I層



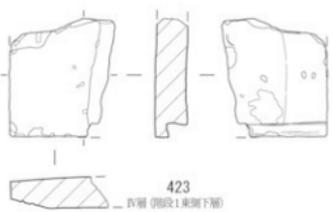
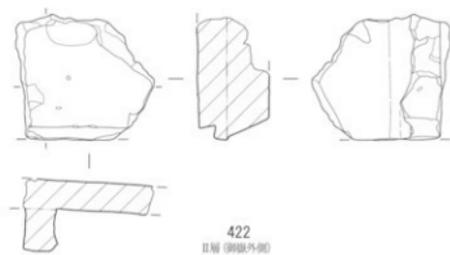
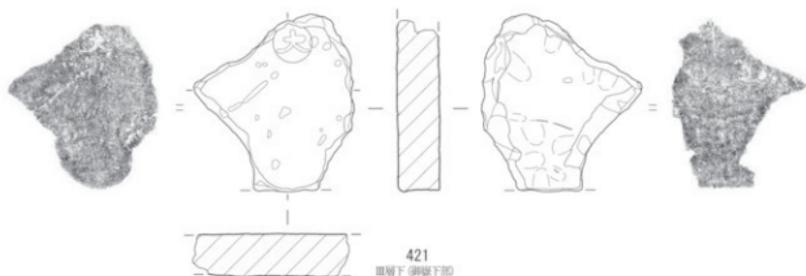
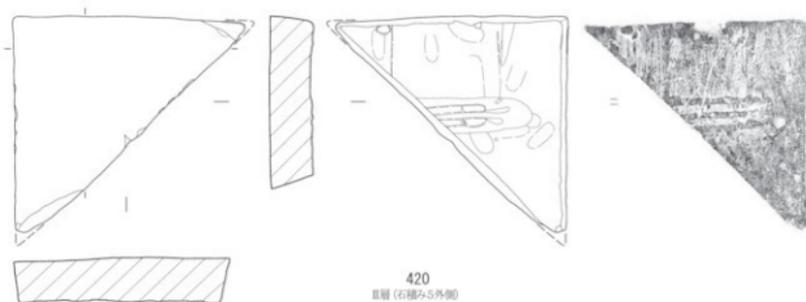
418  
II層(G種>S外側)



419  
III層下(原状下辺)



第56図 埴(4)



第57図 埴 (5)

第41表 遺物観察表(1)

遺物 種別	種類	器形等	細分類	口径 (高軸)	器高 (厚さ)	透径 (短軸)	観察事項	地点・層序	出土地詳細
1	中国産青銅	銅	VI-1	-	-	5.5	片切廻りの細透弁文。軸(A)は高台内途中まで狭から、外辺は突出。	IV層 (階段1東側下層)	石積み7下2層
2	中国産青銅	銅	VI	9.3	-	-	扉透弁文の区画に縦位の円文を浮き彫り。口縁端部が方形に仕上げられており、耳類と考えた。	II層 (御膳外側)	Cトレンチ7層
3	中国産青銅	皿	Ⅲ-1	14.0	4.2	6.9	軸(A)は青緑色で着色良好。厚さ1mm。口縁は口折。端部は丸い。裏付輪筋が灰色。見込みおそらく耳筋文。	II層 (石積み5外側)	Aトレンチ7層
4	中国産青銅	皿	V-1	12.00	-	-	軸(A)やや厚い。幅太の片切廻りの無縁透弁文。口縁端部は再反し丸い。	III層下 (御膳下層)	石積み6・イビ間北2層
5	中国産青銅	皿	V-1 口折	-	-	5.0	外底板の目録(A)割ぎ。やや細めの無縁透弁文。見込み片切廻りの透弁文。口縁はおそらく口折。	II層 (石積み5外側)	Aトレンチ3層
6	中国産青銅	皿	V-0 再反	12.0	3.8	6.4	外底板の目録(A)割ぎ。見込みは印花。	III層上 (御膳上層)	石積み1・4間4層
7	中国産青銅	皿	V-3 腰折	-	-	6.2	外底おそらく蛇の目録(A)割ぎ。外面下部下半は三角(透弁文)文。	II層 (石積み5外側)	Aトレンチ1層
8	中国産青銅	皿	V-0	-	-	5.8	外底板の目録(A)割ぎ。見込みは印花で花弁十字文。見込みやや突出。	IV層 (階段1下層)	階段1内トレンチ13層
9	中国産青銅	皿	VI-0	-	-	5.8	外底おそらく蛇の目録(B)割ぎ。見込みは円文か。	IV層 (階段1東側下層)	トレンチ西側6~9層
10	中国産青銅	皿	VI-0	-	-	5.2	外底大半輪が軸回り。輪割がなし。見込みは梵字?文。	I層	表土
11	中国産青銅	盤	B?	-	-	18.2	見込み蛇の目録割ぎ。軸(A)やや厚い。裏面赤変し。被熱か。見込みは片切廻りで、軸・底縁の裏見あたるため、角文のみ。	I層	表土
12	中国産青銅	盤	A-1	48.4	7.95	22.2	軸(A)やや厚い。口縁は閉縁で厚く端部上方にわずかな傾み上げ。内面幅広く透弁文に区画。	IV層 (階段1東側下層)	石積み7下2層
13	中国産青銅	瓶	-	-	-	-	軸(A)は青白色。外面貼付花弁文。下半透弁文。	IV層 (階段1東側下層)	トレンチ西側6~9層
14	中国産青銅	盃	B	-	-	-	軸(A)薄い。おそらく長頸型。外面草花文だがやや傾ろ。	III層上 (御膳上層)	石積み1
15	中国産青銅	盃蓋	A	20.0	-	-	軸(A)、内面は薄い。外面草花文。底端部に重なり残あり。	III層下 (御膳下層)	石積み6・イビ間北3層
16	中国産青銅	天目台	-	6.0	4.0	4.0	裏付輪(A)割ぎ。	II層 (石積み5外側)	Aトレンチ3層
17	中国産白銅	銅	景徳鎮 E O	-	-	5.0	外底無縁。裏付染色軸付着。見込み凹む。	I層	表土
18	中国産白銅	銅	福慧	-	-	7.0	外底無縁。黒色物(漆?)付着。見込み蛇の目録割ぎ。幅広透弁文。	II層 (石積み2外側)	石積み2南側
19	中国産白銅	小銅	勝化	9.3	4.4	4.8	見込みの段明線。型作りの痕跡。	III層下 (御膳下層)	石積み6・イビ間北1・2層
20	中国産白銅	皿	景徳鎮 E O	-	-	7.2	輪割がやや貫入多い。外底無縁。	IV層 (階段1東側下層)	石積み7下1・2層
21	中国産白銅	皿	福慧 D	8.6	-	-	口縁端部磨着痕。見込みに目録?	IV層 (階段1下層)	階段1内トレンチ17層
22	中国産白銅	皿	福慧 D	-	-	3.8	輪割がやや貫入多い。外面下半一部、外底無縁。	II層 (石積み5外側)	Aトレンチ7層
23	中国産白銅	皿	福慧 D	-	-	4.4	外面下半無縁。見込み目録4つ。	III層下 (御膳下層)	石積み6・イビ間北3層
24	中国産白銅	皿	景徳鎮 E	14.7	3.75	7.8	口縁外面に段あり。	IV層 (階段1東側下層)	トレンチ西側6~9層
25	中国産白銅	皿	景徳鎮 E	-	-	8.3	裏付内縁。	II層 (御膳外側)	石積み6南側3層
26	中国産白銅	皿	景徳鎮 E	-	-	11.8	裏付輪筋厚くやや太め。見込み中央に円筒の痕あり。	IV層 (階段1下層)	石積み6・イビ間北1層+階段1内トレンチ1+2層
27	中国産白銅	皿	福慧	-	-	6.1	径部下半、見込み無縁。高台幅水平。D?群外反見出し。	II層 (石積み5外側)	Aトレンチ1層
28	中国産白銅	皿	勝化	7.6	2.2	4.2	高台短く。狭り浅い。	I層	表土
29	中国産白銅	小杯	勝化	4.2	2.9	2.2	裏付ざらつきあり。	III層下 (御膳下層)	石積み6・イビ間北2層+南7層

第42表 遺物観察表(2)

遺物 №	種類	器形等	細分類	口径 (長軸)	器高 (厚さ)	底径 (短軸)	観察事項	地点・層序	出土地詳細
30	中国産白磁	器台 ?	福建	5.6	-	-	体部に意がある可能性が高く、器台。大きな貫入あり。	Ⅱ層 (石積み5外側)	Aトレンチ3層
31	中国産青花	碗	明代 景德鎮X	14.2	-	-	口縁部筋線割ぎ。外面宮文、花草草文を細線書き、ズミ盛り。	Ⅱ層 (石積み5外側)	表土+Aトレンチ2層
32	中国産青花	碗	明代 景德鎮X	12.8	5.8	6.0	外面、見込みに風景文、細線書き、ズミ盛り。見込みわずかに 凹凸、外底字状。	Ⅱ層 (脚縁外側)	表土+石積み4東側3 層+Aトレンチ3層
33	中国産青花	碗	明代 景德鎮X	12.2	5.7	5.8	内外に龍文を細線書き、ズミ盛り。	Ⅱ層下 (脚縁下部)	石積み6・イビ関南3 層
34	中国産青花	碗	明代 景德鎮X	14.4	-	-	円筒花弁文とリンドウ風の立取文。	Ⅱ層上 (脚縁上部)	石積み1・4関1層
35	中国産青花	碗	明代 景德鎮X	-	-	7.4	内外面、蔓草風文を細線書き、ズミ盛り。見込み全体的に凹 凸。	Ⅱ層 (脚縁外側)	Cトレンチ1層+2層
36	中国産青花	碗	清代 景徳鎮 /徳化	11.4	6.0	5.7	釉は乳白色。口縁部のみ輪割ぎ。外底字状。	Ⅱ層下 (脚縁下部)	石積み6・イビ関北1 層+東2層
37	中国産青花	碗	明代 漳州?	14.8	6.0	6.6	体部内外面下半無釉。口縁部磨かれた唐草文。体部下下にカン ナ形凹切跡。	Ⅱ層 (脚縁外側)	石積み6南側2層
38	中国産青花	碗	清代 福建・広東 A	11.8	5.0	6.4	雙付輪割ぎ。見込み中央無釉。乾の目、凹凸。	Ⅱ層下 (脚縁下部)	石積み6・イビ関北1 層+東2層+南2層
39	中国産青花	碗	清代 福建・広東 A	12.8	4.6	7.2	内外面下半無釉。見込み中央わずかに凹凸。	Ⅱ層下 (脚縁下部)	石積み6・イビ関南
40	中国産青花	碗	清代 福建・広東 B	15.0	6.1	8.0	雙付輪割ぎ。見込み乾の目輪割。口縁外反。	Ⅱ層 (石積み2外側)	石積み2南側
41	中国産青花	碗	清代 福建・広東 B	14.7	6.6	7.0	雙付輪割ぎ。見込み乾の目輪割。口縁外反。	Ⅱ層 (石積み5外側)	Aトレンチ3層
42	中国産青花	碗	清代 福建・広東 B	13.4	6.0	7.2	雙付輪割ぎ。見込み乾の目輪割ぎ。中央部わずかに突出。外面 全体的に凹凸。	Ⅱ層 (脚縁外側)	石積み6南側3層
43	中国産青花	碗	清代 福建・広東 B	14.3	6.0	8.8	外面器台より下半無釉。見込み無輪割ぎ。中央は乾の目状。外底 突出。	Ⅱ層 (脚縁外側)	石積み4東側3層
44	中国産青花	碗	清代 福建・広東	-	-	8.5	雙付輪割ぎ。見込み乾の目輪割ぎ。胎土白色結晶。	Ⅱ層上 (脚縁上部)	石積み1・4関1層
45	中国産青花	碗	清代 景德鎮	8.6	5.6	4.0	筒形。見込み凹凸。外底字状。	Ⅱ層 (脚縁外側)	石積み4東側3層
46	中国産青花	碗	清代 景德鎮	-	-	3.8	筒形。見込み凹凸。外底字状。	Ⅱ層 (石積み5外側)	Aトレンチ3層
47	中国産青花	碗	清代 景德鎮 /徳化	-	-	4.4	筒形。見込み平坦。器台内縁緩じもあり。外底字状は篆文。	1層	表土
48	中国産青花	碗	清代 景德鎮 /徳化	8.6	4.2	4.2	釉は乳白色。養付ざらつく。	Ⅱ層下 (脚縁下部)	表土+石積み6・イビ 関南2層
49	中国産青花	皿	明代 景德鎮C	10.4	-	-	釉+胎土灰色。陶器質。	Ⅱ層 (脚縁外側)	石積み6南側3層
50	中国産青花	皿	明代 景德鎮D	-	-	7.9	体部内外面。見込み共に牡丹草文。	西層 (階段1東側下 層)	Bトレンチ西側6~9 層
51	中国産青花	皿	明代 景德鎮X	-	-	9.8	見込み竜子?細線書き、ズミ盛り。外底字状。	Ⅱ層上 (脚縁上部)	石積み1・4関1層
52	中国産青花	皿	明代 景德鎮X	16.6	3.0	10.0	体部細やかに深く筋彫。見込み蔓草風文を細線書き、ズミ盛 り。外底字状。	Ⅱ層上 (脚縁上部)	石積み1・4関
53	中国産青花	皿	明代 景德鎮X	11.2	(12.0)	7	外面は急須?。見込み花弁と幾何学文。細線書き、ズミ盛り。 外底字状は鳥?。	Ⅱ層下 (脚縁イビ)	石積み6・イビ関北1 層+イビ
54	中国産青花	皿	明代 景德鎮X	11.8	2.6	6.2	半円で割れて外反する器形。内面、細線書き、ズミ盛りによ る。見込みは獅子?	1層	表土
55	中国産青花	小杯	明代 景德鎮	5.4	3	2.4	外面は馬?。見込み共に細線書き、ズミ盛り。	Ⅱ層 (脚縁外側)	石積み4東側3層
56	中国産青花	杯	清代 景德鎮?	-	-	3.6	腰折杯。外底字状は龍。	Ⅱ層 (脚縁外側)	Cトレンチ3層
57	中国産青花	杯	清代 景德鎮?	12.8	9.7	8.0	腰折杯。体部外面は幾何学文。	Ⅱ層下 (脚縁下部)	石積み1・4関1層 +4層 石積み6・イビ 関北1層+2層
58	中国産青花	鉢	清代 福建・広東	30.0	-	-	胎土軟質。釉青灰色。円文。	Ⅱ層下 (脚縁イビ)	石積み6・イビ関南 5・6層

第43表 遺物観察表(3)

遺物 種別	種類	器形等	細分類	口径 (長軸)	器高 (厚さ)	口径 (短軸)	観察事項	地点・層序	出土地詳細
59	中国産青花	瓶	明代 葉巻瓶?	6.0	-	-	長軸が大きくにじむ。	IV層 (階段1東側下層)	日レンテ東側3層
60	中国産青花	盤	文様式 葉巻瓶	-	-	-	外縁無釉。内面は唐草文。	II層 (石積み5外側)	Aトレンテ1層
61	中国産青花	壺	文様式 葉巻瓶	-	-	-	口縁、蓋文等。器面ざらつき付着物があり。被熱か?	I層	表土
62	中国産青花	壺	文様式 葉巻瓶	-	-	-	器部下平か。ツマ式蓋弁文。器面ざらつき。被熱か?	II層 (石積み5外側)	Aトレンテ1層
63	中国産青花	蓋	明代 葉巻瓶?	11.8	-	10.0	把手は無釉。文様は線刻施き。ズミ盛り。	I層	表土
64	中国産青花	蓋	明代 葉巻瓶?	-	-	4.6	ズミ盛りが見られる。	器層下 (御簾下層)	石積み6・イビ間南3層
65	中国産青花	水注	明 葉巻瓶	-	-	-	注口部。比較的丁寧な磨き等文。	II層 (御簾外側)	Cトレンテ1層
66	中国産青花	香炉	明 葉巻瓶	-	-	-	脚部。漢文。やや器面ざらつき。被熱か。	II層 (石積み5外側)	Aトレンテ1層
67	中国産陶軸	壺	2類	15.4	-	-	内外面緑褐色。胎土灰白色。白・褐色粗粒多量混入。細耳。欠損。	器層下 (御簾下層)	石積み6・イビ間北2層
68	中国産陶軸	壺	3類	11.8	-	-	外面白色。内面灰白色釉。胎土褐色。白色粒若干混入。	器層下 (御簾下層)	石積み6・イビ間北3層
69	中国産陶軸	壺	4類	10.2	-	-	内外面緑褐色。胎土黄褐色。白・褐色粒若干混入。	IV層 (階段1東側下層)	石積み3東側5層
70	中国産陶軸	壺	-	15.2	-	-	内面口縁から外面明褐色。胎土赤色。白・褐色粒若干混入。71と同一体か。	IV層 (階段1東側下層)	日レンテ西側6~9層
71	中国産陶軸	壺	-	-	-	-	外面明褐色。胎土赤色。白・褐色粒若干混入。取り付けによる傷状文。70と同一体か。	IV層 (階段1東側下層)	表土+日レンテ東側3層
72	中国産陶軸	壺	5類	18.4	-	-	内外面緑褐色。胎土灰黄色。石高等混入。	IV層 (階段1東側下層)	日レンテ東側5層
73	中国産陶軸	壺	-	-	-	15.7	外面灰白釉。輪がらみが部分的にある。胎土灰白色。白色粒若干混入。内面の狭いロクロ目が74と共通。	器層下 (御簾下層)	石積み6・イビ間北1層+南3層
74	中国産陶軸	壺	-	-	-	12.6	外面上半部無釉。胎土灰白色。白色粒若干混入。内面の狭いロクロ目が73と共通。	器層下 (御簾下層)	石積み6・イビ間南3層
75	中国産陶軸	壺	5類	-	-	15.6	内外面緑褐色。胎土灰黄色。石高等混入。外底に胎土が付着。	IV層 (階段1東側下層)	日レンテ
76	中国産陶軸	壺	-	-	-	20.1	内面黄灰色。外面褐色。共に無釉。胎土灰色。白色粒等多く混入。	II層 (石積み5外側)	Aトレンテ7層
77	中国産陶軸	壺	-	-	-	15.4	内外面緑褐色。無釉。胎土灰色。白色粒等混入。	器層下 (御簾下層)	石積み6・イビ間南3層
78	中国産陶軸	壺	-	-	-	-	内外面暗褐色。無釉。有耳。その右に不明スタンプ。内面に模様の線状痕。	I層	表土+不明
79	中国産陶軸	壺	5類?	-	-	-	内外面緑褐色。胎土灰黄色。石高等混入。外面に不明(字?)の線状き取り。胎土が等距離で見られる。	IV層 (階段1東側下層)	日レンテ東側5層
80	中国産陶軸	水注	-	10.4	-	-	内外面暗褐色。無釉。口縁は直口し。断面水平。外面面に突出部。	器層下 (御簾下層)	石積み6・イビ間南1・2層
81	中国産陶軸	小壺	洗瓶?	5.8	(3.0)	5.0	内面。外面上半部無釉。胎土黄褐色。精良。外底半切り痕。厚さ1~2cm。	II層 (石積み5外側)	表土+Aトレンテ3層
82	中国産陶軸	不明	-	-	-	-	断面が、北正ごくわずかに無釉。胎土黄褐色。白色粒わずかな混入。外面に篆書2行(全口)「口口」。	IV層 (階段1東側下層)	日レンテ西側6~9層
83	中国産陶軸	鉢	-	22.8	27.5	17.8	内外面・断面中灰色。断面外縁褐色。口縁上面に爪凡状痕。断面は取り付け花文。	II層 (石積み5外側)	表土+Aトレンテ4層+7層
84	中国産陶軸	鉢	-	44.5	-	-	内外面暗褐色。一面灰色。口縁上面に凹溝。断面は取り付け溝目文。	II層 (石積み5外側)	Aトレンテ7層
85	中国産陶軸	覆鉢	-	-	-	12.4	内外面赤褐色。断面褐色。断面は6/2.4cm。	II層 (石積み5外側)	Aトレンテ4層
86	中国産陶軸	天目碗	南平茶器	-	-	4.4	内面無釉。外面下半部無釉。無釉。胎土灰色。外底面に凹む。	IV層 (階段1東側下層)	石積み7下1・2層
87	中国産三彩陶器	水注	-	-	-	7.1	胎土黄褐色。精良。軟質。木五形。	器層上 (御簾上層)	石積み1・4間

第44表 遺物観察表(4)

遺物 番号	種類	器形等	細分類	口径 (長軸)	器高 (厚さ)	底径 (短軸)	観察事項	地点・層序	出土地詳細
88	中国産 磁器鉢器	瓶	-	5.0	-	-	内面コバルト色だが、部分的に剥がれている。胎土は磁器質 であり、白磁が定化した可能性も?	Ⅱ層下 (詳細下部)	石積み6・イゼ間1層
89	中国産 葉形鉢器	瓶	-	-	-	-	内面彫刻、ハケ状底、縁部に斜部上平が雲文?、縁飾秋目 花弁文。	IV層 (階段1東側下 層)	石積み7下3・4層
90	中国産磁器 鉢器	小鉢	美濃織	4.6	2.5	2.2	外面高台より上が彫刻、裏付輪刻子。	Ⅱ層 (詳細外面)	石積み4東側3層
91	タイ産磁器 陶器	壺	シラップナ ツライ	20.4	-	-	胎土褐色色。口縁部部下に肥厚。	Ⅱ層 (詳細外面)	石積み6南側2層
92	タイ産磁器 陶器	壺	シラップナ ツライ	18.0	-	-	胎土褐色色。口縁部部よりの。	IV層 (階段1東側下 層)	Bトレンチ東側5層
93	タイ産磁器 陶器	壺	メナムノイ	18.8	-	-	胎土赤褐色。玉縁口縁。上端・下端凹み。	IV層 (階段1東側下 層)	Bトレンチ西側6~9層
94	タイ産磁器 陶器	壺	メナムノイ	20.6	-	-	胎土赤褐色。玉縁口縁。上端凹み。	IV層 (階段1東側下 層)	Bトレンチ西側6~9層
95	タイ産磁器 陶器	壺	メナムノイ	-	-	26.6	胎土赤褐色。外底砂付層でざらつく。	IV層 (階段1東側下 層)	Bトレンチ西側6~9層
96	タイ産土器	壺	パンブン	-	-	-	胎土灰色。黒色粒混入。口縁外面に凹線3条。	Ⅱ層 (石積み5外側)	Aトレンチ1層
97	タイ産半緑土 器	蓋	-	-	4.5+	-	胎土明黄褐色。つまみ。	IV層 (階段1下層)	石積み9
98	タイ産半緑土 器	蓋	-	-	-	15.4	胎土内外面黄褐色。断面黄灰色。口縁。	Ⅱ層下 (詳細下部)	石積み6・イゼ間3層
99	産地不明 陶器	蓋	-	17.6	14.5	-	胎土黄褐色。赤色粒混入。	IV層 (階段1下層)	階段1内トレンチ1
100	本土産染付 陶器	瓶	Ⅱ-1	11.3	6.8	5.0	外面に花文と雲飾。側面に凹み、いっゆるえく柄。裏付には 砂付層。No.102と同一器体の可能性あり。肥前産。	Ⅱ層 (詳細外面)	石積み6南側2層
101	本土産染付 陶器	瓶	Ⅲ	11.8	-	-	外面に草花文と雲飾。内面に雲飾。肥前産。	Ⅱ層 (石積み5外側)	Aトレンチ3層
102	本土産染付 陶器	瓶	Ⅲ	10.0	-	-	外面には口縁部の二重雲飾と草花文。肥前産。	Ⅱ層 (石積み5外側)	Aトレンチ3層
103	本土産染付 陶器	瓶	Ⅲ	-	-	4.6	外面には草花文と、胴下部及び高台外周。外底に雲飾。裏付に は砂付層。No.102と同一器体の可能性あり。肥前産。	Ⅱ層 (石積み5外側)	Aトレンチ3層
104	本土産染付 陶器	瓶	Ⅲ	13.9	7.3	5.1	外面に磨粉化した雲飾文と二重雲飾。内面には雲飾。見込に は二重雲飾と磨粉化した瓦文。裏付には砂付層。肥前産。	Ⅱ層 (石積み5外側)	Aトレンチ2層
105	本土産染付 陶器	瓶	Ⅲ	13.9	7.7	4.9	色調灰色で良品の発色悪く不明。外面は雲飾と磨粉化した 山水文。内面は口縁部に雲飾。見込には二重雲飾。裏付の文層は残 存部最少で不明。裏付裏刻。砂付層。肥前産。	Ⅱ層 (石積み5外側)	Aトレンチ2層+4層
106	本土産染付 陶器	瓶	Ⅲ	-	-	5.5	色調灰色で良品の発色悪く不明。外面雲飾。主文層は残存部 最少で不明。見込に二重雲飾と不明文様。肥前産。	Ⅱ層 (石積み5外側)	Aトレンチ2層
107	本土産染付 陶器	瓶	Ⅱa/IV	8.8	5.0	4.5	瓶丸形の裏付。外面に丸文と雲飾。口唇部~内面口縁部。裏 付輪刻子。肥前産。	Ⅱ層 (詳細外面)	Cトレンチ3層
108	本土産染付 陶器	小瓶	IV	-	-	4.3	瓶形。外面に繪巻草文・雲弁文・雲飾。高台に二重雲飾。内 面に二重雲飾・雲状砂付文。裏付輪刻子。肥前産。	Ⅱ層下 (詳細上部)	石積み6イゼ間6層
109	本土産染付 陶器	小瓶	V	-	-	6.0	頸口。外面に唐草文・雲弁文・雲飾。内面は口縁部に四方博 文。見込みには二重雲飾と玉弁文。裏付輪刻子。肥前産。	Ⅱ層上 (詳細上部)	石積み1・4間1層+ 表土
110	本土産染付 陶器	瓶	-	-	-	4.4	頸部厚く胎土灰白色。良品の発色悪く色調は黄り気味。外面に 草花文と雲飾。高台二重雲飾。見込みは蛇の目状の輪刻子と雲 ね巻き状。肥前産。	Ⅱ層 (石積み5外側)	Aトレンチ7層
111	本土産染付 陶器	蓋	-	-	-	-	美形。型付成形。外面は7宝結文。内面は薄土に唐草 文。銅鳥塚で初期から發現。	遺院南	H26吉備南 表探
112	本土産染付 陶器	瓶	Ⅱ~Ⅲ	3.9	-	-	徳利の口部。短い頸部から再反し、口縁部は玉縁状。肥前産。	IV層 (階段1東側下 層)	石積み7下1・2層
113	本土産染付 陶器	瓶	Ⅲ	-	-	-	瓶形。胴上(背)部に唐草文。二重雲飾。胴部は雲飾とその 下に横目文。肥前産。	Ⅱ層 (石積み5外側)	Aトレンチ3層+ 石積み4東側3層
114	本土産染付 陶器	瓶	Ⅲ	-	-	-	瓶形。胴上(背)部に唐草文。二重雲飾。胴部は草花文。肥 前産。	Ⅱ層 (詳細外面)	石積み6南側2層+ 表土
115	本土産色絵 陶器	蓋	V	-	-	-	口縁部変形の角蓋か。外面胴部に磨粉化した瓦文。内面には色 絵で輪。ただし顔料は全て剥落。肥前産。	1層	表土
116	本土産青磁 陶器	瓶	-	-	-	6.3	徳利形。外面に青磁。内面は輪飾れが残るが磨耗。底部には 鉄粒混入。肥前産。	Ⅱ層 (詳細外面)	石積み4東側3層

第45表 遺物観察表(5)

遺物 種別	種類	器形等	細分類	口径 (長軸)	高さ (厚さ)	口径 (短軸)	観察事項	地点・層序	出土記録
117	本土産青磁	火入	-	-	-	5.2	火入れ、外面に青磁釉、内面は露胎、底部は鉄底煎焼、肥前。	Ⅱ層上 (調査上部)	石積み1・4間1層
118	本土産青磁	火入	-	-	-	7.4	火入れ、外面及び底部に青磁釉、内面は露胎で見込中央部は凹み、底部は肥前の目状に輪割ぎ、鉄底煎焼、肥前。	Ⅱ層 (石積み5外側)	Aトレンチ3層
119	本土産陶器	碗	A-1	11.9	7.6	4.8	淡黄色でやや粗い胎土。全面露胎、内面は部分の露胎、裏ね焼き跡、器付は輪割ぎ。肥前産で西原相当。	Ⅱ層 (石積み5外側)	Aトレンチ3層
120	本土産陶器	碗	A-1	-	-	4.6	淡黄色でやや粗い胎土。高台及び外底部を赤い顔料を施胎、見込みは全体の目状に輪割ぎ。裏ね焼き痕も残。肥前産で西原相当。	Ⅱ層上 (調査上部)	石積み1・4間1層
121	本土産陶器	碗	A-1	-	-	4.4	淡黄色で緻密な胎土。内外ともに露胎釉、外面下部から高台は露胎。見込みには砂が付着。肥前産で西原相当。	Ⅱ層 (石積み5外側)	Aトレンチ3層
122	本土産陶器	碗	B	11.0	6.85	5.1	淡黄色で緻密な胎土。内外ともに露胎釉、外面底部は露胎。肥前産。	Ⅱ層 (石積み2外側)	石積み2南側
123	本土産陶器	碗	A-2	10.6	7.7	7.0	灰色で粗い胎土。内外ともに緑釉を施胎し、外底部は輪割ぎ、手づくね成形で全面に凹凸あり。産地・年代とも不明。	Ⅱ層下 (調査下部)	石積み6・イビ間第1層+北1層
124	本土産陶器	小瓶	-	-	-	3.4	灰白色で緻密な胎土。灰釉が内外面に施胎され、器付のみ輪割ぎ。産地・年代とも不明。	Ⅱ層下 (調査下部)	石積み6イビ間第3層
125	本土産陶器	皿	A-1	13.4	3.5	4.7	淡黄色で緻密な胎土。内外面露胎釉、外面下部から高台は露胎。見込みは肥前の目状に輪割ぎ。器付と見込みに裏ね焼き痕も残。肥前産で西原相当。	Ⅱ層上 (調査上部)	石積み1・4間4層+1層表土+石積み1・4間2・3層
126	本土産陶器	皿	A-1	12.7	3.5	4.6	淡黄色で緻密な胎土。内外面に露胎釉、外面下部から高台は露胎。見込みは肥前の目状に輪割ぎ。器付と見込みに裏ね焼き痕も残。肥前産で西原相当。	Ⅱ層 (石積み5外側)	Aトレンチ3層
127	本土産陶器	皿	B	11.4	3.1	4.8	灰色で緻密な胎土。内外ともに透明釉、器付と外底部は露胎。見込みは肥前の目状に輪割ぎ。中央部には砂付着。肥前産で西原相当。	Ⅱ層 (石積み5外側)	Aトレンチ3層
128	本土産陶器	皿	A-2	12.0	3.9	4.5	淡黄色で緻密な胎土。内外面に露胎。ただし外面は赤色思い、胴下部から高台露胎。見込みは肥前の目状に輪割ぎ。肥前産で西原相当。	Ⅱ層 (調査外側)	石積み4東側3層
129	本土産陶器	皿	-	-	-	3.7	灰色で緻密な胎土。内外ともに緑釉を施胎。器付と外底部は露胎。産地・年代とも不明。	Ⅱ層 (石積み5外側)	Aトレンチ1層
130	本土産陶器	小壺	-	3.3	-	-	梨色釉。外面緑釉色。内面淡灰色で緻密な胎土の2層付。外面は胴周りで輪割。丹波産。	Ⅱ層上 (調査上部)	石積み1・4間4層+イビ+石積み4・6間2・3層
131	本土産陶器	小壺	-	-	-	4.0	灰白色で砂粒の多い胎土。外面に黒釉施胎。器付及び底部付近は露胎。底部は約1.2cmの隆起に厚板状の窪み。内面には砂の付着し、中央部は押割により変形。産地・年代とも不明。	Ⅱ層 (石積み5外側)	Aトレンチ2層
132	本土産陶器	小壺	-	-	-	6.0	灰白色で砂粒の多い胎土。外面に灰釉、内面・底部は露胎。外面底部付近に磨痕、器部に未処理磨痕。産地・年代とも不明。	Ⅱ層 (石積み5外側)	Aトレンチ5層
133	本土産陶器	瓶	-	-	-	5.9	褐色で砂粒の多い胎土。内外面に自然釉。器底は露胎。外面底部付近に磨痕。器部に未処理磨痕。産地・年代とも不明。	Ⅱ層 (調査外側)	石積み6南側2層
134	本土産陶器	碗	-	10.1	-	-	灰色で緻密な胎土。内外ともに透明釉。外底部付近と内面の裏面は露胎。外面には白土を塗布して磨痕と磨粒文字。産地・年代とも不明。	Ⅰ層	表土
135	本土産陶器	火鉢	-	-	-	14.4	灰白色で緻密な胎土。外面及び口唇部には輪割が施される。産地・年代とも不明。	Ⅱ層下 (調査下部)	石積み6イビ間第3層
136	本土産陶器	蓋	-	7.2	2.95	幅1.3	魚卵の蓋。暗灰色で多孔質の胎土。外面は露胎。胴部付近に穿孔あり。産地・年代とも不明。	Ⅰ層	表土
137	本土産陶器	蓋	-	-	-	幅4.6	灰色で緻密な胎土。外面露胎。胴部は三爪の形。外縁には青灰土。産地・年代とも不明。	Ⅰ層	表土
138	本土産陶器	皿	-	21.6	7.0	7.0	中形の皿。淡黄色で緻密。やや軟質の胎土。内外ともに透明釉を施胎。高台は露胎。見込みは肥前の目状に輪割ぎ。胎土上に赤釉を施胎。見込みには砂付着。内面は露胎文。器底赤。	Ⅱ層 (調査外側)	石積み4東側3層+ Aトレンチ1層+表土
139	本土産陶器	火入	-	12.5	-	-	淡黄色で緻密な胎土。外面及び内面口縁部まで露胎。外面磨痕による文字文様。関西産。	Ⅱ層下 (調査イビ)	イビ
140	本土産陶器	煎餅口	-	5.9	2.3	5.5	淡黄色で緻密。やや軟質の胎土。内面及び外面胴部にかけて透明釉施胎。関西産。	Ⅱ層上 (調査上部)	石積み1・4間1層
141	本土産陶器	皿	-	-	-	4.5	色絵胎。群青白色でやや粗質の胎土。高台及びその付近を除いて灰釉を施胎。内面には青・赤色顔料で梅花文を施文。京・信楽産。	Ⅱ層 (石積み5外側)	Aトレンチ1層
142	本土産陶器	皿	-	-	-	3.7	色絵胎。灰色で緻密な胎土。高台及びその付近を除いて灰釉を施胎。内面は緑・赤色顔料で梵文を施文。京・信楽産。	Ⅱ層下 (調査イビ)	イビ
143	本土産陶器	皿	-	-	-	3.8	色絵胎。群青白色で緻密。軟質の胎土。高台及びその付近を除いて透明釉を施胎。外面には赤色顔料で梵文。外底部に磨痕で「寶山」銘。京・信楽産。	Ⅱ層下 (調査イビ)	イビ
144	本土産陶器	皿	-	9.9	3.35	5.6	色絵胎。灰色で緻密な胎土。高台及びその付近を除いて透明釉を施胎。内面には顔料で草花文を施文。京・信楽産。	Ⅱ層上 (調査上部)	石積み1・4間1層
145	本土産陶器	急須	-	5.0	-	-	紫柄。赤褐色で緻密な胎土。型作りで胴部に凹凸の痕。Ⅰ層	Ⅰ層	表土

第46表 遺物観察表(6)

遺物 番号	種類	器形等	細分類	口径 (長軸)	器高 (厚さ)	底径 (短軸)	観察事項	地点・層序	出土地詳細
146	本土産陶器	急須	-	4.6	-	-	赤褐色で緻密な胎土。型作りで胴部に流孔の痕。No.145と型同品。	II層 (詳細外面)	石積み4東側3層
147	本土産陶器	急須	-	6.1	-	-	黄砂。赤褐色で緻密な胎土。型作り。	II層下 (詳細下部)	石積み6イと間南2層
148	本土産陶器	蓋	-	-	-	-	黄砂。六角水注の蓋。赤褐色で緻密だが砂が多い胎土。型作り。外面に印刻あり。	II層 (詳細外面)	石積み4東側3層
149	本土産陶器	壺	-	39.2	-	-	灰色で緻密。砂の混ざる胎土。口頸部を除く全面を黒釉。濃厚黒。	II層下 (詳細下部)	石積み6イと間南3層
150	本土産陶器	基本鉢	-	31.9	-	-	暗赤褐色で緻密。砂の混ざる胎土。内外面の口縁部に黒釉。口縁部に貼付で黒日文。濃厚黒。	II層下 (詳細下部)	石積み6イと間南7層
151	本土産陶器	壺	-	13.4	-	-	明褐色で砂粒の多い胎土。内外面に黒釉を施施。器面には指印痕による凹みあり。口頸部付近には穿孔有りか。口頸部には黒い泥を塗付。濃厚黒。	II層 (石積み5西側)	Aトレンチ3層
152	本土産陶器	壺	-	35.9	43.9	25.6	にぶい赤褐色で緻密な胎土。口頸部に黒釉。胴上部に貼付で黒日文と横帯。濃厚黒。	IV層 (階段1東側下部)	Bトレンチ西側10層+ 遺土+石積み6南側3層
153	本土産陶器	壺	-	-	-	-	灰白色で砂粒の多い胎土。露筋。年代不明。	I層	表土
154	本土産陶器	不明	-	-	-	-	淡黄色で軟質の胎土。腹もしくは胎の胴部で鱗や亀の造形。底部に輪帯の穴あり。型作り。露筋・年代いづれも不明。宮・伊集川。	II層 (石積み5西側)	Aトレンチ3層
155	片瀬産 瓦輪陶器	碗	A	13.6	5.9	6.6	灰釉。胎土淡黄褐色。フィガキーに見込みの円形に輪除け。	II層下 (詳細下部)	石積み6・イと間南1層
156	片瀬産 瓦輪陶器	碗	A	14.1	6.0	6.4	灰釉。胎土淡黄褐色。フィガキーに見込みの円形に輪除け。外底やや尖り。	II層下 (詳細下部)	石積み6・イと間南2層
157	片瀬産 瓦輪陶器	碗	A	13.2	5.4	7.0	緑釉。胎土灰白色。フィガキー。	II層下 (詳細下部)	石積み6・イと間南7層
158	片瀬産 瓦輪陶器	碗	A	13.9	6.0	7.6	緑釉。胎土灰白色。フィガキー。	II層上 (詳細上部)	石積み1・4間1層
159	片瀬産 瓦輪陶器	碗	A	13.2	5.8	7.8	灰釉。露筋で不明文。胎土灰白色。フィガキー。	II層下 (詳細下部)	石積み6・イと間南2層
160	片瀬産 瓦輪陶器	碗	A	-	-	8.0	緑釉。胎土灰白色。やや硬質。フィガキー。外面高台まで磨かす。	II層下 (詳細イビ)	イビ
161	片瀬産 瓦輪陶器	小碗	A	9.6	4.33	4.6	灰釉。胎土灰黄色。見込みの目輪削ぎ。	II層 (石積み5西側)	Aトレンチ1層
162	片瀬産 瓦輪陶器	小碗	B	-	-	4.1	白釉。胎土灰黄色。見込みの目輪削ぎ。重ね焼き痕。外底無輪だが、中央に輪帯布。	II層 (石積み5西側)	Aトレンチ1層
163	片瀬産 瓦輪陶器	小碗	B	7.0	-	-	白釉。胎土白色。	II層下 (詳細下部)	石積み6・イと間南5・6層
164	片瀬産 瓦輪陶器	皿	B	13.5	4.3	7.2	白釉で、裏付輪削ぎ。胎土灰褐色。見込みの目輪削ぎ。重ね焼き痕。	I層	表土
165	片瀬産 瓦輪陶器	皿	A	12.0	1.9	5.8	灰釉。胎土灰白色。外面下半無釉。	II層下 (詳細下部)	石積み6・イと間南5・6層
166	片瀬産 瓦輪陶器	鉢	B	-	-	10.1	外面黒釉。内面白釉。畳み付け輪削ぎ。胎土灰白色。見込みの目輪削ぎ。重ね焼き痕。	露筋南	H26市書南トレンチ1
167	片瀬産 瓦輪陶器	壺	A	10.4	-	-	灰釉。胎土灰褐色。玉縁口縁。	II層 (石積み5西側)	Aトレンチ3層
168	片瀬産 瓦輪陶器	碗	A	17.9	-	-	黄釉。胎土淡黄褐色。外面下半無釉。	II層下 (詳細下部)	石積み6・イと間南3層
169	片瀬産 瓦輪陶器	碗	A	5.4	12.0	6.8	黄釉。胎土褐色。外底・内面無釉無施。	II層 (石積み2西側)	石積み2南側
170	片瀬産 瓦輪陶器	瓶	B	-	-	8.8	いびつな球状立角瓶。外面黒釉。掻き分けにより黒文。内面白釉。	I層	表土
171	片瀬産 瓦輪陶器	瓶	A	-	-	8.2	黄釉。胎土灰白色。外底無施。	II層 (石積み5西側)	Aトレンチ2層+3層
172	片瀬産 瓦輪陶器	袋物	A	-	-	4.6	灰釉。外底無施。蓋黄釉。	II層下 (詳細下部)	石積み6・イと間南1・2層
173	片瀬産 瓦輪陶器	香炉	A	9.4	7.25	6.8	灰釉。内外面下半無釉。胎土灰白色。高台周辺赤色化。	II層下 (詳細イビ)	石積み6・イと間南2層+4層+イビ
174	片瀬産 瓦輪陶器	灯明具	A	-	-	5.0	黄釉。見込みの目輪削ぎ。胎土淡黄褐色。外底無施。	II層 (石積み5西側)	Aトレンチ3層

第47表 遺物観察表(7)

遺物 №	種類	器形等	細分類	口径 (長軸)	器高 (厚さ)	口径 (短軸)	観察事項	地点・層序	出土地詳細
175	沖縄瓦 無釉陶器	瓶入れ	A	5.6	2.5	2.6	灰緑、粘土灰白色、外底無釉、ベタ底。	Ⅱ層 (調査外側)	石積み4東面3層
176	沖縄瓦 無釉陶器	瓶	—	13.5	6.0	5.4	赤褐色。	Ⅱ層上 (調査上部)	表土+Aトレンチ1層 +石積み1・4間1層
177	沖縄瓦 無釉陶器	瓶	—	15.6	7.7	7.5	褐色、部分的に灰白色。内面に粘土の付着。高台狭り浅い。	Ⅱ層 (調査外側)	Aトレンチ2層 + 石積み4東面3層
178	沖縄瓦 無釉陶器	瓶	—	14.4	5.5	6.8	鈍赤褐色。底部が3mmと薄い。	Ⅱ層 (石積み5外側)	Aトレンチ1層
179	沖縄瓦 無釉陶器	瓶	—	14.6	7.6	5.5	褐色。高台狭り浅い。口縁が屈反り状。	Ⅱ層 (石積み5外側)	Aトレンチ3層
180	沖縄瓦 無釉陶器	瓶	—	13.7	6.1	5.6	鈍褐色。外底にヘラ記号(2条に斜線1条で3条)。	Ⅱ層 (調査外側)	Aトレンチ3層 + 石積み4東面3層
181	沖縄瓦 無釉陶器	瓶	—	14.0	6.9	7.2	内面褐色。外面鈍赤褐色。器壁が最大1cmと厚め。	Ⅰ層	表土
182	沖縄瓦 無釉陶器	瓶	—	—	—	5.2	内面灰色。外面褐色。外底へラ記号。内容不明。	Ⅱ層 (石積み2外側)	石積み2南側
183	沖縄瓦 無釉陶器	瓶	—	—	—	5.8	暗赤褐色。見込みの凹凸が目立ち、3mmと薄い。高台が縁形。	Ⅰ層	表土
184	沖縄瓦 無釉陶器	瓶	—	11.9	7.1	5.8	鈍赤褐色。ベタ底で直線的な器形。	Ⅱ層下 (調査イビ)	イビ
185	沖縄瓦 無釉陶器	瓶	—	—	—	5.6	鈍赤褐色。外底中央が凹むベタ底。	Ⅱ層下 (調査イビ)	イビ
186	沖縄瓦 無釉陶器	瓶	—	12.5	6.0	7.8	灰灰色。口縁のココナゲが丁寧。見込みが膨らむ。広口で胴部 が膨らむ器形。葉巻輪状。	Ⅱ層 (調査外側)	石積み6南側2層
187	沖縄瓦 無釉陶器	小瓶	—	7.2	—	—	灰灰色。口縁から外面は暗褐色で艶枯。口縁外面に凹線1 条。	Ⅱ層 (調査外側)	Cトレンチ3層
188	沖縄瓦 無釉陶器	瓶	—	—	—	7.5	浅黄褐色。焼成不良か。外底から高台付部分が黒色。二次焼成 か。見込み中央は褐色。	Ⅱ層 (石積み5外側)	Aトレンチ1層
189	沖縄瓦 無釉陶器	瓶	—	10.3	2.3	4.6	赤褐色。外底やや凹み、ヘラ記号2条。内面気泡による凹凸が 多い。	Ⅱ層 (石積み5外側)	Aトレンチ3層
190	沖縄瓦 無釉陶器	瓶	—	11.1	3.0	3.5	鈍赤褐色。外底やや凹む。	Ⅱ層上 (調査上部)	石積み4裏込め
191	沖縄瓦 無釉陶器	瓶	—	9.6	3.1	5.2	褐色。部分的に鈍赤褐色。縦行着で灯明臺の利用。外底へラ記 号4条。「月」状。	Ⅱ層 (調査外側)	表土+石積み4東側3層
192	沖縄瓦 無釉陶器	鉢	—	15.5	6.5	7.8	鈍赤褐色。部分的に暗灰色。外底へラ記号1条。内湾。	Ⅰ層	表土
193	沖縄瓦 無釉陶器	鉢	—	16.2	6.5	10.0	鈍赤褐色。内湾。肩部に波状文(4条/8mm)。上下端ナブ消 し。	Ⅱ層 (石積み5外側)	Aトレンチ3層
194	沖縄瓦 無釉陶器	鉢	—	36.4	5.3+	24.6	鈍赤褐色。外底のみ褐色。器面の気泡がやや目立ち、外底器面 を全面塗り。	Ⅱ層下 (調査下部)	石積み6・イビ間面7層
195	沖縄瓦 無釉陶器	摺鉢	—	32.4	14.0	11.2	外面鈍褐色。外底・内面赤褐色。器目9条/2.2cm。	Ⅰ層	表土
196	沖縄瓦 無釉陶器	摺鉢	—	32.2	13.3	11.3	外面鈍褐色。外底・内面赤褐色。器目9条/1.9cm。	Ⅱ層 (石積み5外側)	Aトレンチ2層
197	沖縄瓦 無釉陶器	摺鉢	—	—	—	10.0	外面鈍褐色。外底・内面赤褐色。器目9条/2.2cm。見込みが円 形に貫通。焼成後だが器底の凹凸明。	Ⅱ層 (石積み5外側)	Aトレンチ1層
198	沖縄瓦 無釉陶器	瓶	—	5.7	—	—	外面鈍赤褐色。内面赤褐色。器部に凹線4条。内面狭り浅 り。	Ⅱ層上 (調査上部)	石積み4・6間2・3層
199	沖縄瓦 無釉陶器	瓶	—	7.2	—	—	鈍赤褐色。ナデによる横位の線条底が顕著。	Ⅱ層下 (調査下部)	石積み6・イビ間面 1・2層
200	沖縄瓦 無釉陶器	瓶	—	—	—	5.8	外面鈍赤褐色。内面灰色。肩部に凹線1条。胴部下平のロゴロ 目やや粗い。	Ⅰ層	表土
201	沖縄瓦 無釉陶器	壺	—	16.9	—	—	暗赤褐色。断面明赤褐色。口縁端部に目筋。	Ⅱ層上 (調査上部)	石積み1・4間1層
202	沖縄瓦 無釉陶器	壺	—	8.3	—	—	外面暗赤褐色。内面赤褐色。器部に1条の流。	Ⅱ層 (石積み5外側)	Aトレンチ2層
203	沖縄瓦 無釉陶器	壺	—	—	—	9.6	外面鈍褐色。内面灰色。外底へラ記号3条。長脚臺の底辺。	Ⅱ層 (調査外側)	石積み6南側2層

第48表 遺物観察表(8)

遺物 番号	種類	器形等	細分類	口径 (長軸)	器高 (厚さ)	口径 (短軸)	観察事項	地点・層序	出土地詳細
204	内縄土 無銘陶器	急須	-	9.0	-	-	赤褐色。外面下半若干スス付着。	Ⅱ層 (石積み5外側)	入トレンチ3層
205	内縄土 無銘陶器	急須	-	9.4	-	-	灰褐色。肩部設2条、胴部中央印線1条。	Ⅱ層 (詳細外側)	表土+石積み4東側3層
206	内縄土 無銘陶器	急須	-	10.0	-	-	褐色。断面灰色。肩部印線2条。	Ⅱ層 (詳細外側)	入トレンチ2層 + 石積み4東側3層
207	内縄土 無銘陶器	急須	-	10.3	-	-	外面暗赤褐色。内面赤褐色。	Ⅱ層 (石積み5外側)	入トレンチ2層
208	内縄土 無銘陶器	急須	-	8.2	-	-	外面暗赤褐色。内面赤褐色。胴部中央で大きく段がつき下平に窄まる。	Ⅱ層 (石積み5外側)	入トレンチ2層
209	内縄土 無銘陶器	急須 蓋	-	9.3	4.95	直径11.6	灰色。断面灰赤色。つまみ3mmの突起もしくは欠損あり。	Ⅱ層 (石積み5外側)	入トレンチ2層
210	内縄土 無銘陶器	急須 蓋	-	10.6	-	直径13.4	黄赤褐色。	Ⅱ層 (石積み5外側)	入トレンチ3層
211	内縄土 無銘陶器	急須 蓋	-	8.6	4.4	直径11.0	明赤褐色。内面中央、口縁端部にスス付着。	Ⅱ層 (石積み5外側)	入トレンチ2層
212	内縄土 無銘陶器	急須 蓋	-	9.6	-	直径11.3	外面赤灰色。内面赤褐色。外面中央部に2条の印線。	Ⅱ層 (石積み5外側)	入トレンチ2層
213	内縄土 無銘陶器	急須 蓋	-	9.1	-	直径11.1	赤褐色。口縁端部にスス付着。	Ⅱ層 (石積み5外側)	入トレンチ2層
214	内縄土 無銘陶器	急須 蓋	-	7.5	1.5	直径7.5	灰色。断面黄赤褐色。つまみは細く円柱状。	Ⅱ層 (詳細外側)	石積み6南側2層
215	内縄土 無銘陶器	急須 蓋	-	6.0	1.5	直径6.2	黄赤褐色。つまみは半球状。	Ⅱ層 (石積み5外側)	入トレンチ2層
216	内縄土 無銘陶器	火鉢	-	-	11.8	11.6	暗赤褐色。方形状把手とその下方に穿孔。外底に不明のH字記号。	Ⅱ層 (詳細外側)	石積み6南側2層
217	内縄土 無銘陶器	火鉢	-	16.0	-	-	赤褐色。口縁内面中央に突起。	古層 (階段1東側下層)	石積み7下2層
218	内縄土 無銘陶器	横木鉢	-	29.8	-	-	黄赤褐色。外面、スタンプによる花文の痕。ナゲ及び貼付による横日文、口縁は刻日文。	Ⅱ層 (詳細外側)	石積み6南側3層
219	内縄土 無銘陶器	横木鉢	-	30.7	-	-	黄赤褐色。断面部分的に灰色。口縁上下に刻日文。胴部上平に貼付による横日文2条。	Ⅱ層 (詳細外側)	石積み6南側3層
220	内縄土 無銘陶器	蓋	-	6.4	4.5	直径12.4	褐色。胎土に白色・赤色粒多く混じる。蓋等大型品の蓋か。	遺院南	H26番遺南 表土
221	内縄土 無銘陶器	人形	-	-	-	-	褐色。貼付による渦巻状文などから獅子か。	Ⅱ層下 (詳細下層)	石積み6・イビ奥側7層
222	内縄土 無銘陶器	餅付皿	-	11.2	4.4	-	黄赤褐色。器壁2〜3mmと薄水。縁く突る脚を有する。	Ⅱ層 (石積み5外側)	入トレンチ2層
223	陶質土器	鉢	-	15.6	-	-	黄褐色。把手欠損。	Ⅰ層	表土
224	陶質土器	火鉢	-	-	-	14.4	褐色。胴部下半に白化粧による横線。	Ⅰ層	表土
225	陶質土器	鉢	-	22.1	-	-	黄褐色。底状文5条/1cm。上下端をナゲ消し。	Ⅰ層	表土
226	陶質土器	蓋	-	7.1	-	直径8.5	褐色。器壁2〜3mm。	Ⅰ層	表土
227	陶質土器	蓋	-	15.2	4.1	直径16.2	褐色。内面中央にスス付着。	Ⅰ層	表土
228	瓦質土器	風戸	本土産	-	-	-	胎土は白地で細砂混入。229と同一か。上下の突起は区画線の上より貼付し、断面三角状の貼付による格子文。	Ⅱ層上 (詳細上層)	石積み1・4貫1層
229	瓦質土器	風戸	本土産	-	-	-	胎土。突起の貼付は228と同一か。胴部下半、裏面文の下にやや彫刻化された花象文を配す。	古層 (階段1東側下層)	入トレンチ1層 + 入トレンチ東側3層
230	瓦質土器	鉢	瀬田産?	-	-	-	褐色。赤色粒混入。2条の突起。平面が直線的であり、方形5。	Ⅱ層下 (詳細下層)	石積み6・イビ間1層
231	瓦質土器	香炉	瀬田産	-	-	16.0	赤色粒若干混入。脚部は貼付。	Ⅱ層 (石積み5外側)	入トレンチ2層
232	瓦質土器	横木鉢	瀬田産	-	-	27.0	外底に縦条痕あり。	古層 (階段1東側下層)	入トレンチ + 石積み7下2層

第49表 遺物観察表(9)

遺物 種別	種類	器形等	細分類	口径 (長軸)	器高 (厚さ)	口径 (短軸)	観察事項	地点・層序	出土地詳細
233	瓦質土器	瓶木鉢	湧田産	55.0	-	-	黒色粒混入。口縁に施されるスタンプによる花文は湧田Gに近 似するが、上方の縁がない点で異なる。	B層 (石積み5外側)	Aトレンチ7層
234	土器	皿	本土産?	21.4	4.7	9.2	淡黄色。胎土精良。コナダが横並び、器面が滑らか。	B層 (御蔵外側)	表土+石積み4東側3層
235	土器	信焼	本土産?	-	-	-	淡黄褐色。砂粒わずかに混入。器面に磨光。	最層下 (御蔵下部)	石積み6・イビ間南2層
236	土器	信焼	本土産?	-	-	-	淡黄褐色。砂粒混入。把手。	最層下 (御蔵下部)	石積み6・イビ間南3・6層
237	土器	焼塩釜 (高)	本土産	9.0	1.05	-	黄褐色。砂粒混入。上面に左から「フタ」「花口」の刻印。下 部平底。	B層 (御蔵外側)	Aトレンチ3層 + 石積み4東側3層
238	土器	焼塩釜 (高)	本土産	9.3	0.95	-	黄褐色。砂粒混入。上面に右から「ミヤ」「塩」の刻印。下部 平底。	1層	表土
239	土器	蓋	宮古式	-	-	-	外面黒色。内面褐色。白・褐色粒大量混入。器面の割傷目立 つ。	V層	S P 10
240	土器	碗	沖縄産?	9.4	6.45	4.8	淡黄褐色。部分的に焼灰色。白色粒・雲母混入。内面のコナ ダ顕著。高台型付。	最層下 (御蔵イビ)	石積み6・イビ間北1層+イビ ……
241	土器	小盃	沖縄産?	2.9	7.7	3.9	明黄褐色。白色粒混入。短茎。下部の器形。外底糸切痕。内 面のコナダ顕著。	最層下 (御蔵下部)	石積み6・イビ間北1層+東3層
242	土器	蓋?	沖縄産?	-	-	8.6	外面黄褐色。内面褐色。白・赤色粒・雲母混入。外底糸切 痕。高部上面より穿孔。	1層	表土
243	土器	蓋	沖縄産?	-	-	-	褐色。白色粒大量混入。外面に貼付による文様。	最層下 (御蔵下部)	石積み6・イビ間北1層
244	土器	碗	沖縄産?	-	-	3.8	黄黄褐色。白色粒混入。内面灰褐色高台型付。	B層 (石積み5外側)	Aトレンチ1層
245	土製品	不明	沖縄産?	7.4	1.7	-	黄黄褐色。褐色粒混入。器面滑らかに磨光。	B層 (石積み5外側)	Aトレンチ4層
246	土製品	人形	本土産?	9.4	-	8.5	灰白色。外面ナデ。内面磨きオサユのまま。	最層上 (御蔵上部)	石積み4裏込め
247	土製品	人形	本土産?	3.8	-	3.6	褐色。雲母混入。胎土精良。丁寧な整形。和風女性。髪型は打 髪髷御田原か。	1層	表土
248	土製品	人形	沖縄産?	-	5.2	-	褐色。所出黄沢。褐色粒混入。指オサユの残る整形。福耳や腹 の窪みなどから本邦を象ったものか。	最層上 (御蔵上部)	石積み1・4間1層
249	土製品	不明	沖縄産?	-	1.1	-	黄黄褐色。円柱状。	1層	表土
250	青銅製品 (鍍金)	鍍金具	鍍金	3.5	0.05	1.5+	立物中央部の円筒形。両面鍍金だが、片面は部分的。1.6g。	IV層 (階段1東側下層)	石積み7下1層
251	青銅製品 (鍍金)	鍍金具	鍍金	3.4+	0.05	2.1	立物中央部の一部。両面鍍金。3.5g。	1層	不明
252	青銅製品 (鍍金)	甲冑 金具	箔料	2.7	0.4	0.9	完品。両面鍍金。3.7g。	IV層 (階段1東側下層)	トレンチ西側6~9層
253	青銅製品 (鍍金)	甲冑 金具	箔料	1.65	0.1	0.9	完品。外面鍍金。2.4g。	IV層 (階段1東側下層)	トレンチ西側6~9層
254	青銅製品 (鍍金)	甲冑 金具	八双金具	6.75	0.1	1.5	完品。表面鍍金。縁状で草花文。空腔を径1mmの丸+子を施 す。径4mmの円形孔2。ハート形孔1ヶ所。7.0g。	IV層 (階段1東側下層)	石積み7下3・4層
255	青銅製品 (鍍金)	甲冑 金具	八双金具	5.65	0.1	2.0	完品。表面鍍金。縁状で、径4mmの円形孔2ヶ所。ハート形孔 2ヶ所。6.8g。	1層	表土
256	青銅製品 (鍍金)	甲冑 金具	八双金具	3.0+	0.1	1.7	表面鍍金。縁状で草花文を施す。空腔を径1mmの丸+子を施 す。径4mmの円形孔あり。2.9g。	IV層 (階段1東側下層)	トレンチ西側6~9層
257	青銅製品 (鍍金)	甲冑 金具	縁輪	3.3+	0.6	1.0	縁筒状等の縁輪か。凸面鍍金。4.7g。	IV層 (階段1東側下層)	トレンチ東側5層
258	青銅製品 (鍍金)	飾金具	花弁形	1.75	0.1	1.75	完品。円板を内溝きせ、凸部に菊花状刻目。0.7g。	最層上 (御蔵上部)	石積み4裏込め
259	青銅製品 (鍍金)	飾金具	不明	6.0+	0.1	1.1	一辺欠損。現状では折り曲がっている。一面を鍍金し、菊花状 花弁を中心とした草花文を縁刻する。3.9g。	1層	Eトレンチ1層
260	青銅製品	釘	丸釘	2.7	0.2	0.5	完品。軸部は錆がつく。0.7g。	最層下 (御蔵下部)	石積み6・イビ間南2層
261	青銅製品 (鍍金)	釘	-	1.1	0.2	0.5	完品。頭部上面に鍍金。0.2g。	IV層 (階段1東側下層)	石積み3

第50表 遺物観察表(10)

遺物 ID	種類	器形等	細分類	口径 (長軸)	器高 (厚さ)	底径 (短軸)	観察事項	地点・層序	出土地詳細
262	青銅製品	不明	花弁形	1.9	0.1	1.9	完品。四葉形に整形、中央に一边4mmの方形孔もっている。	IV層 (階段1東側下層)	Bトレンチ東側5層
263	青銅製品	鏃	—	11.5	0.7	0.9	完品。把手は円筒状、鏃部は4つの突起状。11.8g。	III層下 (御殿下層)	石積み6・イビ間北1層
264	青銅製品	毛抜き	—	4.2	0.1	0.6	完品。同様の板を折り曲げて整形。把手は円筒状。3.0g。	IV層 (階段1東側下層)	Bトレンチ東側5層
265	青銅製品	かんざし	鍔差	13.9	0.2	0.4	完品。3.9g。	III層下 (御殿下層)	石積み6・イビ間南1層
266	青銅製品	かんざし	鍔差	11.1	0.3	0.4	完品。4.2g。	II層 (石積み5外側)	Aトレンチ3層
267	青銅製品	かんざし	鍔差	9.6	0.22	0.4	受部側に草摺り線あり。3.0g。	II層 (御殿外側)	石積み4東側3層
268	青銅製品	指輪	—	2.0	0.5	1.8	完品。板を折り曲げて整形。中央部は広げて上下に窪みをつけ、同心円状の線刻を施す。1.8g。	IV層 (階段1東側下層)	石積み7下3・4層
269	青銅製品 (鍍金)	不明	—	4.95	0.3	1.0	棒状で断面は半円形。両面鍍金。凸部に縦方向にV字状の刻み目。2.8g。	IV層 (階段1東側下層)	Bトレンチ東側6層
270	鉄製品	小孔 基石頭 伊予札	—	6.6	0.3	2.3	完品。鏝のため不明瞭だが、2列8個の孔が見られる。	IV層 (階段1東側下層)	石積み7下2層
271	鉄製品	鉄錘	I入型	4.9+	1.0	1.9	基部欠損。方眼長3.5cm、幅上部1.9cm・下部0.9cm。分銅は上原ほか(2007)による。	II層 (石積み2外側)	石積み2南側
272	鉄製品	刀子	—	19.4	0.4	2.0	ほぼ完品。基部長5.1cm、幅0.3cm。	IV層 (階段1東側下層)	石積み7下3・4層
273	鉄製品	鉄鎌	—	9.2	0.5	8.5+	刃部欠損。刃部と基部の境目に鋸歯片付着。基部長約5.5cm。	III層下 (御殿下層)	石積み6・イビ間北3層
274	鉄製品	角釘?	—	6.1	0.4	1.1	両端欠損。扁平なため鉄錘の可能性もあるが、方眼と基部の境目が見えず。長さ8~10cm前後の角釘と推定。	IV層 (階段1東側下層)	石積み7下5層
275	鉄製品	角釘	—	12.0+	1.2	1.5	基部わずら。先端欠損。鍔部が横に突出しているタイプ。基部幅・厚1.0cm。	遺構南	H26前書南トレンチ2
276	鉄製品	角釘	—	6.7+	0.5	1.0	先端欠損。鍔部上面はやや大きい。基部幅0.5cm・厚0.4cm。	IV層 (階段1下層)	階段1内トレンチ1 3層
277	鉄製品	角釘	—	8.2	1.0	1.65	ほぼ完品だが、鍔部わずら欠損。先端緩く曲がる。基部幅0.8cm・厚0.9cm。想定長9cm。	IV層 (階段1東側下層)	Bトレンチ西側6~9層
278	鉄製品	角釘	—	6.4	0.8	1.2	ほぼ完品だが、先端曲巻状に折れ曲がる。基部幅0.6cm・厚0.6cm。想定長7cm。	IV層 (階段1下層)	階段1内トレンチ1 5層
279	鉄製品	角釘	—	5.4	0.8	1.1	ほぼ完品だが、先端V字状に折れ曲がる。基部幅0.7cm・厚0.6cm。想定長8cm。	IV層 (階段1下層)	階段1内トレンチ1 7層
280	鉄製品	角釘	—	2.75+	0.45	1.0	先端欠損。基部幅0.3cm・厚0.4cm。	IV層 (階段1東側下層)	Bトレンチ西側6~9層
281	鉄製品	角釘?	—	3.7+	1.1	1.8	角釘の先端部欠。先端が曲巻き状に曲がる。	IV層 (階段1東側下層)	Bトレンチ西側6~9層
282	鉄製品	鏃	—	19.5+	2.0	3.5+	両端欠損。中央部長12.5cm、幅1.6cm、厚0.9cm。	IV層 (階段1下層)	階段1内トレンチ1 7層
283	鉄製品	鏃状板	—	5.9	0.4	5.0	大円筒に鏃状面が連続。基部先端欠損。大円筒径5.6cm、幅0.9cm、厚0.4cm。鏃部厚0.4cm。	IV層 (階段1東側下層)	Bトレンチ西側6~9層
284	鉄製品	鏃状板	—	3.9+	0.6	2.0	基部先端欠損。円筒径1.6cm、幅0.5cm、厚0.4cm。孔部径0.5×0.7cm。鏃部厚0.4cm。	IV層 (階段1東側下層)	Bトレンチ西側6~9層
285	もつば	—	—	—	—	5.6	底面。外面褐色。断面内面灰色。白色粒混入。気泡多い。	I層	表土
286	もつば	—	—	6.0	5.1	1.3	灰白色。胎土精良。外面褐色露着物付着。	II層 (石積み5外側)	Aトレンチ3層
287	もつば	—	—	6.6	—	—	白色。石製。編み状か。緑黄色の透明粒状の付着物。	IV層 (階段1下層)	階段1内トレンチ1 7層
288	もつば	—	—	26.7	—	—	灰白色。石製。編み状。内面黒・赤泥。	III層下 (御殿下層)	石積み6・イビ間南2 層+南7層
289	銭貨	祥符元寶	北宋	2.51	0.15	孔径0.5	完品。内径1.77cm、4.2g。	III層上 (御殿上層)	石積み4
290	銭貨	祥符通寶	北宋	2.53	0.12	0.59	完品。内径1.95cm、3.3g。	III層下 (御殿下層)	石積み6・イビ間南7層

第51表 遺物観察表(11)

遺物 №	種類	器形等	細分類	口径 (長軸)	器高 (厚さ)	口径 (短軸)	観察事項	地点・層序	出土地詳細
291	鏡貨	煎卑元寶	北宋	2.41	0.16	0.57	完品、内径1.8cm、4.9g。	Ⅲ層下 (銅線下部)	石塚み6・イビ間南
292	鏡貨	元祐通寶	北宋	2.47	0.12	0.63	完品、内径1.92cm、3.6g。	I層	表土
293	鏡貨	元祐通寶	北宋	2.5	0.13	0.53	完品、内径1.8cm、3.9g。	IV層 (階段1下層)	階段1内トレンチ1 7層
294	鏡貨	大観通寶	北宋	-	0.15	-	左平欠損、大口通口が残存。	Ⅲ層下 (銅線下部)	石塚み6
295	鏡貨	大観通寶	北宋	-	0.13	-	右平欠損、口縁口實が残存。	Ⅲ層上 (銅線上部)	石塚み1・4間1層
296	鏡貨	開禧通寶	南宋	2.45	0.16	0.58	右平欠損、開口通寶が残存、内径2.06cm。	IV層 (階段1下層)	階段1内トレンチ1 3層
297	鏡貨	永楽通寶	明	2.49	0.13	0.5	完品、内径2.03cm、3.7g。	I層	表土
298	鏡貨	永楽通寶	明	2.56	0.12	0.48	完品、内径2.06cm、3.6g。	Ⅲ層上 (銅線上部)	石塚み1・4間4層
299	鏡貨	洪武通寶	明	2.38	0.11	0.53	完品、内径1.92cm、3.1g。	Ⅲ層下 (銅線イビ)	イビ
300	鏡貨	洪武通寶	明	2.36	0.13	0.54	左上部欠損、銭文は残存、内径1.97cm。	Ⅲ層下 (銅線イビ)	イビ
301	鏡貨	洪武通寶	明	-	0.11	0.53	左下部欠損、銭文は残存。	Ⅲ層下 (銅線イビ)	イビ
302	鏡貨	洪武通寶	明	2.31	0.11	0.53	完品、内径1.77cm、2.6g。	Ⅲ層下 (銅線イビ)	イビ
303	鏡貨	洪武通寶	明	-	0.14	0.58	完品、3.1g。	Ⅲ層下 (銅線イビ)	イビ
304	鏡貨	洪武通寶	明	-	0.11	0.57	完品、2.7g。	Ⅲ層下 (銅線イビ)	イビ
305	鏡貨	洪武通寶	明	2.34	0.13	0.58	完品、内径1.78cm、2.9g。	Ⅲ層下 (銅線イビ)	イビ
306	鏡貨	洪武通寶	明	2.32	0.11	0.57	完品、内径1.84cm、2.9g。	Ⅲ層下 (銅線イビ)	イビ
307	鏡貨	洪武通寶	明	2.32	0.12	0.53	完品、内径1.86cm、3.1g。	Ⅲ層下 (銅線イビ)	イビ
308	鏡貨	寛永通寶 (新寛永)	日本	2.3	0.1	0.62	完品、内径1.82cm、2.4g。	Ⅲ層上 (銅線上部)	石塚み1・4間1層
309	鏡貨	寛永通寶 (古寛永)	日本	2.44	0.13	0.54	完品、内径1.88cm、3.9g。	I層	表土
310	鏡貨	寛永通寶 (古寛永)	日本	2.34	0.15	0.5	完品、内径1.94cm、4.9g。	Ⅱ層 (石塚み2外側)	石塚み2南側
311	鏡貨	寛永通寶 (新寛永)	日本	2.36	0.1	0.57	完品、内径1.86cm、2.3g。	Ⅲ層下 (銅線下部)	石塚み6・イビ間南1 層
312	鏡貨	大正通寶	琉球	2.36	0.15	0.49	完品、内径1.94cm、4.0g。	Ⅲ層下 (銅線下部)	石塚み6・イビ間南7 層
313	鏡貨	無文銭	-	2.02	0.09	0.59	完品、1.9g。	Ⅲ層下 (銅線イビ)	イビ
314	鏡貨	無文銭	-	1.98	0.08	0.59	完品、1.3g。	Ⅲ層下 (銅線イビ)	イビ
315	鏡貨	輪銭	-	0.74	0.07	0.44	完品、0.1g。	IV層 (階段1下層)	階段1内トレンチ1 3層
316	鏡貨	輪銭	-	0.74	0.04	0.48	完品、0.3g。	Ⅱ層 (石塚み5外側)	Aトレンチ2層
317	鏡貨状 金製品	1層	-	2.0	0.03	1.95	完品、方形孔、中央を縦断する折り曲げ線が1本あり、0.3g。	Ⅲ層下 (銅線イビ)	イビ
318	鏡貨状 金製品	1層	-	2.1	0.02	2.05	完品、方形孔、中央を縦断する折り曲げ線が1本あり、0.4g。	Ⅲ層下 (銅線イビ)	イビ
319	鏡貨状 金製品	1層	-	2.1	0.02	2.1	完品、方形孔、中央を縦断する折り曲げ線が1本あり、0.4g。	Ⅲ層下 (銅線イビ)	イビ

第 52 表 遺物観察表 (12)

遺物 №	種類	器形等	細分類	口径 (長軸)	器高 (厚さ)	口径 (短軸)	観察事項	地点・層序	出土地詳細
320	銭貨状 金製品	I 型	—	2.0	0.01	2.0	完全。方形孔。中央を縦断する折り曲げ跡が 1 本、やや不鮮明だが折行する折り曲げ跡も 1 本あり。0.4g。	Ⅱ層下 (詳細イビ)	イビ
321	銭貨状 金製品	I 型	—	2.2	0.01	2.2	完全。方形孔。中央を縦断する折り曲げ跡が 1 本あり。0.4g。	Ⅱ層下 (詳細イビ)	イビ
322	銭貨状 金製品	I 型	—	2.0	0.02	2.0	完全。方形孔。中央を縦断する折り曲げ跡が 1 本あるが不鮮明。0.3g。	Ⅱ層下 (詳細イビ)	イビ
323	銭貨状 金製品	II 型	—	1.82	0.01	1.82	完全。円形孔の周縁が片面側に盛り上がる。穿孔痕か。0.3g。	Ⅱ層下 (詳細イビ)	イビ
324	銭貨状 金製品	II 型	—	1.81	0.01	1.79	完全。円形孔の周縁が片面側に盛り上がる。穿孔痕か。0.3g。	Ⅱ層下 (詳細イビ)	イビ
325	銭貨状 金製品	II 型	—	1.8	0.02	1.8	完全。小方形孔で、盛り上がりはなく、切断によるものか。0.4g。	Ⅱ層下 (詳細イビ)	イビ
326	銭貨状 金製品	III 型	—	2.1	0.02	2.0	完全。中央に貫通しない微小孔が片面にあり。0.3g。	Ⅱ層下 (詳細イビ)	イビ
327	銭貨状 金製品	III 型	—	2.05	0.01	2.05	完全。中央に貫通しない微小孔が両面にあり。0.4g。	Ⅱ層下 (詳細イビ)	イビ
328	銭貨状 金製品	III 型	—	2.05	0.02	—	完全。中央に貫通しない微小孔が片面にあり。一端折り曲げる。中央を縦断する折り曲げ跡あり。0.3g。	Ⅱ層下 (詳細イビ)	イビ
329	石製品	石球	—	3.1	2.9	3.1	石材：サンゴ石／加工：全面を研磨／使用痕：なし	Ⅱ層 (詳細外側)	石積み 6 南側 3 層
330	石製品	石臼	—	23.4+	9.4+	10.9+	石材：細粒砂岩（ノービヌフス）／加工：欠損部以外の全面にノミによる彫刻痕。中央部穿孔。／使用痕：裏面に磨痕及び染色物付着。	Ⅱ層下 (詳細下部)	石積み 6・イビ間南 7 層
331	貝製品	コマ状製品	—	2.95	3.0	2.85	マガキガイ。体部折り取りか。15.5g。	Ⅱ層下 (詳細下部)	石積み 6・イビ間南 7 層
332	貝製品	コマ状製品	—	2.7	2.7	2.7	マガキガイ。表面色残り。体部折り取りか。9.5g。	Ⅱ層 (詳細外側)	石積み 4 東側 3 層
333	貝製品	コマ状製品	—	2.65	2.9	2.55	マガキガイ。体部折り取りか。11.8g。	IV 層 (階段 1 東側下層)	石積み 7 ヲ 3・4 層
334	貝製品	削片	—	2.35	0.3	2.0	ハナマルクキ。表面色残り。上端に斜縁の打点あり。2.0g。	IV 層 (階段 1 東側下層)	日レンテ西側 6~9 層
335	貝製品	削片	—	1.8	0.1	1.6	ハナビラダカラ。表面色残り。上端に斜縁の打点あり。0.8g。	IV 層 (階段 1 東側下層)	日レンテ西側 6~9 層
336	貝製品	削片	—	1.4	0.15	1.3	キイロダカラ。表面色残り。打点不明。0.3g。	IV 層 (階段 1 東側下層)	日レンテ西側 6~9 層
337	貝製品	削片	—	5.7+	0.3	4.4+	ヤコウガイ。体部斜縁面に研磨あり。19.7g。	IV 層 (階段 1 東側下層)	日レンテ東側 6 層
338	貝製品	有孔製品	—	1.8	1.3	1.5	マダライモ。上面研磨穿孔径 3mm。下面一部研磨か。2.8g。	Ⅱ層下 (詳細下部)	石積み 6・イビ間北 2 層
339	貝製品	ボタン	—	1.5	0.15	1.45	チョウセンザメカ。孔 2ヶ所。径 2mm。0.7g。	I 層	表探
340	貝製品	ボタン	—	1.1	0.1	1.05	チョウセンザメカ。孔 2ヶ所。径 1.5mm。0.1g。	Ⅱ層上 (詳細上部)	石積み 4 裏込め
341	石材	石材か	—	—	—	—	石材：細粒砂岩（ノービヌフス）／加工：なし／使用痕：なし 形状が砂塊に類似か	Ⅱ層下 (詳細イビ)	イビ
342	骨製品	骨鏃	—	4.85+	0.75	1.15	獣骨製。軸部欠損。菱形状で中央に鋭をつける。3.2g。	IV 層 (階段 1 下層)	階段 1 内レンテ 1・3 層
343	骨製品	両面鏃	—	4.5	0.2	1.5	両面鏃の梁部材。獣骨製。完全。孔に目釘（骨製）あり。片面には骨線痕が露出。	IV 層 (階段 1 東側下層)	日レンテ西側 6~9 層
344	骨製品	両面鏃	—	3.7	0.3	1.3	両面鏃の梁部材。獣骨製。完全。両面に幅 2mm の斜縁状痕あり。	IV 層 (階段 1 東側下層)	日レンテ西側 6~9 層
345	骨製品	中央加工製品	—	6.1	—	5.2	ウシ角の基部側が残る。基部端面に金属製刃先と思われる鋭い切痕。両面に磨痕 1 条。	Ⅱ層下 (詳細下部)	石積み 6・イビ間南 2 層
346	骨製品	象牙ブラシ	—	9.3+	0.6	0.95	持ち手部分のみ残存。中央部が厚い。	I 層	芋堀 3 南側残体
347	埴管	陶製埴管	沖縄産 埴管	4.2	—	1.85	大皿部一部欠損。表面黄赤褐色。大皿部径 1.1cm。首部径 0.9cm。共に八角形。	Ⅱ層 (石積み 5 外側)	八レンテ 3 層
348	埴管	陶製埴管	沖縄産 埴管	2.7	—	2.0	首部一部欠損。表面。緑色が一部黒変。大皿部径 1.2cm。首部径 1.3cm。	I 層	表土

第53表 遺物観察表(13)

遺物 番号	種類	器形等	細分類	口径 (高軸)	器高 (厚さ)	口径 (短軸)	観察事項	地点・層序	出土地詳細
349	煙管	青銅製吸口	片縄系 高軸	2.9	-	1.6	小口一箇欠損。表面、透明感がある灰緑。口径径0.4cm、小口径1.2cm。	Ⅱ層上 (銅線上部)	石塚み4
350	煙管	青銅製煙首	-	6.7	-	2.5	完品。首部中央凹む。火口径1.4cm、高0.9cm、首部径0.9cm。	Ⅱ層 (石塚み5外側)	Aトレンチ2層
351	煙管	青銅製煙首	-	5.4	-	2.2	完品。火口径1.4cm、高0.9cm、首部径0.5cm、肩部径2.6cm、径1.0cm。	Ⅱ層 (銅線外側)	石塚み4東側3層
352	煙管	青銅製吸口	-	5.0	-	0.9	完品。小口径0.7cm、口径径0.2cm。	Ⅱ層 (銅線外側)	石塚み4東側3層
353	煙管	青銅製吸口	-	4.1	-	0.95	完品。小口径0.9cm、口径径0.2cm。	Ⅰ層	表土
354	煙管	青銅製煙首 一体形	-	9.4	-	1.0	火口部一部欠損。扁平中央やや曲がる。	Ⅰ層	表土
355	ガラス製品	ガラス瓶	-	6.8	5.6	2.1	緑色透明。胴部傘状八角形。外底凹む。	Ⅱ層上 (銅線上部)	石塚み4
356	ガラス製品	ガラス容器	-	-	-	-	青色で表面が真珠層。胴部に面付。	Ⅱ層上 (銅線上部)	石塚み1・4間1層
357	ガラス製品	ガラス玉	-	0.34	0.16	乳径0.18	完品。赤色。0.01g。	Ⅳ層 (階段1東側下層)	日立レンガ西側6～9層
358	ガラス製品	ガラス玉	-	0.39	0.28	乳径0.12	完品。緑色。0.07g。	Ⅳ層 (階段1東側下層)	日立レンガ西側6～9層
359	ガラス製品	ガラス玉	-	0.41	0.3	乳径0.10	完品。黄色。0.1g。	Ⅳ層 (階段1下層)	階段1内トレンチ1
360	ガラス製品	ガラス玉	-	0.32	0.24	乳径0.13	完品。赤色。0.03g。	Ⅱ層 (銅線外側)	石塚み6南側2層
361	ガラス製品	ガラス玉	-	0.63	0.51	乳径0.22	完品。白色半透明。0.29g。	Ⅱ層上 (銅線上部)	石塚み1・4間4層
362	ガラス製品	ガラス玉	-	0.8	0.6	乳径0.3	完品。水色。0.44g。	Ⅰ層	表土
363	ガラス製品	ガラス玉	-	1.05	0.75	乳径0.5	ほぼ完品だが表面一部剥落。緑色。1.22g。	Ⅰ層	日立レンガ3層
364	ガラス製品	ガラス玉	-	1.0	0.9	-	15個付着。うち水色7個(その内2個は剥離し尖部面にはない)・緑色8個。0.67g。1個は径0.3・厚0.1・乳径1cm。	Ⅱ層上 (銅線上部)	石塚み1裏込め
365	ガラス製品	ガラス壺	-	-	0.47	-	2/3欠損。水色と思われれるが器面がざらつき、白色の付着物有。推定径2cm前後。	Ⅳ層 (階段1下層)	階段1内トレンチ1
366	円盤状製品	中国産青磁	銅線部	1.9	0.55	1.8	完品。2.7g。V型か。	Ⅱ層 (銅線外側)	Cトレンチ1層
367	円盤状製品	中国産白磁	不明	1.3	0.3	1.1	完品。0.6g。徳化薬系か。	Ⅳ層 (階段1東側下層)	日立レンガ北壁
368	円盤状製品	中国産青花	銅線部	2.7	0.35	2.5	完品。3.7g。徳化薬系か。	Ⅰ層	表土
369	円盤状製品	片縄系 加粒陶器	壺・甕 胴部	5.3	1.1	5.2	完品。41.2g。	Ⅰ層	表土
370	円盤状製品	中国産天目	蓋部	5.55	1.7	5.5	完品。59.3g。	Ⅳ層 (階段1東側下層)	日立レンガ西側6～9層
371	円盤状製品	陶質土器	銅線部	5.0	1.2	5.0	完品。18.7g。	Ⅰ層	表土
372	円盤状製品	中国産 加粒陶器	蓋胴部	4.8	1.25	4.5	完品。32.9g。	Ⅳ層 (階段1東側下層)	日立レンガ西側6～9層
373	円盤状製品	産地不明 陶器	蓋胴部	4.4	0.8	3.6	完品。12.0g。	Ⅳ層 (階段1東側下層)	日立レンガ
374	円盤状製品	ナイロ 加粒陶器	蓋胴部	5.35	1.2	4.4+	半分残存。35.1g。	Ⅳ層 (階段1東側下層)	日立レンガ東側5層
375	円盤状製品	明薬系 灰色瓦	平瓦 筒部	6.0	1.8	5.7	完品。67.0g。	Ⅱ層上 (銅線上部)	石塚み1・4間2層
376	瓦葺系瓦	瓦瓦?	-	-	-	-	器面が平らなため軒平瓦とも考えたが、残存している厚みや文様などから瓦瓦の可能性。	Ⅱ層 (石塚み5外側)	Aトレンチ3層
377	瓦葺系瓦	平瓦	灰色	-	2.25	-	左側端一部平直になっているが、二次的研削のためか。数文の線画が施している。「高」が浅い。	Ⅳ層 (階段1東側下層)	日立レンガ東側5層

第54表 遺物観察表(14)

遺物 番号	種類	器形等	細分類	口径 (長軸)	器高 (厚さ)	底径 (短軸)	観察事項	地点・層序	出土地詳細
378	高麗系瓦	平瓦	灰色	-	1.8	-	羽状文印き目が一部確認。	1層	表土
379	高麗系瓦	丸瓦	灰色	-	1.6	-	凸面羽状文印き目。凹面布目肌。瀬目あり、その後に線状傷。右側縁に凹痕あり。	1層	表土
380	大和系瓦	平瓦	灰色 (一部褐色)	-	1.9	-	側縁面取り整形。瀬目砂目顯著ではなく、表面に線状傷。	1層	表土
381	朝鮮系瓦	軒丸瓦	灰色系	-	3.1	-	<牡丹文様Ⅰ 新タイプA>。西のアザナCに近似するが、中下方の花弁の数と大きさが異なり、葉もわずかに異なる。	Ⅲ層下 (詳細下部)	石積み6・イビ間周1層
382	朝鮮系瓦	軒丸瓦	灰色系	-	2.0	-	<牡丹文様Ⅰ 西のアザナC>。文様が比較的鮮明。	Ⅳ層 (階段1東側下部)	石積み7下1層
383	朝鮮系瓦	軒丸瓦	灰色系	-	2.8	-	<牡丹文様Ⅰ 西のアザナC>。文様が全体的に太く浅め。	Ⅱ層 (詳細外側)	瓦土+石積み6南側3層
384	朝鮮系瓦	軒丸瓦	灰色系	-	2.8	-	<牡丹文様Ⅱ 木瓦門C>。子房より上方の盛り上がりがない。	Ⅲ層上 (詳細上部)	石積み1・4間1層
385	朝鮮系瓦	軒丸瓦	灰色系 (褐色)	-	2.3	-	<牡丹文様Ⅱ 湧出古窯A>。全体的に文様が不鮮明で浅め。	Ⅱ層 (詳細外側)	石積み6南側2層
386	朝鮮系瓦	軒丸瓦	灰色系	-	2.3	-	<牡丹文様Ⅱ 内院御殿A>。板目の横線ほとんど目立たない。	Ⅲ層下 (詳細下部)	石積み6・イビ間北1層
387	朝鮮系瓦	軒丸瓦	灰色系 (褐色)	-	2.3	-	<牡丹文様Ⅱ 内院御殿A>。板目の中央の横線がやや見られる。	Ⅱ層 (詳細外側)	石積み6南側3層
388	朝鮮系瓦	軒丸瓦	赤色系	-	2.2	-	<牡丹文様Ⅱ 内院御殿A>。板目の中央と下方の横線が顯著。	Ⅲ層下 (詳細下部)	石積み6・イビ間周3層
389	朝鮮系瓦	軒丸瓦	赤色系	-	3.2	-	<牡丹文様Ⅱ 内院御殿B>。板目の中央の横線がやや見られる。	Ⅲ層下 (詳細下部)	石積み6・イビ間2層
390	朝鮮系瓦	軒丸瓦	灰色系	-	2.0+	-	<牡丹文様Ⅱ 天界寺D>。下方の文様が不鮮明。	Ⅳ層 (階段1東側下部)	石積み7下1・2層
391	朝鮮系瓦	軒丸瓦	赤色系	-	3.3	-	<牡丹文様Ⅳ 内院御殿E>。	1層	表土
392	朝鮮系瓦	軒丸瓦	赤色系	-	2.5	-	<牡丹文様Ⅳ 観音門・丸蔵門②>。表面の剥離が激しい。軒丸部裏面と丸瓦部上方にわずかに漆喰付着。	Ⅲ層下 (詳細下部)	石積み6・イビ間周5・6層
393	朝鮮系瓦	軒平瓦	灰色系	-	5.5	-	<牡丹文様Ⅰ 湧出古窯A>。軒平部上方に漆喰付着。平瓦部に横線紋が僅か〇〇点に。	Ⅳ層 (階段1東側下部)	石積み7下2層
394	朝鮮系瓦	軒平瓦	灰色系	-	4.5	-	<牡丹文様Ⅰ 西のアザナB>。平瓦部に横線紋が僅か〇〇点。	Ⅱ層 (詳細外側)	石積み6南側3層
395	朝鮮系瓦	軒平瓦	灰色系 (褐色)	-	4.2+	-	<牡丹文様Ⅰ 西のアザナC>。	Ⅱ層 (詳細外側)	石積み6南側3層
396	朝鮮系瓦	軒平瓦	灰色系 (褐色)	-	6.3	-	<牡丹文様Ⅰ 用物置A>。平瓦部に横線紋が僅かナグ出た跡あり。	Ⅳ層 (階段1東側下部)	石積み7下1・2層
397	朝鮮系瓦	軒平瓦	灰色系	-	4.4	-	<牡丹文様Ⅱ 木瓦門D>。平瓦部と軒平部の接合部の横ナグが顯著。	Ⅲ層下 (詳細下部)	石積み6・イビ間周3層
398	朝鮮系瓦	軒平瓦	赤色系	-	5.5	-	<牡丹文様Ⅱ 木瓦門C>。軒平部にスス。平瓦部に漆喰のわずかに付着。	Ⅱ層 (石積み5外側)	八トレンナ3層
399	朝鮮系瓦	軒平瓦	灰色系	-	4.5	-	<牡丹文様Ⅱ 天界寺D>。平瓦部上面の凹凸が顯著。	1層	表土
400	朝鮮系瓦	軒平瓦	赤色系	-	4.6	-	<牡丹文様Ⅱ 内院御殿A>。板目の横溝が中央と下方に見ええる。	Ⅲ層下 (詳細下部)	石積み6・イビ間周2層
401	朝鮮系瓦	軒平瓦	灰色系 (褐色)	-	4.7	-	<牡丹文様Ⅱ 天界寺C>。平瓦部は彫刻付。全長22.0cm。広縁幅3.0cm。底縁幅3.0cm。横縁幅3.0cm。	Ⅲ層下 (詳細下部)	石積み6・イビ間北1層
402	朝鮮系瓦	軒平瓦	赤色系	-	3.5	-	<牡丹文様 下之御殿A?>。花芯は軒丸瓦の牡丹文様面に類似している。裏面や平瓦部のナグはやや多い。	Ⅲ層下 (詳細下部)	石積み6・イビ間周5・6層
403	朝鮮系瓦	丸瓦	灰色系	-	1.8	-	玉縁部長5.0cm。	Ⅱ層 (詳細外側)	石積み6南側2層
404	朝鮮系瓦	丸瓦	青灰色系	-	2.1	-	白色粉が多く盛り、胎土がツブツブ状になっている。	1層	表土
405	朝鮮系瓦	丸瓦	赤色系	-	2.7	-	玉縁部長5.0cm。凸面の上から側縁に漆喰が付着。漆喰は面をもっている。	1層	平礎3南側階段
406	朝鮮系瓦	道具瓦	赤色系	-	5.25	-	雲形。全容不明。	Ⅲ層下 (詳細下部)	石積み6・イビ間周6層

第55表 遺物観察表(15)

遺物 番号	種類	器形等	細分類	口径 (長軸)	器高 (厚さ)	直径 (短軸)	観察事項	地点・層序	出土地詳細
407	埴	正方形	灰色系	-	4.2	26.2	右面のみ灰白色、他面は黒灰色。左面平滑。	Ⅲ層下 (御蔵下部)	石塚み6南側2層
408	埴	正方形	灰色系	-	4.0	25.2	灰白色。左面平滑。	Ⅲ層下 (御蔵下部)	石塚み6南側3層
409	埴	正方形	赤色系	-	4.2	-	褐色。左面平滑。	Ⅱ層 (石塚み5外側)	Aトレンチ1層
410	埴	正方形	赤色系	-	4.1	-	褐色。左面平滑。	Ⅱ層 (石塚み5外側)	Aトレンチ7層
411	埴	正方形	灰色系	-	3.8	17.3	灰色。左面平滑。スタンプ丸印い「大三」。	Ⅲ層下 (御蔵下部)	石塚み6・イビ間北1層
412	埴	正方形	灰色系	-	3.7	-	灰色。左面平滑の上上面をもつ埴埴付着。下側縁にへう抜き3本縁を斜縁する。	Ⅲ層下 (御蔵下部)	石塚み6南側3層
413	埴	正方形	灰色系	-	3.8	-	灰色。左面平滑。割面に石灰質(埴埴?)付着。下側縁にへう抜き4本縁で四角印い×印。	Ⅲ層下 (御蔵下部)	石塚み6南側2層
414	埴	正方形	灰色系	-	4.2	-	灰色。一部黄褐色。左面平滑。下側縁にへう抜き3本縁で縦2本に横1本を文様。	Ⅱ層 (御蔵外側)	石塚み4東側3層
415	埴	正方形	赤色系	-	4.5	22.6	褐色。左面平滑。割面に1本。右面凹凸のある埴埴付着。下側縁にへう抜き2本縁でY字状。	Ⅰ層	表土
416	埴	正方形	赤色系	-	4.1	-	褐色。左面あまり平滑ではなく、スス付着。下側縁にへう抜き2本縁×印。	Ⅲ層上 (御蔵上部)	石塚み1・4間1層
417	埴	長方形	灰色系	-	4.25	15.4	黄褐色。全面埴埴付着だが、左面が顕著。	Ⅰ層	表土
418	埴	三角形	灰色系	24.9	4.3	(24.4+)	黒灰色。左面平滑。頂点から斜縁。左側縁のへう抜きは浅いため、意識的なものかは不明。	Ⅱ層 (石塚み5外側)	Aトレンチ7層
419	埴	三角形	灰色系	24.9	4.9	-	灰色。左面はあまり平滑ではない。	Ⅲ層下 (御蔵下部)	石塚み6南側2層
420	埴	三角形	赤色系	(24.5)	4.2	(23.3)	黄褐色。ほぼ完品。200g。左面平滑。	Ⅱ層 (石塚み5外側)	Aトレンチ7層
421	埴	三角形	赤色系	-	4.3	-	褐色。左面は平滑でなく、スタンプ丸印の「大」。	Ⅲ層下 (御蔵下部)	石塚み6・イビ間北1層
422	埴	組み合わせ式	灰色系	-	7.3	-	灰色。	Ⅱ層 (御蔵外側)	Cトレンチ3層
423	埴	組み合わせ式	灰色系	-	3.1	-	灰色。一部褐色。	Ⅳ層 (階段1東側下)	Bトレンチ北壁
424	埴	長方形	灰色系	-	4.4	-	左面にスタンプによる文様。	Ⅱ層 (石塚み5外側)	Aトレンチ2層
425	埴埴製品	筒状	-	12.5	7.5	11.0+	筒状ではあるが、内面は凹凸がある。外面は平滑なので、こちらは裏面出と思われる。	Ⅱ層 (石塚み5外側)	Aトレンチ2層
426	埴埴製品	筒状	-	12.0	5.2	11.8	完品。800g。外面は指オキによる整形か。	Ⅲ層下 (御蔵下部)	石塚み6南側3層
427	埴埴	-	-	11.0	2.5	7.7	丸瓦の連絡部に付着していたものか。	Ⅰ層	表土
428	埴埴	-	-	10.9	3.5	8.8	丸瓦の連絡部に付着していたものか。	Ⅲ層下 (御蔵下部)	石塚み6南側2層
429	埴埴	-	-	12.5+	2.9	11.5+	明礬系灰色平瓦の上面に付着。埴埴上面は緩やかな面をもつ。	Ⅱ層 (石塚み5外側)	Aトレンチ2層
430	埴埴	-	-	17.0+	6.5	12.2+	明礬系灰色平瓦片を含む。左面は平瓦の付着面。上方3面は平滑な面あり。右面は面をもつ。	Ⅱ層 (石塚み5外側)	Aトレンチ2層
431	埴埴	-	-	20.8+	8.4	15.0+	明礬系灰色平瓦の上面に付着。上面は緩やかな面をもつ。	Ⅱ層 (石塚み5外側)	Aトレンチ3層
432	埴埴	-	-	12.5	4.2	6.8+	半円状に整形か。右面は2+所の何らかの付着面。	Ⅱ層 (御蔵外側)	石塚み4東側3層
433	埴埴	-	-	10.5	3.4	4.8+	半円状に整形か。右面は3+所の何らかの付着面。	Ⅲ層下 (御蔵下部)	石塚み6・イビ間南1・2層
434	埴埴	-	-	11.1+	1.8	11.0+	左面に幅1cmで丸底状の溝5本。右面平滑。	Ⅲ層下 (御蔵下部)	石塚み6・イビ間南4層
435	埴埴	-	-	7.8+	3.6	6.5+	左面に幅5mmの溝が格子状。左面下側。右面。下側縁も平滑。	Ⅲ層下 (御蔵下部)	石塚み6・イビ間南1・2層

第56表 遺物観察表(16)

遺物 No.	種類	形状等	細分類	口径 (長軸)	器高 (厚さ)	底径 (短軸)	観察事項	地点・層序	出土地詳細
436	漆喰	-	-	19.0+	5.5	14.5	左面に丸瓦の付着痕1ヶ所、平瓦の付着痕2ヶ所、右面は平滑。	I層	表土
437	漆喰	-	-	30.5	7.7	19.0	左面に板目状の付着痕、右面は平滑ではない面と上方に平瓦の付着痕あり。	II層 (石積み5西側)	Aトレンチ3層
438	漆喰	-	-	25.5+	11.0	20.0+	左面に4ヶ所の付着痕、右面は平滑で、右下方の傾斜は平円状に整列。	II層 (石積み5西側)	Aトレンチ2層
439	漆喰	-	-	28.0+	10.0	9.0+	円柱状の漆喰、左面は幅1.5cmの付着痕が6ヶ所あり、平瓦が覆われれ取り付いていたものか。	II層 (跡留外側)	石積み4東側3層
440	木土層 近代陶磁器	洗面台	-	-	-	-	白磁製洗面台の下層、下層には排水口、上層には突起部が一部残存。ロゴマークから東洋陶器株式会社の商品と30~35年製品と推定。	I層	表土

※法量の( )は推定、+は破片の場合。銭貨の財軸は、孔徑。

第57表 遺物全体集計表

合計/点数	層序門北											備註欄	合計	重量(㎏)	
	I層		II層		III層上		III層下		IV層		V層				
種類/層序	表土他	Eトレンチ	跡留外側	石積み 外側	石積み 外側	Dトレンチ	跡留上部	跡留下部	跡留イビ	階段I 下層	階段I 東側下層	Eトレンチ ピット内			
中国産青磁	660	41	93	17	343	2	69	72	8	141	300	7	1,758	18,9024	
中国産白磁	95	1	24	17	60		9	40	2	24	28	3	303	1,7947	
中国産青花	521	23	205	36	359	9	122	188	13	37	123	14	1,631	15,96436	
中国産陶磁器	61	4	16	7	45		15	31		22	154	1	336	292,44073	
中国産その他の陶磁器	81	1	16	2	31		15	28		10	113	1	200	1,3844	
タイ産陶磁器	36		7		15		12	5	1	8	94		178	104,6262	
タイ産土器		1			1								2	0.1899	
タイ産半練土器	11	1	1	1	4		5	4		11	18		35	0.3959	
ベトナム産色絵					2								2	0.9037	
ベトナム産青花	8				3		1						14	0.9806	
ベトナム産白磁	1										2		3	0.2208	
韓国産倣造青磁											2		2	0.9047	
本土産陶磁器	191	7	81	21	197	1	87	131	9	7	50	8	790	19,94993	
沖縄産陶磁器	780	27	46	12	204		70	149	9	25	38	40	1,400	17,216	
沖縄産陶磁器	942	58	228	56	476	6	130	256	10	13	80	18	2,295	145,3103	
瓦質土器	6	1	9		19	3	7	4	6	4	6		55	18,55785	
陶質土器	329	7	26	9	79		51	142	4	8	6	6	667	8,701	
土器	30	3	14		18	1	5	26	1	11	12	1	125	1,9733	
土製品	2				1		2					1	4	6.4392	
産地不明陶器	107	4	22	3	71		11	23	5	70	201		1	514	13,3949
陶磁器 小計	3,861	178	788	182	1,930	19	612	1,102	62	391	1,137	2	10,368	659,69687	
陶磁器 合計	4,039			2,919			612	1,164		1,528		2	104		
ガラス瓦	21	1	6	3	6		18	4		7	14	1	81	0.8873	
ガラス製品	13		2		2		8	4		1		2	32	0.83199	
石製品	18	1	4		2		3	5			6		39	9.373	
石材(重量のみ)					1								-	8,30707	
石つぼ	4	2			5			1		2			14	1,2374	
煙管	13		6	2	19		3	9	1		1		54	0.3489	
漆(重量のみ)													-	0.5392	
銭貨・銭貨(状態製品)	92	26	19	3	32		251	89	23	69	29		633	0.7636	
銅製品・青銅製品	180	19	109	22	149	7	98	162	4	393	329	3	1,494	9,6239	
円筒状製品	51	7	4	5	27		6	16	3	52	1		172	3,1484	
骨製品	2				1			2		1	3		9	0.891	
埴	65	2	131	6	110		10	37		2	33	1	387	250,639	
漆喰	13		71	6	24		1	20	1		3		139	61,1365	
漆喰製品			1	2	4								7	1.54	
朝鮮系瓦(軒瓦・軒平)	125	3	57	6	62		37	87		2	22	2	403	83,3213	
朝鮮系瓦(丸・平)	366	9	410	80	272	6	126	311	2	23	80		1,585	377,9628	
朝鮮系瓦	15	2	1		1		1			6	6		38	4,5871	
大和系瓦	1	5			1								7	0.7	
貝製品	2		2	2	9		3	3		1	180		214	354,93	
炭(重量のみ)													-	2,4634	
陶磁器他 小計	981	77	823	137	733	13	565	640	31	510	770	4	21	5,305	1150,29719
陶磁器他 合計	1,058			1,706			565	671		1,280		4	21		
全体 小計	4,942	393	1,611	319	2,663	32	1,177	1,742	93	901	1,907	6	128		
全体 総計	5,097			4,625			1,177	1,835		2,808		6	125	15,673	1809,99406

## 12. 貝類遺体 (写真2~4)

貝類遺体は、調査現場において通常の遺物と共に取り上げたピックアップ資料である。貝類の同定は黒住耐二の指導を受け、当センターの標本、出土資料により判断した。巻貝(腹足綱)86種、カニ類1種、ウニ類2種、二枚貝49種を同定した(第58・59・61・62表)。貝類の生息地の分類は黒住耐二の研究に基づいた(第60表、黒住1987)。

第58表 出土貝類遺体(巻貝等)一覧

腹足綱	Gastropoda	生息地別整理
	<b>ユキノボリ科 Lottidae</b>	
1	リュウキュウノアン <i>Patellula saccharina</i>	I-1-a
	<b>ミミズイ科 Helicidae</b>	
2	イボアナゴ <i>Helicis(Sambalio)negra</i>	
	<b>ニホトスガイ科 Trochidae</b>	
3	ニシキウズ <i>Trochus maculatus</i>	I-2-a
4	ムナチキウズ <i>Trochus stellatus</i>	I-3-a
5	ギンタカハマ <i>Trochus pyramis</i>	I-4-a
6	ベニシシダカ <i>Tectus conus</i>	
7	ササキハシライ <i>Trochus sibiricus</i>	I-4-a
8	オキナフインダタ <i>Modiolus labio</i>	II-1-b
	<b>ツラツラ科 Tridacnidae</b>	
9	リュウアンサザエ <i>Turbo perulatus</i>	I-4-b
10	ヤツウガイ <i>Turbo (Lanatica) marmoratus</i>	I-4-a
11	ヤツウガイの蓋 <i>Turbo (Marmorostoma) argyrostoma</i>	I-4-a
12	チャウセンサザエ <i>Turbo (Marmorostoma) argyrostoma</i>	I-3-a
13	チャウセンサザエの蓋 <i>Turbo (Marmorostoma) stenogyrus</i>	I-3-a
14	コシダカサザエ <i>Turbo (Marmorostoma) stenogyrus</i>	I-2-a
15	カンベク <i>Lamella coronata coronata</i>	II-1-b
16	カンベクの蓋 <i>Lamella coronata coronata</i>	II-1-b
17	オウウラウズ <i>Astralin rhodostoma</i>	I-2-a
	<b>アマノボリ科 Neritidae</b>	
18	マンボクアマノボリ <i>Nerita undulata</i>	II-0-a
19	キバノボリ <i>Nerita plicata</i>	I-0-a
20	マンボクアノボリ <i>Nerita squamulata</i>	II-1-b
21	アマノボリ <i>Nerita albicilla</i>	I-1-b
22	ニシキアマノボリ <i>Nerita (Linerata) polita</i>	I-1-c
	<b>オニノボリ科 Cerithiidae</b>	
23	オニノボリ <i>Cerithium modiolium</i>	I-2-c
24	オニノボリ <i>Cerithium columanum</i>	I-2-a
25	コガツノボリ <i>Cerithium (s.l) conus</i>	II-1-c
26	イワカニモリ <i>Cyproneura bailliarisfermis</i>	II-1-b
27	クワハカニモリ <i>Cyproneura petrosa chemnitziana</i>	I-1-b
	<b>ウニ科 Batillariidae</b>	
28	イボウニ <i>Batillaria zonalis</i>	II-1-c
	<b>トゲトゲコナ科 Thiaridae</b>	
29	スダカウニ <i>Thiaria uniformis</i>	VI-0
30	ヌメカウニ <i>Malacoides tuberculatus</i>	
	<b>フナボリ科 Potamididae</b>	
31	カワズ <i>Cerithiopsis djidjensis</i>	II-1-c
32	マドモチウニ <i>Terebralia sulcata</i>	II-1-c
33	キウウニ <i>Terebralia parvula</i>	II-0-c
34	センニンゴ <i>Terebralia telescopium</i>	II-0-c
	<b>スシノボリ科 Strombidae</b>	
35	オボロガイ <i>Strombus urceus</i>	II-2-c
36	マダギガイ <i>Strombus luhuanus</i>	II-2-c
37	ムクナカト <i>Strombus matilis</i>	I-2-c
38	ビコウ <i>Strombus laticinctus</i>	I-4-c
39	ラモガイ <i>Lamto lamto</i>	I-2-c
	<b>XX科 Hippocididae</b>	
40	アブキクスズメ <i>Hippocia acuta</i>	I-3-a
	<b>ツツコ科 Cypridae</b>	
41	ヤシラマダカ <i>Cypraea (Arabia)arabica</i>	I-2-a
42	ホンヤシラマダカ <i>Cypraea (Arabia)eglectina</i>	II-2-a
43	ホンマダカ <i>Cypraea s. albigis</i>	I-2-a
44	ホンキヌダ <i>Cypraea(Mystopoda)stellus</i>	I-2-a
45	カバマダカ <i>Cypraea caurica caurica</i>	
46	コシダカ <i>Cypraea erosa</i>	I-1-a
47	ハナシラマダカ <i>Cypraea amida</i>	I-1-a
48	キイロダカ <i>Cypraea (Erosaria) moneta</i>	I-1-a
49	ハナマルコキ <i>Cypraea caputserpentis</i>	I-3-a
50	ウスマツサキ(5・6・7)ダカ <i>Cypraea pallidula</i>	II-2-b
51	ホウレンノタマガイ <i>Natica gasteriana</i>	II-1-c
	<b>オキ科 Burididae</b>	
52	オキコシ <i>Bursa bafnisi dunkeri</i>	I-3-a
	<b>トウカムリガイ科 Cassidae</b>	
53	トウカムリ <i>Cassia cornuta</i>	
	<b>ツツコ科 Ranellidae</b>	
54	ヒツコボロ <i>Cymatium niobarium</i>	I-2-a
55	シオボロ <i>Cymatium muricinum</i>	I-2-a
56	ホウガイ <i>Charonia tritonis</i>	I-4-a
	<b>ツツコ科 Muricidae</b>	
57	ガンセキボロ <i>Chicoreus (Triplea) brunnea</i>	I-4-a
58	セウウネイシゲダン <i>Cromis crassirostrata</i>	II-1-b
59	ハナフレイシ <i>Nassa fuscolina</i>	I-3-a
60	ツルハシ <i>Marsicella tuberosa</i>	I-3-a
61	シラクモガイ <i>Thais (Stramonita) amigera</i>	I-3-a
	<b>オコニコプラン科 Vastidae</b>	
62	オコニコプラン <i>Vasum turbidulum</i>	I-3-a
	<b>カサガイ科 Nassariidae</b>	
63	ヨフバイモドク <i>Strophobaculum</i>	
	<b>スズベ科 Buccinidae</b>	
64	シマベッコウバイ <i>Jeputhria cingulata</i>	II-1-c
	<b>イモガイ科 Fasciolaridae</b>	
65	イモガイ <i>Pleurofusa trapezium</i>	I-2-a
66	ナガイモガイ <i>Pleurofusa filamentosa</i>	I-2-a
67	リュウキュウフマナク <i>Littorina (Littorinops) polygama</i>	I-3-a
68	サトセガイ <i>Fusinus niobarium</i>	I-2-c
	<b>イモガイ科 Conidae</b>	
69	ナンヨウクロヒシ <i>Conus(Sharnoreus)</i>	II-2-c
70	クロフモドク <i>Conus(Libicoccus)leopardus?</i>	I-2-c
71	ウツガイ <i>Conus (Virgicomus) elaeus</i>	I-1-a
72	サヤガイ <i>Conus millaris</i>	I-1-a
73	ヤキガイ <i>Conus(Pinoconus)magus</i>	I-2-c
74	カバヒシ <i>Conus(Ohiocoma)venillum venillum</i>	I-4-b
75	キヌカツガイ <i>Conus (Virgicomus) flavus</i>	I-2-a
76	キセモ <i>Conus (Virgicomus) emaciatum</i>	I-2-a
77	ヤナギンボリ <i>Conus(Ohiocoma)lividus</i>	I-2-a
78	イボシマイ <i>Conus(Virgicomus)lividus</i>	I-2-a
	<b>ツツコ科 Bullidae</b>	
79	ツツコ <i>Bulla ventricosa</i>	I-2-c
	<b>キヌガイ科 Clausiidae</b>	
80	ツツコセルガイ <i>Luchaphaedusa p. praecleara</i>	V-8
	<b>ヤシラ科 Cyclophoridae</b>	
81	オキナフヤマタコシ <i>Cyclophorus turgidus turgidus</i>	V-8
	<b>アツカイ科 Achatinidae</b>	
82	アブリカマイマイ <i>Achatina fulica</i>	V-9
	<b>ナンノマイ科 Cananidae</b>	
83	シシマイマイ <i>Succinea mercatoria mercatoria</i>	V-8
	<b>オキナフ科 Bradybaenidae</b>	
84	オキナフウスカフマイマイ <i>Acusta despecta despecta</i>	V-9
85	ハンダナマイマイ <i>Bradybaena cirrulus</i>	V-9
86	シシケマイマイ <i>Aegista siphonitiformis</i>	
	<b>節足動物門 Arthropoda</b>	
	軟甲綱 Malacostraca	
87	カニ類	-
	<b>棘皮動物門 Echinodermata</b>	
	ウニ綱 Echinoida	
	<b>ナガウニ綱 Echinoida</b>	
88	ハイブリ <i>Heterocentrotus mamillatofuspinus</i>	I-3-a
89	ウニ類のヒゲ	
	<b>軟体動物門 Mollusca</b>	
	頭足綱 Cephalopoda	
	<b>ツツ科 Sepiidae</b>	
90	コウイカ <i>Sepioida</i>	-

第 59 表 出土貝類遺体 (二枚貝) 一覧

二枚貝綱 Bivalvia		生息場所類型
フナギ科 Arcidae		
1 フネガイ	<i>Arca avellana</i>	I-2-a
2 オオタカノハガイ	<i>Arca ventricosa</i>	
3 エガイ	<i>Barbatia (Abarbatia) lima</i>	I-1-a
4 カリガネエガイ	<i>Barbatia viridescens</i>	II-1-a
5 ベニスエガイ	<i>Barbatia (Lutularca) fissa</i>	I-2-a
6 ムウキウケウサルボオ	<i>Anadara antiquata</i>	II-2-c
7 ハイガイ	<i>Tegularca granulosa</i>	II-2-c
タマキガイ科 Glycymerididae		
8 ウチワガイ	<i>Tuostoma aurifera</i>	II-2-c
イダギ科 Mytilidae		
9 ムウキウケウヒナガイ	<i>Modiolus auriculatus</i>	I-1-a
ツツミ科 Pteridae		
10 ヒリアオリ	<i>Pteroda penanense</i>	I-1-a
11 カインゾリノ一種	<i>Isognomon sp.cf.perna</i>	-
イサギ科 Pectenidae		
12 ナゾレコガイ類	<i>Chama irregularis sp.</i>	-
13 ヒナケンチャガ類	<i>Decatopecten plicata sp.</i>	VI-12
14 イタヤガイ	<i>Pecten albicans</i>	VII (I-4-c)
ウミズギ科 Spondyliidae		
15 マンガイ類	<i>Spondylus sp.</i>	-
イサギ科 Ostreidae		
16,17 シマガキ	<i>Crassostrea lineata</i>	II-2-c
18,19 ニセマゴキ	<i>Crassostrea echinata</i>	II-1-b
20 オハダロガキ	<i>Scaphostrea murifax</i>	I-1-a
ツツミ科 Lucinidae		
21 ウウキツツガイ	<i>Codakia peytemorum</i>	II-2-c
キナガキ科 Chamidae		
22 ヒレインコ	<i>Chama lazarus</i>	
23 シロザル	<i>Chama brassica</i>	I-1-a
24 キタザル類	<i>Chama sp.</i>	-
25 カネツツザル	<i>Chama lotoma</i>	I-1-a

ザルガイ科 Cardidae		生息場所類型
26 ムズミザル	<i>Vegricardium compactum</i>	
27 ムウキウケウザル	<i>Reginaria favosus</i>	II-2-c
28 カワラガイ	<i>Fragum utedo</i>	II-2-c
シヤボガイ科 Tridacnidae		
29 シヤボウ	<i>Hippepus hippopus</i>	I-2-c
30 ヒメジヤコ	<i>Tridacna cruxes</i>	I-2-a
31 ヒメジヤコ	<i>Tridacna squamosa</i>	I-2-c
サマシロガイ科 Mesodematidae		
32 イノハマダリ	<i>Atactodea striata</i>	I-1-c
ムッコウガイ科 Tellinidae		
33 ムウキウケウムッコウ	<i>Quincipeds palatum</i>	II-1-c
34 スノノイチョウシラトリ	<i>Pitaris capaxoides</i>	III-1-c
インシジキ科		
35 マスオガイ	<i>Panostoteus elongata</i>	II-1-c
36 ムウキウケウマスオ	<i>Asaphis violacea</i>	II-1-c
シジキ科 Corbiculidae		
37 シレナシジキ	<i>Geloina eros</i>	I-1-a
マサダガイ科 Venetidae		
38 スノノガイ	<i>Pterolypta psorpera</i>	II-1-c
39 アラスジケマンガイ	<i>Gabarinus tanshin</i>	III-1-c
40 ホツシジキナミガイ	<i>Gabarinus pectinatum</i>	II-1-c
41 ヌクカゲハマダリ	<i>Pitar chlorinus</i>	II-2-c
42 マルオミナエシ	<i>Lionechina castrensis</i>	I-2-a
43 オノイカガシ	<i>Bonaromia histrio</i>	II-2-c
44 イネウケハマダリ	<i>Pitar sulfureus</i>	II-1-c
45 ヒメウケウケウアサリ	<i>Tapes literatus</i>	II-2-c
46 ヒメアサリ	<i>Ruditapes variegata</i>	II-2-c
47 スズレハマダリ	<i>Katalsys japonica</i>	II-2-c
48 ハマダリ類似種	<i>Meretrix sp. cf. lusoria</i>	II-2-c
49 ダツオキシジキ	<i>Cyclina sp. cf. sinensis</i>	III-1-c

第 60 表 貝類の生息場所類型

貝類の生息場所類型	
大区分	亚区等
I 外洋—サンゴ礁域	4 岩礁
II 内湾—軟石域	b 軟石
III 河口—干潟—マンダローブ域	c 砂/泥
IV 淡水域	d 河川礫底
V 陸域	f 植物上
VI その他	
小区分	
0 潮間帯上部	5 止水
1-0 ノッチ	6 淡水
III-0 マンダローブ	7 林内
1 潮間帯中・下部	8 林内・林縁部
2 亜潮間帯上縁部	9 林縁部
1-2 イノー内	10 海浜部
3 干潟	11 打ち上げ物
4 磯斜面	12 化石

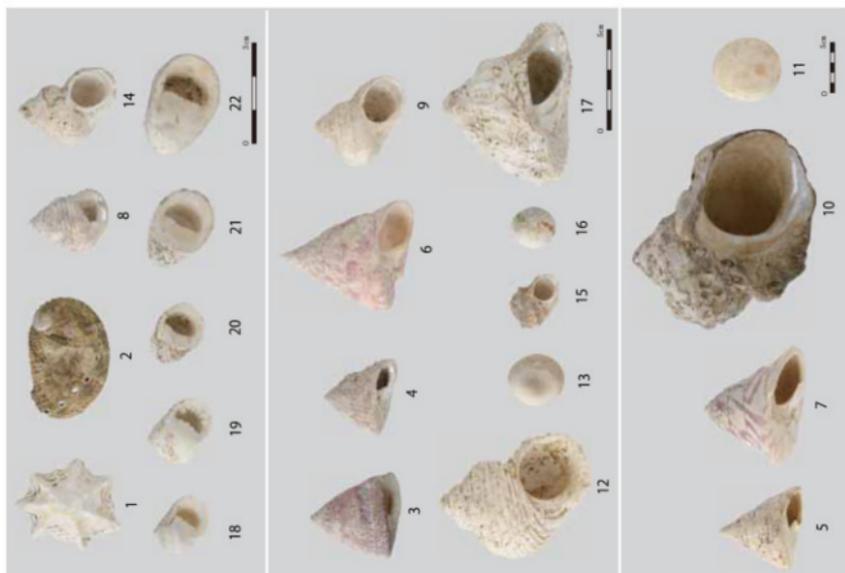
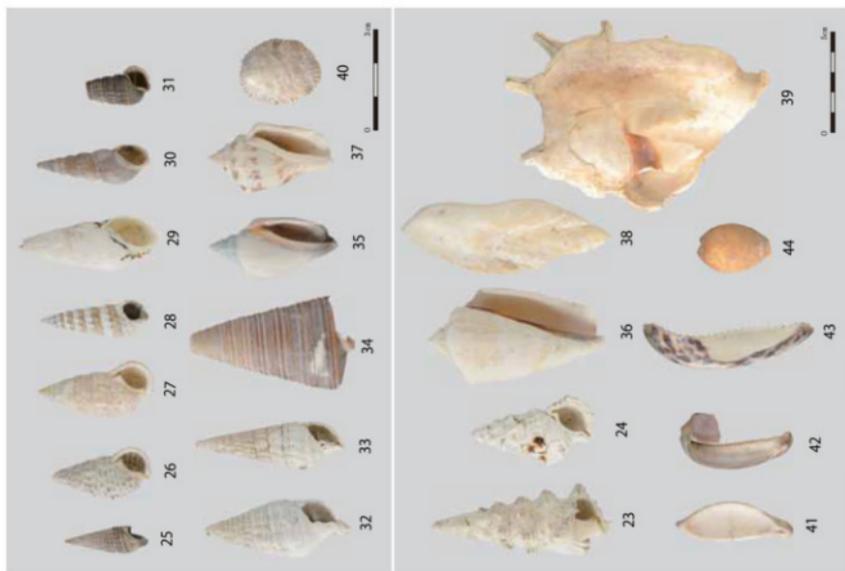


写真2 貝類遺体 巻貝(1) ※番号は第61表と一致





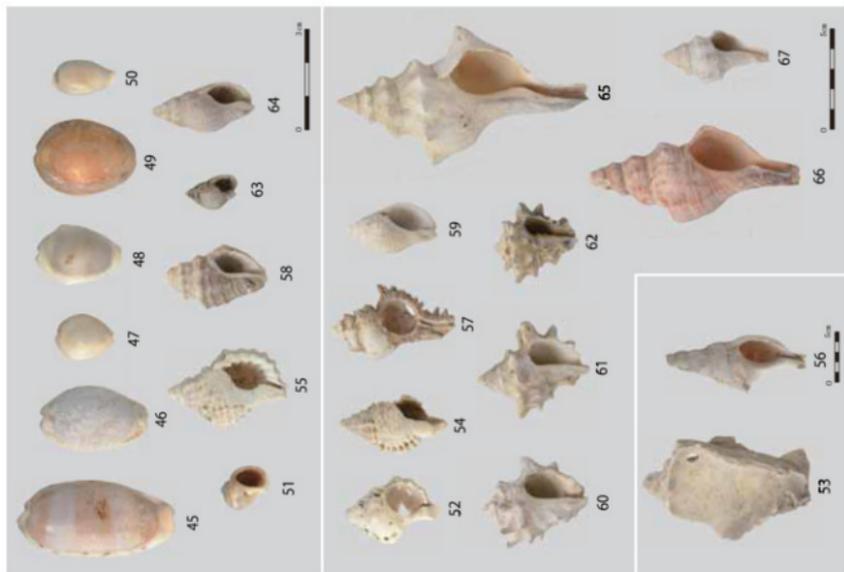


写真3 貝類遺体 巻貝(2) ※番号は第61表と一致



写真4 貝類遺体 二枚貝 ※番号は第62表と一致

### 13. 脊椎動物遺体 (写真5~8)

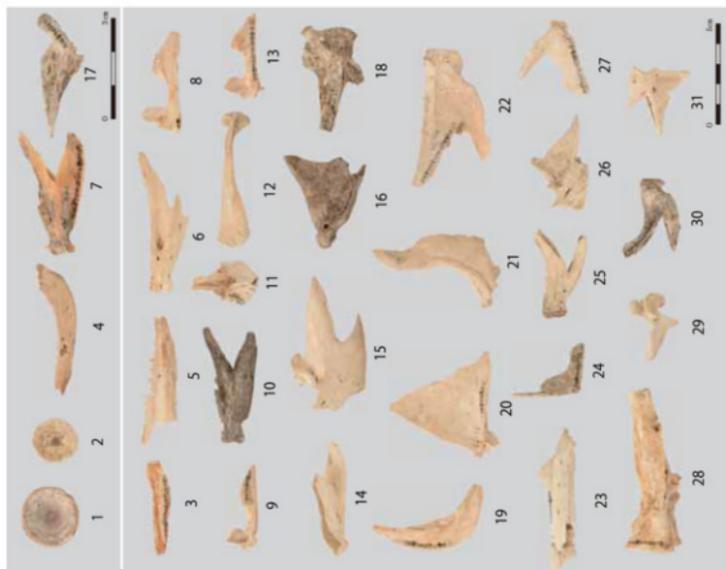
脊椎動物遺体も貝類遺体と同様にピックアップ資料である。種の同定は丸山真史の指導を受け、当センター所蔵の現生標本と県内出土資料の比較により行った。

同定できたものは魚類が軟骨魚綱2分類群、硬骨魚綱40分類群、両生綱1分類群、爬虫綱1分類群、鳥綱5分類群、哺乳綱13分類群、合計62分類群が同定できた(第63~70表)。

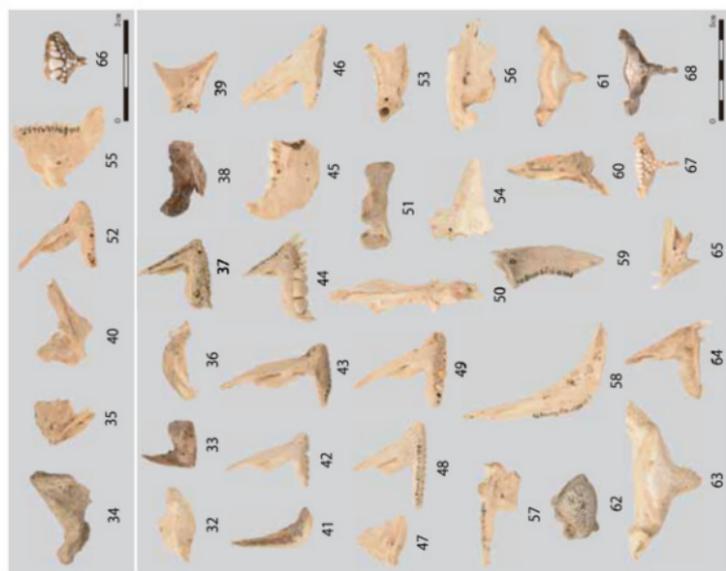
第63表 脊椎動物遺体の種名一覧

軟骨魚綱	CHONDRICHTHYES	硬骨魚綱(つづき)	OSTEICHTHYES(cont.)
サメ類	Lamniformes	ブリダイ科	Scaridae
エイ類	Rajiformes	サバ科	Scombridae
硬骨魚綱	OSTEICHTHYES	マグロ/カツオ類	Thunnus/Katuwonus
ウツボ科	Muraenidae	マグロ属	Thunnus
ダツ科	Belonidae	ニザダイ科	Acanthrinidae
カマス科	Sphyrnidae	ニザダイ科/アイゴ科	Acanthrinidae/Siganidae
マハタ型	cf. <i>Epinephelus</i>	コチ科	Platycephalidae
バラハタ型	cf. <i>Variola</i>	モンガラカワハギ科	Balistidae
ハタ科A	Serranidae A (cf. <i>Epinephelus</i> )	カワハギ類	Stephanolepis
ハタ科B	Serranidae B (cf. <i>Plectropomus</i> )	両生綱	AMPHIBIA
ハタ科	Serranidae	カエル類	Salientia
ハタ科/フエダイ科	Serranidae/Kyphosidae	爬虫綱	RRPTILIA
アジ科	Garangidae	ウミガメ類?	Cheloniidae?
アジ科(大型)	Garangidae(large)	鳥綱	AVES
フエダイ科	Kyphosidae	カモ科	Anatidae (small)
コショウダイ属	<i>Plectorhynchus</i>	カモ科ヒシクイ大	Anatidae Anser fabalis(large)
ヘダイ	<i>Sparus sarba</i>	キジ科	Family Phasianidea
クロダイ属	<i>Acanthopagrus</i>	ニワトリ	<i>Gallus gallus</i>
シロダイ型	cf. <i>G. japonicus</i>	鳥類	Birds
メイチダイ属	<i>Gymnocranius</i>	哺乳綱	MAMMALIA
ヨコシマクロダイ	<i>Monotaxis grandoculis</i>	ネズミ科	Murinae
キツネフエキ	<i>Lethrinus miniatus</i>	イヌ	<i>Canis familiaris</i>
ミナミクロダイ	<i>Acanthopagrus siviculus</i>	ネコ	<i>Felis catus</i>
アマミフエキ型	cf. <i>L. amamianus</i>	イノシシ/ブタ	<i>Sus scrofa</i>
ハマフエキ型	cf. <i>L. nebulosus</i>	ヤギ	<i>Capra hircus</i>
フエキダイ科	Lethrinidae	ウシ	<i>Bos taurus</i>
コブダイ	Asian sheepshead wrasse	ウマ	<i>Equus ferus</i>
シロクラベラ型	cf. <i>Cherodon shoenteinii</i>	ウシ/ウマ	<i>Bos taurus/Equus ferus</i>
タキベラ型	cf. " <i>Bodianus perditio</i> "	クジラ類	Cetacea(large)
ベラ科A	Labridae A	イルカ類	Cetacea(Small)
ベラ科B	Labridae B	哺乳類	Mammalia
ベラ科	Labridae	大型哺乳類	Large mammalia
イロブダイ	<i>Bolbometopon</i>	ジュゴン?	<i>Dugong dugong?</i>
ナガブダイ型	cf. <i>Scarops rubrouiulaceus</i>		

(右段につづく)

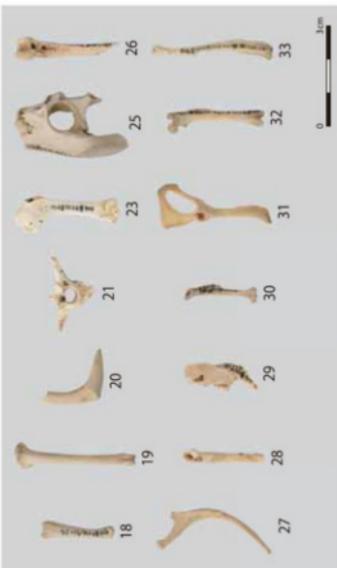
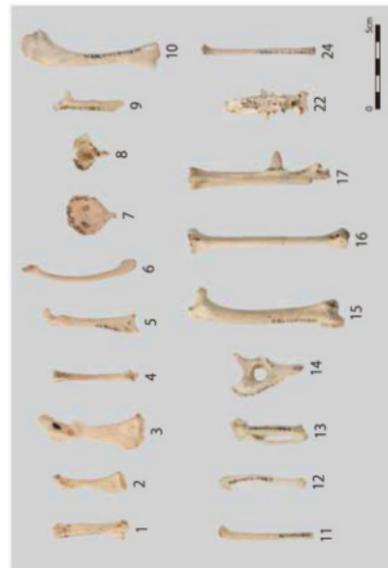


サメ類 上顎骨 エイ類 2. 鹿骨 ウツボ科 3. 左 歯骨 4. 右 歯骨 5. 右 歯骨  
 マハワ型 6. 左 歯骨 バラハワ型 7. 左 歯骨 ハワ科 A 8. 左 歯骨 ハワ科 B 9. 左 歯骨  
 10. 左 歯骨 ハワ科 11. 歯骨 12. 右 主上顎骨 13. 左 主上顎骨 14. 右 歯骨 15. 右 角骨 16. 左  
 口蓋 17. 左 舌骨 18. 左 咽頭骨 20. 右 主上顎骨 21. 左 咽頭骨 アワ科 22. 左 歯骨  
 アワ科 23. 右 歯骨 24. 右 歯骨 25. 右 歯骨 26. 右 内骨 27. 右 方骨  
 28. 右 舌骨 コシヨウグダイ属 29. 左 主上顎骨 30. 左 歯骨 31. 左 角骨

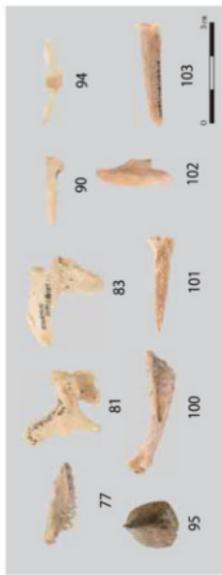


ヘダイ 32. 左 主上顎骨 33. 左 歯骨 34. 左 歯骨 35. 右 方骨 クロダイ属 36. 左 主上顎骨  
 37. 左 主上顎骨 38. 右 歯骨 39. 左 内骨 ヨシマクワグダイ 34. 左 前上顎骨 41. 前上顎骨 シロダイ属 42. 左 前上顎骨  
 メイナダイ属 43. 左 前上顎骨 コシヨウグダイ 44. 左 前上顎骨 45. 歯骨 キウボウエキ  
 46. 左 前上顎骨 47. 咽頭骨 アワ科 48. 左 前上顎骨 49. 左 前上顎骨 50. 左 角骨  
 49. 左 前上顎骨 50. 左 前上顎骨 51. 左 前上顎骨 52. 左 前上顎骨 53. 左 前上顎骨 54. 左 角骨  
 55. 左 方骨 56. 左 口蓋 57. 左 舌骨 58. 左 前上顎骨 59. 左 主上顎骨 60. 左 咽頭骨 コワグダイ 61. 下顎骨  
 シロクラベラ型 62. 左 上顎骨 63. 下顎骨 64. 左 前上顎骨 65. 左 歯骨 タキベラ型 66. 下顎骨  
 ベラ科 A 67. 下顎骨 ベラ科 B 68. 下顎骨

写真5 脊椎動物遺体 (1)



カモ科 1.左 中足骨 2.左 鳥口骨 カモ科ヒシクイダ 3.左 鳥口骨 キジ科 4.左 中足骨 ニワトリ  
 5.左 鳥口骨 6.齧骨 7.胸骨 8.頭蓋骨 9.左 肩甲骨 10.左 上腕骨 11.左 腕骨 12.左 尺骨 13.左 中手骨  
 14.左 翼骨 15.左 大腸骨 16.左 趾骨 17.左 中足骨 鳥類 18.趾骨 19.指骨 20.趾骨 21.頭骨 22.胸骨  
 23.左 上腕骨 24.左 大腸骨 25.左 翼骨 26.左 肩甲骨 27.左 肋骨 28.左 肋骨 29.左 肋骨 30.左 肋骨  
 31.左 上腕骨 32.左 大腸骨 33.左 頭骨



ペウ科 69.左 上腕骨 70.左 前上腕骨 71.左 肱骨 72.左 肩骨 73.左 方骨 74.椎骨 イロブタイ  
 75.右 上腕骨 76.左 肩骨 ナガブタイ型 77.左 上腕頭骨 プライ科 78.左 上腕頭骨 79.下咽頭骨  
 80.神経頭蓋 81.左 主上腕骨 82.左 前上腕骨 83.左 角骨 84.左 方骨 85.左 肱骨 86.左 口蓋  
 87.左 咽頭蓋 88.左 咽頭蓋 89.左 咽頭蓋 90.左 咽頭蓋 91.左 咽頭蓋 92.左 咽頭蓋  
 93.左 咽頭蓋 94.左 咽頭蓋 95.左 咽頭蓋 96.左 咽頭蓋 97.左 咽頭蓋 98.左 咽頭蓋  
 99.左 咽頭蓋  
 モンガワカワハギ科 99.左 前上腕骨 100.左 肩骨 101.肩頭蓋 102.左 肩頭蓋 103.肩頭蓋

写真6 脊椎動物遺体 (2)



イノシシ/シブタ 71. 軸椎 72. 頭椎 73. 胸椎 74. 胸椎 75. 肋骨 76. 左 肩甲骨 77. 左 上肢骨 78. 楯骨  
79. 左 尺骨 80. 左 中手/中足骨 81. 左 第3中手骨 82. 左 第3中手骨 83. 左 第4中手骨 84. 左 第5中手骨 85. 左 第6中手骨 86. 左 第7中手骨 87. 左 第8中手骨 88. 左 第9中手骨 89. 左 第10中手骨  
90. 左 第11中手骨 91. 左 第12中手骨 92. 左 第13中手骨 93. 左 第14中手骨 94. 左 第15中手骨 95. 左 第16中手骨 96. 左 第17中手骨 97. 左 第18中手骨 98. 左 第19中手骨 99. 左 第20中手骨 100. 左 第21中手骨 101. 左 上肢骨 102. 左 上肢骨(MI/M2) 103. 右 下腕骨(M) 104. 右 下腕骨(M2)



イヌ 34. 左 上頤(M) 35. 右 上頤骨 36. 左 中手骨/中足骨 37. 左 中手骨/中足骨 38. 左 中手骨 39. 右 次頤骨  
40. 左 頤骨 41. 左 第3中足骨 42. 右 肋骨 43. 左 上頤骨 44. 左 下頤骨 45. 頤骨 46. 頤骨 47. 頤骨  
48. 頤骨 49. 頤骨 50. 山根 51. 山根 52. 右 尺骨 53. 右 尺骨 54. 左 中手骨 55. 左 第5中手骨 56. 左 第6中手骨  
57. 右 第7中手骨 58. 右 第8中手骨 59. 右 第9中手骨 60. 左 第10中手骨 61. 右 第11中手骨 62. 左 上肢骨  
63. 左 上肢骨(M) 64. 右 上肢骨(M) 65. 左 下腕骨 66. 左 下腕骨(M) 67. 右 下腕骨(M) 68. 左 下腕骨(M2)  
69. 右 下頤(602-093-094-MI) 70. 左 下頤(602-093-094-MI)

写真7 脊椎動物遺体(3)



4年 106.57 肩甲骨 107.左 上頰骨 108.右 尺骨 109.右 翼骨 110.右 大頰骨 111.左 肩骨  
 112.右 肩骨 ウシ 113.左 上頰(AM/A2) 114.左 下頰(MI/A2) 115.左 下頰切痕 116.頰骨  
 117.左 肩骨 118.左 上頰骨 119.左 尺骨 120.右 中手骨 121.左 大頰骨 122.左 頰骨 123.左 肩骨  
 124.左 中足骨 125.中足骨 126.中足骨 127.中足骨 ウマ 128.左 中足手根骨 ウマ 129.椎骨 130.右 上頰骨  
 131.左 中足骨 132.右 尺骨 ウシ/ウマ 133.肩骨 134.左 肋骨 ウシ/ウマ 135.肩 136.椎骨  
 ウシ/ウマ 137.左 イカク類 138.肩 椎骨 139.尾椎 140.左 肋骨

写真8 脊椎動物遺体(4)

第 64 表 脊椎動物遺体集計表 ( 1 )

合計 / 点数			観察門北										書院南	総計	
			1層		2層				3層上		3層下				4層
分類群	部位	注	表土地	E トレント	御膳 外側	石積2 外側	石積5 外側	D トレント	御膳 上部	御膳 下部	御膳 イビ	階段1 下層	階段1 東側下層		
サメ類	椎骨	—	4		1		2					2	31		40
エイ類	椎骨	—										1			1
ウツボ科	歯骨	L										1			1
ダツ科	前上顎骨	L					1								1
	歯	R											1		1
カマス科	歯骨	L			1										1
	歯	R								1					1
カマス科?	椎骨	—										2			2
マハタ型	歯骨	L	1		2		3		1	6			4		21
	歯	R	1		1	1	2			3		2	9		19
バラ/ハタ型	歯骨	L	1		2	1	2			2					7
	歯	R	1		1	1	3								7
ハタ科A	前上顎骨	L			2	2	3			4		1	4		16
	歯	R	1		2	2	3			1			9		18
	歯	L					1					1	4		6
ハタ科B	前上顎骨	R			1				3	1			2		7
	歯	L					3			1			3		6
	歯骨	R			1		1						4		6
	歯骨	—	1							3			1		6
	上上顎骨	L	3		4	1	8			3		2	7		28
	歯	R	4		1	3	8		3	3			10		34
	前上顎骨	L								1			1		2
	歯	R								1			1		2
	歯骨	R	1												1
	角骨	L	2		4	1	3		1	4			6		23
	歯	R	1		3	1	6			6			6		25
	方骨	L	3		2	3	2		1	2		1	9		23
	歯	R	2		3	2	5		2	4			6		24
ハタ科	口蓋	L	1		1	1	1		1	1			1		6
	歯	R			1	1	1		1	1			2		5
	舌顎	L			1	2	8					1	14		26
	歯	R	1		1	1	6		2	1		2	21		34
	前鰓蓋骨	L	1			6	3			5			3		17
	歯	R	2		2	1	4			4		3	3		19
	上鰓蓋骨	L								2			3		5
	歯	R	2	1	1	2				2			2		10
	鰓蓋骨	L	2		2		6			7		1	13		30
	歯	R	2		6	1	1		2	7		2	19		39
	下顎	R													1
	角骨	L	1												1
ハタ科?	鰓椎	—					1								1
	前上顎骨	L								1					1
	歯	R											2		2
	前鰓蓋骨	L					1								1
ハタ科かフエダイ科	主上顎骨	L	1												1
アジ科	歯骨	L					1			1					2
アジ科?	主鰓蓋骨	R				1									1
	鰓椎	—								1					1
アジ科 (大型)	前上顎骨	L					1								1
	前上顎骨	L	1				1								4
	歯骨	L								1			1		3
	角骨	R			3							1	2		6
フエダイ科	角骨	R			1										1
	方骨	L	1												1
	歯	R						1		1					2
	舌顎	L	1				1						1		5
	歯	R				1	1		1						3
	主上顎骨	L	3				4			1			5		13
	歯	R				1	1			2					4
コショウダイ属	歯骨	L											1		1
	歯	R			1	1				1			2		5
	角骨	L											2		2
	歯	R					1						1		2
	主上顎骨	L											2		2
	歯	R					2		1						3
ヘダイ	前上顎骨	L											2		2
	歯骨	L										1			1
	歯	R											1		1
	方骨	R													1

第 65 表 脊椎動物遺体集計表 (2)

合計/点数			新宮門北										豊原南	総計
分類群	部位	LR	I層			II層			III層上		III層下			
			表土物	E トレンチ	脚盤 外側	右積2 外側	右積5 外側	D トレンチ	脚盤 上部	脚盤 下部	脚盤 イビ	階段1 下層	階段1 裏側下層	豊原南
クロゲイ属	上上顎骨	L	1				2		1	1		1	9	15
		R	1				1						2	4
	前上顎骨	L	2		1	4					2	1	2	10
		R	3			4	1				2	1	3	14
	歯骨	L							1			2	10	13
		R	3		1	1	1			1		2	5	14
	角骨	L										1	1	2
	舌顎骨	R											1	1
前鰓蓋骨	L											2	2	
	R											1	1	
シロゲイ型	前上顎骨	L										1	1	
		R			3		1						1	5
メイチゲイ属	前上顎骨	L								1			2	
		R				1	1			1			3	
ヨコシマクロゲイ	前上顎骨	L										2	3	
	歯骨	R	1										1	
キツネフエフキ	前上顎骨	L								1			1	
	方骨	R											1	
アマミフエフキ型	前上顎骨	L			2		1					1	3	
		R					2					1	3	
ハマフエフキ型	前上顎骨	L	6		4	4	23					3	37	
		R	7		2	5	13					6	46	
フエフキ目	顎楔骨	—			4	1	10		2			2	17	
	上上顎骨	L	7		6	3	10			3		6	14	
フエフキ目	上上顎骨	R	5		1	2	8		1	4		3	23	
	前上顎骨	L					2			4		2	8	
フエフキ目	前上顎骨	R					1					1	1	
	歯骨	L	5		5	3	14		3	9	1	4	34	
フエフキ目	歯骨	R	3		1	5	12		3	10	1	3	27	
	角骨	L	3		4	2	8		1	6		2	19	
フエフキ目	方骨	L	2		3	3	8			2		2	15	
		R	3		3	8	3		2	6		4	27	
フエフキ目	口蓋	L	10		2	9	13		2	6		7	33	
		R	6		3	6	20		1	6		8	33	
フエフキ目	舌顎	L			3	8	12		3	3		3	21	
		R	4		2	1	6		2	8		3	19	
フエフキ目	前鰓蓋骨	L	1		3	1	2					2	7	
		R	3		2	10	3		1	7		1	16	
フエフキ目	主鰓蓋骨	L			2	1	4			3		1	7	
		R	1		2	2	2		1	3		1	10	
フエフキ目	縦鰓骨	L								2			2	
		R			2							2	4	
ゴブダイ	下咽頭骨	—								1			1	
	上咽頭骨	L	1		2		1					1	5	
	下咽頭骨	—	1						2				3	
シロクラベラ型	前上顎骨	L	3		1	1	4					1	9	
		R	2				6			5		3	11	
	歯骨	L				1	1					1	3	
タキベラ型	下咽頭骨	—				1	2		1				4	
	下咽頭骨	—			1				1				2	
ベラ科A	下咽頭骨	—				2	1		1	2			6	
	下咽頭骨	—				2			1				5	
ベラ科B	上上顎骨	L					2						2	
		R			1		1			3		1	6	
ベラ科	前上顎骨	L					1						1	
		R			3		4						7	
ベラ科	前上顎骨or 歯骨	L											1	
		R											1	
ベラ科	歯骨	L	3			1	1			1			6	
		R	2		2		1		1	2		2	12	
ベラ科	角骨	L			1								1	
		R					1			1			2	
ベラ科	方骨	L					1						1	
		R	1			1	1			1			5	
イロブダイ	縦骨	—			1								1	
	上咽頭骨	R	2										2	
イロブダイ	歯骨	L			1								1	

第 66 表 脊椎動物遺体集計表 (3)

分類群	合計/点数		観察門北										観察南	総計	
	部位	L/R	I 層		II 層					III 層上	III 層下				IV 層
			表土性	E トレンチ	側面 外側	石積2 外側	石積3 外側	D トレンチ	側面 上部	側面 下部	側面 イビ	階段1 下層	階段1 裏側下層		
ナガブダイ型	上咽頭骨	L											3		3
	上咽頭骨	L										3	2		5
	上咽頭骨	R	1			1	1				1		1		5
	下咽頭骨	—			1				1		2				7
	神経線維	—									1				1
	主上顎骨	L	1								2				6
	主上顎骨	R									1				9
	前上顎骨	L			3	1					4		3	14	25
	前上顎骨	R			1		2					3	18		26
	角骨	L				1	1								3
	角骨	R													2
	ブダイ科	方骨	L	1						1					13
方骨		R						1					2	10	14
歯骨		L	2		1	1			1		3	3	12		23
歯骨		R	1				7			2		1	10		21
口蓋		L	3			1	1					1	3		9
口蓋		R											2		2
舌顎		L					1				3				4
舌顎		R												2	2
前顎蓋骨		L									1				1
前顎蓋骨		R			1										2
主顎蓋骨		L	1								1				7
主顎蓋骨		R			1		1				1				6
サバ科	前上顎骨	L								2				2	
	舌顎骨	L											1	1	
マグロ・カツオ類	尾椎	—	1						1					2	
	短頰骨	L				1								2	
ニザダイ科	尾椎	—				1								1	
	短頰	—												2	
ニザダイ科かアイゴ科	尾椎	—	3											4	
	短頰骨	R												1	
コナ科	歯骨	L												1	
	前上顎骨	L								1				1	
モンガラカワハギ科	歯骨	L								1				1	
	腹帯	—					1							1	
	背棘線	—												1	
	歯	—								1				1	
カワハギ類	背棘線	—	1											2	
	頰骨	—			1					1				2	
	前頰骨	—	1				2			1				4	
	主上顎骨	L										1		1	
	主上顎骨	R											2	2	
	前上顎骨	既不明				1								1	
	前上顎骨	R												1	
	前上顎骨 の歯骨	既不明	1											1	
	後側頰骨	既不明	1		3	1	4	1	1	3		3	8	26	
	角骨	—	3											3	
	角骨	R			2		1				1			6	
	方骨	L												1	
方骨	R								1				1		
種不明	歯骨	L					1							1	
	歯骨	既不明			1		2			2				4	
	口蓋	既不明	1									1	1	3	
	口蓋?	既不明			1							1	2	4	
	舌顎	L						2						2	
	舌顎	R												2	
	舌顎	既不明	4		8	15	18		3	12	1	6	24	89	
	前顎蓋骨	L			1					2				5	
	前顎蓋骨	R								2				4	
	前顎蓋骨	L	1							1				4	
	主顎蓋骨	R					1			2				4	
	主顎蓋骨?	既不明			1									3	
	歯骨	—	2		2	1	3		2	6		3	9	30	
	短頰骨	L								2				2	
	短頰骨	R												1	
	短頰骨	—										2		2	
	短頰骨	—					3							3	
	背棘血管間線	—	6		7	3	9		6	12	1	12	26	83	
ウロコ?	既不明												1		
小計		173	1	156	181	417	6	67	334	4	165	748	1	2220	
総計		174		156	181	417	6	67	338	4	165	748	1	2220	

第 67 表 脊椎動物遺体集計表 (4)

合計ノ点数			種別門北										総計		
分類群	部位	左右	I 層		II 層				III 層上		III 層下			IV 層	
			黄土色	E トレンチ	骨髄 件数	石鏡2 件数	石鏡5 件数	D トレンチ	骨髄 上部	骨髄 下部	骨髄 イ匕	階段 I 下層	階段 I 裏面下層		
カエル類	大腸骨?	不明							1						1
ウミガメ類?	甲板?	—	1												1
カモ科	中足骨	L	1			2			1	2			1	1	6
		R								1					1
カモ科ヒシクイ大	鼻口骨	L				1				1					2
		R					1				1				2
キジ科	中足骨	L				2	1	1			1				4
		R									2				2
ニワトリ	鼻口骨	L	1		3	4	9		1	11					6
		R	3		3	3	14		1	13					1
	頰骨	—				1	4		2	6				1	14
		—			1		6	1	1	7					16
	頰蓋骨	—			1										1
		—													1
	翼甲骨	L				1	5		1	14			1	1	23
		R	3		2	5	6			6				1	25
	上腕骨	L	2		4	2	8		1	17			1	2	37
		R	2		1	10	9		1	22					9
	橈骨	R	2		2	2	5		2	9			1	1	25
		L	4		1	8		2	13			2	2		34
	尺骨	R	3		1	6	19		1	7			2	5	44
		L	2		1	4		1	2						10
	中手骨	R	3			1	5		1	4			1		15
		L					2			5					7
	掌骨	L	5		2	2	9		3	21		1			4
		R	5		1	5	10		1	15					5
	跗骨	L	3		2	6	3		4	7			1	3	20
		R			2	1	7			8			2		20
中足骨	L	3		3	5	3		1	20			1	1	43	
	R	2		5	7	12		2	13				4	45	
鳥類	趾骨	—	1		1	2			3					7	
		—							1						1
	趾骨	—			1	2									3
		—				6				4					10
	腕骨	—	1			4	3			14					22
		L	1		1	1								1	4
	上腕骨	R			1				1	5					7
		L	1		2	1	4		1	4			3		15
	橈骨?	不明					1								1
		R	1			1	1			2					4
	跗骨	L	1		2	2	1			5					11
		R			1		1			1				1	4
	趾骨	不明								1					1
		L					1			2					3
助骨	R			1					4					5	
	不明	不明							3					3	
平腕中手骨?	不明	不明			1									1	
	不明	不明												2	
ネズミ	大腸骨	L							1						1
		R					1							1	
ネズミ科	下顎骨	L				3			1						4
		R	1												2
	上腕骨	R					1							1	2
		L								1	1		1		3
	翼骨	R								4					4
		L								6			1		6
	大腸骨	R					2			1					3
		L					3			3					6
跗骨	R	1							6					7	

第 68 表 脊椎動物遺体集計表 (5)

合計ノ点数			巖世門北										総計				
分類群	部位	左右	I 層		II 層					III 層上		III 層下		IV 層			
			表土相	E トレンチ	骨盤 外側	石積2 外側	石積5 外側	D トレンチ	骨盤 上部	骨盤 下部	骨盤 イビ	階層1 下層	階層1 裏側下層				
イス	上顎(M1)	L														1	1
	上顎骨	R					2									1	2
	顴骨	L	1														1
	中手骨・中足骨	L					1										1
	中手骨	L					1										1
	大腿骨	R					1										1
	距骨	L					1									1	2
		R?								1							1
	第3中足骨	L					1										1
	肋骨	R	1														1
イス?	大腿骨	不明									1						1
イス?哺乳類	大腿骨	L								1							1
ホコ	上顎骨	L										1					1
		L										1					1
	下顎骨	R					1			1							2
	環椎	—									1						1
	軸椎	—			1												1
	頸椎	—	1		2												3
	胸椎	—										2					2
	腰椎	—										2					2
	仙椎	—										1					1
	尾椎	—										1					1
	上顎骨	R										1					1
	尺骨	R	1				1										2
	中手骨	L										1					1
		不明								1							1
	寛骨	L										1					1
	距骨	L										1					1
	跗骨	R					1										1
	趾骨	R										1					1
	中足骨	L									1						1
		R									2						2
基節骨	L				1											1	
	R						1									1	
ホコ?	大腿骨	不明					1										1
	肋骨	不明	1														1
イバシ/ブタ	椎骨+尺骨	R									1						1
	上顎骨	L	1				1				1						3
		R					1			1							2
		L					1										1
	上顎(M3)	R					1										1
		不明										1					1
	上顎犬歯	R?	1														1
	下顎骨	L									1						1
		R	1					1									2
	下顎(G)	L															1
		R															1
	下顎(I1)	R															1
		不明	2			1	2										4
	下顎(M2)	L					1										1
		不明	1				1	4									1
	下顎(inc3+inc4M)	R															1
		L															1
	下顎犬歯	不明	1														1
	軸椎	—										1					1
	頸椎	—	3		2	1	4					4					14
	胸椎	—	2		2		2					2					6
	腰椎	—					4				1	4					9
	仙骨	—										1					1
	肩甲骨	L	3			1	3	2			1	2					12
		R	1				2	3									6
	上腕骨	L	4			1	3	3				3					11
		R						4			1	3					8
		L	2				4	4			1	1					8
	脛骨	不明	1				2	3									1
		不明															1
尺骨	L	1				1	1			1	1					5	
	R	2					3				1					6	
中間手根骨	L					1										1	
第2中手骨	L															1	

第 69 表 脊椎動物遺体集計表 (6)

合計ノ点数			種世門北										総計	
分類群	部位	左右	I 類		II 類				III 類上		III 類下			IV 類
			黄土相 E トレンチ		脊椎 外側	石鏡2 外側	石鏡5 外側	D トレンチ	脊椎 上部	脊椎 下部	脊椎 I 区	階段1 下層	階段1 東側下層	
イノシシ/ブタ	第3中手骨	L	1			2			1	1		1		6
		R	2						1					6
	第4中手骨	L				6						2	1	9
		R				1	3		1	1			1	7
	中手/中足	不明												1
		R?												1
	寛骨	L	2											2
		R					2							2
	大腿骨	L	2			1	2				1			6
		R			1		2							3
	膝蓋骨	L				1	1				1		1	4
		R				1	1							2
	距骨	L				1	2			1				5
		R	1			1	2							4
	跗骨	不明									1			1
		L	1			1	4			1			1	8
		R	1			1	4			2	1		1	9
		R?									1			1
	踵骨	L					1							1
		R			2				1	1				6
	R	L	1			1	1							3
		R	1			1	1							3
	橈骨	L				2				1	1			6
		R	1			1	1			2				5
	桡腕手根骨	L				1								1
		R					1							1
	第4趾根骨	L												1
		R												1
	第2中足骨	不明									1			1
		R?												1
	第3中足骨	L					3	1		1	3			8
		R					1	4			1			7
	第4中足骨	L					2					1		3
		R					1	1					2	4
	第5中足骨	L									1			1
		R	1								2			3
	基節骨	L					1	1	1		1	1		6
		R					1	1	1		1	1		6
	一	不明						5				1	2	8
		一					2							2
末節骨	一					3	1			2			6	
	一												1	
跗骨	L	2			1	3	29		9	7		2	24	
	R	7			5	14		4	4			10	44	
	R?	1											1	
	不明						3		1	2			6	
跗骨?	不明											2		
イノシシ/ブタ?	胸椎	一							4	1			5	
	腰椎	一											1	
ヤギ	上顎(M1)	L											1	
		R											1	
	上顎(M1/M2)	L												1
		R												1
	下顎骨(P4)	L	1			1	1				1			5
		R								4				6
	下顎(M2)	L					1							1
		R					1			1				2
	肩甲骨	R?	2											2
		一												1
	上腕骨	L									1			1
		R									1			2
	尺骨	L												1
		R												1
	寛骨	L												1
		R									1	1		2
大腿骨	L					1							1	
	R					1							1	
距骨	不明	3				1	4						8	
	L												1	
距骨	L												1	
	R												1	

第70表 脊椎動物遺体集計表(7)

合計ノ点数			種世門北										総計				
分類群	部位	左右	I 層					II 層		III 層上		III 層下		IV 層			
			表土他	E トレンチ	動物 外形	石積2 外形	石積5 外形	D トレンチ	動物 上部	動物 下部	動物 IC	階段1 下層	階段1 裏側下層				
ウシ	上脛(M1/M2)	L					2								1	3	
		R	2													2	
		不明	2			1	1									4	
	下脛(M1/M2)	L	1													1	1
		下脛切面	L				1									1	1
	脛骨	—				1										1	
	肩甲骨	L					1									2	3
		R														2	2
	上腕骨	L										1				1	1
		R											1			1	1
	尺骨	L											1			1	1
		R											1			1	1
	中手骨	L											1			1	1
		R								1						2	2
		不明				1										1	1
	大趾骨	L											2			2	2
		不明											2			2	2
	脛骨	L											1			1	2
		不明											1			1	1
	踵骨	L					1									1	1
		不明											1			1	1
	中足骨	L							1		1	1				3	3
		不明							1		4	2				7	7
	基節骨	—				2	2	2	2							7	7
中跗骨	—	2				1				4					7	7	
末跗骨	—	1			2	2	2								5	5	
中間手根骨	L							1							1	1	
	不明													1	1	1	
ウマ	軸骨	—						1							1	1	
		R										1			1	1	
	上腕骨	不明	1			1	1	1							4	4	
		R											1			1	1
膝蓋骨	L					1									1	1	
	肋骨	不明					2								2	10	
切歯?	不明	1													1	1	
ウマ?	肋骨	不明									1				1	1	
ウシ/ウマ	椎骨	—						1							1	1	
		L													1	1	
	肋骨	R						1							1	1	
ウシ/ウマ?	下脛切面	不明	1												1	1	
クジラ	歯	—						1							1	1	
	椎骨	—													2	2	
クジラ類	歯	—													1	1	
イルカ類	歯	—													1	1	
哺乳類	脛骨	—						1							1	1	
	L						1								1	1	
大型哺乳類	不明	—	1					2							2	2	
ジュゴン?	不明	—					1	4							5	5	
不明	趾骨	—	2			4	3	3		1	2	1			19	19	
	指骨	—				1	1				1				2	2	
	胸骨	—								1	1				2	2	
	上腕骨	不明	1												1	1	
	基節骨	—						2							2	2	
	肋骨	L						1		1					2	2	
	R														1	1	
	肋骨?	不明						1							1	1	
不明	不明	2	1			3	10		1	6		1		24	24		
小計		131	2	67	132	429	6	106	423	2	25	125		1450	1450		
総計		133			634			106	425	2	190			1450	1450		

## 第4章 首里城跡継世門北地区出土の 銭貨状金製品の科学調査について

杵名貴彦（国立科学博物館 理工学研究部）

### はじめに

首里城跡の3地区（京の内、東のアザナ北、継世門北）から、円形薄板の金製品が出土している。これらは厭勝銭として使用されたと考えられるもので、現在まで県内で出土している同様の資料は、首里城跡以外に斎場御嶽の9点（重要文化財）及び園比屋武御嶽出土の3点と、事例は非常に限られる1）。

本土の金貨を考えた場合、江戸時代の小判は金銀の合金が基本であり、表面の金品位を高めるため薬剤を用いて表面近傍の銀を除去する色付（いろつけ）と呼ばれる技術が用いられてきた。その技術は現時点では戦国時代の蛭藻金においても使用されていることが近年科学調査から判明している2）。

そこで、同様な技術に近い時期の沖縄において使用されているか確認するため、金貨の品位や表面処理技術等について科学調査を行った。その結果について報告する。

### 調査資料

- ・首里城継世門北地区出土 銭貨状金製品 12点

### 調査方法

- ・蛍光エックス線分析による合金主成分の半定量分析

金貨は金銀銅の合金であるため、その含有比率について当館設置のエネルギー分散型蛍光エックス線分析装置 ORBIS PC（アメテック社製）を用いて、ノンスタンダードによるファンダメンタルパラメーター法（FP法）を用いて半定量分析を行った。測定は各資料4点行い、その平均とした。分析条件は、以下の通りである。

管電圧：50kV 感電流：250  $\mu$ A 測定時間：300sec 雰囲気：真空

- ・走査型電子顕微鏡による表面の詳細観察

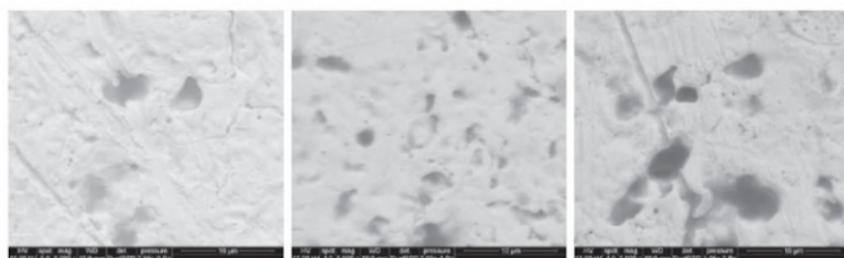
表面処理が行われている場合、走査型電子顕微鏡による微細観察により、その痕跡を確認することができる。そこで、山梨県立博物館設置の走査型電子顕微鏡 Quanta600（FEI社製）を用いて、表面の微細観察を行った。その条件は下記のとおりである。

加速電圧：15kV 雰囲気：真空

### 調査結果及び考察

表1に半定量分析結果を示す。12点は、金品位が低い資料で約70wt%、高いもので90wt%以上とばらつきがあった。その他銅（Cu）は1wt%から4wt%程度、銀（Ag）は10wt%以下から約30wt%近いまで幅がみられた。以上から継世門北地区出土の12点は、幾つかは同じ薄金板から切り抜き加工したのと考えられるが、全て同一材料からの制作品ではないと考えられる。

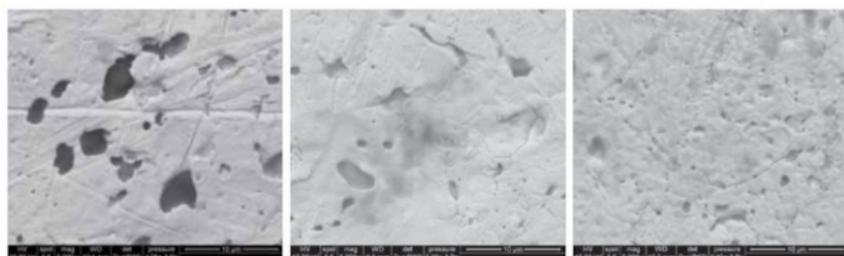
金製品の成分を金-銀合金で考えた場合、金の濃度が80wt%以下になると金色から薄金色となり、70wt%程度になると金色が薄くなりレモン色程度となる。（銅は5wt%以下のため色調に大きな影響はない。）しかし、12点を目視で確認する限り大きな色調の差はみられないことから、表面処理が行われてい



(a) 326 <旧 No275 >

(b) 327 <旧 No276 >

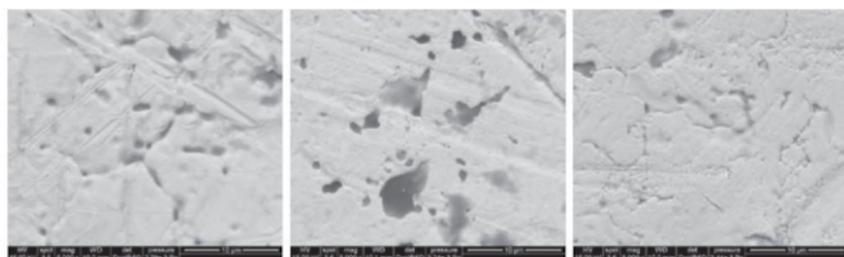
(c) 328 <旧 No277 >



(d) 323 <旧 No278 >

(e) 317 <旧 No279 >

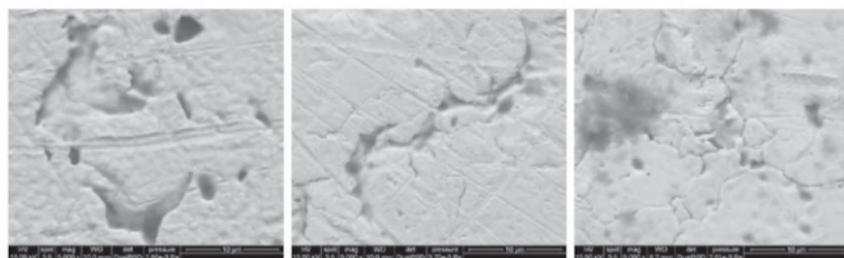
(f) 318 <旧 No280 >



(g) 319 <旧 No281 >

(h) 324 <旧 No282 >

(i) 320 <旧 No283 >



(j) 321 <旧 No284 >

(k) 325 <旧 No285 >

(l) 322 <旧 No286 >

写真9 継世門北地区出土金貨表面の電子顕微鏡画像

る可能性が考えられたため、電子顕微鏡を用いて表面の微細観察を行った。その結果を、写真9に示す。

各資料表面を5000倍で観察した結果、表面に何らかの処理によるとみられる穴や溝状の痕跡らしきものが全ての資料で確認された。写真10には、表面処理の比較事例として山梨県福寺遺跡出土甲州金（山梨県立博物館所蔵）中の蛭藻金の表面画像（5000倍）を示す。

本土で行われた色付と呼ばれる表面処理は、色付薬と呼ばれる薬剤を金銀合金の表面に塗った後に炭を用いて加熱することで、薬剤と表面近傍の金銀合金中の銀を反応させて銀化合物とすることで除去する技術であり、そうすることで表面近傍の金濃度が相対的に高まるため、色調が良くなる技術である。炭での加熱後は水洗で薬剤を除去し、合金表面は反応により銀が除去されることで微細な穴等が生じるため光沢が失われているので、金の光沢を生じさせるためにヘラなどを用いて研磨を行う。

この技術を用いると前述のように表面には微細な穴が生じることから、電子顕微鏡の微細観察により1 $\mu$ m弱から数 $\mu$ m程度の穴が磨き残しの部分で確認できる。写真10は、色付によって蛭藻金の表面に生じた穴である。

今回の銭貨状金製品12点について表面の微細観察では、写真9(d)(h)のように同程度のサイズの穴がみられるもの、(i)(l)の1 $\mu$ m以下の非常に微小な穴や溝状痕跡といった、本土での色付の痕跡とは異なる様相のものもある。本件については、現時点では充分検討可能な状況ではないため、今後も他事例などの調査事例を増やし検討を重ねたいと考える。

## おわりに

今回、首里城跡の継世門北地区から出土した銭貨状金製品12点についてその金属成分や表面処理について調査を行った。その結果、金品位の高い金貨から銀が若干多く含まれるものなどばらつきが見られることから同一の金板材料からの制作品ではないことが考えられた。

また、表面処理について微細観察を行った結果、処理跡らしきものはみられるもののその事例がこれまでと異なることから、さらなる検討が必要と考えられた。

今後も同様な事例を調査することで、沖縄の金属生産技術が明らかになると考えられる。

最後に、本調査の機会を下さりました沖縄県埋蔵文化財センター、及び電子顕微鏡の使用を許可下さりました山梨県立博物館に感謝致します。

## 参考文献

- 1) 沖縄県教育委員会 (2008) 「沖縄の金工品関係資料調査報告書」
- 2) 山梨県立博物館 (2014) 「福寺遺跡 埋蔵金貨及び渡来銭貨発見地点の発掘調査報告書」

第71表 首里城跡継世門北地区出土金貨の

蛍光エックス線分析による半定量分析結果

継世門北	掲載番号	旧番号	Au (wt%)	Ag (wt%)	Cu (wt%)
	326	275	86.0	11.8	2.2
	327	276	86.1	11.9	2.0
	328	277	85.8	12.5	1.7
	323	278	91.4	7.1	1.5
	317	279	78.3	19.1	2.6
	318	280	70.6	28.2	1.1
	319	281	79.3	19.6	1.1
	324	282	92.0	6.7	1.4
	320	283	78.2	19.1	2.7
	321	284	82.9	16.0	1.1
	325	285	81.7	16.5	1.7
	322	286	76.7	19.0	4.3

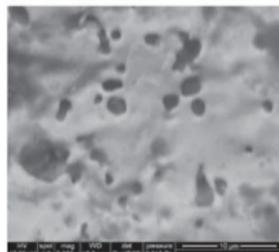


写真10 福寺遺跡出土蛭藻金表面の

電子顕微鏡画像

## 第5章 総括

今回の継世門北地区の調査では、継世門北側ピット群、美福門基壇・階段、御嶽が確認された。これまで、遺構と遺物に分けて説明してきたが、それらを総括してまとめることとする。

### 1. 継世門北側ピット群

ピット群は基盤面であるⅥ層（マージ）直上より検出されているが、ピット内埋土のⅤ層からの遺物はごく少量のため時期の確定は難しい。しかしながら、美福門前階段の正面に位置し、継世門（1546年創建）よりレベル的に下位にあることを考慮すると、それより以前の遺構である可能性があろう。

### 2. 美福門基壇・階段

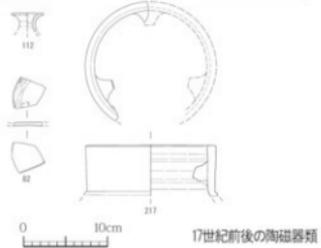
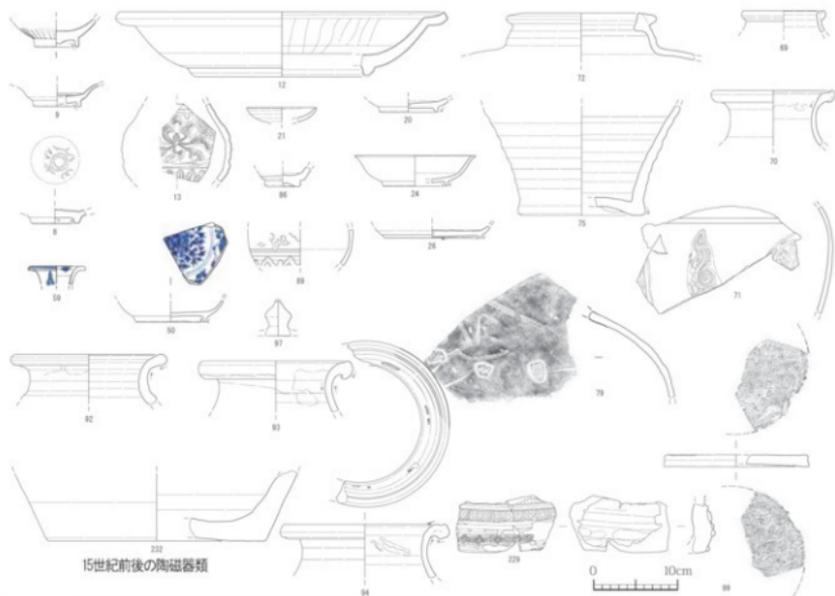
尚巴志王代（1422～39年）に創建されたと伝わる美福門の基壇と、そこから継世門へ至る南東方向に延びる階段を検出した。基壇は櫓を乗せる城壁の東側に当る石列2、階段が取り付く平場1・石積み8、かつて獅子像が置かれていたとされる台座の一部と思われる石列3が確認されている。またこれらの下層からは、美福門城壁を構築する以前のもので、土留めの可能性もある石積み9も検出された。階段は礎道とも呼ばれるもので、幅が広く緩やかに傾斜する踏面と、高い蹴上という独特の特徴を持つ。段数は基壇から数えて12段確認されたが、その南側は戦後の造成により破壊されている。階段の東壁は7段目までは平場2・3に隣接しているが、それから東へ15°振り、8段目より南側に石積み3が接するといった複雑な構造を呈しているが、東側にある御嶽への導線などが関連しているものと思われる。

この基壇・階段の時期であるが、下層であるⅣ層より15世紀前後の陶磁器類が主体であるが、17世紀前後のものも一定量みられる。つまり、今回確認された遺構は、15～17世紀代の幅で考えることになり、15世紀代に構築されたが17世紀代に改修されたなどとも考えうるが確定できない（第58図）。

### 3. 御嶽

美福門の東側に隣接しており、独立した巨石の周りに石積みを巡らしていること、その隙間に銭貨等が出土していることから、この巨石が神城であるイビだったと考えられる。その位置や第2章で述べた絵図等から、かつて継世門の北側に存在した「赤田御門の御嶽」である可能性が高い。このイビの西北部の隙間から、銭貨状金製品12枚と、洪武通寶9枚、無文銭2枚が一部重ねられた状態で合計23枚出土した。銭貨状金製品は折目が見られており、これは南城市（旧知念村）斎場御嶽のものと同じ様相で、何らかの祭祀行為に伴うものと推定される（知念村1999）。また、御嶽周辺では、焼塩壺（237・238）、あまり出土例がない土器腰折碗（240）・茶入形の小壺（241）などがみられる一方、現在の御嶽で使用される香炉が特に目立つ状況はない。御嶽祭祀が具体的にどのように行われたかについては、今後の多角的な調査研究が求められるが、首里城内における御嶽の発掘調査が実施できたことは重要であろう。

イビを囲む石積みにはその切り合いから時期差がみられ、石積みの周囲を円形に取り巻く石積み6やそれに取り付く石積み2・5は美福門階段よりは確実に古いが、前述のようにその時期を確定できていない。ただ、御嶽としての利用は、この周辺で青磁Ⅴ類が多く出土しており、15世紀前半代に遡る可能性もある。一方、これより新しい平面観が「コ」の字形を呈する石積み4は、覆土であるⅢ層上部は17～18世紀代だが、18世紀初頭作成「首里古地図」（第5図）には描かれておらず、明治初期作成「沖縄県首里旧城図」（第6図）に見られることから、18世紀後半～19世紀前半の間に構築された可能性も考えられよう。



第 58 図 IV層出土陶磁器類の組成

引用文献

新垣 力 2003「沖縄出土の清朝陶磁」『紀要沖縄埋文研究』第1号 沖縄県埋蔵文化財センター  
 新垣 力 2005「沖縄における14世紀～16世紀の中国白磁の再整理」『紀要沖縄埋文研究』第3号 前同  
 新垣 力 2011「無軸陶器の成立と展開」『琉球陶器の成立と展開』沖縄県立博物館・美術館、那覇市立壺屋焼物博物館  
 安里進 2013「首里王府の重要施設絵図調整事業」『首里城研究』No.15 首里城公園友会の会  
 石井龍太 2006「琉球近世瓦の分類と編年～琉球近世瓦の研究その3～」『南島考古』第25号 沖縄考古学会  
 石井龍太 2009「湧田古窯の再評価—湧田古窯跡の瓦質土器製植木鉢—」『南島考古』第28号 前同  
 池谷望子・内田晶子・高瀬恭子 2005『朝鮮王朝実録 琉球史料集【訳注篇】』榕樹書林  
 上原 静 2011「琉球の埴と煉瓦」『南島考古』第30号  
 上原静・仲根根求・小原裕也・伊波勝美・上門大悟 2011「喜名古窯跡（瓦編）」『談谷村歴史民俗資料館紀要』第35号  
 上原 静・宮城 絨乃 2007「南島考古資料録（2）」『廣友会誌』第3号  
 江浦洋 2003「二片の衛生陶器」『水野正好先生古稀記念論文集 続文化財学論集』文化財学論集刊行会  
 大分県教育庁埋蔵文化財センター 2016「第9章 町屋と人々の暮らし」『豊後府内を掘る～明らかになった戦国時代の都市～』

- 沖縄県立埋蔵文化財センター 2013『首里城跡一淑順門西地区・奉神門埋蔵地区発掘調査報告書』
- 沖縄県教育庁文化課 1985『金石文—歴史資料調査報告書V—』
- 沖縄県教育庁文化課 2001『世界遺産 琉球王国のグスク及び関連遺産群』「琉球王国のグスク及び関連遺産群」世界遺産登録記念事業実行委員会
- 沖縄県立埋蔵文化財センター 2004『首里城跡一東のアザナ地区発掘調査報告書—』
- 沖縄県立埋蔵文化財センター 2005a『首里城跡—書院・鶴之間地区発掘調査報告書—』
- 沖縄県立埋蔵文化財センター 2005b『首里城跡—二階殿地区発掘調査報告書—』
- 沖縄タイムス社編 1983『沖縄大百科事典』沖縄タイムス社
- 小野正敏 1982「15、16世紀の染付陶、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』第2号 日本貿易陶磁研究会
- 九州近世陶磁学会 2000『九州陶磁の編年 九州近世陶磁学会10周年記念』
- 球陽研究会(編) 1974『沖縄文化史料集成5 球陽 読み下し編』角川書店
- 久手堅憲夫 2000『南島文化叢書 22 首里の地名—その由来と縁起—』第一書房
- 宮内庁三の丸尚蔵館 2001『明治美術再見IV 記録の芸術 山本芳翠とその時代 三の丸尚蔵館企画展図録No.23』財団法人菊英文化協会
- 角田清美 2014『沖縄島・首里城と周辺地域の古井戸』『専修人文論集』第94号 専修大学学会
- 柴田圭子 2011『今帰仁城跡出土明代青花瓷の研究(1)』『今帰仁城跡発掘調査報告書V』今帰仁村文化財調査報告書第29集
- 首里城研究グループ(編) 1997『首里城入門 その建築と歴史』ひるぎ社
- 首里城復元期成会・那覇出版編集部(編) 1987『写真集 首里城』那覇出版社
- 瀬戸哲也 2015a「14・15世紀の沖縄出土の中国産青磁について」『貿易陶磁研究』第35号 日本貿易陶磁研究会
- 瀬戸哲也 2015b「14～16世紀の沖縄出土龍泉窯系青磁における生産地の模索」『中近世陶磁器の考古学』第1巻 雄山閣
- 瀬戸哲也・仁浩司・玉城靖・宮城弘樹・安座間充・松原哲志 2007『沖縄における貿易陶磁研究—14～16世紀を中心に—』『紀要沖縄埋文研究』5 沖縄県埋蔵文化財センター
- 太宰府市教育委員会 2000『大宰府条坊跡XV—陶磁器分類編—』
- 平良啓 1994『「沖縄県首里旧城図」について』『首里城研究』No.1 首里城公園友会の会
- 高階結里加 1998「山本芳翠の沖縄訪問に関する試論」『美術史』第144冊 美術史学会
- 田中克子 2003『博多道跡群出土陶磁に見る福建古陶磁(その3) 宋・元代白磁をめぐる問題』『博多研究会誌』第11号
- 高良倉吉 1996「第四節 琉球王国成立期の首里城に関する覚書」『前近代における南西諸島と九州—その関係史的研究』多賀出版
- 知念村教育委員会 1999『斎場御嶽—整備事業報告書(発掘調査・資料編)—』知念村文化財調査報告書第8集
- 陳 建中 1999『徳化民窯青花』文物出版社
- 福建博物館 1997『漳州窯—福建漳州地区明清窯址発掘調査報告書—』福建人民社
- 古川博基・高里良政 1986「三、地形・地質」『那覇市歴史地図—文化財基調調査報告書—』那覇市教育委員会
- 法政大学沖縄文化研究所 2014『沖縄研究資料 29 琉球沖縄本島取調書』
- 外間守善(校注) 2015『ワイド版岩波文庫390 おもろさうし(上)』岩波書店
- 外間守善・波照間永吉 1997『定本 琉球国由来記』角川書店
- 真栄平房歌 1997『首里城物語』ひるぎ社
- 真貝理香・松井章 2014『中世大友府内町遺跡出土の骨角製品—両歯櫛の系譜について—』『日本動物考古学会第2回大会プログラム・抄録集』
- 森 達也 2009「15世紀後半～17世紀の中国貿易陶磁—沈船と窯址発見の新資料を中心に—」『関西近世考古学研究』17 関西近世考古学研究会
- 森 毅 1995「十六・十七世紀における陶磁器の様相とその流通—大坂の資料を中心に—」『ヒストリア』第149号
- 森 毅 2005「中世後期輸入陶磁器の分類と変化」『中世窯業の諸様—生産技術の展開と編年—』資料集第3分冊
- 森田 勉 1982「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』第2号 日本貿易陶磁研究会
- 琉球王府御近習方 1958『女官御双紙(中巻)』琉球史料研究会
- 琉球国絵図史料集編集委員会・沖縄県教育庁文化課 1994『琉球国絵図史料集 第三集—天保国絵図・首里古地図及び関連史料—』沖縄県教育委員会
- 琉球大学二十周年記念誌編集委員会 1970『琉球大学二十周年記念誌』琉球大学

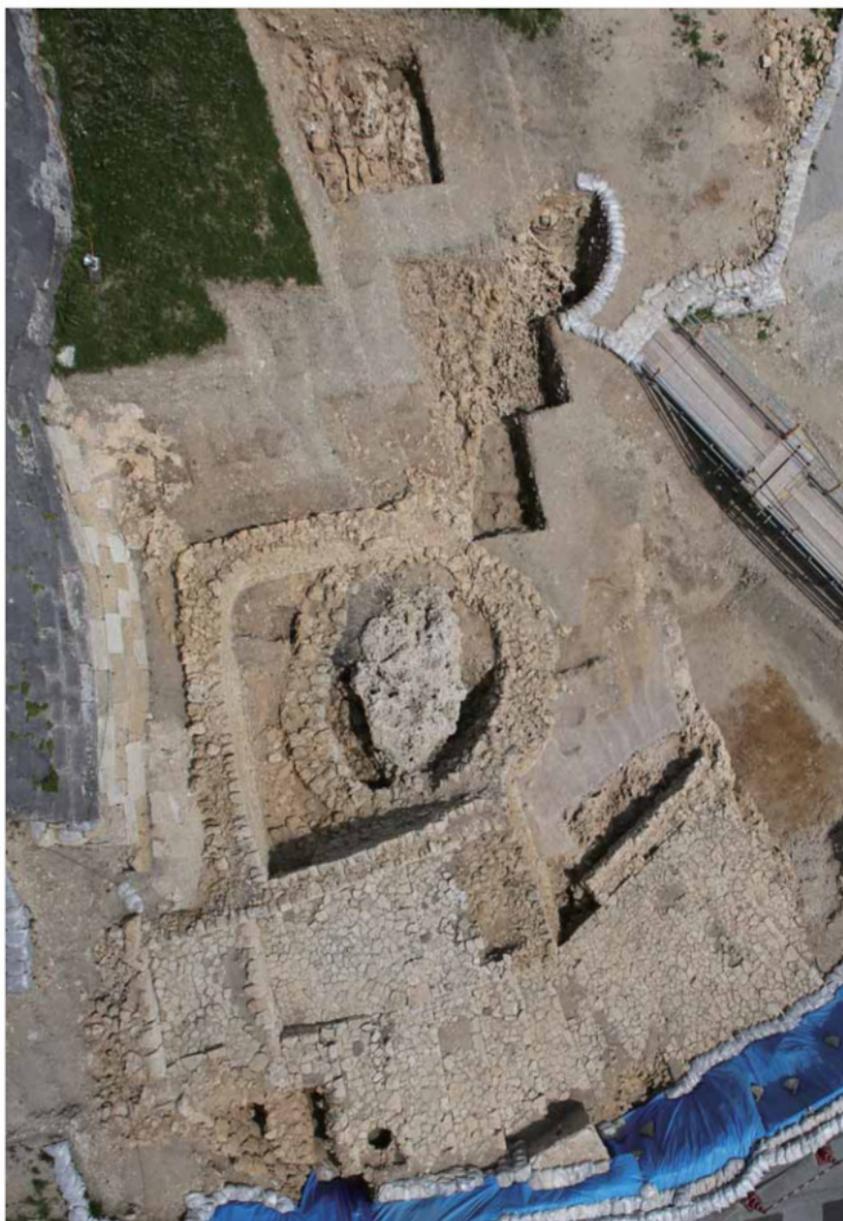


1. 継世門北地区（上空西より）



2. 継世門北地区（上空より）

図版1 遺構（1）



1. 美福門基壇・階段、御嶽（上空より）  
図版2 遺構（2）



1. Eトレンチピット群検出状況（南より）



2. Eトレンチピット群完掘状況（南より）



3. SP 18・19 断面（東より）



4. SP 12・13 断面（南より）



5. SP 9 断面（南より）



6. SP 7 断面（南より）

図版3 遺構(3)



1. 美福門階段全景（南より）  
図版4 遺構（4）



1. 美福門基壇（西より）



2. 石積み1（西より）



3. 石積み8（南より）



4. 美福門基壇（東より）

図版5 遺構（5）



1. 美福門階段南側（東より）



2. 石積み3（東より）



3. 階段1東側トレンチ遺物出土状況（東より）



4. 階段1東側トレンチ下層貝等出土状況（東より）



5. 美福門階段と石積み2の切り合い（東より）

図版6 遺構（6）



1. 御嶽（石積み1・4・6・イビ）検出状況（南より）



2. 御嶽（石積み1・4・6・イビ）検出状況（北より）

図版7 遺構（7）



1. 御嶽イビ検出状況（西より）



2. 銭貨状金製品 326・327 出土状況



3. 銭貨状金製品 328 出土状況



4. 銭貨状金製品 325 ほか出土状況



5. 銭貨状金製品 320・321 出土状況

図版 8 遺構 (8)



1. 御嶽周辺（北より）



2. 石積み1 御嶽側（東より）



3. 石積み2 前面掘削時貝類集中状況

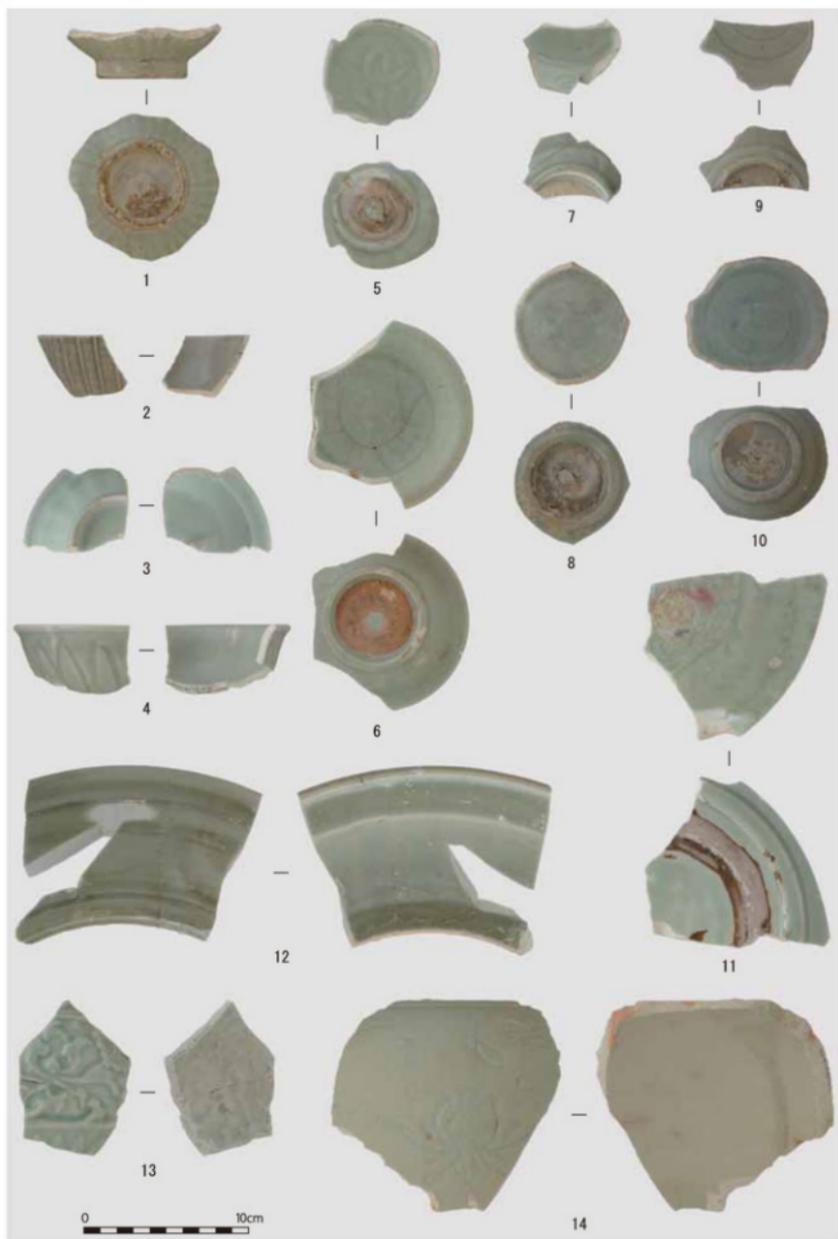


4. 石積み6 周辺遺物出土状況



5. 石積み6 前面漆膜出土状況

図版9 遺構（9）



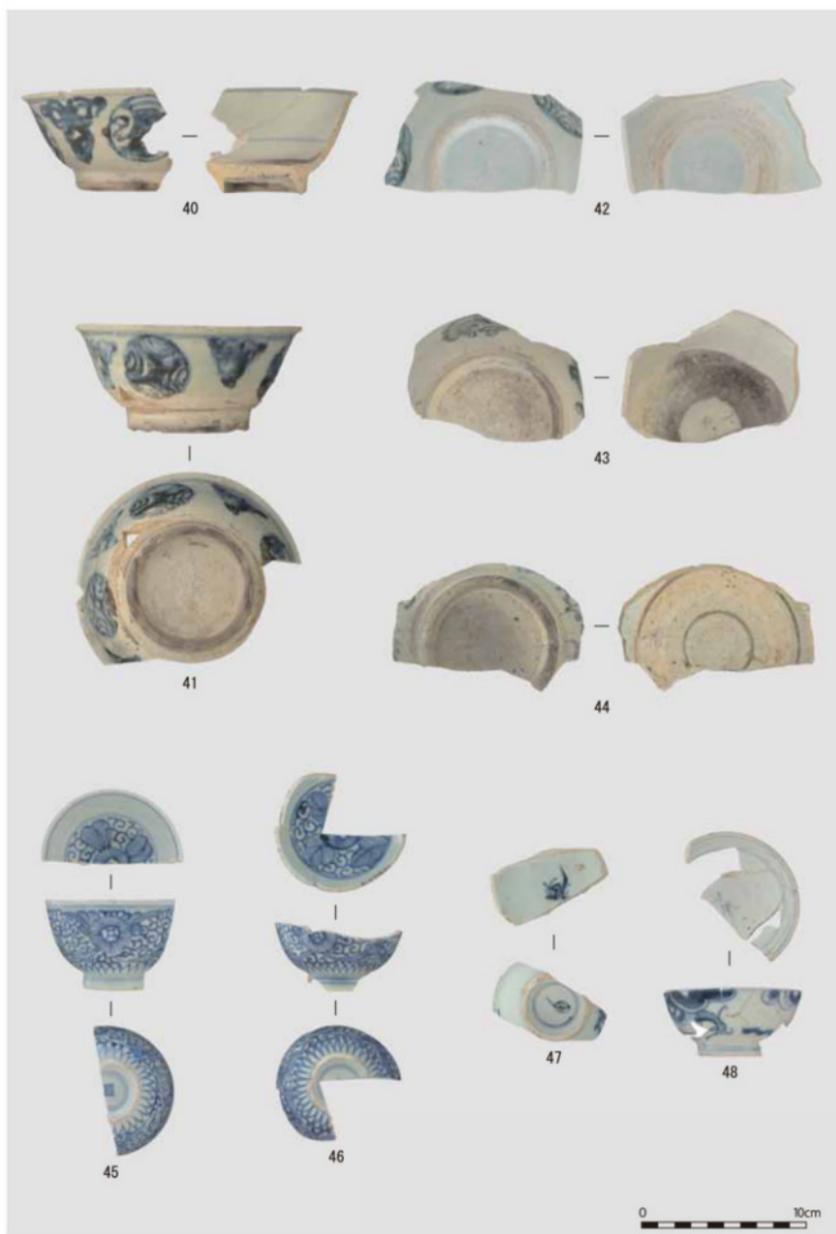
图版 10 中国产青磁 (1)



图版 11 中国産青磁 (2)・中国産白磁



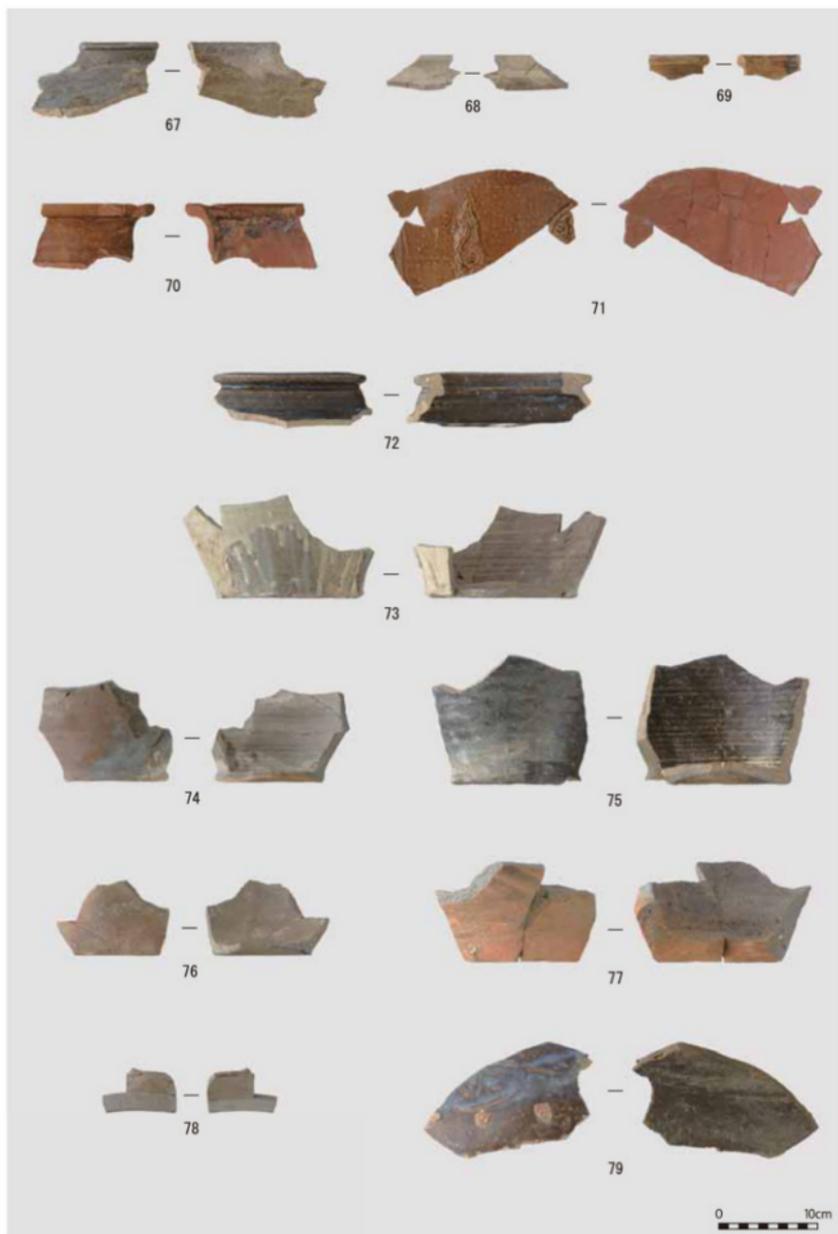
图版 12 中国产青花 (1)



图版 13 中国产青花（2）



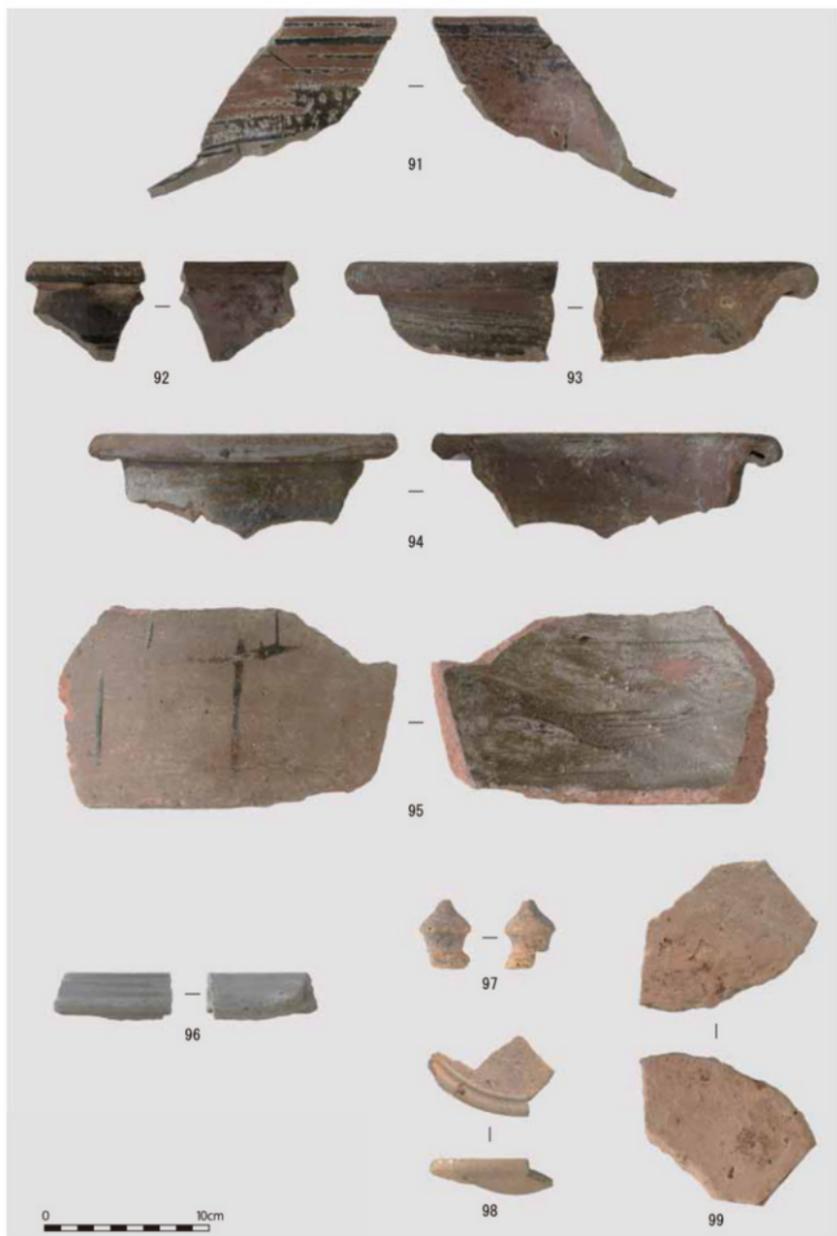
图版 14 中国产青花 (3)



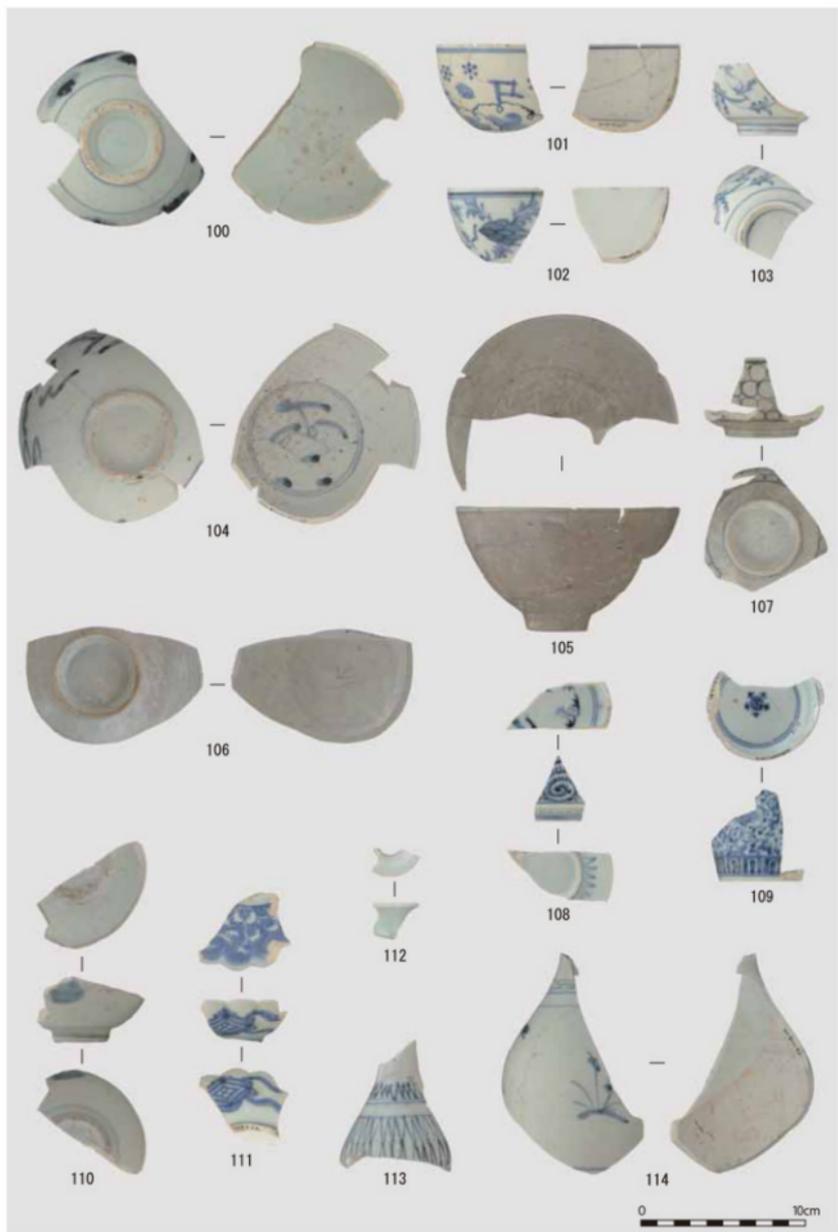
图版 15 中国产褐釉陶器 (1)



図版 16 中国産褐釉陶器（2）・その他の陶磁器



図版 17 タイ産陶磁器・産地不明陶器



图版 18 本土産陶磁器 (1)



图版 19 本土産陶磁器 (2)



图版 20 本土産陶磁器 (3)



图版 21 本土産陶磁器 (4)



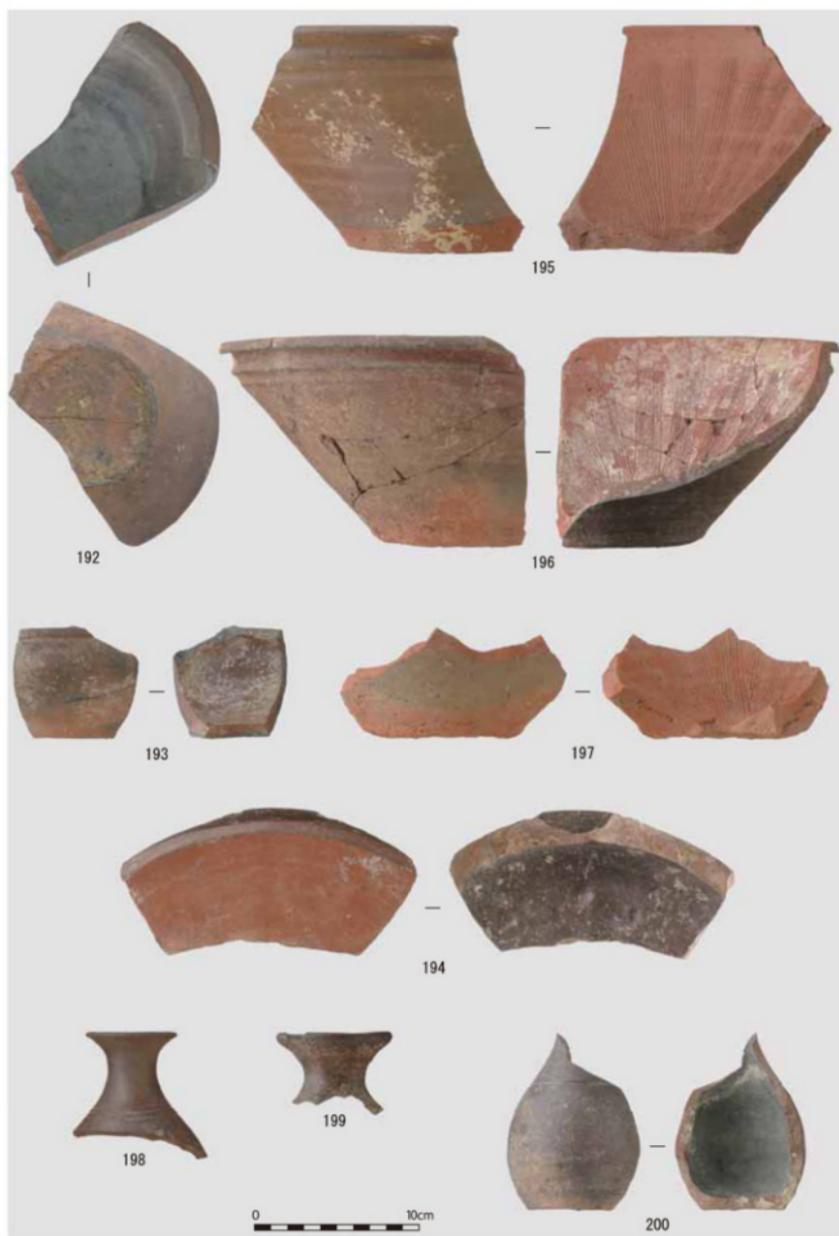
図版 22 沖縄産施釉陶器 (1)



図版 23 沖縄産施釉陶器（2）・沖縄産無釉陶器（1）



図版 24 沖縄産無釉陶器 (2)



図版 25 沖縄産無軸陶器 (3)



図版 26 沖縄産無釉陶器（4）



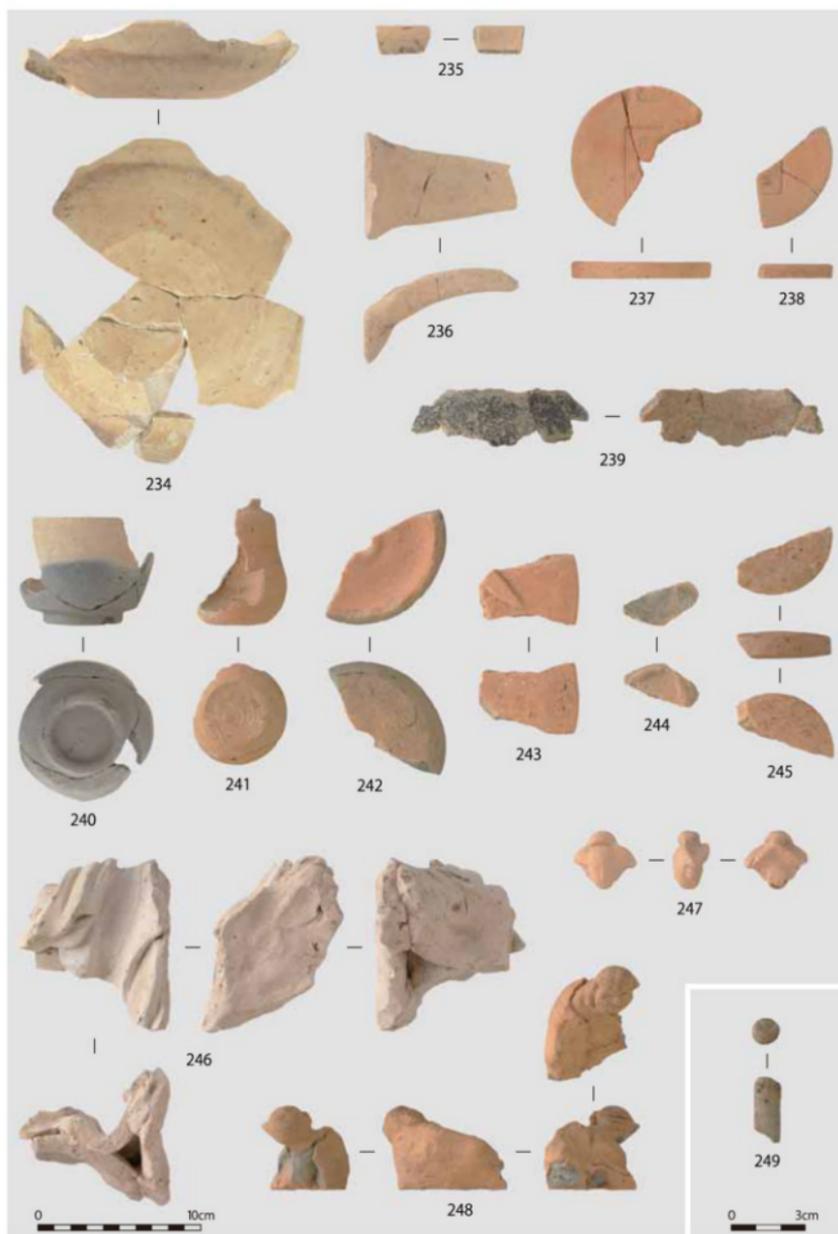
図版 27 沖繩産無釉陶器 (5)



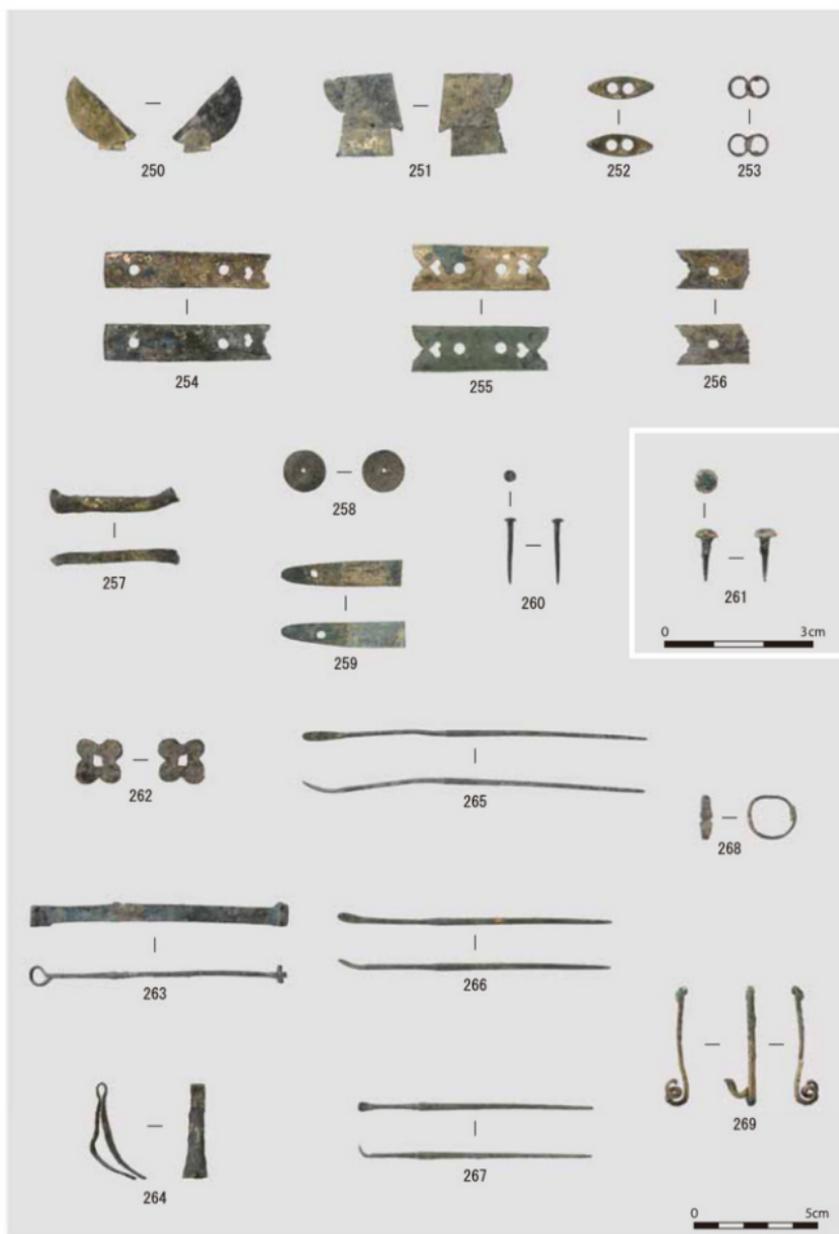
図版 28 沖縄産無軸陶器 (6)・陶質土器



图版 29 瓦質土器



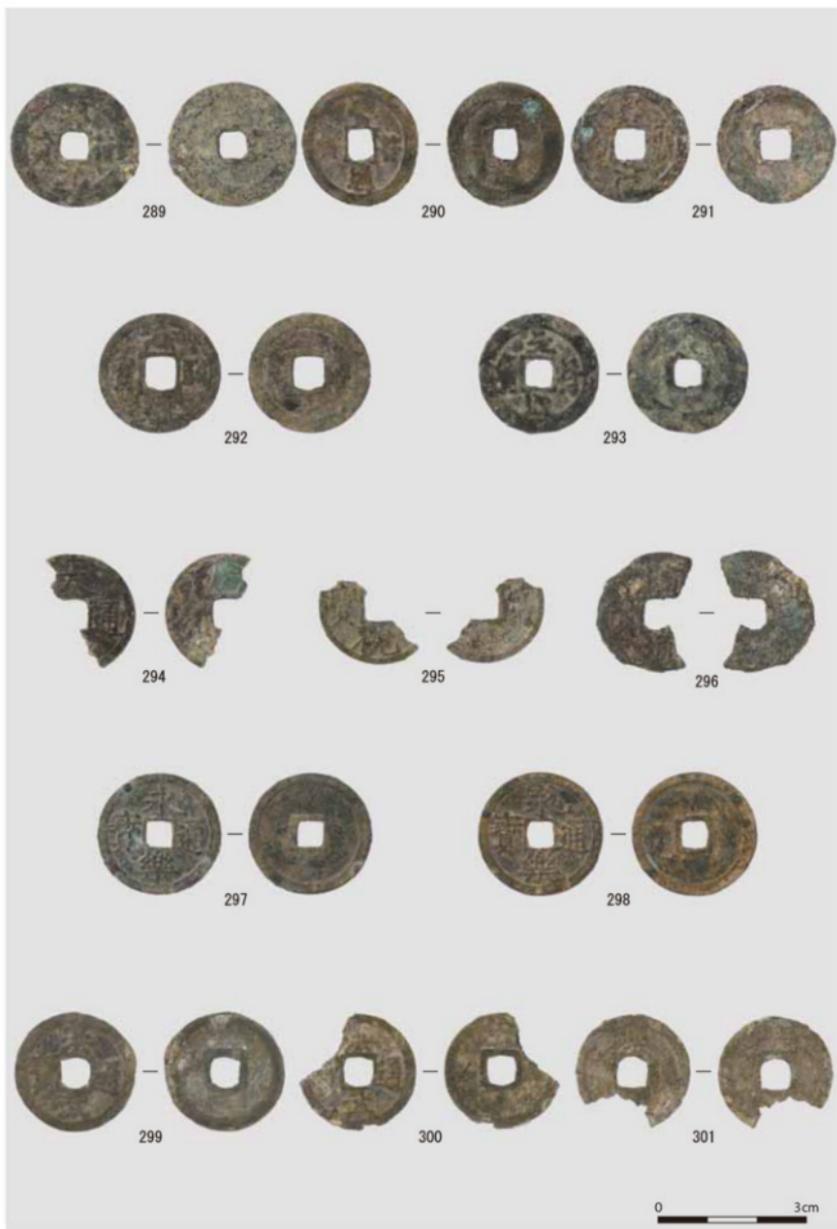
图版 30 土器・土製品



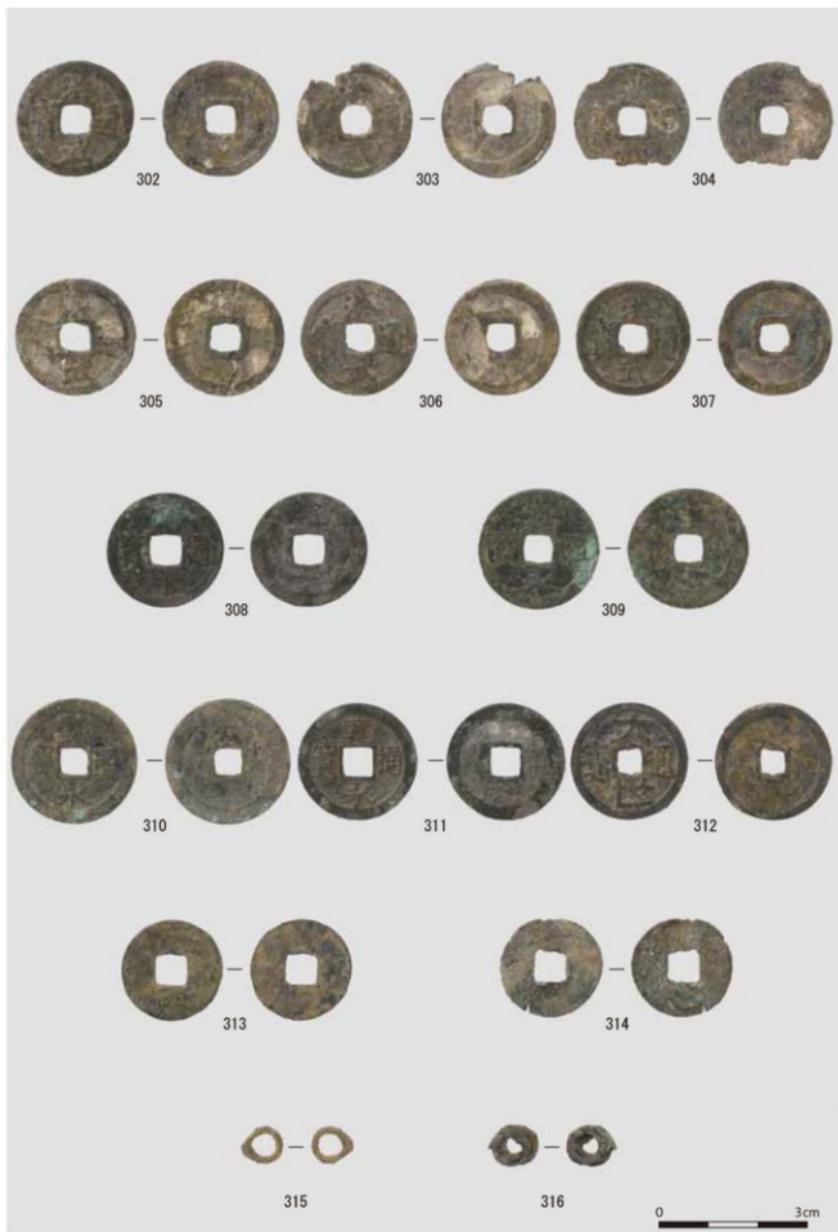
图版 31 金属製品 (1)



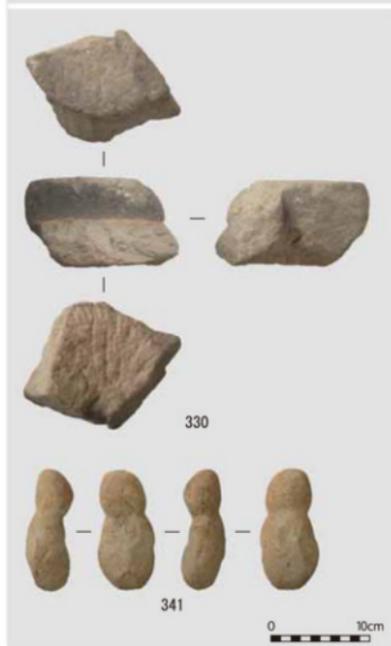
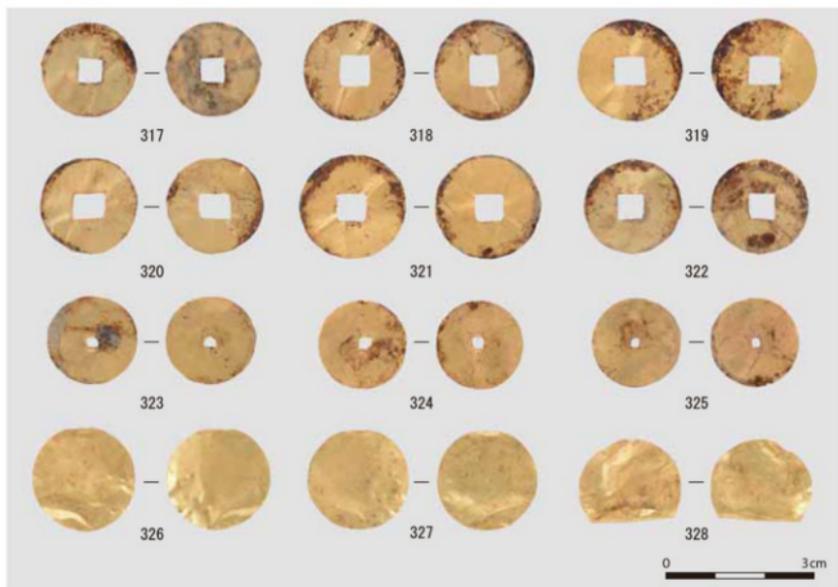
図版 32 金属製品 (2)・るつぼ



圖版 33 錢貨 (1)



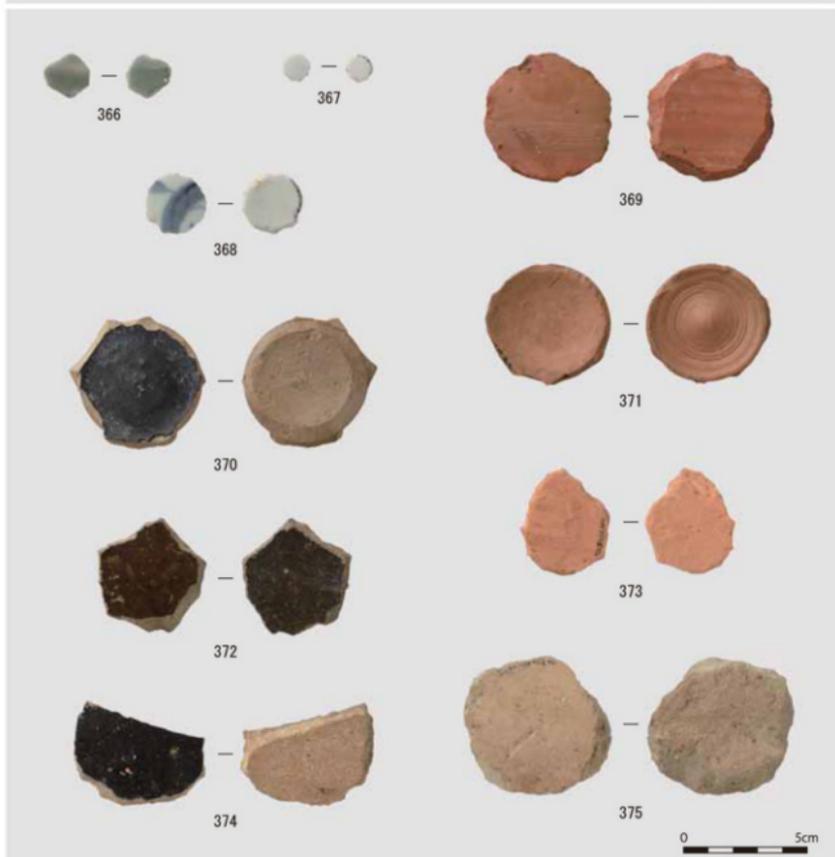
圖版 34 錢貨 (2)



図版 35 銭貨状金製品・石製品・貝製品



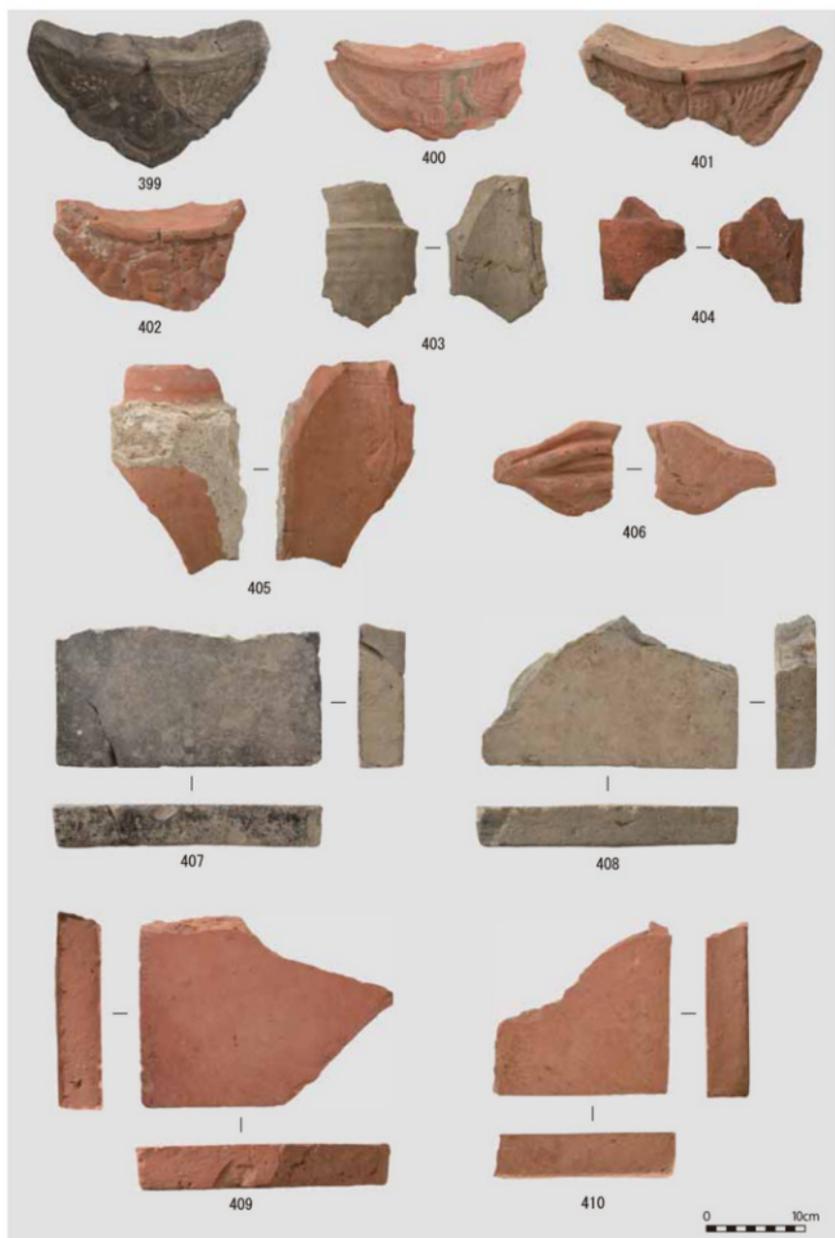
図版 36 骨製品・煙管・ガラス製品



図版 37 ガラス玉・円盤状製品



图版 38 高麗系瓦・大和系瓦・明朝系瓦（1）



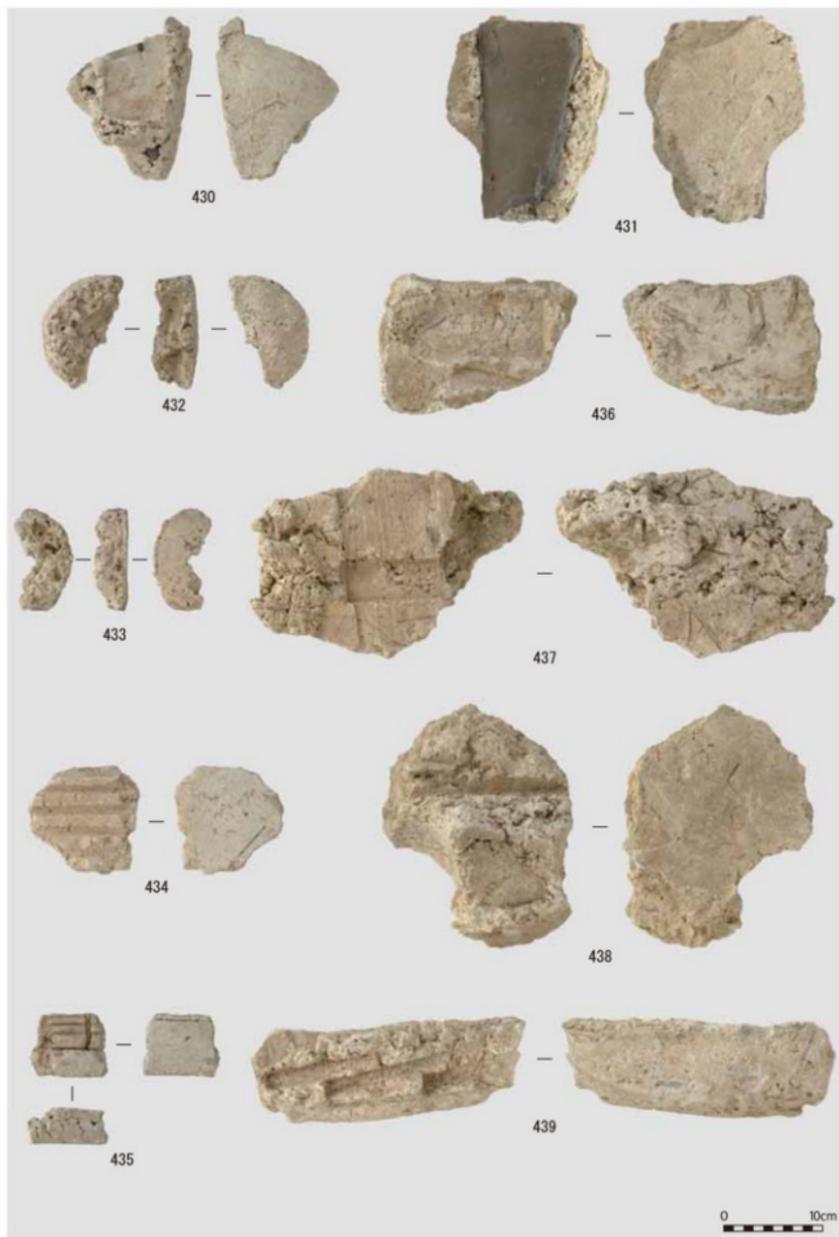
图版 39 明朝系瓦 (2)·博 (1)



图版 40 罇 (2)



図版 41 埴 (3)・漆喰 (1)



図版 42 漆喰 (2)

## 報告書抄録

ふりがな	しゅりじょうあと							
書名	首里城跡							
副書名	継世門北地区発掘調査報告書							
シリーズ名	沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第97集							
編著者名	瀬戸哲也・新垣 力・大堀浩平・杵名貴彦							
編集機関	沖縄県立埋蔵文化財センター							
所在地	〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町上原193-7 TEL 098-835-8752 FAX 098-835-8754							
発行年月日	2018年3月30日							
ふりがな	ふりがな	コード						
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
首里城跡 （首里城跡北地区） 経世門北地区	沖縄県 那覇市 首里当蔵町 3丁目1番	47201		26° 13' 2"	127° 43' 11"	2014.7.1 ～ 2015.3.27	286 ㎡	国営沖縄記念公園（首里城地区）整備に伴う遺構確認調査
所収遺跡名	種類	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
首里城跡 継世門北地区	城跡	グスク時代～ 近代	御嶽(イビ)1、石積み9、階段1、石列3、ピット26	中国産・ベトナム産・タイ産・朝鮮半島産・本土産陶磁器、土器、沖縄産陶器、金属製品、鍛冶関連遺物、銭貨、銭貨状金属品、骨製品、石製品、貝製品、円盤状製品、ガラス玉、瓦(明朝系・大和系・高麗系)、埴、漆喰、鯉魚骨、貝殻			美福門基壇・階段、赤田御門の御嶽を確認	
要約	<p>今回の継世門北地区の調査では、継世門北側ピット群、美福門基壇・階段、御嶽が確認された。継世門北側ピット群は、遺物はごく少量のため時期の確定は難しいが、しかしながら、継世門(1546年創建)よりレベル的に下位にあることを考慮すると、それより以前の遺構である可能性がある。</p> <p>美福門基壇・階段では、尚巴志王代(1422～39年)に創建されたと伝わる美福門の基壇と、そこから継世門へ至る南東方向に延びる階段を検出した。構築時期であるが、下層であるIV層の出土陶磁器類では、15世紀前後のものが主体だが、17世紀前後のものも一定量みられることから、今回確認された階段自体は17世紀に構築もしくは改修された可能性なども考えられよう。</p> <p>御嶽は、美福門の東側に隣接しており、独立した巨石(イビ)の周りに石積みを巡らしており、かつて継世門の北側に存在したとされる「赤田御門の御嶽」である可能性が高い。イビの西北部の隙間から、銭貨状金属品12枚と、洪武通寶9枚、無文銭2枚が一部重ねられた状態で合計23枚出土しており、何らかの祭祀行為に伴うものと推定される。石積みにはその切り合いから時期差がみられ、イビを円形に取り巻く石積み6などは美福門階段より古いが、前述のようにその時期は確定できていない。しかし、御嶽としての利用は青磁V類が多く出土しており、15世紀前半代に遡る可能性も考えられる。一方、これより新しい平面観が「コ」の字形を呈する石積み4は、出土陶磁器では17～18世紀代だが、絵図資料を考慮すると18世紀後半～19世紀前半に構築された可能性も考えられよう。</p>							

沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書 第97集

## 首 里 城 跡

— 識世門北地区発掘調査報告書 —

発 行 日 平成30(2018)年3月30日

発行・編集 沖縄県立埋蔵文化財センター

〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原 193-7

TEL.:098-835-8751・8752

印 刷 文進印刷株式会社

〒901-0416 沖縄県島尻郡八重瀬町字宣次 706-4



沖縄県立埋蔵文化財センター

## 第97集 首里城跡 正誤表

ページ・行数	正	誤
p32 上から2行目	5,305	5,303
p32 上から2行目	15,673	15,671
p52 下から10行目	(125～128)	(125～126)
p65 上から4行目	碗(240・244)、 小壺(241)、 壺(242)、蓋(243)	碗(240)、 小壺(241)、 壺(242)、蓋(243・244)
p79 上から4行目	(342)	(343)
p82 下から2行目	(403～405)	(403～406)